

茨城県教育財団文化財調査報告 XV

竜ヶ崎ニュータウン内埋蔵文化財調査報告書 7

— 廻り地 A 遺跡 (上) —

昭和 57 年 3 月

財団法人 茨城県教育財団

序

龍ヶ崎市北部地域における竜ヶ崎ニュータウンの建設は、住宅・都市整備公団によって進められており、建設地域内の埋蔵文化財包蔵地等の発掘調査は、昭和52年度より茨城県教育財団によって実施され、現在に至っております。

これまでに刊行された竜ヶ崎ニュータウン建設地内の発掘調査報告書は、この地域の貴重な資料を多く提示しております。

本書は、昭和54年度から昭和55年度にかけて発掘調査が実施された廻り地A遺跡の調査成果を集録したものであります。縄文時代の集落遺跡である廻り地A遺跡から発見された多くの資料は、茨城県の原始時代を究明するにあたって資するものが多いと考えます。その意味からも、本書がより多くの方々に御活用いただけるよう希望いたします。

発掘調査および整理期間中には茨城県教育委員会、龍ヶ崎市教育委員会、住宅・都市整備公団をはじめ関係各機関の御協力と御指導をいただき、ここに厚くお礼申し上げます。

昭和57年3月

財団法人 茨城県教育財団

理事長 大金新一

例 言

1. 本書は、住宅・都市整備公団（昭和56年10月1日 宅地開発公団と日本住宅公団との統合により改組）と茨城県教育財団との委託契約に基づいて、昭和54年度から昭和55年度にわたって実施された龍ヶ崎市駒馬町所在廻り地A遺跡の発掘調査報告書である。
2. 廻り地A遺跡の調査にかかわる茨城県教育財団の組織は次のとおりである。

理事 長	竹内 藤男（茨城県知事 昭和52年4月～昭和56年11月） 大金 新一（昭和56年12月～ ）
副理事 長	占橋 靖（茨城県教育長 昭和54年7月～ ）
常務理事	川野辺四郎（昭和52年4月～ ）
事務局長	大内 秀夫（昭和52年4月～昭和55年3月） 小林 義久（昭和55年4月～ ）
調査課長	川俣吉之助（昭和52年4月～昭和55年3月） 大塚 博（昭和55年4月～昭和56年3月） 寺内 寛（昭和56年4月～ ，昭和53・54年度調査第2班々長）
企画管理班	辻 秀雄（昭和53年4月～ ，班长） 鈴木 三郎（昭和52年4月～ ） 海野 孝志（昭和53年4月～昭和56年3月） 綿引 良人（昭和56年4月～ ）
調査第2班	青木 義夫（昭和55年度班长，昭和56年度整理班々長） 佐野 正（昭和54・55年度廻り地A・成沢遺跡調査） 中沢 時宗（昭和55年度廻り地A・成沢遺跡調査） 瓦吹 堅（昭和54・55年度廻り地A遺跡調査 昭和56年度整理・執筆） 桜井 二郎（昭和55年度廻り地A遺跡調査 昭和56年度整理・執筆） 高村 勇（昭和56年度整理・執筆） 豊田 重徳（昭和54年度調査補助員）

3. 本書は、瓦吹堅・桜井二郎・高村勇が分担して執筆し、瓦吹が総括した。また、貝類遺体・魚類遺体・獣類遺体等の同定にあたっては、東京大学総合研究資料館赤澤威助教授、貝類遺体の放射性炭素年代測定は学習院大学年代測定室木越邦彦教授、種子類遺体の同定は名古屋大学

考古学研究室渡辺誠助教授，岩石等の鑑定は茨城県立教育研修センター峰須紀夫氏よりそれぞれ御指導を得た。

- 遺構の規模などの計測値はすべて遺構検出面からの計測値であり，基準標高についてはそれぞれ図中に表示した。また，主軸方向については座標北を中心に測定した。
- 出土遺物の解説表中において，出土地のⅠ・Ⅱ……は層位をあらわし，備考中などの1×・2×は1区・2区覆土の略号であらわした。
- 土層解説の色調については，『新版標準土色帖』（農林省農林水産技術会議事務局監修 財団法人日本色彩研究所色票監修）を用い，実測図中に記号で表示し，別に解説を記載した。
- 遺構実測図中においては，炉跡・焼土・貝層など下記のスクリーントーンで表示した。



炉跡



焼土



貝層

- 廻り地A遺跡の発掘調査および整理・執筆に際して御協力・御指導を賜った関係諸機関や多くの研究者各位に深く感謝の意を表したい。

目 次

序

例 言

目 次

第1章 はじめに	1	第4章 ま と め	509
遺跡の環境.....	1	1 遺 構.....	509
調査法と調査経過.....	3	2 遺 物.....	516
第2章 遺 構	7	3 廻り地A遺跡の変遷.....	520
1 住 居 跡.....	7	4 廻り地A遺跡のテリトリー.....	523
2 土 塚.....	94	写真図版.....	527
3 貝 塚.....	259	住 居 跡.....	531
4 埋設土器.....	277	土 塚.....	602
5 方形周溝墓.....	282	遺 物.....	647
第3章 遺 物	287		
第1節 人工遺物.....	287		
土 器.....	287		
1 住 居 跡.....	287		
2 土塚・貝塚.....	295		
3 埋設土器.....	307		
4 方形周溝墓.....	309		
土 製 品.....	456		
石 製 品.....	463		
骨角器 貝製品.....	468		
第2節 自然遺物.....	488		
1 貝類遺体.....	488		
2 魚類遺体.....	504		
3 その他の遺存体について.....	508		

第1章 はじめに

遺跡の環境

廻り地A遺跡は、稲敷台地南部の標高20～30mの低位で平坦な台地上に位置し、龍ヶ崎市駒馬町廻り地51641ほかに所在している。女化から細長く南東にのびる台地は、廻り地A遺跡周辺で台地幅が広がり、南西には蛇沼からの沖積地が開け、さらに北東には別所谷とよばれる支谷が入りこんでいる。遺跡周辺の台地縁辺部は小さな支谷によって樹枝状に開折され、複雑な地形を呈している。

当遺跡の調査対象面積は21,668㎡を有し、遺跡標高は23.5～24.5mをはかる。沖積地との比高は約14mほどで、台地縁辺はやや急斜面を呈している。遺跡の地表面はほぼ平坦であるが、詳細に地表面を観察すると、中央部分が直径80mほどの範囲でややくぼみ、その周辺は中央部より約50cm内外高い微高帯部を形成している。微高帯部は直径100mほどの現状を呈し、東部は別所谷にはりだした舌状の小台地へ続き、西側には蛇沼からの沖積地にのびた小さな台地がみられる。調査前の遺跡の現況は山林であり、戦時中に一部が開墾されたといわれ、立木伐開時に地表面から土器片が多く採集された。その分布は環状の微高帯部に多くみられ、中央のくぼみ部分にはほとんど検出されていない。

別所谷周辺の遺跡群について、学史的にみると、明治20年代に霞ヶ浦周辺の貝塚群踏査の際、中央の多くの字者が立ち寄り、遺跡・遺物などについて紹介している¹¹⁾。この遺跡群の中で廻り地A遺跡は、地元の研究者間で大羽谷津遺跡と呼称されていた遺跡¹²⁾であり、戦時中にはすでに貝塚の存在が知られていた。縄文時代の遺跡を中心にみれば、当遺跡の南東には昭和56年に発掘調査が実施された仲根台遺跡が位置し、さらに別所谷をはさんだ台地上には、昭和43年11月に西村正衛氏によって発掘調査された中～後期の向地貝塚群(A～D)が点在している¹³⁾。蛇沼からの沖積地をはさんだ若柴側の台地上には中期に編年される赤松遺跡¹⁴⁾があり、ほぼ環状に分布する住居跡群と袋状土壇群が検出されている¹⁵⁾。そのほかの時代の遺跡は、廻り地A遺跡の北に隣接して古墳時代前期の大羽谷津遺跡¹⁶⁾があり、赤松遺跡の南東には先土器時代・古墳時代前期の沖積遺跡¹⁷⁾が位置している。

龍ヶ崎市北部台地上には、このように多くの遺跡が分布し、廻り地A遺跡周辺の縄文遺跡からみても地域的に遺跡の時代的変遷を追うことができる。さらに、この地域においても縄文時代中～後期前半の集落規模の拡大が看取され、遺跡分布の濃厚な地域というばかりでなく、地域研究の場としてもっとも適した地域のひとつといえる(第1図)。



第1図 遺跡 分布図

番号	遺跡名	所在地	種類	時代	発掘調査	備考
R16	行部内遺跡	別所町行部内	集落跡・貝塚	縄文	現状保存	
R17	大羽谷津遺跡	若菜町大羽谷津	集落跡	古墳	昭和54年度調査	昭和55年度整理・報告書刊行
R18	廻り地A遺跡	駒馬町廻り地	集落跡	縄文・古墳	昭和54・55年度調査	昭和56年度整理・報告書刊行
R19	平白遺跡	駒馬町平白	集落跡	縄文・古墳	昭和56年度調査	
R20	成沢遺跡	駒馬町成沢	集落跡	縄文・古墳	昭和55年度調査	昭和56年度整理・報告書刊行
R21	松葉遺跡	若菜町松葉	集落跡・塚群	古墳・中能以降	昭和52年度調査	昭和53年度整理・報告書刊行
R22	庚申塚遺跡	若菜町庚申塚	集落跡	縄文・古墳	消滅	
R23	沖餅遺跡	若菜町沖餅	集落跡	先・縄文・古墳	昭和53年度調査	昭和54年度整理・報告書刊行
R24	赤松遺跡	若菜町赤松	集落跡	縄文・古墳・近世	昭和53・54年度調査	昭和54年度整理・報告書刊行
R25	打越A遺跡	別所町打越	集落跡	縄文	昭和54年度調査	昭和55年度整理・報告書刊行
R26	打越C遺跡	別所町打越	集落跡	縄文	昭和54年度調査	昭和55年度整理・報告書刊行
R27	ウツタ遺跡	別所町ウツタ	集落跡	縄文	昭和54年度調査	昭和55年度整理・報告書刊行
R28	仲根台塚群	駒馬町仲根台	塚(1.2,3号)群	縄文・中能以降	昭和54年度調査	昭和55年度整理・報告書刊行
	仲根台B塚群	"	塚(4.5,6号)群		昭和56年度調査	
	仲根台B遺跡	"	集落跡	縄文	昭和56年度調査	
R29	廻り地B遺跡	駒馬町廻り地	集落跡	縄文	昭和54年度調査	昭和55年度整理・報告書刊行

調査法と調査経過

廻り地A遺跡の地形的な特徴については前述したが、調査対象面積は21,668m²ほどで、東西約270m・南北最大幅約100mほどの山林が遺跡である(第2図)。調査法は、区域内の立木伐開後、座標北方向に40m四方の大調査区を設定し、さらに4m四方の小調査区に分割した。

大調査区名称は、北から南へ「A」・「B」・「C」……、西から東へ「1」・「2」・「3」……とした。小調査区名称は北から南へ「a」・「b」・「c」……「i」・「j」、西から東へ「1」・「2」・「3」……「9」・「0」とし、各小調査区名称は大調査区と小調査区を合わせた4桁で「A1a1」・「B1a0」のように表示した。

当遺跡の調査区の発掘は、第1段階として25%の割合で対象地域内全体を調査し、遺物・遺構の検出状況に応じて拡張する計画で進め、調査区および遺構の調査は分層発掘を原則とした。住居跡の調査は四分法で実施し、記録の行程は土層断面写真撮影→土層断面図作成→平面写真撮影→断面図作成→平面図作成を基本とし、遺構の特徴などによって出土遺物については原位置論的調査法を採用した。土層の調査は長軸で二分割する二分法を用い、そのほかには住居跡の調査法に準じた。貝塚の調査は、基本的に調査区分割の基準線をもとに50cm四方の貝採取用区割をし、水平基準から5cmごとに分層して取納した。また、小さな貝ブロックについては二分法を適用した。

第1段階の調査の結果、遺跡の西側地区に遺構・遺物が集中して検出され、東側地区にはほとんど検出されず、西側地区の表土全面を除去して遺構を検出し、検出順に遺構番号をつけて調査を進めた。基本的には大調査区ごとに番号化する方法をとったが、遺構の複合が激しく、調査中に新旧関係を明確にしえないものも含まれた。

廻り地A遺跡の発掘調査は、昭和54年9月下旬から諸準備を開始し、10月1日から実施した。はじめに遺跡全体の調査区分割をし、さらに地表面に散在している土器片を小調査区ごとに採集して取納した。その結果からみると、前述のように東側地区にはほとんどみられず、西側地区のB2・C3・C4・B4区を中心に分布が認められ、中央部の環状微高帯部に多く分布していることが判明した。

西側地区の第1段階の調査結果は、表面採集段階で遺物が多く採集された部分と同じ地区から多くの遺物・遺構が確認され、B2・B4区においては貝ブロックが数か所検出された。西側地区全域にわたって遺構・遺物が確認されたことによって、全域の表土除去を計画したが、排土置場などの関係からB4区を集中して調査し、排土置場として利用すべく計画を変更した。集中して調査したB4区からは、予想のとおり多くの遺構・遺物が検出され、B4区以外の調査区から確認される



第2図 廻り地A遺跡地形図

であろう遺構との関係をみるために拵土置場として利用することは中止した。B4区の遺構調査は昭和54年度後半のほとんどを費した。

B4区では北西から南東方向の幅40mほどの範囲に遺物が集中して出土し、表土下10cmほどで20～30cmの遺物包含層となり、表土除去作業は遺構調査と並行して行われ、西側のやや低くなる部分では遺構・遺物ともやや少なくなることが判明した。

昭和54年度に調査されたB4区において検出された遺構数は、住居跡約20軒・土坑約150基で、貝塚も10地点ほど発見された。また、単独で埋置された埋設土器も5か所以上確認され、地区全体の遺物量も豊富であった。

昭和55年度は4月初旬から調査を再開し、B4区の補足調査とC4区の表土除去作業と並行して実施した。C4a0を中心にやや規模の大きい第1貝塚(SM1)が確認され、遺構・遺物の濃厚に分布する部分は北東から南西方向にみられ、B4区とは異なる方向を示していることが判明した。D4・D5区は南部に位置する調査区であるが、第1段階の調査の結果、遺構・遺物が極めて少ないので、排土置場として利用することとし、排土置場の確保によって周辺部の排土がほとんど処理できた。

C4区においても遺構の複合が多くみられ、とくにB4区との境界区域に顕著であり、SM1などの貝塚調査には時間を要した。貝層下には住居跡・土塋等が確認され、これらの遺構もかなり複合していた。

C4・C5区の調査後、D3・C3・C2区と順に表土除去し、表土除去と並行して遺構の調査を進めた。C3区周辺では北西から南東方向に遺構が多く検出され、既調査地区の遺構分布と連結してU形状に遺構分布が認められた。環状に分布する遺構群は、微高帯部とはほぼ一致し、貝塚の分布もこのフラットな微高帯部に認められ、B2区においても遺構・遺物が多く検出されることが予想された。

C3区周辺の表土除去作業終了後、B3区の表土除去作業を進め、遺構調査も並行して実施した。遺構・遺物の分布はB4区と同様に調査対象区域外にのび、南部はそれほど遺物の出土量は多くなく、地表面もやや低い。このB3区で調査された遺構は土塋が多く、縄文時代に編年される土塋は少なく、広場的なものと考えられる。

表土除去作業はB3区からB2区へ移り、さらにA2・A3区と進めた。当遺跡中もっとも高いB2区とC2区の接点部で方形周溝墓4基が確認され、昭和54年度に調査された大羽谷津遺跡との関連が示唆された。縄文時代の遺構は方形周溝墓によって一部攪乱をうけ、B2区には小貝塚が多く点在し、B2区のはほぼ中央部に第2貝塚(SM2)が発見された。A2・A3区においても遺構が多く、調査対象区域外にのびていることが予想された。

遺跡全体の遺物出土が多い部分を概略的にみれば、前述のようにB4・C4・C3・C2・B2・A2区を結ぶ幅40mほどの環状部分で、遺構の分布や貝塚の分布と合致し、中央部のB3区周辺はその地区からくらべると遺構・遺物の確認される数もはるかに少ない。また、この中央部には住居跡がまったく確認されず、中央広場として利用していたものと考えられる。

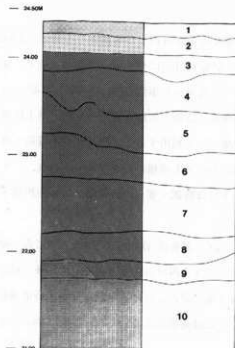
東側地区のB5・B6・C5・C6区は、西側地区との関連を考慮して表土除去し、遺構の検出を進めた。しかし、遺構の分布は希薄であり、遺物の出土量もきわめて少ないものであった。

遺構調査は全体的に大調査区の表土除去後に実施し、B3区の方形周溝墓の調査は縄文時代の遺構に先行して実施した。しかし、方形周溝墓の主体部は確認することはできなかった。

SM2の調査は、前述したように50cm四方の区分割で実施し、そのほかの小貝塚の調査とあわせて約6か月の日数を費した。

昭和54年10月から昭和56年3月まで18か月にわたる廻り地A遺跡の調査は、多くの貴重な埋蔵文化財を発見し、茨城県の縄文時代集落研究に重要な資料を提示した。

廻り地A遺跡の基本的層序についてみれば、1は表土層で15cmほどの厚さを有している。2は15～20cmほどの暗褐色土層で、B3区周辺部においては2層がみられない部分もある。3～9までの間はローム層で厚さは2.3mほど有している。ローム層は色調や含有物の相違および粘性などによって細分したが、9は粘土粒子の混入が多くみられ、ローム層から粘土層への漸移層と考えられる。最下層は粘土層で、上層には鉄分を含み、この粘土層下は礫層と考えられる(第3図)。



土層解説

- | | |
|------------------|------------------|
| 1 1層 2.00m 暗褐色土層 | 10 10層 0.50m 粘土層 |
| 2 2層 0.15m 暗褐色土層 | 11 11層 0.15m 礫層 |
| 3 3層 0.15m 暗褐色土層 | 12 12層 0.15m 礫層 |
| 4 4層 0.15m 暗褐色土層 | 13 13層 0.15m 礫層 |
| 5 5層 0.15m 暗褐色土層 | 14 14層 0.15m 礫層 |
| 6 6層 0.15m 暗褐色土層 | 15 15層 0.15m 礫層 |
| 7 7層 0.15m 暗褐色土層 | 16 16層 0.15m 礫層 |
| 8 8層 0.15m 暗褐色土層 | 17 17層 0.15m 礫層 |
| 9 9層 0.15m 暗褐色土層 | 18 18層 0.15m 礫層 |

第3図 廻り地A遺跡土層柱状図

引用文献

- (1) 川角寅吉「常陸竜ヶ崎近傍の石世遺跡」『東京人類学会雑誌』9-92 明治26年
八木英三郎「常陸別所小形磨石弁」『東京人類学会雑誌』13-139 明治30年
- (2) 茨城県教育委員会『茨城県における開発区域遺跡分布調査報告(1)-石岡市・竜ヶ崎市・北相馬郡守谷町-』昭和46年
- (3) 仲根台遺跡の調査は、昭和56年度、当教育財団によって実施され、住居跡・土壌のほか小貝塚も調査されている。時期は縄文時代後期を主体としたものである。
- (4) 西村正衛「向地貝塚」『茨城県史料 考古資料編 先土器・縄文時代』茨城県 昭和54年
- (5) 『竜ヶ崎ニュータウン内埋蔵文化財調査報告書4-赤松遺跡-』茨城県教育財団 昭和55年
- (6) 『竜ヶ崎ニュータウン内埋蔵文化財調査報告書5-前清水遺跡・大羽谷津遺跡・打越A遺跡・打越C遺跡・中根台塚群・廻り地B遺跡-』茨城県教育財団 昭和56年
- (7) 『竜ヶ崎ニュータウン内埋蔵文化財調査報告書3-沖餅遺跡-』茨城県教育財団 昭和55年

第2章 遺 構

本遺跡から検出された遺構は、住居跡 126軒・土塙1877基（貝類の投棄がみられるものも含む）・貝塚87か所・埋設土器25基・方形周溝墓4基である。各遺構については、それぞれの種類別ごとに説明を加え、また、それらの遺構から出土している遺物については第3章において記述する。また、住居跡・土塙（埋設土器を含む）・貝塚は、SI・SK・SMで表現した。

本遺跡の調査による土層観察は、『新版標準土色帖』（農林省農林水産技術会議事務局）を使用し、その後、整理の段階で土層を次のように番号化し、報告図版中に番号を記載した。

1 褐色土	Hue7.5YR 5/10・5/10	a	ローム粒子を少量混入
2 暗褐色土	Hue7.5YR 5/10	a'	ローム粒子を中量混入
3 黒褐色土	Hue7.5YR 5/10・5/10	a''	ローム粒子を多量混入
4 黒色土	Hue7.5YR 5/10	b	ローム小ブロックを少量混入
5 極暗褐色土	Hue7.5YR 5/10	b'	ローム小ブロックを中量混入
6 明褐色土	Hue7.5YR 5/10	b''	ローム小ブロックを多量混入
7 黄褐色土	Hue7.5 Y 5/10・5/10	c	ローム小ブロックを少量混入
8 明黄褐色土	Hue 10YR 5/10	c'	ローム小ブロックを中量混入
9 灰褐色土	Hue7.5YR 5/10・5/10	c''	ローム小ブロックを多量混入
10 濃い褐色土	Hue7.5YR 5/10・5/10	d	ローム粒子・小ブロック(ブロック)を少量混入
11 赤褐色土	Hue 5YR 5/10	d'	ローム粒子・小ブロック(ブロック)を中量混入
	Hue2.5YR 5/10	d''	ローム粒子・小ブロック(ブロック)を多量混入
12 暗赤褐色土	Hue 5YR 5/10・5/10	e	ローム粒子・焼土・炭化粒子を微量混入
13 赤色土	Hue 10 R 5/10	e'	ローム粒子・焼土・炭化粒子を少量混入
14 暗赤褐色土	Hue 10 R 5/10	e''	ローム粒子・焼土・炭化粒子を中量混入
15 極暗褐色土	Hue 5YR 5/10	f	焼土・炭化粒子を少量混入
		f'	焼土・炭化粒子を中量混入
		f''	焼土・炭化粒子を多量混入
		g	ローム
		h	灰
		i	粘土
		j	砂
		k	撻乱
		s	貝少量混入
		s'	貝中量混入
		s''	貝多量混入(純貝層)

1. 住 居 跡

本遺跡から検出された住居跡は 126軒であり、各住居跡の説明文中では、a 位置・b 規模・c 各部の状況・d 覆土および遺物出土状況の順で記述した。

第1号住居跡(第4図) 遺物(第195図)

- a 調査区の北東部(A5i2・b2)に位置し、他の住居跡と比較して外辺部にみられる。
- b (2.65)×4.36m 東半部分は区域外にのび、平面形は楕円形状と考えられる。
- c 壁高は16~27cmで外反ぎみに立ちあがり、床はほぼ平坦であるが部分的に攪乱がみられる。炉跡はほぼ中央に位置すると考えられ、円形状で20cmほど皿状に掘られ、内部には焼土が充満している。柱穴は壁沿いに11か所と炉跡の南に1か所確認されている。
- d 覆土は薄い自然堆積の状況を示し、遺物は少量であるが住居跡の北より中央部にかけての覆土中より出土している。

第2号住居跡(第4図) 遺物(第195・196図)

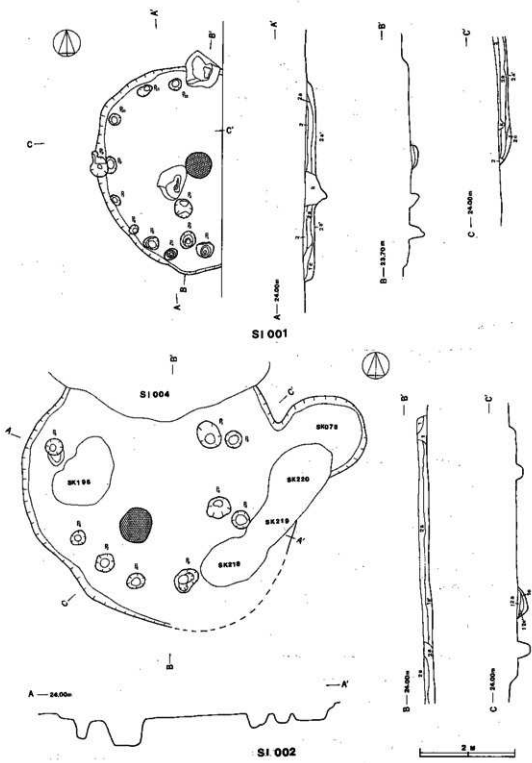
- a 調査区の北東部(B4d8・d9)に位置し、SI004・020などと重複している。
- b 5.98×5.6m 平面形は楕円形状を呈し、長軸方向はN-32°-Wをさす。
- c 壁高は10~16cmほどで外反ぎみに立ちあがる。床はほぼ平坦で、東側はSK075などの土壌と複合している。炉跡は床の南東にみられ、楕円形を呈し、皿状に焼土が充満している。柱穴は9か所にみられ、北側はSI004によって切られている。
- d 覆土は自然堆積の状況を示し、遺物は北部の覆土中に多く出土している。

第3号住居跡(第5図) 遺物(第197図)

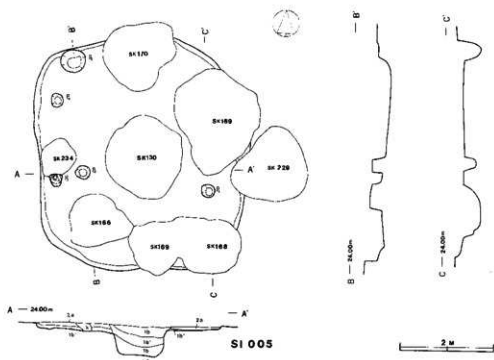
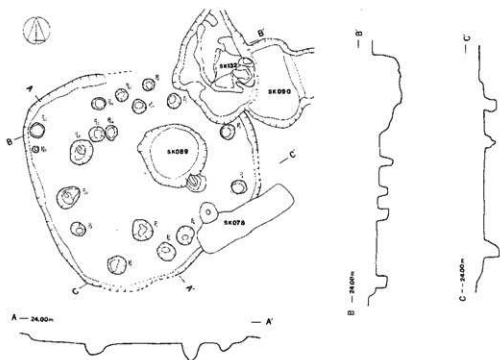
- a 調査区の北東部(B4e8・e9)に位置し、北側にSI002が隣接している。
- b 4.79×4.54m 平面形は隅丸形状を呈し、長軸方向はN-68°-Eをさす。
- c 壁高は10~15cmほどで外反ぎみに立ちあがる。床はほぼ平坦で、中央部にSK089が複合し、炉跡は確認されていない。柱穴は壁の周辺に17か所ほど確認されている。
- d 覆土は自然堆積の状況を示し、遺物は床の北側および南西側の覆土中に出土している。

第4A号住居跡(第6図)

- a 調査区の北東部(B4b8・b9)に位置し、南半部分にSI004Bが重複している。
- b 5.52×5.07m 平面形は楕円形状を呈している。
- c 壁高は11~22cmほどで外反ぎみに立ちあがる。床はほぼ平坦であり、中央東よりに楕円形状の炉跡がみられる。柱穴は13か所に確認され、P₇・P₈は入口部の施設と考えられる。北側は攪乱をうけている。
- d 覆土は自然堆積の状況を示し、遺物はほとんどがSI004Bに投棄されたものである。



第4圖 第1・2号住居跡実測図



第5図 第3・5号住居跡実測図

第4B号住居跡(第6図) 遺物(第187-199・205図)

- a 調査区の北東部(B4b8・c9)に位置し、SI004A・002を切って構築されている。
- b 6.2×6.17m 平面形は楕円形状を呈し、主軸方向はN-23°-Eをさす。
- c 壁高は16-26cmほどで外反ぎみに立ちあがる。床はほぼ平坦で、炉跡は中央のやや南西にみられ、入口付近に位置する。柱穴は壁沿いに23か所みられ、柱間は北側と南側では多少異なる。また、南西のP₁-P₂・P_{2b}-P_{2b}は入口部の施設と考えられる。
- d 覆土は自然堆積の状況を示し、覆土中から多量の土器片が出土している。遺物は住居跡の全面に広がって検出され、人為的に投棄されたものと考えられる。

第5号住居跡(第5図) 遺物(第200図)

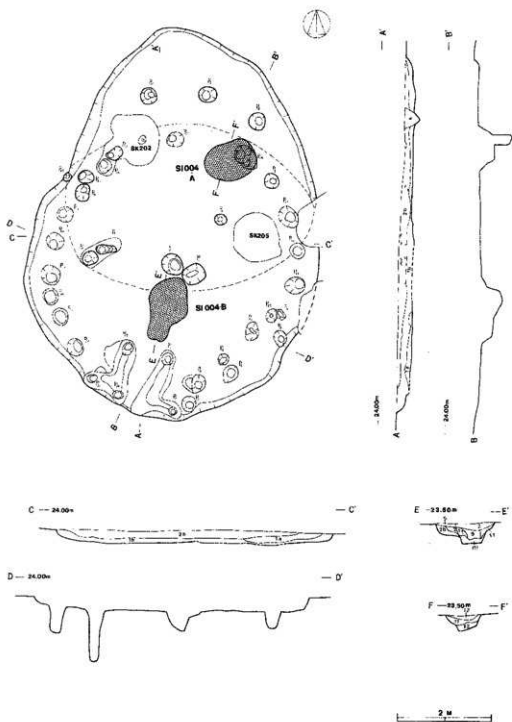
- a 調査区の北東部(B4d7・e7)に位置し、SI025と重複している。
- b (4.9)×(4.5)m 平面形は長方形形状を呈し、SI025を切っている。
- c 壁高は5-16cmでほぼ垂直に立ちあがる。床は平坦であるがほとんど土壌が複合し、炉跡は検出されていない。また、柱穴も5か所ほどしか確認されず、大部分は土壌で破壊されたと考えられる。
- d 覆土は自然堆積の状況を示し、遺物は北および南側の覆土中から少量出土している。

第6号住居跡(第7図) 遺物(第200図)

- a 調査区の東部(B4h6・h7)に位置し、南東にSI011が一部重複している。
- b 5.14×4.77m 平面形は隅丸方形形状を呈し、長軸方向はN-49°-Wをさす。
- c 壁高は14-24cmほどでほぼ垂直ぎみに立ちあがる。床はほぼ平坦であるが中央部がやや低くなり、南東にTビット状のSK118が複合している。炉跡は中央より南東に位置し、SK118によって一部が切られている。柱穴は壁沿いに21か所ほど検出されている。
- d 覆土は薄いが自然堆積の状況を示し、遺物は覆土中に少量の土器片が出土している。

第7号住居跡(第8図)

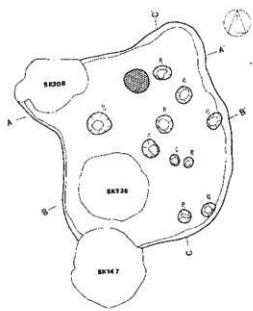
- a 調査区の北東部(B5d2)に位置し、東側は調査区域外にのびている。
- b SK010と北の地割溝によってほとんどが破壊され、平面形は不明である。
- c 壁高は10cm内外であるが、北壁以外は確認されず、床もやや軟弱である。炉跡は検出されていないが、柱穴は3か所ほど確認されている。住居跡としては壁間が残る。
- d 覆土はやや軟弱で自然堆積の状況を示し、遺物はほとんどみられない。



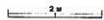
第6图 第4号住居跡突測図



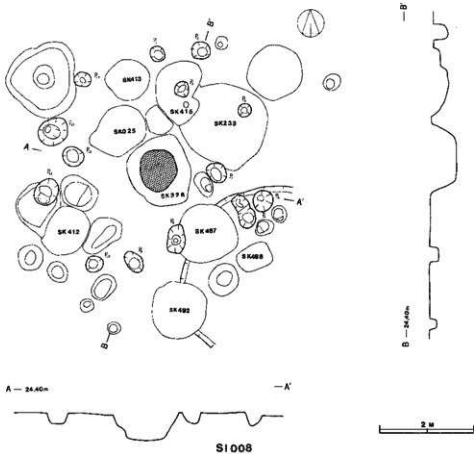
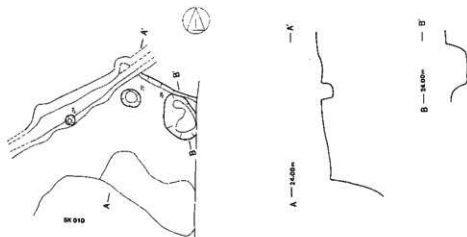
SI006



SI009



第7图 第6·9号住居跡実測図



第8图 第7·8号住居跡実測図

第8号住居跡（第8図） 遺物（第205図）

- 調査区の東部（B4i0・j0）に位置し、東側にSI075が重複している。
- 推定5.3×5.2m 平面形は柱穴の配列から楕円形を呈するものと考えられる。
- 掘り込みが浅く壁の立ちあがりかほとんどみられない。床はほぼ平坦であるが、土壌等の重複によって複雑である。ほぼ中央部のSK326の覆土中に土器組み炉跡（第205図）がみられ、本遺跡中でもっとも遺存度の良好な例である。炉跡内には焼土・灰等が充満している。
- 覆土はみられず、遺物もが跡に使用された土器以外は出土していない。

第9号住居跡（第7図） 遺物（第201図）

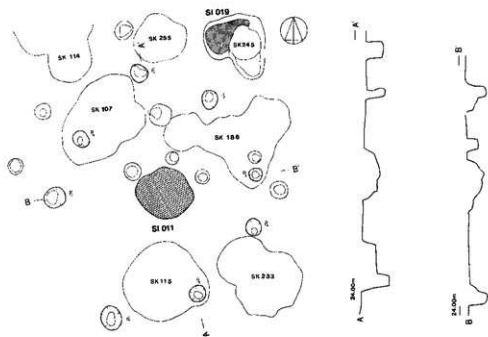
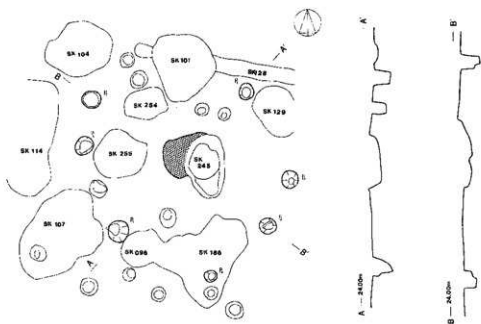
- 調査区の北東部（B4e6・f6）に位置している。
- 4.13×3.55m 平面形は長方形を呈し、長軸方向はN-11.5°-Wをさす。
- 壁高は10-20cmで外反ぎみに立ちあがる。床はほぼ平坦で、中央より北側に炉跡がみられるが、焼土はそれほど多いものではない。柱穴にはそれほど規格性がみられないが10か所ほど検出されている。西側はSK206が複合し、壁・床とも不明瞭である。
- 覆土は自然堆積の状況を呈し、部分的に攪乱がみられる。遺物はきわめて少なく、覆土上層に少量みられる。

第10号住居跡（第9図）

- 調査区の東部（B4h8・h9）に位置し、SI011・023と重複している。
- 推定5.3×5.0m 平面形は柱穴の配列から楕円形を呈していたものと考えられる。
- ローム層への掘り込みがほとんどみられず、壁の立ちあがりは確認できない。床はほぼ平坦で、中央付近に炉跡がみられるが、その南側をSK245が切っている。柱穴はSI011やSK101・254などと重複しているため不明な点もあるが、7か所ほど確認されている。
- 覆土および遺物はほとんど確認されていないが、床のほぼ中央部に貝が投棄されている。

第11号住居跡（第9図）

- 調査区の東部（B4i7・i8）に位置し、SI010・006・023が重複している。
- 推定6.2×6.0m 平面形は柱穴の配列より楕円形状を呈するものと考えられる。
- 掘り込みがローム層まで達していないため、炉跡と柱穴しか確認されていない。床はほぼ平坦であるが、土壌などによってかなり破壊されている。炉跡は中央やや南より位置し、1m内外の不定楕円形を呈し、35cmほど掘り込み、内部には焼土・灰が充満している。
- 覆土および遺物はほとんど確認されていない。



2 M

第9图 第10·11号位层平面图

第12号住居跡 (第10図)

- a 調査区の北東部 (B4c5・e6) に位置し、SI014・019 が重複し、北西部は区域外にのびる。
- b 推定5.6×(3.4)m 楕円形状の平面形が考えられる。
- c 掘り込みがローム層まで達していないため壁は確認できない。床はほぼ平坦であるが、大部分が土壌およびSI014・019 などによって破壊されている。炉跡はSK257によって一部が切られている。柱穴は8～9か所ほど検出されている。
- d 覆土および遺物はほとんど確認されていない。

第13号住居跡 (第10図) 遺物 (第201図)

- a 調査区の北東部 (B4d4・e4) に位置し、SI015・021 と重複している。
- b 推定6.0×5.0m 平面形は柱穴の配列から楕円形状と考えられる。
- c ローム層への掘り込みがほとんどみられないため壁は確認されていない。床はほぼ平坦であるが土壌の重複が多くみられ、プランの検出は困難であった。炉跡は中央よりやや西側にみられ、床を皿状に20cmほど掘り込んで地床がとしている。柱穴は5か所ほど確認されている。
- d 覆土はほとんどみられず、遺物はきわめて少量が出土している。

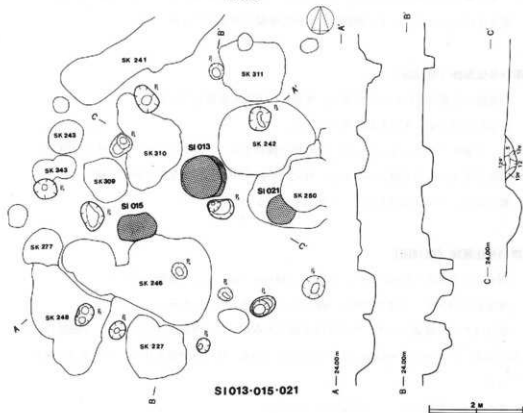
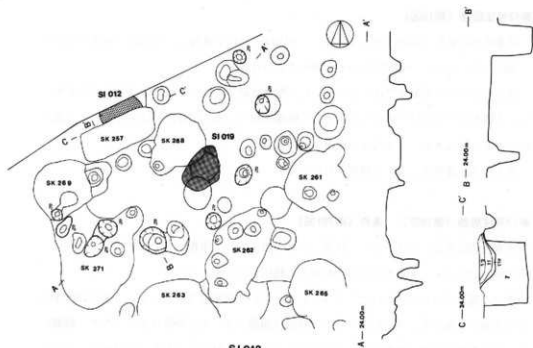
第14号住居跡 (第12図)

- a 調査区の北東部 (B4b6) に位置し、南西にSI019と重複している。
- b 推定3.2×3.0m 平面形状は不明である。
- c ローム層まで掘り込まれていないため壁を確認することはできなかった。床はほぼ平坦で、炉跡は中央よりやや北側にみられる。柱穴は炉跡を中心として5～6か所が検出されている。
- d 覆土はみられず、遺物もほとんど出土していない。

第15号住居跡 (第10図)

- a 調査区の北東部 (B4e3・e4) に位置し、SI013・021 などと重複している。
- b 推定5.5×4.8m 平面形は柱穴の配列から楕円形と考えられる。
- c 壁はほとんど確認されず、床はほぼ平坦であるがかなり攪乱をうけている。炉跡はほぼ中央部に位置しているが、SK246によって切られている。柱穴は炉跡を中心に9か所ほど検出されている。
- d 覆土および遺物はほとんど確認されていない。

第16号住居跡 (第11図) 遺物 (第201図)



第10图 第12·13·15·21号住居跡実測図

- a 調査区の北東部 (B4d5・d6) に位置し、SI017・024 と重複している。
- b 5.2 × 4.33m 平面形は隅丸長方形を呈し、長軸方向はN-57°-Eをさす。
- c 壁高は6~10cmほどで、ほぼ垂直に立ちあがる。床はほぼ平世であるが、他の遺構との重複が激しく、柱穴などは複雑である。炉跡は中央部付近に位置し、一部をSK264などによって切られている。柱穴は13か所ほど確認され、P₁・P₂は入口部の施設と考えられる。
- d 覆土は薄いが自然堆積の状況を示し、遺物は覆土中から少量出土している。

第17号住居跡

- a 調査区の北東部 (B4d5) に位置し、SI016・021 と重複している。
- b 外形不明。
- c 掘り込みがローム層まで達していないためほとんどが不明で、とくに本跡は炉跡と考えられる焼土がわずかに確認されただけで、壁・柱穴等もほとんど検出することができなかった。
- d 覆土はほとんどみられず、炉跡の周辺に少量の土器片が出土している。

第18号住居跡 (第11図)

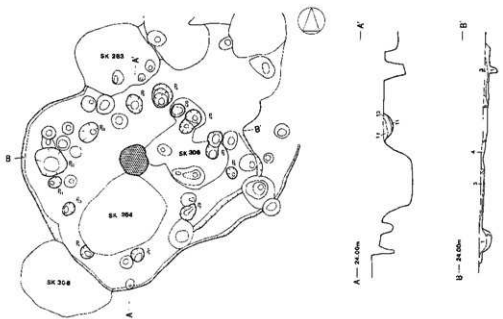
- a 調査区の北東部 (B4b6・c6) に位置し、SI014・019・024などと重複している。
- b 推定5.6×5.1m 平面形は柱穴の配列から楕円形と考えられる。
- c 壁はほとんど確認されず、床はほぼ平世であるが、柱穴状のピットが床中央部に多くみられ、他の住居跡との重複が考えられる。炉跡は中央付近に位置しているが、SK261などに切られている。柱穴は炉跡を中心に8~13か所ほどが考えられる。
- d 覆土および遺物はほとんど確認されていない。

第19号住居跡 (第12図)

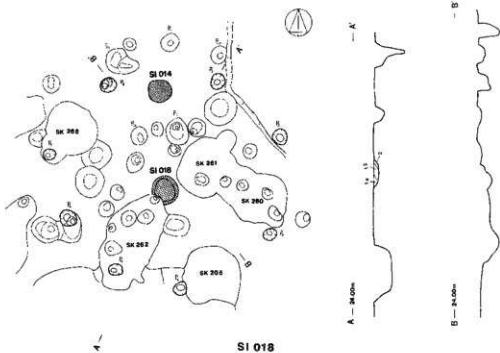
- a 調査区の北東部 (B4d6・c6) に位置し、SI012・014・018と重複している。
- b 推定4.5×4.3m 平面形は柱穴の配列から楕円形と考えられる。
- c 掘り込みがローム層まで達していないことと他の住居跡との重複が激しいため、壁および床の状態を明確に把握することはできなかった。床中央部の炉跡下より、SI012あるいはSI018の柱穴が検出されている。柱穴は7~9か所考えられる。
- d 覆土および遺物はほとんど確認されていない。

第20号住居跡 (第12図) 遺物 (第202図)

- a 調査区の北東部 (B4c7・d8) に位置し、SI002によって東側が切られている。



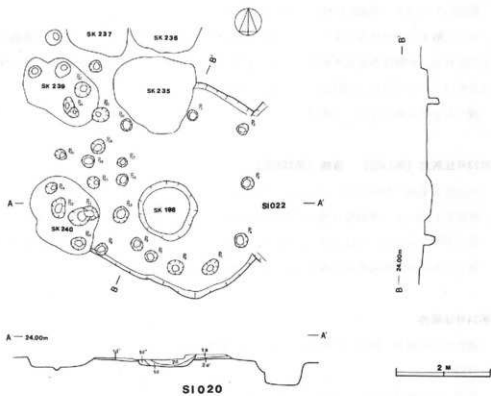
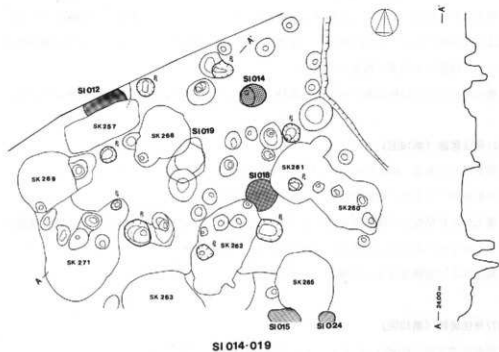
SI 016



SI 018

2 m

第11图 第15・18号住居跡実測図



第12图 第14·19·20号住居跡实测图

- b 4.8 × 4.25m 平面形は北西壁が確認されていないが長方形を呈すると考えられる。
- c 壁高は8～15cmであるが、北西・北東壁はSI002・025 などとの重複のため確認できない。床はほぼ平坦であるが、SK198などの重複により炉跡は確認されていない。柱穴は24か所ほどみられ、西部にやや多く検出されている。
- d 覆土はわずかに暗褐色土がみられ、遺物は少なく、中央部に少量の貝が投棄されている。

第21号住居跡 (第10図)

- a 調査区の北東部 (B4d4・e4) に位置し、SI013・015 と重複している。
- b 外形不明であるが、楕円形状の平面形を呈するものと考えられる。
- c 覆土および壁などは確認することができず、わずかに炉跡の焼土が残存する。床の状況・柱穴なども不明であるが、わずかに炉跡の西に柱穴が数か所検出されたにすぎない。
- d 覆土および遺物はほとんど確認されていない。

第22号住居跡 (第13図)

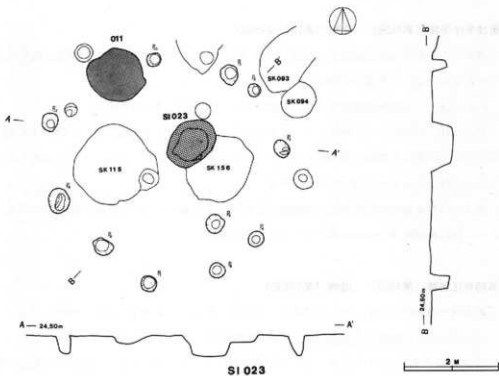
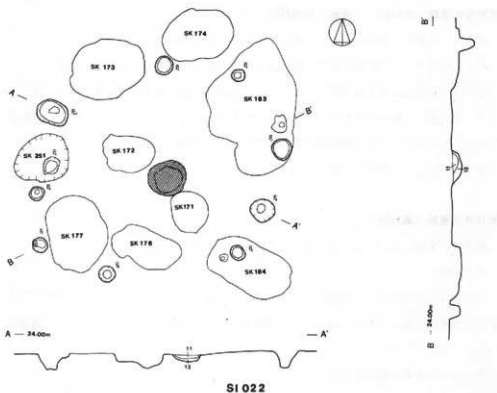
- a 調査区の東部 (B4g3・g4) に位置し、環状微高帯部の内側にみられる。
- b 推定6.0×5.3m 平面形は柱穴の配列より隅丸長方形と考えられる。
- c ローム層まで掘り込みが浅いため壁は不明である。床は平坦で硬く、中央部に炉跡がみられる。炉跡は不定長方形を呈し、床をかなり掘り込んでいるが焼土は少ない。柱穴は9か所ほどみられるが、SK162などによって破壊されている。
- d 覆土および遺物はほとんど確認されていない。

第23号住居跡 (第13図) 遺物 (第205図)

- a 調査区の東部 (B4i8・i9) に位置し、SI011と重複している。
- b 推定5.4×5.0m 平面形は柱穴の配列より西にやや張りだす楕円形と考えられる。
- c 壁は不明であるが、床は平坦で中央付近に炉跡がみられ、柱穴は11か所が検出されている。
- d 覆土はわずかに暗褐色土が残存するが、遺物は少量出土している。

第24号住居跡

- a 調査区の北東部 (B4e6) に位置し、SI018と重複している。
- b 外形不明。
- c 炉跡だけが確認されただけで、壁・柱穴などは不明である。
- d 覆土および遺物はほとんど確認されていない。



第13図 第22・23号住居跡実測図

第25号住居跡（第14図） 遺物（第202図）

- a 調査区の北東部（B4d7・e7）に位置し、SI005・020と重複している。
- b 推定4.8×4.6m 平面形は柱穴の配列より楕円形状を呈するものと考えられる。
- c 掘り込みがローム層中まで達していないため明確に規模・壁などを確認することはできなかった。中央部に炉跡がみられるがSK169・170などによって切られている。柱穴は円形状に8か所ほど検出されている。重複関係はSI005より古い時期の住居跡である。
- d 覆土はみられず、遺物は炉跡内より1点のみ出土している。

第26号住居跡（第14図）

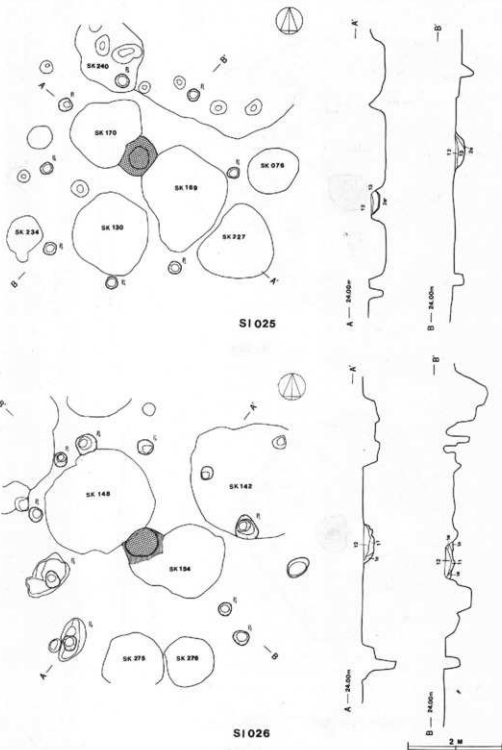
- a 調査区の東部（B4j4・i5）に位置し、環状微高帯のやや内側にみられる。
- b 外形不明。
- c 床はほぼ平坦であるが、壁は掘り込みが浅いため確認されていない。炉跡は中央にみられ、焼土が南東に流出している。柱穴は9か所確認されているが、南方は土壌によって破壊されている。
- d 覆土および遺物は確認されていない。

第29号住居跡（第15図） 遺物（第202～205図）

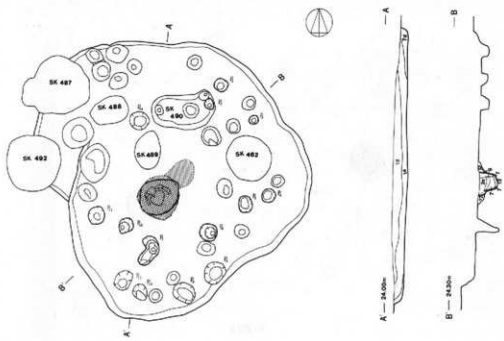
- a 調査区の東部（B4j0, B5j1）に位置し、SI075・042と重複関係にあり、環状微高帯の外側に所在する。さらに上面にはSM1の貝塚がみられる。
- b 5.6×5.1m 平面形は重複により不明瞭であるが楕円形と考えられる。
- c 壁高は16～30cmほどで、外反ぎみに立ちあがる。床は平坦で中央部が硬く、炉跡は中央部にみられる。炉跡は土器組みが（第205図-3）であるが南半分はみられない。柱穴は多くみられるが、本跡に伴うものは14か所ほどである。
- d 覆土は自然堆積の状況を示し、南西部にSM1の貝が投棄されている。遺物は覆土中に多くみられ、住居跡廃絶後に投棄されたものと考えられる。

第30号住居跡（第15図） 遺物（第206図）

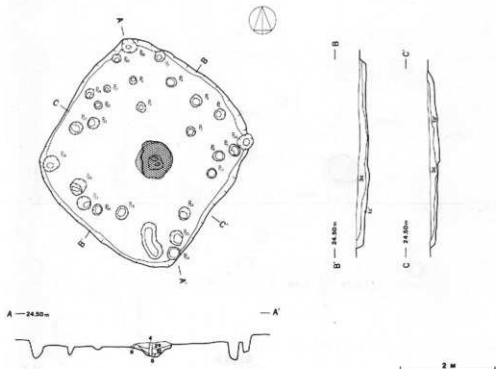
- a 調査区の南東部（C5f1・f2）に位置し、環状微高帯よりやや外側にはなれてみられる。
- b 4.0×3.7m 平面形は方形形状を呈し、長軸方向はN-31°-Eをさす。
- c 壁高は16～22cmで、外反ぎみに立ちあがる。床は平坦で、中央付近に炉跡がみられる。柱穴は壁よりに多くみられ、四隅にやや大きい柱穴が位置する。南コーナーに溝状の柱穴がみられ、入口部の施設とも考えられる。



第14图 第25・26号住居跡実測図



SI 029



SI 030

第15图 第29・30号住居跡実測図

- d 覆土は自然堆積の状況を示し、ほとんどの遺物は覆土中に検出され、それほど多くはない。

第31号住居跡（第16図） 遺物（第206図）

- a 調査区の南東部（C4c4・c5）に位置し、南西部にS1039が重複している。
- b 4.5×3.89m 平面形は長方形を呈し、長軸方向はN-50°-Eをさす。
- c 壁高は8～12cmで、ほぼ垂直に立ちあがる。床は平坦で硬く、炉跡は中央より南方に位置し、焼土の一部は床の北方へ流れている。柱穴は20か所ほどみられるが、浅いものもみられる。
- d 覆土は自然堆積の状況を示し、遺物はほとんど覆土中から出土している。

第32A号住居跡（第17図） 遺物（第207図）

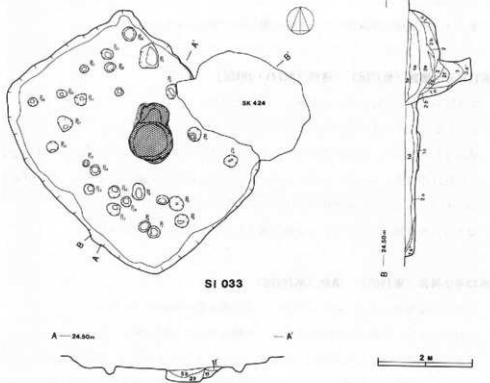
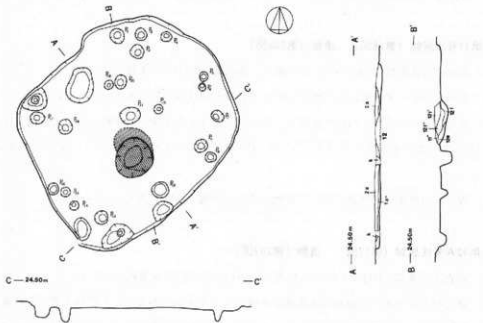
- a 調査区の東部（B4j6, C4a6）に位置し、SI 032B・053と重複している。
- b 推定6.0×6.0m 平面形は北東部が重複により不明瞭であるが、方形と考えられる。
- c 壁高は10～14cmで、垂直ぎみに立ちあがるが、北壁は不明である。床は平坦で、やや南東に炉跡がみられる。柱穴はP₁₅～P₂₃の8か所が検出されている。SI032Bは本跡より新しい時期のものである。
- d 覆土は自然堆積の状況を示し、遺物は覆土中に少量みられる。

第32B号住居跡（第17図） 遺物（第205・208図）

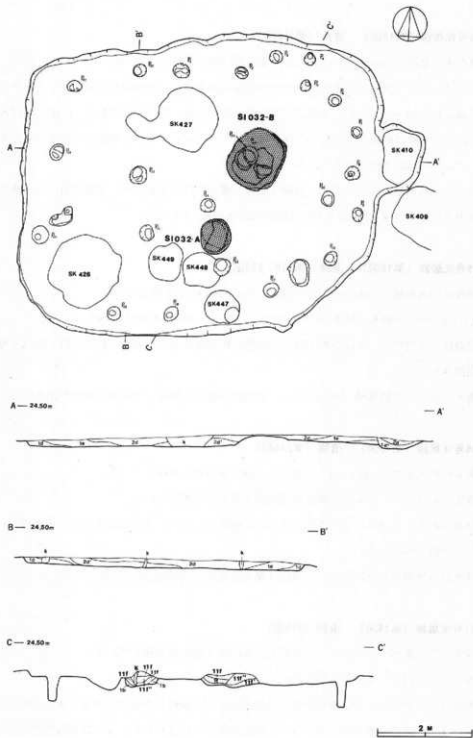
- a 調査区の東部（B4j6・j7）に位置し、SI032Aを切っている。
- b 推定5.8×5.2m 平面形は長方形を呈している。
- c 壁高は15～25cmで、垂直ぎみに立ちあがる。床は若干凹凸がみられるがほぼ平坦をなしている。炉跡は中央部にみられ、1.25×1.05mほどの長方形の平面形を呈している。炉床下にSI032Aの柱穴がみられ、新旧関係は前述のようにBがAよりも新しい。
- d 覆土は自然堆積の状況を示し、遺物は覆土および床から出土している。

第33号住居跡（第18図） 遺物（第209図）

- a 調査区の南東部（C4d9・e9）に位置し、環状微高帯の外側にみられる。
- b 5.12×3.86m 平面形は長方形を呈し、長軸方向はN-43°-Wをさす。
- c 壁高は20～26cmで、ほぼ垂直ぎみに立ちあがる。床はほぼ平坦で、北東壁部にはSK424が複合している。炉跡は中央部にみられるが、SK491に南部が張り込まれている。柱穴は24か所ほどみられるがあまり規則性がみられない。



第16图 第31・33号住居跡実測图



第17图 第32 A·B号住居跡実測图

- d 覆土は自然堆積の状況を示し、遺物は東側の覆土中に少量出土した。

第34号住居跡（第18図） 遺物（第210図）

- a 調査区の東部（C4b8・c8）に位置し、南にSI048が重複している。
- b 6.8×6.0m 平面形は北東に張りだす不定形を示し、長軸方向はN-35°Eをさす。
- c 壁高は10～26cmであるが、北壁の一部は不鮮明である。床は平坦であるが、中央部付近がややくぼみ、炉跡は南側にみられる。柱穴は37か所ほどみられるが、本跡以外のものも含まれ、P₁₈・P₁₉は入口部の施設と考えられる。
- d 覆土は自然堆積の状況を示し、遺物は北側の覆土中に少量みられ、炉跡の南には、魚骨が多く検出された小貝塚を伴うSK446と埋設土器SK443がみられる。

第35号住居跡（第18図） 遺物（第210・226図）

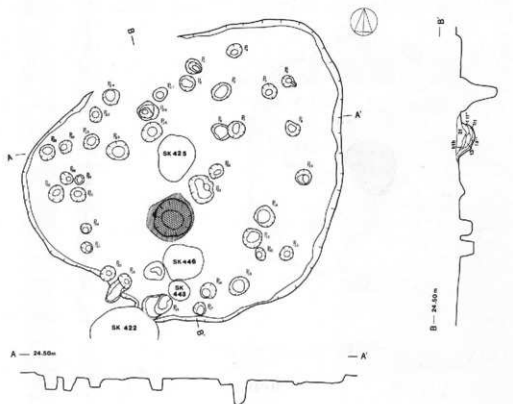
- a 調査区の南東部（C4d2・d3）に位置し、東にSI040が重複している。
- b 5.0×5.04m 平面形は隅丸形状を呈し、北壁の一部にSK481が重複している。
- c 壁高は5cm内外で、床は平坦で硬い。炉跡は中央部付近に位置し、柱穴は24か所ほど壁沿いに検出されている。
- d 覆土は薄い自然堆積の状況を示し、遺物は少量でP₁₉周辺に大形の土器片が出土している。

第36号住居跡（第19図） 遺物（第210図）

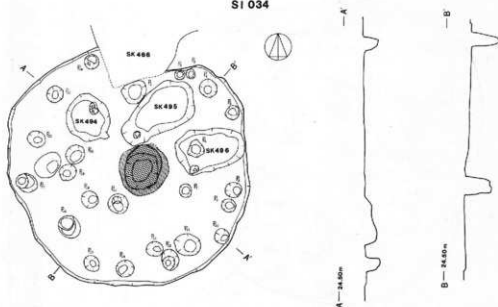
- a 調査区の南東部（C4d4・e4）に位置し、南にSI038が重複している。
- b 推定5.5×5.4m 平面形は隅丸長方形を呈すると考えられる。
- c 壁高はわずか5cmほどで、西壁はほとんど確認されない。床はほぼ平坦で、中央部付近に不定形の炉跡がみられる。
- d 覆土は自然堆積の状況を示し、遺物は覆土上層から少量出土している。

第37号住居跡（第19図） 遺物（211図）

- a 調査区の南東部（C4e2・f3）に位置し、SI036・067が重複している。
- b 推定6.6×6.45m 平面形は楕円形状を呈している。
- c 壁高は8～16cmで、ほぼ垂直きみに立ちあがるが、東壁は不鮮明である。床は平坦であるが攪乱が多く、炉跡は検出されていない。柱穴は壁沿いに認められ、それ以外は不明である。
- d 覆土は薄い自然堆積の状況を示し、遺物は覆土中に小片が少量みられただけである。

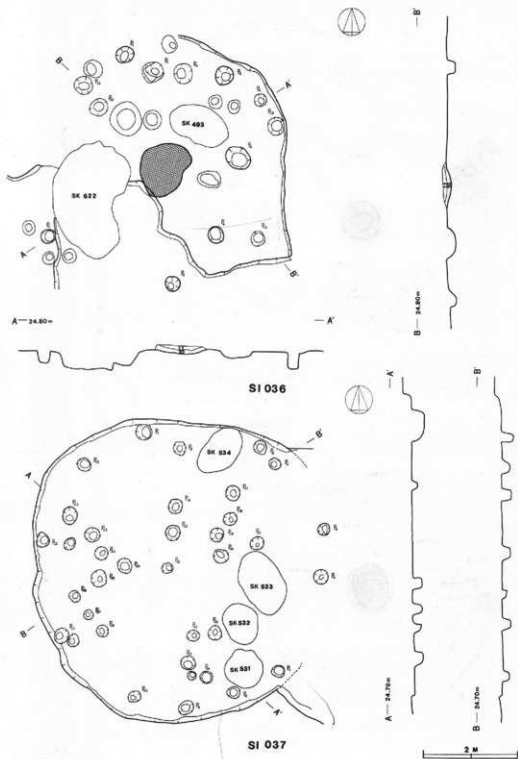


SI 034



SI 035

第18图 第34・35号住居跡実測図



第19图 第36·37号住居跡実測图

第38号住居跡（第20図） 遺物（第211～214図）

- a 調査区の南々東部（C4f4・f5）に位置し、SI038A・Bの複合が考えられる。
- b 5.5×5.2m 平面形は長方形を呈し、炉跡が2か所に認められる。
- c 壁高は20cm内外で、北西壁は確認できない。床はほぼ平坦で、炉跡は南西部（SI038A）と北東部（SI038B）の2か所があり、柱穴はそれぞれP₁～P₃とP₁₀～P₁₇が伴う。切り合い関係は不明であるため遺物は単一遺構として取りあげた。
- d 覆土は自然堆積の状況を示し、遺物は覆土中に多く出土しているが時期差はみられない。

第39号住居跡（第20図）

- a 調査区の南東部（C4c4・d4）に位置し、SI031・040が重複している。
- b 推定5.4×5.1m 平面形は柱穴の配列より隅丸形状を呈すると考えられる。
- c 掘り込みが浅いため壁は確認されない。床は平坦で、炉跡はほぼ中央に位置している。柱穴は多くみられるが、本跡の柱穴は配列より7か所が想定され、SI031より時期は新しい。
- d 覆土はほとんどみられず、遺物もほとんど出土していない。

第40号住居跡（第21図）

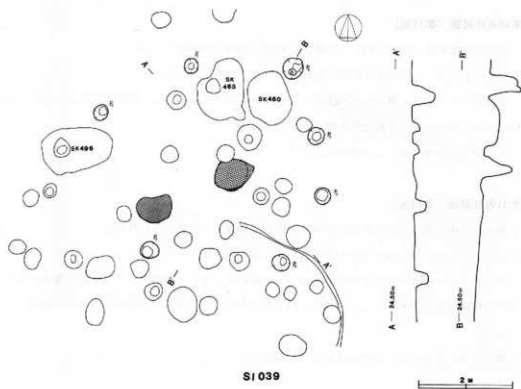
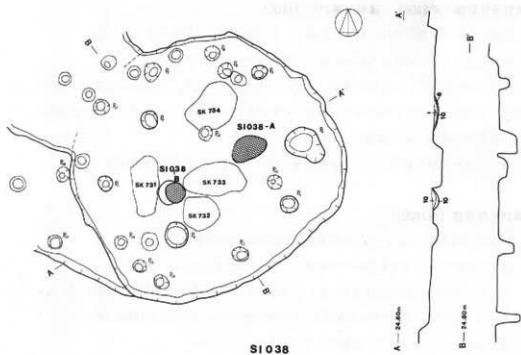
- a 調査区の南東部（C4d3・d4）に位置し、SI035・036が重複している。
- b 推定5.4×5.0m 平面形は柱穴の配列より楕円形と考えられる。
- c 壁はSI039と同様に重複のため確認できないが、床はほぼ平坦で、炉跡は中央部にみられる。柱穴は10か所ほど検出されたが重複が多い。
- d 覆土および遺物はほとんど確認されていない。

第41号住居跡（第21図）

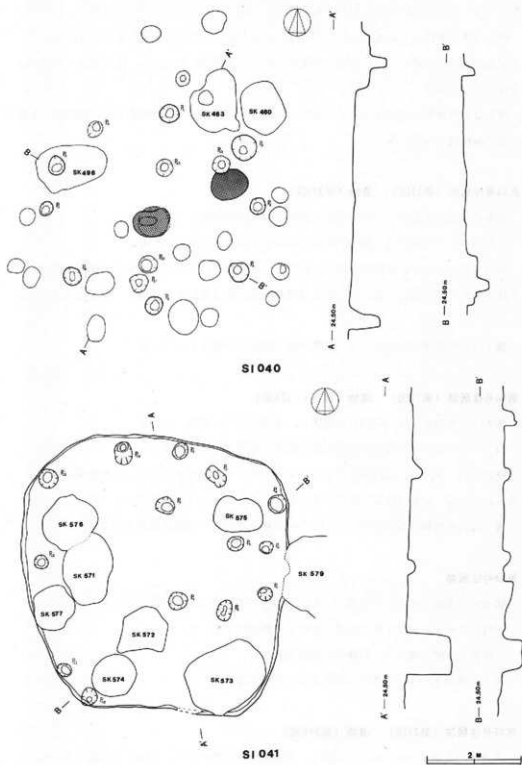
- a 調査区の中央部（C3c8・d9）に位置し、環状微高帯部の内側にみられる。
- b 5.73×5.6m 平面形は北西部がやや張りだす長方形を呈する。
- c 壁はわずかに確認されたが南西部はほとんど認められない。床は平坦で部分的に擾乱が認められ、炉跡は確認されていない。柱穴は14か所みられるが、ほかは土壌などによって破壊されている。
- d 覆土は薄く認められ、遺物はきわめて少量出土している。

第42号住居跡（第22図）

- a 調査区の東部（C4a0, C5a1）に位置し、SI029・050・051が重複している。



第20图 第38・39号住居跡実測図



第21图 第40・41号住居跡実測図

- b 4.5×4.15m 平面形は不定長方形状を呈している。
- c 壁は遺構の重複および擾乱のため不明瞭である。床は若干凹凸がみられるがほぼ平坦である。中央部付近には炉跡がみられるが、土壌によって一部破壊されている。柱穴は11～12か所ほど確認されている。
- d 覆土は自然堆積の状況を示しているが、住居廃絶後に多量の瓦が投棄され（SM1）、上層に貝類の堆積層がみられる。

第43号住居跡（第22図） 遺物（第215図）

- a 調査の南部（D3d8・e8）に位置し、南側にSI044が重複している。
- b 5.3×5.0m 平面形は北側が不鮮明であるが、長方形と考えられる。
- c 壁高は25cmほどで、ほぼ垂直に立ちあがる。床は若干の凹凸がみられるがほぼ平坦であり、炉跡は中央のやや西にみられる。柱穴は21か所ほど検出されているが、一部はSI044に含まれる。
- d 覆土は自然堆積の状況を示し、遺物は覆土中から少量出土している。

第44号住居跡（第23図） 遺物（第215・226図）

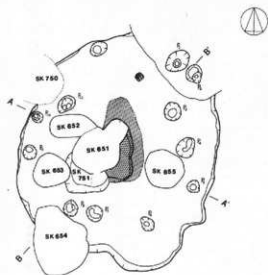
- a 調査区の最南端（D3e9・d9）に位置し、SI043の南に重複している。
- b (4.4)×4.15m 平面形は長方形状を呈するものと考えられる。
- c 壁高は14～18cmで、ほぼ垂直に立ちあがる。床は平坦であるが、北西はSI044によって切られている。炉跡は確認されていないが、柱穴は11か所ほど検出されている。
- d 覆土は自然堆積の状況を示しているがやや軟質である。遺物は覆土中に少量出土している。

第45号住居跡

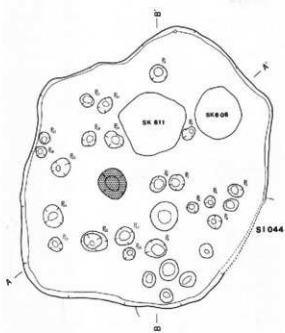
- a 調査区の南部（D3d6）に位置し、SI046および多くの土壌と重複している。
- b 重複のため平面形は不明であり、炉跡のみ検出されている。
- c 土壌等の重複が激しく、炉跡のみ確認された。
- d 覆土は確認されず、遺物もほとんど出土していない。

第46号住居跡（第23図） 遺物（第216図）

- a 調査区の南部（D3a5・b5）に位置し、南西部は区域外にのび、SI045と重複している。
- b 4.8×4.45m 平面形は方形状を呈している。
- c 壁高は16～20cmで、垂直に立ちあがる。床は平坦であり、南西部には長方形のSK637が



SI 042



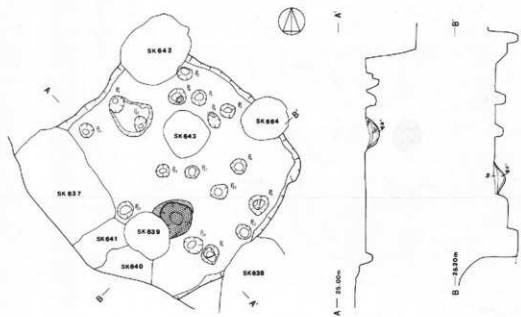
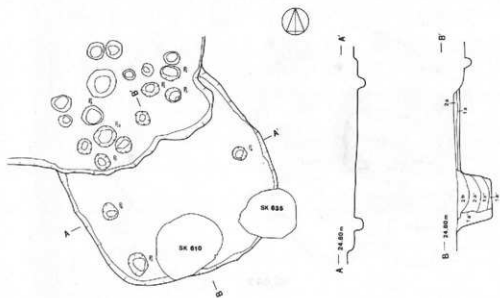
SI 044



SI 043



第22图 第42・43号住居跡実測図



2 M

第23图 第44·46号住居跡实测图

重複している。柱穴は16か所確認されている。

- d 覆土は自然堆積の状況を示し、部分的に攪乱がみられる。遺物はほとんど覆土中から出土し、それほど多い量ではない。

第47号住居跡（第24図） 遺物（第214・216図）

- a 調査の南部（D3a8・b8）に位置し、北西にSI056が重複している。
- b 4.8×4.2m 平面形状は隅丸長方形を呈している。
- c 壁高は20～28cmで、ほぼ垂直ぎみに立ちあがる。床はほぼ平坦で、中央部に炉跡がみられ、遺存度は比較的良好であるが、炉床はやや凹凸を呈する。柱穴は7か所ほど検出されている。
- d 覆土は自然堆積の状況を示し、遺物は南側の覆土中に少量出土している。

第48号住居跡（第24図）

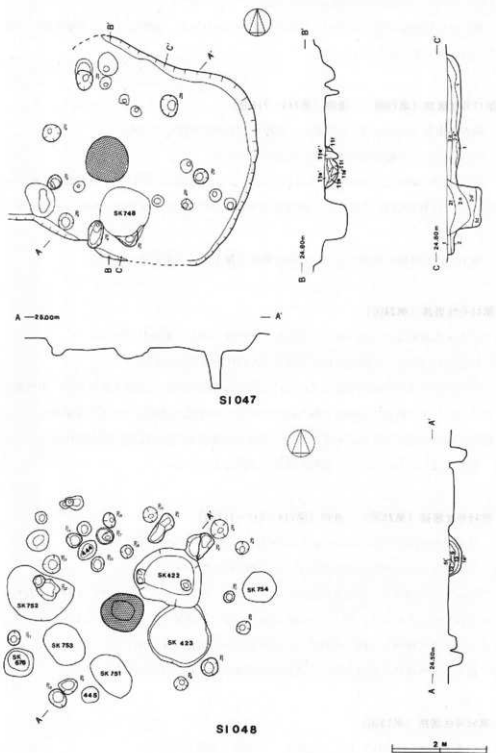
- a 調査区の南東部（C4d7・d8）に位置し、SI034・057と重複している。
- b 推定5.4×4.5m 平面形は柱穴の配列より楕円形と考えられる。
- c 掘り込みがローム層まで達していないため壁は不明である。床は平坦であり、中央部に炉跡がみられ、床を皿状に26cmほど掘り込んでいる。炉内部には焼土・灰等が多量検出されている。柱穴は19か所ほどみられ、北東部のP₁・P₂はSI034の入口部の施設と考えられる。
- d 覆土はほとんどみられず、遺物もほとんど出土していない。

第49号住居跡（第25図） 遺物（第214・217・218図）

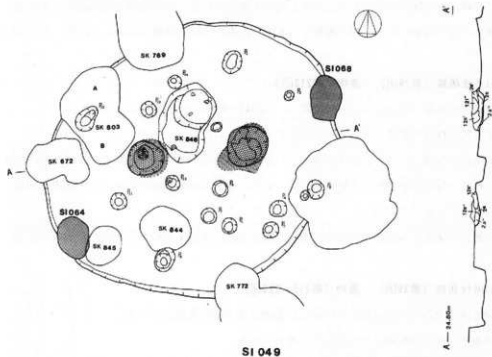
- a 調査の中央部やや南（C3f9・g9）に位置し、SI064・068と重複している。
- b 6.5×5.27m 平面形は楕円形を呈し、長軸方向はN-46°Eをさす。
- c 壁高は10～14cmで、ほぼ垂直ぎみに立ちあがる。床は平坦で、2か所に炉跡がみられる。柱穴は14か所みられるが、SI064・068の重複によって複雑である。炉跡は東西の2か所で、焼土が20cmほど堆積し、西の炉跡内には深鉢形土器の底部（第 図-2）がみられた。
- d 覆土は自然堆積の状況を示し、遺物は中央部の覆土中に多くみられた。

第50号住居跡（第25図）

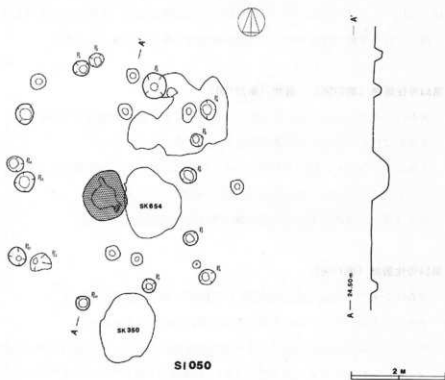
- a 調査区の東部（C4a0・b0）に位置し、SI042と重複している。
- b 平面形は柱穴の配列から楕円形と考えられる。
- c 掘り込みが浅いため壁は不明である。床は平坦であり、北東部はSI042によって切られている。



第24图 第47·48号住居跡実測図



SI 049



SI 050

第25图 第49·50号住居跡実測図

る。炉跡は中央部付近に位置し、焼土・灰が充満している。柱穴は14か所確認されている。

- d 覆土上層は投棄された貝類が堆積し（SM1）、本跡に伴う遺物はほとんど出土していない。

第51号住居跡（第26図） 遺物（第219図）

- a 調査区の東部（B4j9, C4a9）に位置し、SI042・050と一部重複している。
- b 平面形は柱穴の配列より楕円形状を呈すると考えられる。
- c 掘り込みは浅く、ローム層まで達していないため壁は不明。床は平坦で、ほぼ中央に炉跡がみられる。柱穴は19か所ほど検出されているが、西側部は不鮮明であり、P₁₁～P₁₃は入口部の施設と考えられる。
- d 炉跡内と床面に少量の土器片が出土し、覆土上層には投棄された貝（SM1）がみられる。

第52号住居跡（第26図） 遺物（第219・220図）

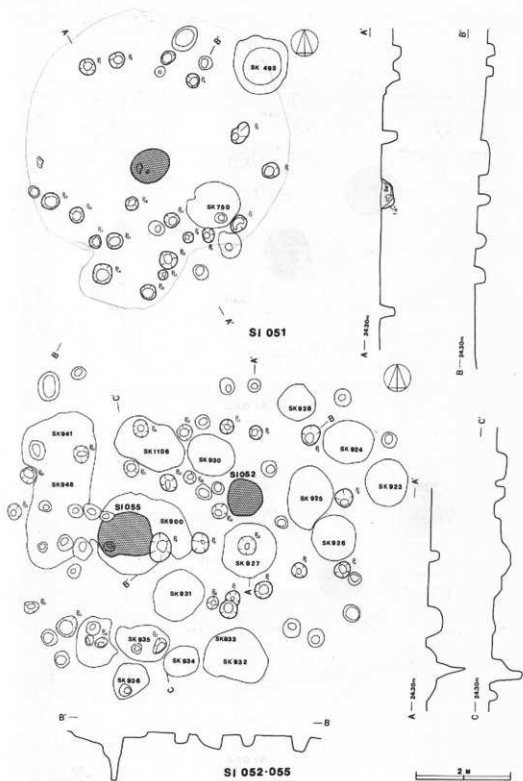
- a 調査区の東部（C4a8・b8）に位置し、南西にSI055が重複している。
- b 平面形は柱穴の配列より楕円形状と考えられる。
- c 掘り込みが浅いため壁は不明であるが、床はほぼ平坦をなし、中央部付近に炉跡がみられる。柱穴はP₁～P₁₁が考えられ、SI055の炉跡下にP₉が検出され、本跡が古い時期と考えられる。
- d 覆土は自然堆積の状況を示し、遺物は中央部の覆土中に多くみられる。

第53号住居跡（第27図） 遺物（第221図）

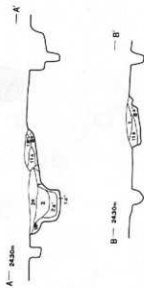
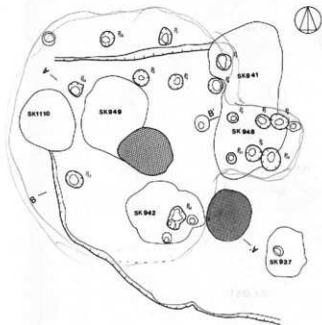
- a 調査区の東部（C4a7・a8）に位置し、SI054・055などが重複している。
- b 平面形は柱穴の配列より隅丸方形と考えられる。
- c 重複が多くみられ、壁は不明瞭である。床はほぼ平坦で、中央部付近に炉跡がみられる。柱穴は15か所ほどみられ、P₆～P₁₁は入口部の施設と考えられる。
- d 覆土は薄く、遺物は中央部付近の覆土中より少量出土している。

第54号住居跡（第27図）

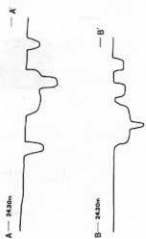
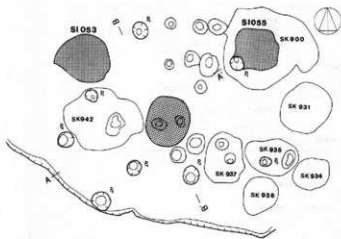
- a 調査区の東部（C4a7・b7）に位置し、SI053・055が重複している。
- b 平面形は重複が激しいため不明であるが楕円形状と考えられる。
- c 壁は南が一部みられるだけで、そのほかは確認されない。床はほぼ平坦で、炉跡は中央付近にみられる。柱穴は8か所ほど検出され、小規模な平面形を有すると考えられる。
- d 覆土は薄く、遺物は中央部付近の覆土中に少量出土している。



第26图 第51·52·55号住居跡実測图



SI 053



SI 054

2m

第27图 第53·54号住居跡実測图

第55号住居跡（第26図） 遺物（第221・226図）

- a 調査区の東部（C4a7・b7）に位置し、SI053・054が重複している。
- b 平面形は重複のため不明であるが、楕円形を呈すると考えられる。
- c 壁はほとんど確認できない。床はほぼ平坦をなし、中央部付近に方形の炉跡がみられ、焼土・灰が充満した土器組みが跡が検出された。本跡に伴う柱穴はP₁₂～P₂₂が考えられる。
- d 覆土は薄く、遺物は土器組みが跡（第226図-3）のほか少量出土している。

第56号住居跡（第28図） 遺物（第222図）

- a 調査区の南部（D3a7・a8）に位置し、南東にSI047が重複している。
- b 推定4.95×4.6m 平面形は隅丸方形を呈している。
- c 壁高は12～20cmで、ほぼ垂直ぎみに立ちあがるが南東は不明である。床は平坦で、炉跡は中央のSK770内に焼土が少量残存している。本跡全体からみると、SI047を切っているもので、柱穴は23か所ほどみられ、P₁₂～P₁₅は入口部の施設と考えられる。
- d 覆土は自然堆積の状況を示し、遺物はほとんど出土していない。

第57号住居跡（第29図）

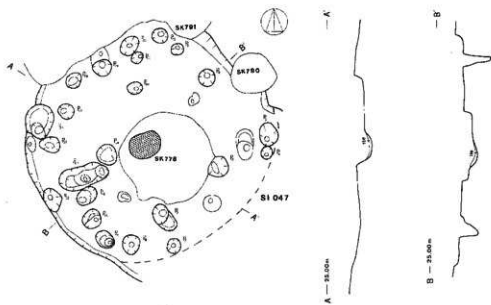
- a 調査区の南東部（C4e7・e8）に位置し、北西にSI059が重複している。
- b 推定4.6×4.5m 平面形は隅丸方形を呈している。
- c 壁高は10～12cmで、ほぼ垂直ぎみに立ちあがる。床は平坦で、炉跡は中央部付近にみられる。柱穴は北西部付近を除いてP₁₂～P₂₁が考えられ、SI059より古い時期のものである。
- d 覆土は自然堆積の状況を示し、遺物はほとんど出土していない。

第58号住居跡（第28図） 遺物（第214・222～225図）

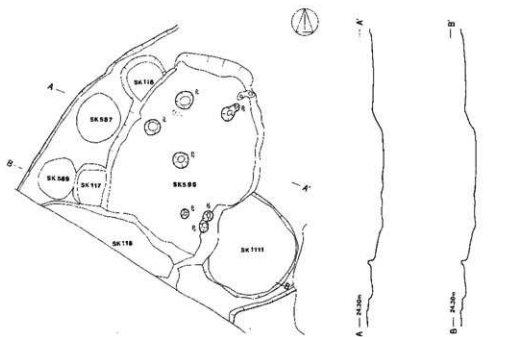
- a 調査区の南東部（C4d5・e5）に位置し、貝塚を伴うSK586と重複している。
- b 平面形は土壌の重複が激しいため不明である。
- c 壁は不明であり、床のほとんどは土壌によって切られている。炉跡は破壊され、柱穴はわずかに7か所だけ確認された。
- d 覆土は自然堆積の状況を示し、遺物は多く出土している。

第59号住居跡（第29図） 遺物（第227図）

- a 調査区の南東部（C4d7・e7）に位置し、SI057・SK950などと重複している。
- b 推定5.3×4.6m 平面形は重複により不明であるが柱穴の配列より隅丸長方形と考えられる。



SI 056



SI 058

第28图 第56·58号住居跡実測図

- c 壁はほとんど確認できないが、床は平坦で硬い。炉跡はほぼ中央部に位置し、2か所みられる。SK950によって南側を切られているが、焼上・灰が多量にみられた。柱穴はP₁~P₁₂が考えられるが、南西部はSK447・1113などによって破壊されている。
- d 覆土は自然堆積の状況を示し、遺物は多く、SI057より新しい時期のものである。また、廃絶後にSK950が構築されて貝が投棄された。

第60A号住居跡（第30図） 遺物（第228図）

- a 調査区の南部（C3i8・i9）に位置し、SI060Bと重複している。
- b 5.35×(4.6)m SI060Bを切り込み、北壁は不鮮明であるが、柱穴の配列から平面形は楕円形と考えられる。
- c 壁高は15~28cmで、ほぼ垂直さみに立ちあがる。床は平坦で、炉跡は中央部にみられる。柱穴はP₁~P₁₁が考えられる。
- d 覆土は自然堆積の状況を示し、遺物は炉跡周辺に少量出土している。また、本跡はSI060Bより新しく構築された住居である。

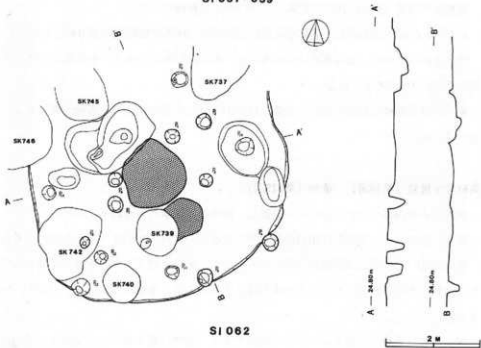
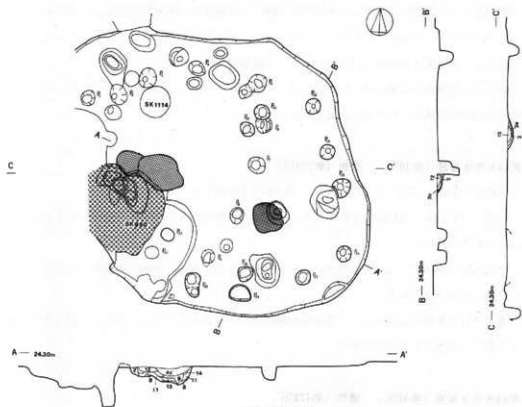
第60B号住居跡（第30図） 遺物（第228図）

- a 調査区の南部（C3i8・i9）に位置し、SI060Aと重複している。
- b 4.3×(4.0)m SI060Aに南部を切られているが、柱穴の配列より楕円形と考えられる。
- c 壁高は15~25cmで、ほぼ垂直に立ちあがる。床はほぼ平坦であり、中央部に炉跡がみられ、柱穴はP₁₂~P₁₉が考えられる。
- d 覆土は自然堆積の状況を示し、一部に貝の小ブロックがみられる。遺物は覆土中より少量出土している。

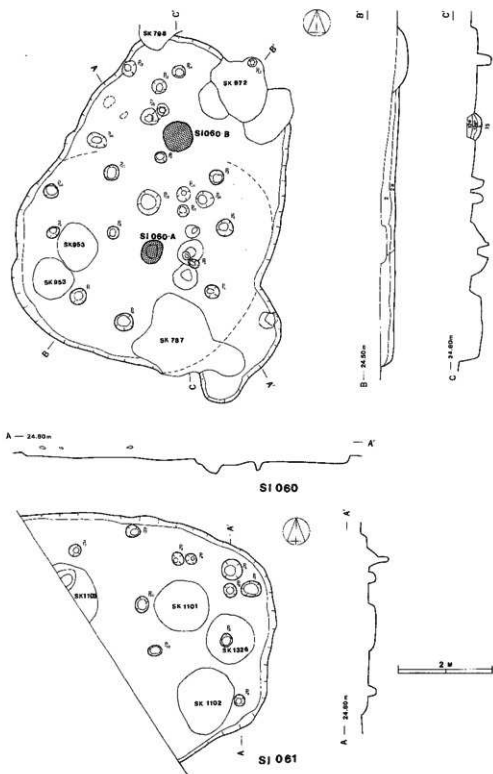
第61号住居跡（第30図） 遺物（第229図）

- a 調査区の南西部（C3j3, D3a3）に位置し、南西部は区域外の道路下にのびる。
- b 推定5.2×5.2m 平面形は南西部が不明であるが、柱穴の配列より隅丸方形状と考えられる。
- c 壁高は20~33cmで、ほぼ垂直さみに立ちあがる。床は平坦であり、炉跡は確認されていない。柱穴は10か所ほど確認されているが南西部は不明である。重複するSK1101~1103などは本跡より新しい。
- d 覆土は自然堆積の状況を示すがやや軟質である。遺物は覆土中から少量出土している。

第62号住居跡（第28図）



第29图 第57·59·62号住居跡实测图



第30图 第60·61号住居跡実測図

67 68

- a 調査区の南部 (C4i1・i2) に位置し、北側に SI073 が重複している。
- b 推定 5.4×4.8 m 炉跡が 2 か所にみられ、平面形は楕円形状を呈する。
- c 壁はわずかに確認されるが明瞭ではない。床はほぼ平坦で、中央部付近に炉跡が 2 か所接している。はじめ複合したものと考えたが、整理の段階で単一の住居跡とした。柱穴は 14 か所ほど確認されているが不規則である。
- d 覆土は自然堆積の状況を示し、遺物はわずかに覆土中から出土している。

第 63 号住居跡 (第 31 図) 遺物 (第 229 図)

- a 調査区の南部 (C3g8・h9) に位置し、SI064 などと重複している。
- b 推定 5.3×5.0 m 平面形は楕円形状を呈していると考えられる。
- c 壁高は 24 cm ほどで、北西壁は SK673・680 などに切られて不明である。床はほぼ平坦であるが、土壌による重複が激しい。炉跡は SK799 によって切られている。柱穴は 15 か所ほどみられるが、本跡の柱穴は 10 か所ほどと考えられる。
- d 覆土は自然堆積の状況を示し、遺物は東側の覆土中から少量出土している。

第 64 号住居跡 (第 31 図) 遺物 (第 230 図)

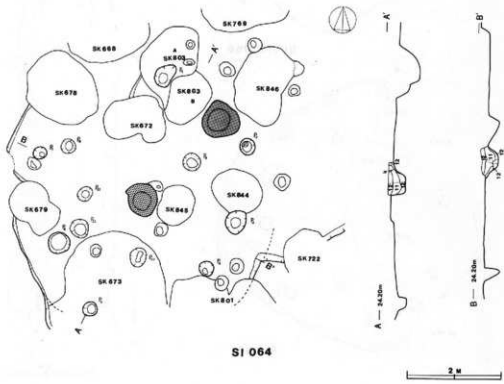
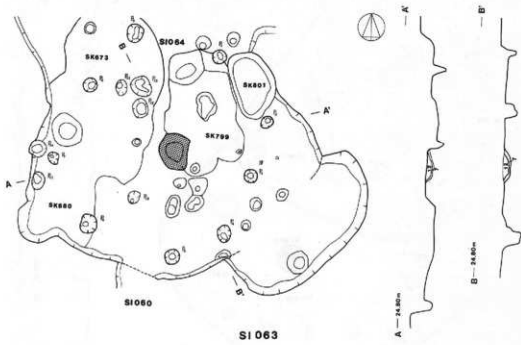
- a 調査区の中央部の南 (C3f8・g9) に位置し、SI049・063 と重複する。
- b 5.9×5.8 m 平面形は楕円形状を呈していると考えられる。
- c 壁高は東壁が 24 cm であるが、ほかは重複により不明である。床は平坦で、中央部付近に炉跡がみられる。柱穴は 13 か所ほど確認されているが、北東部のものは SI049 に伴うものである。
- d 覆土は薄い自然堆積の状況を示し、遺物は炉跡内と覆土中に少量出土している。

第 65 号住居跡 (第 32 図) 遺物 (第 230 図)

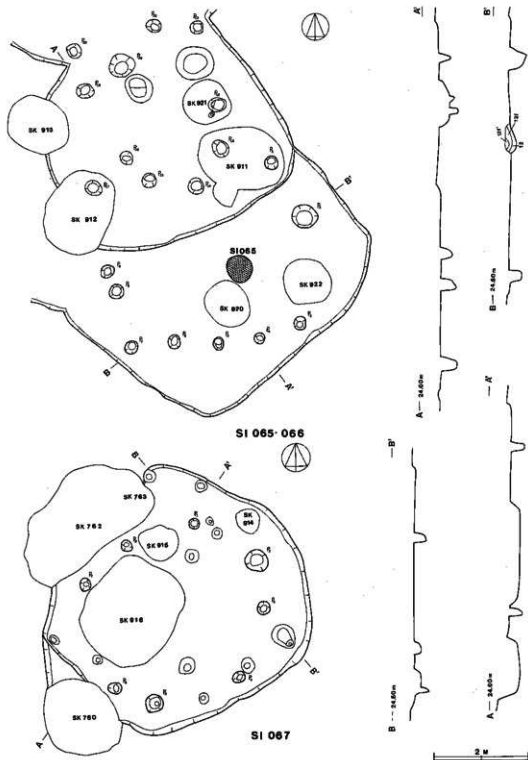
- a 調査区の南東部 (C4g5・h5) に位置し、北西部は SI066 に切られている。
- b 5.75×(4.5) m 平面形は隅丸方形形状と考えられる。
- c 壁高はわずか 5 cm ほどで、ほぼ垂直ぎみに立ちあがる。床は平坦で、炉跡は中央部付近に位置し、焼土はそれほど多くないが、皿状に 25 cm ほど堆積している。柱穴は P₁~P₆・P₁₀ が考えられる。
- d 覆土は自然堆積の状況を示し、遺物は覆土中に少量出土している。

第 66 号住居跡 (第 32 図) 遺物 (第 230 図)

- a 調査区の南東部 (C4g4・g5) に位置し、SI065・038 と重複している。



第31图 第63・64号住居跡実測図



第32图 第65·66·67号住居跡突測図

- b 4.73×4.3m 平面形は隅丸方形形状を呈する。
- c 壁高は10～15cmで、垂直ぎみに立ちあがり、北壁はSI038と重複しているため不明である。床は平坦であるが攪乱をうけている。炉跡は攪乱のため検出されていない。柱穴はP₁₀～P₁₆が考えられるが、P₁₃～P₁₅はSI065の柱穴の可能性が考えられる。
- d 覆土は薄いが自然堆積の状況を示し、遺物は覆土中から少量出土している。

第87号住居跡（第32図） 遺物（第231図）

- a 調査区の南東部（C4g2・g3）に位置し、北側にSI037が重複している。
- b 5.2×4.5m 平面形は楕円形を呈している。
- c 壁高は10～16cmで、外反ぎみに立ちあがる。床は平坦であるが、北壁および中央部付近にSK916などが重複し、炉跡は確認されていない。柱穴は8～10か所はとみられる。
- d 覆土は自然堆積の状況を示し、遺物はほとんどみられない。

第88A号住居跡（第33図） 遺物（第231図）

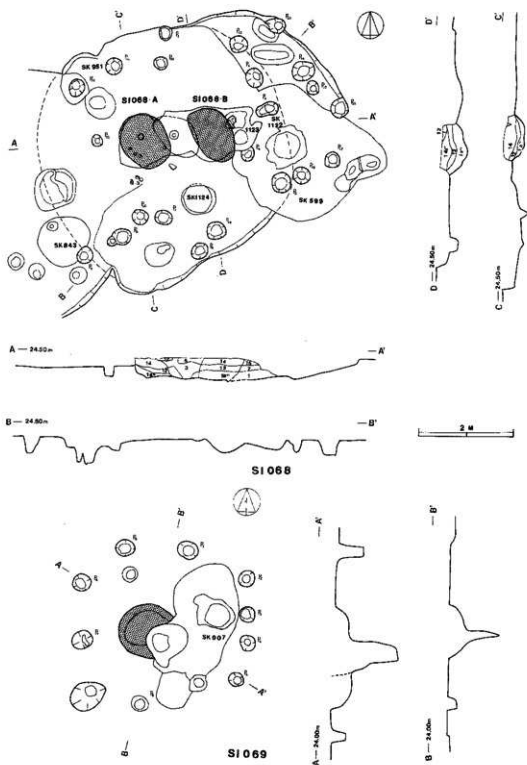
- a 調査区の中央部南（C3f0）に位置し、SI068Bと重複している。
- b 重複のため詳細は不明であるが、柱穴の配列などから推定5.2×5.2mほどの円形状と考えられ、東のSI068Bによってほとんどが切られている。
- c 壁はほとんど現存せず、床はほぼ平坦であるが、土壌などによって攪乱をうけている。炉跡はほぼ中央部に位置している。
- d 覆土は自然堆積の状況を示し、遺物は炉跡周辺から少量出土している。

第88B号住居跡（第33図） 遺物（第231・232図）

- a 調査区の中央部南（C3f0, C4f1）に位置し、SI068Aを切って構築されている。
- b 重複のため詳細は不明であるが、柱穴の配列などから推定5.1×4.7mほどの楕円形と考えられる。
- c 壁高は現存部で20～30cmで、ほぼ垂直ぎみに立ちあがる。床はSK599などによって攪乱をうけているが平坦をなし、中央部に炉跡がみられる。
- d 覆土はやや攪乱をうけているが、遺物は炉跡周辺に少量出土している。

第89号住居跡（第33図）

- a 調査区の東部（C4b7・e7）に位置し、北側にSI054が重複している。
- b 推定5.0×4.6m 平面形は柱穴の配列から楕円形と考えられる。



第33图 第68·69号住居跡実測図

- c 掘り込みが浅いため壁・覆土は不明である。床は平坦で、中央部付近に炉跡がみられるが、円筒状の深いSK906・907によって切られている。柱穴は10か所内外が確認されているが、南側は不明である。
- d 覆土および遺物はほとんど認められない。

第70号住居跡 (第34図) 遺物 (第232図)

- a 調査区の南西部 (C3d2) に位置し、西にSI071が重複し、環状微高帯の内側にみられる。
- b 推定4.5×4.3m 平面形は柱穴の配列より楕円形と考えられる。
- c 炉跡はSK1007に切られ、床は硬く、柱穴は10か所ほど検出されている。
- d 覆土および遺物はほとんど確認されていない。

第71号住居跡 (第35図)

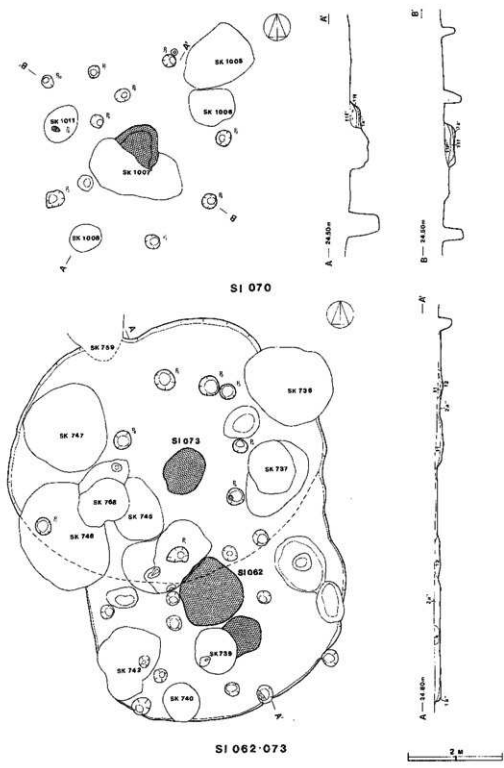
- a 調査区の南西部 (C3d1・d2) に位置し、環状微高帯部の内側にみられる。
- b 推定5.5×5.0m 平面形は柱穴の配列より楕円形と考えられる。
- c 掘り込みが浅いため壁・床とも不明であり、炉跡と柱穴がわずかに確認された。炉跡は中央部付近に位置し、25cmほど皿状に掘り込まれている。柱穴は15か所ほど検出されているが、P₅・P₆はSI070の柱穴と考えられる。
- d 覆土および遺物はほとんど確認されていない。

第72号住居跡 (第35図) 遺物 (第226・232図)

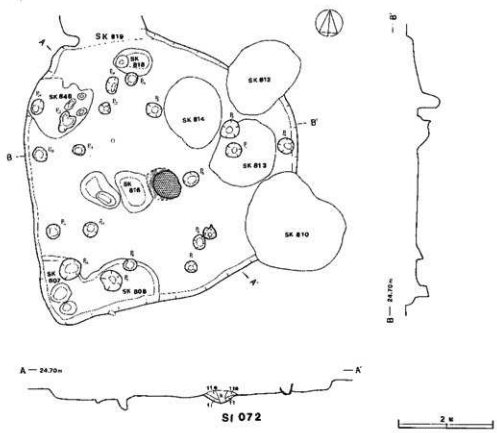
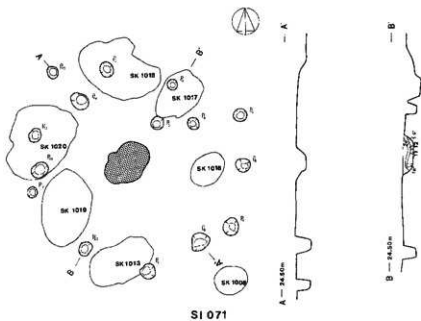
- a 調査区の南部 (C3h6・h7) に位置し、北側にはSI074が重複している。
- b 5.7×5.65m 南西部は攪乱を受けているが、平面形は隅丸形状を呈している。
- c 壁高は20cmほどで、外反して立ちあがる。床はほぼ平坦で、中央部付近に炉跡がみられ、床を15cmほど皿状に掘り込み、内部には焼土を混入する暗褐色土が堆積している。柱穴は19か所ほどみられるが、あまり規格性を有したものではない。
- d 覆土は自然堆積の状況を示し、遺物は南東の床面に埋設された深鉢形土器 (第226図-5) のほかほとんど出土していない。

第73号住居跡 (第34図) 遺物 (第233図)

- a 調査区の南部 (C4h1・i1) に位置し、SI062と重複している。
- b 6.6×5.1m 平面形は西部がやや張りだす楕円形状を呈している。
- c 壁高は10cm内外で、外反ぎみに立ちあがるが、SK736・747などの重複で不鮮明である。床



第34图 第62·70·73号住居跡実測图



第35图 第71・72号住居跡実測図

は平坦で、中央部付近に炉跡がみられる。柱穴は8か所ほど確認されているが、壁沿いにはみられず、中央部周辺に位置している。平面形はやや小規模となる可能性が考えられる。

- d 覆土は自然堆積の状況を示しているがやや軟質である。遺物は覆土中に少量出土している。

第74号住居跡（第36図）

- a 調査区の中央部南（C3f6・g7）に位置し、環状微高帯南部の内側にみられる。
- b 土壌などの複合が激しいため平面形は不明であるが、柱穴の配列から楕円形と考えられる。
- c 壁は確認できず、中央部付近にわずかに炉跡が残存している。柱穴は土壌などの重複によって確認できないものが多く、わずか9か所が検出された。
- d 覆土はほとんど認められず、遺物もほとんど出土していない。

第75号住居跡（第36図） 遺物（第232図）

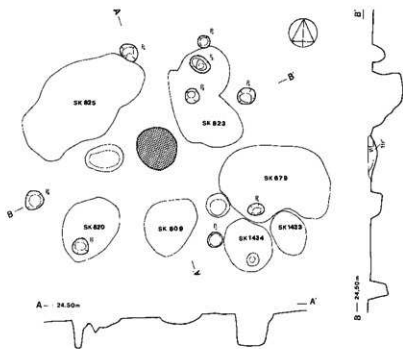
- a 調査区の東部（B4i0・j0）に位置し、SI008・029と重複している。
- b 外形不明。重複が激しいため平面形は不明であるが、柱穴の配列から楕円形と考えられる。
- c 掘り込みが浅いため壁は不明である。炉跡はほぼ中央に位置し、柱穴は不明瞭であるが10か所ほど検出されている。
- d 覆土は確認されず、遺物は炉跡内より少量出土している。

第76号住居跡（第37図） 遺物（第233図）

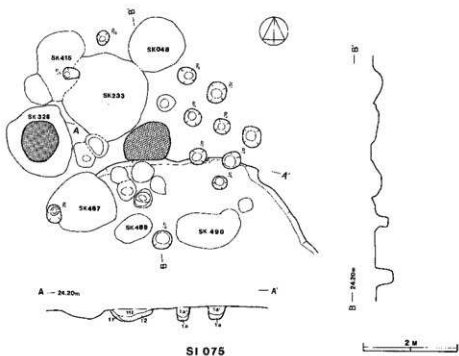
- a 調査区の西部（C2b9・c9）に位置し、西側住居跡群のやや東にみられる。
- b 5.5×4.53m 平面形は隅丸長方形を呈し、長軸方向はN-50°-Wをさす。
- c 壁高は30cmほどで、外反ぎみに立ちあがる。床は平坦であり、炉跡は確認されていない。柱穴は20か所ほど検出されている。
- d 覆土は自然堆積の状況を示しているが、部分的に攪乱をうけている。遺物は北西の覆土中に少量出土している。

第77号住居跡（第37図） 遺物（第226・234図）

- a 調査区の南部（C3g0、C4g1）に位置し、北側にSI068が重複している。
- b 推定6.2×5.2m 平面形は柱穴の配列より隅丸長方形を呈している。
- c 壁高は10～16cmで、垂直ぎみに立ちあがる。床は平坦で、炉跡は中央部のやや西寄りに位置している。柱穴は12か所ほど確認され、P₂・P₄・P₁₂は土柱穴的なものと考えられる。炉跡は床を12cmほど皿状に掘り、焼土は上層にみられるがそれほど多いものではない。

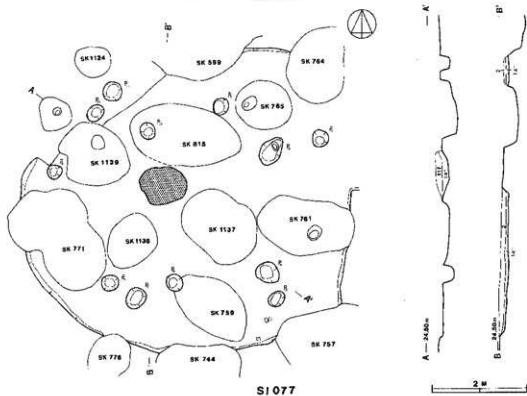
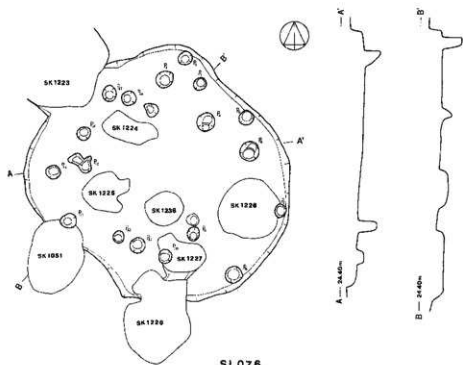


SI 074



SI 075

第36图 第74・75号住居跡実測図



第37图 第76·77号住居跡突測図

- d 覆土は自然堆積の状況を示し、遺物は南東の覆土中に少量出土している。

第78号住居跡（第38図） 遺物（第235図）

- a 調査区の南西部（C3i4・j5）に位置し、北西にSI1079が重複している。
- b 推定5.8×5.3m 外形は楕円形を呈しているが、柱穴の配列では柄鏡形を呈している。
- c 壁は重複により不明瞭であるが、床はほぼ平坦である。床中央部の東に炉跡がみられ、床を20cmほど掘り込み、焼土はレンズ状に堆積している。柱穴は15～17か所確認され、P₁₁～P₁₄は入口部の施設と考えられる。また、炉跡の北側を切る柱穴は、SI1079のものと考えられ、本跡が古い時期のものと考えられる。
- d 覆土は自然堆積の状況を示し、遺物は南側の覆土中に出土している。

第79号住居跡（第38図） 遺物（第234図）

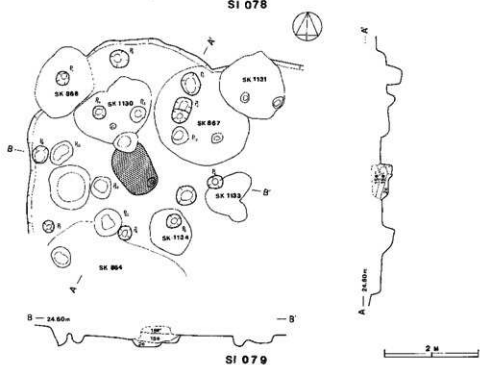
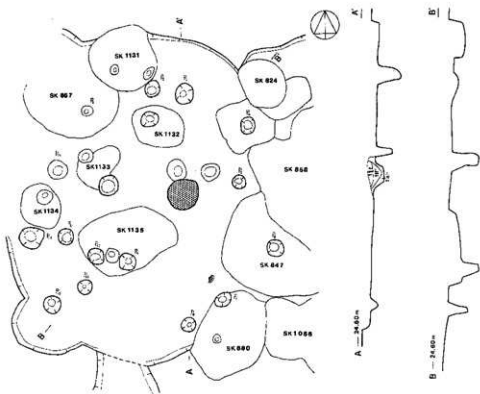
- a 調査区の南西部（C3i3・i4）に位置し、SI1078と重複している。
- b 推定5.2×4.4m 平面形は楕円形と考えられる。
- c 壁は不明瞭であるが、20cmほどの高さを有して外反ぎみに立ちあがる。床は平坦であるが、かなり攪乱をうけている。炉跡は床中央部に位置し、平面形は長方形を呈しているが焼土の量は少ない。柱穴は10か所ほど確認され、主柱穴としては中央の4か所が考えられる。
- d 覆土は自然堆積の状況を示し、遺物は覆土中から少量出土している。

第80号住居跡（第39図） 遺物（第236図）

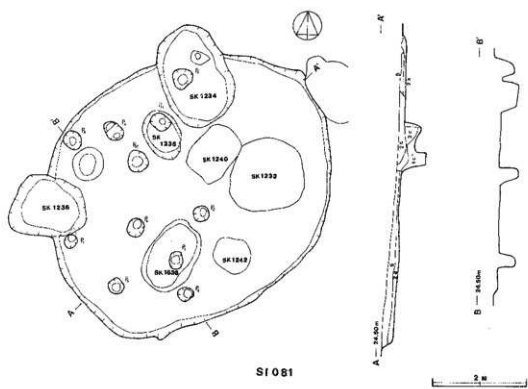
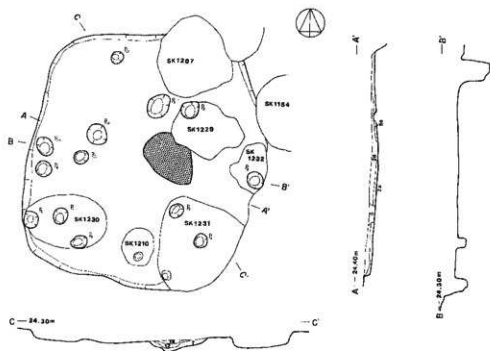
- a 調査区の北西部（B2e6・f6）に位置し、SI118と重複し、南方には住居跡はみられない。
- b 5.2×4.96m 平面形は隅丸方形を呈し、長軸方向はN-3°-Eをさす。
- c 壁高は14～28cmで、西壁が高く、東壁が低い。床はほぼ平坦で、中央部のやや東寄りに炉跡がみられる。柱穴は13か所ほどみられ、北西コーナーと南側は攪乱をうけている。
- d 覆土は自然堆積の状況を示し、遺物は中央部付近の床面および覆土中に多く出土している。

第81号住居跡（第39図） 遺物（第237図）

- a 調査区の北西部（B2d5・d6）に位置し、SI118と重複し、西にSM1がみられる。
- b 6.47×5.42m 平面形は楕円形を呈し、長軸方向はN-53°-Eをさす。
- c 壁高は12～24cmで、南西部がやや高い。床は平坦で、北東にやや張りだしているが炉跡は確認されていない。柱穴は11か所ほど検出され、東床部にはSK1233が重複し、円筒状に2.2mほど掘り込まれている。



第38图 第78・79号住居跡実測図



第39图 第80・81号住居跡実測图

- d 覆土は自然堆積の状況を示し、遺物は北西側の覆土中に少量出土している。

第82号住居跡 (第40図) 遺物 (第238図)

- a 調査区の北西部 (B2a5・b5) に位置し、SI100・101 と重複している。
- b 推定5.3×4.7m 平面形は柱穴の配列より楕円形と考えられる。
- c 掘り込みが浅いことと住居等の重複によって壁は確認できない。床はほぼ平坦で、中央部付近に炉跡がみられるがSK1622・1623によって東西の各一部が切られている。柱穴は12か所ほど確認され、P₁₁~P₁₃はSI100・101の柱穴と考えられる。
- d 覆土はわずかに認められ、遺物は覆土中に少量出土している。

第83号住居跡 (第40図) 遺物 (第238図)

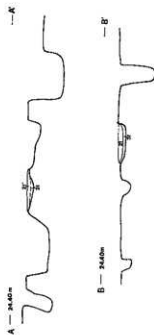
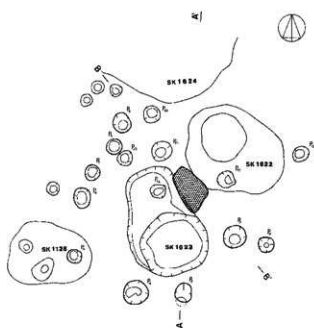
- a 調査区の北西部 (B2b7・c7) に位置し、住居跡群の内側にみられる。
- b 5.6×5.5m 平面形は隅丸方形を呈し、長軸方向はN-28°-Eをさす。
- c 壁高は17~20cmで、外反ぎみに立ちあがり、南西壁は高く、北壁は低い。床は若干起伏がみられ、中央部に炉跡がみられる。柱穴は17か所確認され、P₁~P₁₇は壁沿いに位置し、P₄・P₁₀・P₁₂・P₁₄は炉跡を四角に囲んだ主柱穴と考えられる。
- d 覆土は薄いが自然堆積の状況を示し、遺物は覆土中に少量出土している。

第84号住居跡 (第41図) 遺物 (第239図)

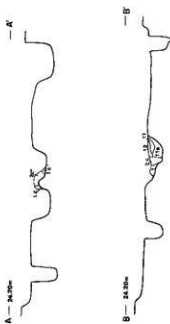
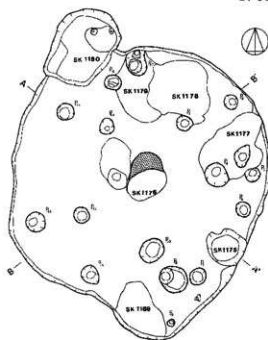
- a 調査区の北々西部 (A3i3・j3) に位置し、北東は区域外に接する。
- b 5.65×4.9m 平面形は隅丸長方形を呈し、長軸方向はN-66°-Eをさす。
- c 壁高は12~18cmで、ほぼ垂直ぎみに立ちあがる。床は平坦で、中央部付近に長方形の炉跡がみられ、規模は1.45×1.2mで、床は18cmほど掘り込まれている。主柱穴はP₁~P₅・P₇・P₉が考えられ、そのほかは補助的な柱穴であると考えられる。重複した土壌群はほとんど本跡より新しいものである。
- d 覆土はやや軟質であるが自然堆積の状況を示し、遺物は覆土中から少量出土している。

第86号住居跡 (第41図) 遺物 (第239図)

- a 調査区の南西部 (C2f0・g0) に位置し、南・西の住居跡群の中間にみられる。
- b 5.56×5.5m 平面形は隅丸方形を呈し、長軸方向はN-36°-Eをさす。
- c 壁高は14~22cmで、ほぼ垂直ぎみに立ちあがる。床は平坦で、中央部付近に炉跡がみられ、床を15cmほど掘り込み、焼土はそれほど多いものではない。柱穴は12か所ほどみられ、P₂とP₆

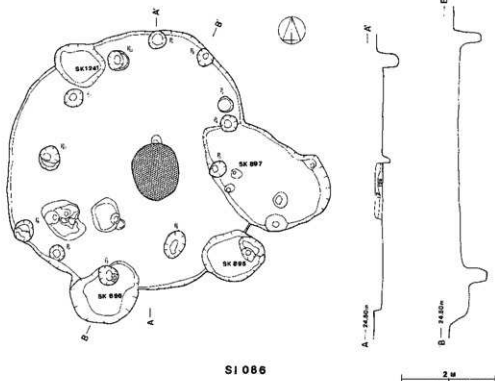
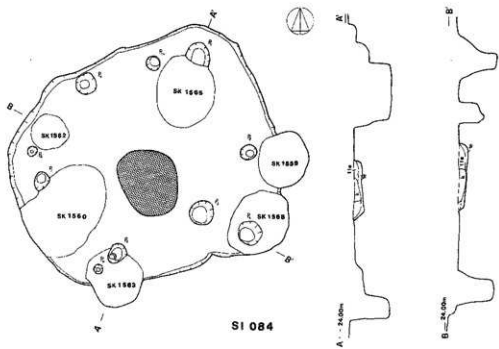


SI 082



SI 083

第40图 第82·83号住居跡実測図



第41图 第84·86号住居跡実測図

を結ぶ直線に対して左右対象である。

- d 覆土は自然堆積の状況をホシ、遺物はきわめて少量である。

第87号住居跡 (第42図) 遺物 (第226・240図)

- a 調査区の北部 (B3a5・a6) に位置し、SI088と重複し、北東部は区域外にのびる。
b SI088と同様に北東部は区域外にのび、平面形は不明である。
c 壁は不明瞭で、ゆるやかに立ちあがり、床は平坦であるがやや軟質である。炉跡は確認されず、柱穴はP₁~P₄が確認されているにすぎない。
d 覆土は線根などの攪乱をかなりうけているため不鮮明である。遺物は床面から少量出土している。

第88号住居跡 (第42図)

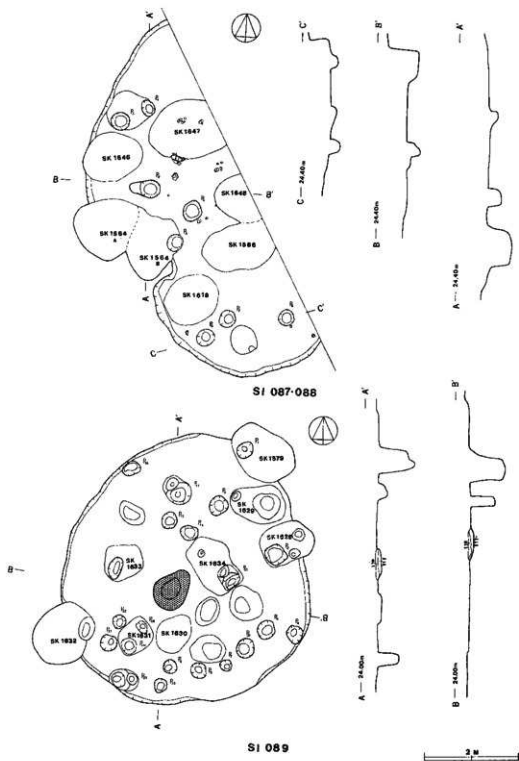
- a 調査区の北部 (B3a5・b6) に位置し、北東部は区域外のため未調査であり、SI087と重複している。
b 平面形は楕円形状を呈すると考えられる。
c 壁高は低くゆるやかに立ちあがる。床はほぼ平坦であり、炉跡は確認されていない。柱穴はP₁・P₂~P₄がみられる。
d 覆土は薄く、遺物はほとんどみられない。

第89号住居跡 (第42図)

- a 調査区の北西部 (A3i1・j1) に位置し、ほかの住居跡群より環状微高帯の内側にみられる。
b 5.5×5.4m 平面形は北側がやや張りだす楕円形を呈し、長軸方向はN-41°-Eをさす。
c 壁はほとんど認められず、床はほぼ平坦であるが攪乱を多くうけている。炉跡は床中央部付近に位置し、床をわずかに掘り込んでいる。柱穴は17か所が確認され、P₉~P₁₅は入口部と考えられる。
d 覆土はわずか5cmほどで、遺物はほとんど出土していない。

第90号住居跡 (第43図) 遺物 (第240・241図)

- a 調査区の北々西部 (A3h3) に位置し、北西のSI091に切られている。
b 北東部は区域外にのびるため外形は不明であるが、楕円形状を呈するものと考えられる。
c 壁は南部が16cmほどであるが、そのほかは重複のため不明である。床は平坦であるがSK1591などに切られている。炉跡はほぼ中央部に位置し、柱穴は8~10か所が確認されている。



第42图 第87・88・89号住居跡実測図

- d 覆土は薄く、かなり攪乱をうけている。遺物は覆土および床から出土している。

第91号住居跡（第43図） 遺物（第226・242図）

- a 調査区の北々西部（A3g2・g3）に位置し、南にSI090が重複している。
- b 5.82×（5.2）m 平面形は隅丸長方形を呈し、長軸方向はN-37°-Wをさす。
- c 壁高は15cmで、外反ぎみに立ちあがる。床はほぼ平坦で、炉跡は中央部に位置している。柱穴は23か所が確認され、P₇・P₁₀・P₁₂～P₂₁はやや壁沿いにみられ、P₁～P₆・P₈～P₁₁・P₁₃は炉跡を「コ」の字状に囲み、P₂・P₃はその中に位置している。
- d 覆土は自然堆積の状況を示し、遺物は覆土中より出土している。

第92号住居跡（第44図） 遺物（第243図）

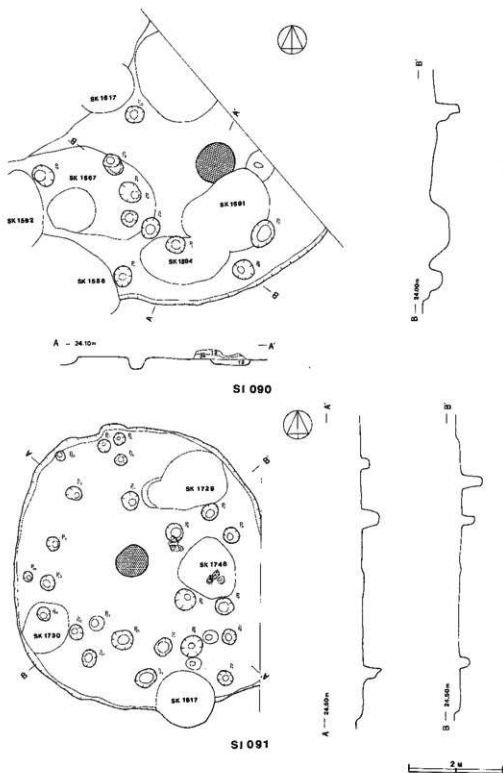
- a 調査区の北々西部（A3e1・f1）に位置し、SI094と重複している。
- b 5.2×4.8m 平面形は台形状を呈している。
- c 壁高は28cmほどで、西壁は重複のため不明である。床はほぼ平坦で、中央部付近に炉跡がみられるが、SK1584によって切られている。柱穴は13か所ほど確認されている。
- d 覆土は自然堆積の状況を示し、遺物は北側の覆土中に少量出土している。

第93号住居跡（第44図） 遺物（第226図）

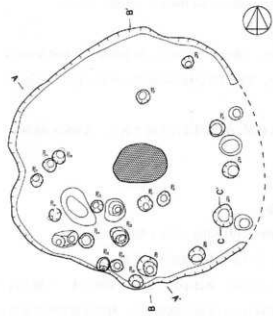
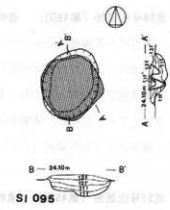
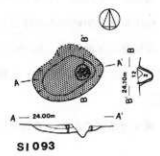
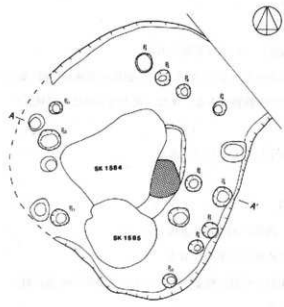
- a 調査区の北々西部（A2d9）に炉跡が検出されている。
- b 長方形の炉跡のみ確認され、他の施設については不明である。
- c 住居の平面形は確認されず、炉跡と埋設された深鉢形土器（第226図-11）が出土している。
- d 覆土は確認されず、住居跡ではない可能性も考えられるが、炉跡の存在から住居跡とした。

第94号住居跡（第44図） 遺物（第244・245図）

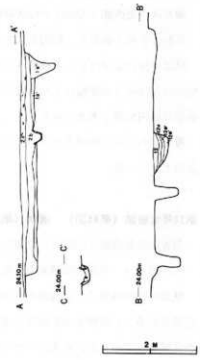
- a 調査区の北々西部（A2f0・e0）に位置し、SI092と重複している。
- b 5.2×5.0m 平面形は隅丸形状を呈している。
- c 壁高は18～24cmで、ほぼ垂直に立ちあがるが、北～西壁の一部は攪乱をうけて不明である。床は平坦であるが中央部がややくぼみ、炉跡はほぼ中央部に位置している。炉跡は床を30cmほど掘り込み、幾土はかなり堆積している。柱穴は19か所確認されたが北西部は不明である。
- d 覆土は自然堆積の状況を示し、南西部床に埋設土器（第245図-3）のほか、遺物は覆土中に多くみられる。



第43图 第90・91号住居跡実測図



SI 094



第44图 第92·93·94·95号住居跡実測图

第95号住居跡（第44図） 遺物（第244図）

- a 調査区の北西部（A2f8）に位置している。
- b 楕円形状の炉跡のみが確認され、他の施設については不明である。
- c 住居跡の平面形は、SI093と同様に確認されていない。焼土中に2個体の深鉢形土器（第244図→4・5）が埋設され、土器内の埋土はやや軟質である。また、焼土は40cmほど堆積している。
- d 覆土は確認されず、遺物は炉跡内から出土したもののだけである。

第96号住居跡（第49図） 遺物（第245図）

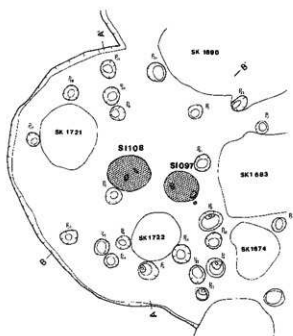
- a 調査区の北西部（A2g9・h9）に位置し、西部にSI105が重複している。
- b SI105によって大部分が切られているため外形は不明である。
- c 壁は確認されず、SI105の東壁部に不定形の炉跡が確認されている。SI105の床面に柱穴が重複してみられるが、東側部は不鮮明である。
- d 覆土はほとんど認められず、遺物は炉跡内から少量出土している。

第97号住居跡（第45図） 遺物（第247図）

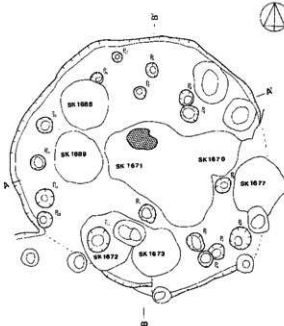
- a 調査区の北西部（A2i6）の住居跡密集地に位置し、SI108などと重複している。
- b 外形は不明であるが、楕円形状と考えられる。
- c 壁は重複によりほとんど確認されていない。床はほぼ平坦で、中央部付近に炉跡がみられる。柱穴はSI108との重複により複雑であるが、炉跡および柱穴の配列よりP₁~P₉が考えられ、平面形は楕円形状と考えられる。
- d 覆土はわずかに確認されているが、住居跡間の新旧関係は不明である。遺物は炉跡内より少量出土している。

第98号住居跡（第45図） 遺物（第246図）

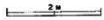
- a 調査区の北西部（A2h6）に位置し、SI097・104・108・109と重複している。
- b 5.2×5.0m 平面形は隅丸方形を呈しているが南東部は不明である。
- c 壁高は10cm内外で、ほぼ垂直さみに立ちあがる。床は平坦であるが土壌によって切られている部分が多い。炉跡もSK1671によって切られ、わずかに残存する。柱穴は17か所ほどみられ、西は壁沿いであるが、北東はやや中央寄りにあり、南東はやや外にはりだしている。
- d 覆土は自然堆積の状況を示し、遺物はほとんどみられない。



SI 097-108



SI 098



第45图 第97·108·98号住居跡実測图

第99号住居跡

- a 調査区の北西部 (A2j7) に位置している。
- b 外形は不明である。
- c 土壌の重複が激しい地区で、わずかに炉跡の焼土が検出された。そのほかほとんど不明である。

第100号住居跡 (第46図)

- a 調査区の北西部 (B2b5・b6) に位置し、SI082・101 と重複している。
- b 推定6.0×5.5m 平面形は柱穴の配列より楕円形と考えられる。
- c 壁は南壁の一部が残存しているが明確でない。床は平坦で、中央部付近に円形の炉跡が位置し、南西1.7mにSI082の炉跡がみられる。柱穴は8～11か所ほど検出されている。
- d 覆土および遺物はほとんど確認されていない。

第101号住居跡 (第46図) 遺物 (第246・247図)

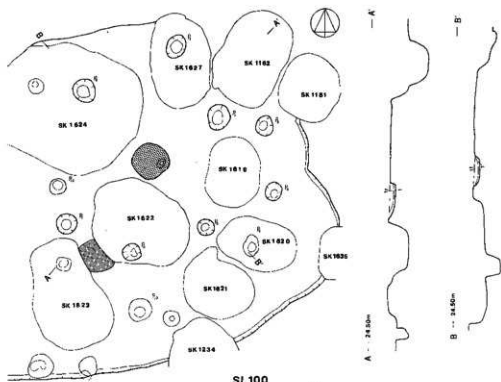
- a 調査区の北西部 (B2b4・c5) に位置し、SI082・100 と重複している。
- b 推定5.9×5.1m 平面形は楕円形状を呈している。
- c 壁高は10cm内外で、ほぼ垂直さみに立ちあがるが、東壁部は重複のため確認できない。床は平坦で、中央部に炉跡が位置し、その周囲にSI082の柱穴がみられる。炉跡は擾乱をうけていないが、SI082より古い時期のものと考えられる。柱穴は10～13か所検出されている。
- d 覆土は暗褐色土が一層認められ、遺物は覆土中から少量出土している。

第102号住居跡 (第47図) 遺物 (第248・249図)

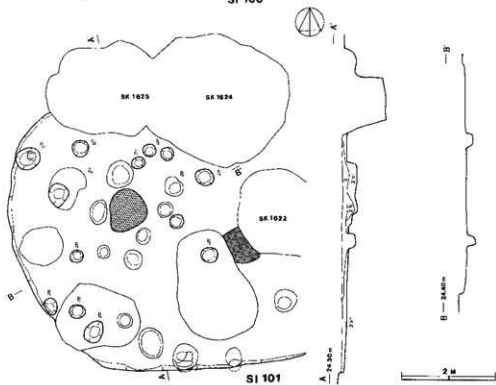
- a 調査区の西部 (C2c7・c7) に位置し、SI119・127 と重複している。
- b 5.4×4.8m 平面形は隅丸方形を呈し、長軸方向はN-49°-Wをさす。
- c 壁は第2層を12～18cm掘り込んで構築されている。床は平坦で、中央やや南寄りに炉跡が位置している。柱穴は20か所ほど確認され、P₁～P₁₁は壁沿いに廻り、P₁₂～P₂₀は炉跡を囲むようにその内側にみられる。
- d 覆土は自然堆積の状況を示し、遺物はほとんど覆土中より出土している。

第103号住居跡 (第48図) 遺物 (第250図)

- a 調査区の北西部 (B2a7・a8) に位置している。
- b 4.93×4.6m 平面形は円形を呈している。

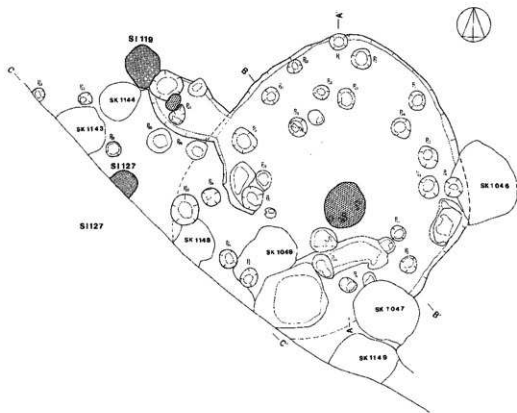


SI 100



SI 101

第46图 第100・101号住居跡実測图



S1 102·127

第47图 第102·127号住居跡実測图

- c 壁高は22cmで、ほぼ垂直ぎみに立ちあがる。床は平坦で、中央部付近に炉跡がみられるが、SK1183によって一部が切られている。柱穴はP₁~P₁₀が壁沿いに廻り、P₁₁~P₁₃は炉跡を囲むように検出されている。
- d 覆土は自然堆積の状況を示し、遺物は少量出土している。

第104号住居跡（第48図） 遺物（第250図）

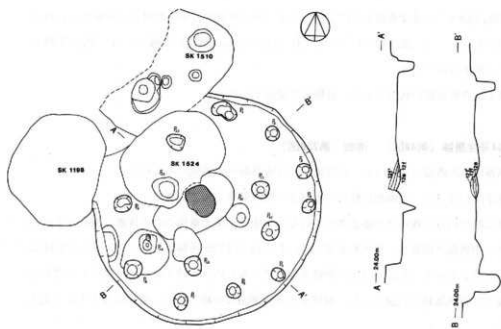
- a 調査区の北西部（A2h7・18）に位置し、住居跡群の密集地にみられる。
- b 推定5.1×5.1m 平面形は柱穴の配列より楕円形状と考えられる。
- c 壁は掘り込みが残いため確認されていない。床は土壌の重複のため複雑に攪乱をうけている。炉跡は中央部に位置し、楕円形を呈している。柱穴は13か所検出され、P₁₀~P₁₃は主柱穴的なものと考えられる。P₉はSI110の炉跡を切っているため、本跡が新しい時期のものである。
- d 覆土は自然堆積の状況を示し、層位から重複関係は明瞭でない。遺物は覆土中より出土している。

第105号住居跡（第49図） 遺物（第251図）

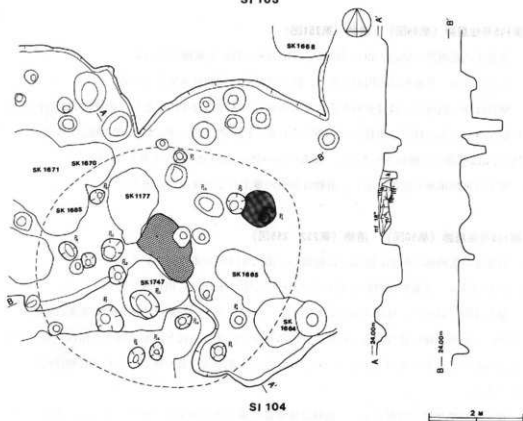
- a 調査区の北西部（A2g8・h9）に位置し、SI096・110と重複している。
- b 5.2×4.7m 平面形は楕円形を呈し、柱穴の配列は柄鏡状を呈している。
- c 壁高は16~24cmで、ほぼ垂直ぎみに立ちあがる。床はほぼ平坦をなし、中央部付近に円形の炉跡がみられる。柱穴は重複のため多くみられ、P₁~P₃・P₁₇~P₁₉は入口部の施設と考えられ、P₃~P₆は壁沿いに検出されている。東部のP₂₁~P₂₃はSI096の柱穴と考えられる。
- d 覆土は自然堆積の状況を示し、遺物は南東の覆土および床面から出土している。

第106号住居跡（第50図） 遺物（第252~255図）

- a 調査区の北西部（A2j5、B2a5）に位置し、南にSI107が重複している。
- b 5.5×4.6m 平面形は円形を呈するが、柱穴などの配列から柄鏡状と考えられる。
- c 壁高は37~41cmで、外反ぎみに立ちあがる。床は平坦で、炉跡は中央のやや南東に位置し、北側に2か所の深い柱穴がみられる。柱穴は壁沿いに30か所ほど円形に廻り、南西のものは中心に向かってゆるい傾斜を示している。SI107の一部を入口部の施設とすれば長軸は8.2mほどである。
- d 覆土は自然堆積の状況を示し、遺物は中央部の覆土中に集中して出土している。また、北側のP₁₃とP₁₄の間には土器（第255図）が埋設され、その上にも土器（第252~254図）が出土している。

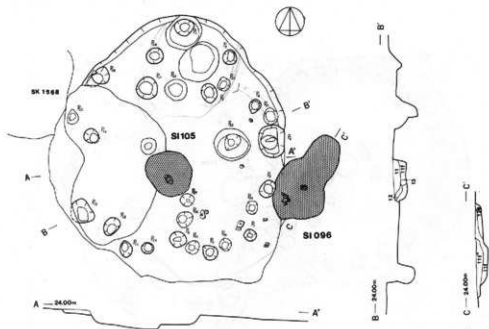


SI 103

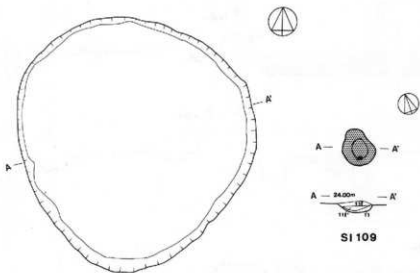


SI 104

第48图 第103・104号住居跡実測図



SI 096-105



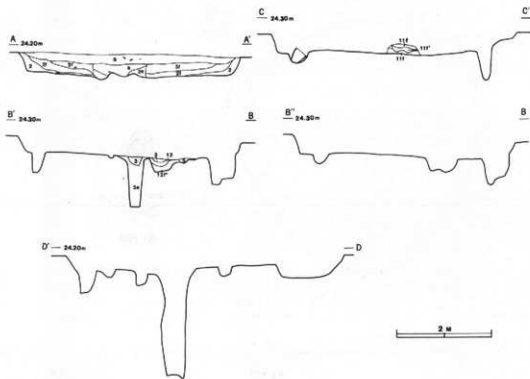
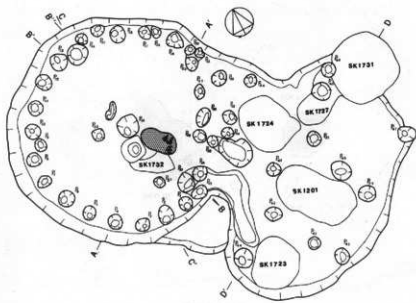
SI 109



SI 111



第49图 第96·105·109·111号住居跡実測图



第 106 · 107 号住居跡実測図

第107号住居跡（第50図） 遺物（第255・256図）

- a 調査区の北西部（B2a5・a6）に位置し、SI106の南に重複している。
- b 5.2×3.3m 平面形は隅丸長方形を呈し、中央部に深さ2.4mほどのSK1201がみられる。
- c 壁高は30cm内外で、外反ぎみに立ちあがる。床は平坦で、北にSI106から続く溝状の掘り込みが壁沿いに1.7mほどみられる。柱穴は11か所ほどみられ、P₃₇～P₄₁は入口部の施設かと考えられ、SI106の入口部に続く様相を呈し、SI106に付属する施設とも考えられる。
- d 覆土はSI106とはほぼ同一のものであり、遺物は覆土中から出土している。

第108号住居跡（第45図） 遺物（第257図）

- a 調査区の北西部（A2i6）に位置し、SI097・098と重複している。
- b 推定5.6×5.2m 平面形は楕円形と考えられる。
- c 壁高は10～14cmで、ほぼ垂直ぎみに立ちあがる。床は平坦で、中央部付近に炉跡が位置し、その北西に少量の貝が投棄されたSK1721がみられる。柱穴はP₁₀～P₂₀が円形状に確認されている。P₂₄はSI097の炉跡下にみられることから、SI097より古い時期のものと考えられる。
- d 覆土は自然地積の状況を示し、遺物は炉跡内から少量出土している。

第109号住居跡

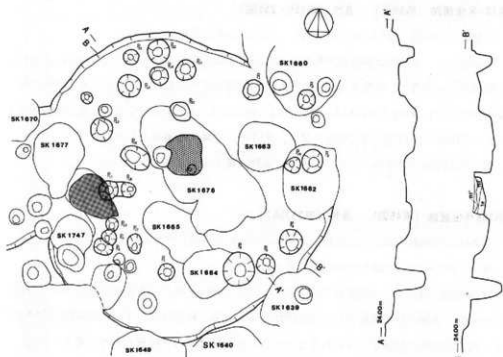
- a 調査区の北西部（A2i7）に位置し、SI104と重複している。
- b SI104の南西部に炉跡がみられるだけで平面形は不明であるが、時期はSI104より古い。
- c 住居跡と土壌の重複によって大部分が破壊され、炉跡以外は確認されていない。

第110号住居跡（第51図）

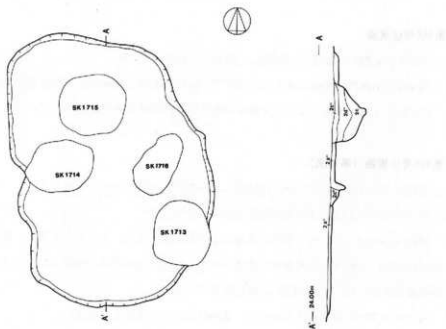
- a 調査区の北西部（A2h7・h8）に位置し、南西にSI104・109と重複する。
- b 6.1×5.4m 平面形は隅丸長方形を呈している。
- c 壁高は15cmほどで、西・南壁は重複により不明瞭である。床はほぼ平坦で、炉跡は中央部付近に位置し、SK1676の調査中に確認された。柱穴は22か所ほど確認されているが、重複のため複雑である。P₁～P₈は壁沿いに確認されている。
- d 覆土はわずかに暗褐色土がみられ、遺物はほとんど出土していない。

第111～116号住居跡（第48・51・52図）

- a これらの遺構は、環状微高帯部東のB5区にやや離れて位置している。SI111（B5a7・b7）、SI112・113（B5e9・f9）、SI114（B5c7）、SI115（B5h7・i7）、SI116（B5h9）のうちSI



SI 110



SI 114

第51图 第110·114号住居跡実測図

111・114・115 はほぼ南北線上にみられ、SI113・116 も同様でありSI112・113 は重複している。

- b 平面形は不定楕円形あるいは不定長方形を呈し、いずれも5～6m内外の大きさを有している。
- c 壁はいずれも外反ぎみに立ちあがり、床は平坦であるが軟弱である。炉跡・柱穴はいずれからも確認されていない。
- d 覆土はそれぞれ自然堆積の状況を示しているが、ロームブロックを多く含む軟質の土層である。遺物はほとんど検出されず、また、周辺部から遺物の出土はほとんどみられない。これらは住居跡として調査を進めたが、調査結果から住居遺構ではなく、比較的新しいものと考えられる。縄文時代の住居跡は、県道東部地区まではのびていない。

第117号住居跡 遺物 (第257図)

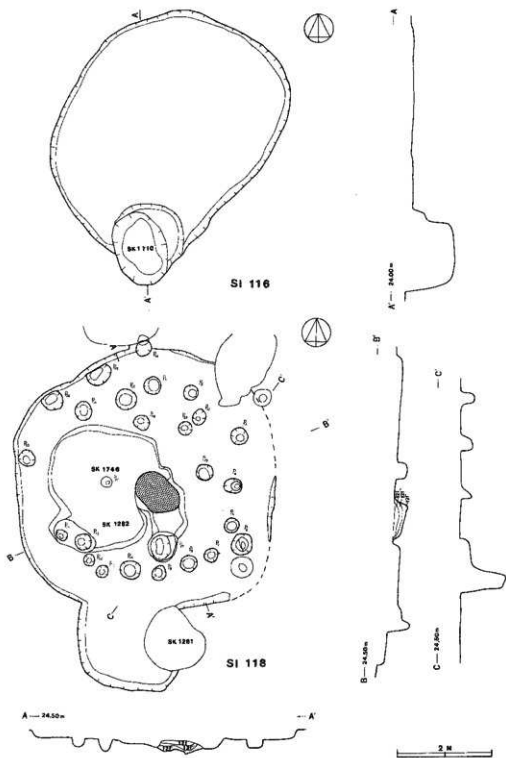
- a 調査区の北西部 (A2i8) に炉跡が検出されている。
- b 平面形は不明であり、炉跡のほか攪乱のため破壊されているものと考えられる。
- c 壁・柱穴などの施設については攪乱のため不明である。
- d 覆土はほとんど確認されず、遺物は少量出土している。

第118号住居跡 (第52図)

- a 調査区の北西部 (B2e5・e6) に位置し、SI080・081 と重複している。
- b 5.4×5.34m 平面形は隅丸方形を呈している。
- c 壁高は14～24cmで、ほぼ垂直ぎみに立ちあがる。床は平坦で、炉跡は中央部に位置し、SK1283と重複している。柱穴は26か所ほど確認され、P₁～P₁₇は炉跡を中心にほぼ四角形に配され、さらにP₁₈～P₂₆も炉跡を囲むように検出されている。
- d 覆土は自然堆積の状況を示し、遺物はほとんど出土していない。西部には小貝塚が散在している。

第119号住居跡 (第53図)

- a 調査区の西部 (C2c6) に位置し、SI102・120・127と重複している。
- b 推定4.8×4.5m 平面形は重複が激しいか楕円形状を呈するものと考えられる。
- c 壁はほとんど確認することができない。床はほぼ平坦で、中央部付近に炉跡がみられるが、攪乱をうけている。柱穴は21か所ほど確認され、P₈～P₁₂は入口部と考えられる。
- d 覆土は自然堆積の状況を示しているが、遺物はほとんど出土していない。



第52图 第116·118号住居跡実測图

第120号住居跡（第53図） 遺物（第255・250図）

- a 調査区の西部（C2b6・c6）に位置し、南にSI119が重複している。
- b 重複により外形は不明であるが、柱穴の配列より隅丸長方形を呈している。
- c 壁高は10cm内外で、ほぼ垂直ぎみに立ちあがる。床は平坦で、中央部付近に炉跡がみられる。柱穴は14か所ほど確認されているが、南西部は土壌によって切られている。
- d 覆土は自然堆積の状況を示し、SI119との切り合い関係は不明である。遺物は北西コーナーおよび炉跡周辺に少量出土している。

第121号住居跡（第54図）

- a 調査区の西部（C2a5・a6）に位置し、SI122・123と重複している。
- b 外形は不明であるが、楕円形状を呈するものと考えられる。
- c 壁は不明瞭で東壁部は第2号方形周溝墓によって切られている。床は平坦で、炉跡は中央部に位置していると考えられる。確認されている柱穴は11か所ほどである。
- d 覆土は自然堆積の状況を示し、遺物はほとんど出土していない。

第122号住居跡（第54図）

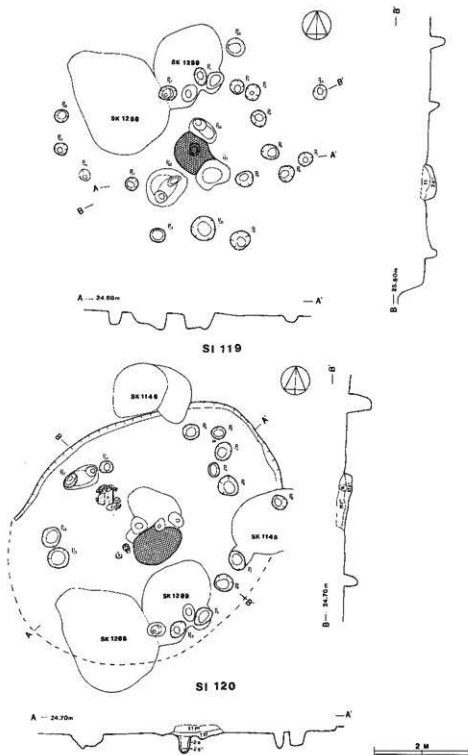
- a 調査区の西部（B2j5・j6）に位置し、SI121・第4号方形周溝墓などと重複している。
- b 外形は不明であるが、楕円形状を呈するものと考えられる。
- c 壁はほとんど確認されず、床は平坦であるが北側部は検出されていない。炉跡は方形を呈し、内部から土器が出土している。柱穴はP₁₂～P₁₆が確認されている。
- d 覆土は薄い暗褐色土の堆積がみられ、遺物は炉跡周辺から少量出土している。

第123号住居跡（第54図） 遺物（第255・250図）

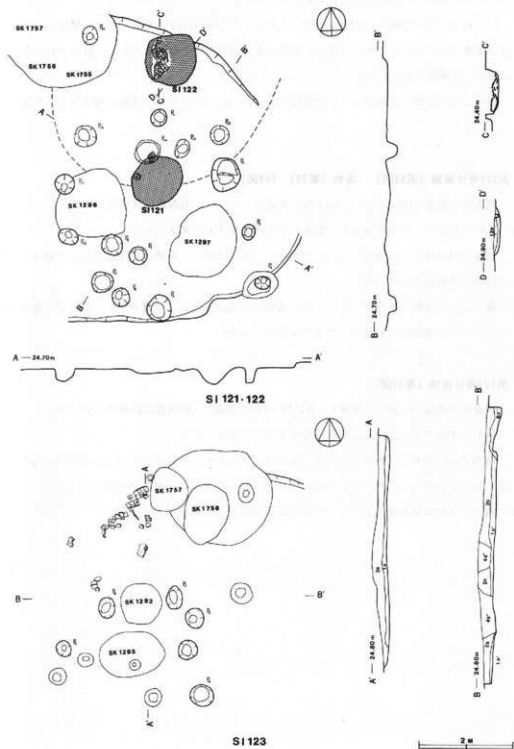
- a 調査区の西部（C2a5）に位置し、SI121・122と重複している。
- b 外形は不明であるが、楕円形を呈するものと考えられる。
- c 壁はほとんど不明であるが、床は平坦で、炉跡の焼土が少量検出されている。柱穴は重複が激しいため不明である。
- d 覆土は少量の貝を混入する黒褐色土がわずかにみられ、遺物は覆土中から出土している。これらは貝とともに投棄されたものであろう。

第125号住居跡（第55図） 遺物（第260図）

- a 調査区の北西部（B2a3・b3）に位置している。



第53图 第119・120号住居跡実測図



第54图 第121·122·123号住居跡実測図

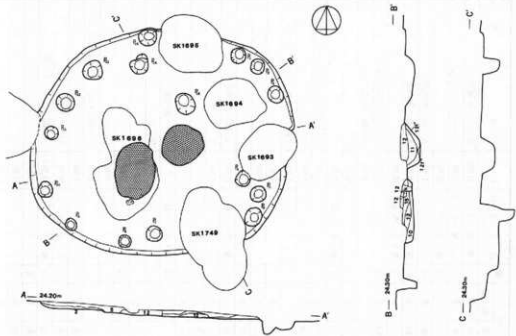
- b 5.35×4.76m 平面形は隅丸長方形を呈している。
- c はじめ2か所の炉跡からSI124・125としたが、その後SI124は欠番とした。壁は10～13cmで、ほぼ垂直に立ちあがる。床は平坦で、炉跡は中央部付近に2か所みられる。柱穴は16か所では壁沿いに確認されている。
- d 覆土は自然堆積の状況を示し、住居間の切り合いはみられない。遺物は覆土中より少量出土している。

第126号住居跡（第55図） 遺物（第255・260図）

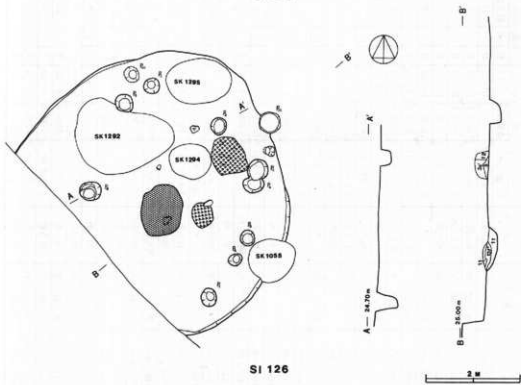
- a 調査区の西部（B2a4・b5）にSI123と重複してみられ、南西部は区域外へのびる。
- b 5.8×(4.2)m 平面形は隅丸方形あるいは隅丸長方形が考えられる。
- c 壁高は14cmほどで、外反ぎみに立ちあがる。床は平坦で、炉跡は中央部付近に位置する。柱穴は8か所確認されている。
- d 覆土は自然堆積の状況を示している。遺物は北側の床面および覆土中に土器・貝・獣骨等がみられ、住居廃絶後に投棄されたものと考えられる。

第127号住居跡（第47図）

- a 調査区の西部（C2d6）に位置し、SI119・102と重複して南西部は区域外へのびる。
- b 外形は不明であるが、楕円形状を呈するものと考えられる。
- c 壁高は20cm内外で、外反ぎみに立ちあがる。床は約5%ほど調査されたがほぼ平坦をなし、炉跡も5%ほど調査した。柱穴は6か所ほど検出され、残り5%は区域外の道路下にのびる。
- d 覆土は自然堆積の状況を示しているが、遺物はほとんど出土していない。



SI 125



SI 126

第55图 第125・126号住居跡実測图

住居跡一覽表

住居番号	地	区	長軸方向	平面形状	平面 (m)	縦面積 (㎡)	壁高 (cm)	各部の状況	瓦葺	出土遺物	時期	備考
001	B512・12			(楕円形)	(2.05)×4.36		16-27	II 1	N	覆土中に多	II期か	東半が区域外
002	B488・e9		N-37-W	(楕円形)	5.98×5.6	約33.5	10-16	II 1	N	覆土中に多	II期か	S1004に切られる。
003	B4e8・e9		N-68-E	隅丸方形	4.79×4.54	約21	10-15	II 1	N	覆土中に多	II期か	
004A	B488・b9		(N-9-W)	隅円形	5.52×5.07	約25	11-22	II 1	N	〃	不明	入口部(南西部)
004B	B488・e9		N-23-E	〃	6.2×6.17	約35	16-26	II 1	N	覆土中に少量	II期	
005	B4e7・e7		N-0*	長方形	4.87×4.48	約21	5-16	I 5	N	〃	II期	
006	B4e6・h7		N-49-W	隅丸方形	5.14×4.77	約24.5	14-24	I 1	N	〃	II期か	Tピットに切られる。
007	B522		不明	不明		△10		2-3			不明	住居跡ではないか。
008	B410・f0		(N-52-E)	(楕円形)	(5.3×5.2)	(約20)		1			II期	
009	B4e6・f6		N-11.5-W	長方形	4.13×3.55	約14.6	10-20	II 1	N	覆土中に少量	不明	
010	B488・h9			(楕円形)	(5.3×5.0)	(約25)		1			不明	貝が密集されている。
011	B417・i8		(N-12-W)	(〃)	(6.2×6.0)	(約35)		1			不明	
012	B4e5・c6			(〃)	5.6×(3.4)			1 (8-9)			不明	北西が区域外。
013	B444・e4			(〃)	(6.0×5.0)	(約22)		1			II期	
014	B4e6		不明	不明	(3.2×3.0)			1			不明	
015	B4e3・e4			(楕円形)	(5.5×4.8)	(約25)		9			不明	
016	B4e5・d6		N-57-E	隅丸方形	5.2×4.33	約22.5	6-10	I 1	N	覆土中に少量	II期か	人口部(北東部)
017	B445		不明	不明							不明	炉のみ
018	B4e6・c6		(N-67-E)	(楕円形)	(5.6×5.1)			1			〃	
019	B4e6・c6		(〃)	(〃)	(4.5×4.3)			7-9			〃	
020	B4e7・d8		(N-61-W)	長方形	4.8×4.25	約20	8-15	.1	24		〃	貝が少量密集されている。
021	B4e4・e4			(楕円形)							〃	炉のみ
022	B4e3・e4		(N-50-E)	(隅丸方形)	(6.0×5.3)	(約30)		1			〃	
023	B418・i9		(N-42-E)	(楕円形)	(5.4×5.0)	(約26)		1			II期	
024	B4e6		不明	不明							不明	炉のみ
025	B4e7・e7		(N-42-E)	(楕円形)	(4.8×4.6)	(約18)		1			I期	S1005より新しくS1020より古い。
026	B414・i5		不明	不明				1			不明	
029	B4f0・B511		(N-28-E)	(楕円形)	5.6×5.1	約27	16-30	II 1	N	覆土中に多	II期	SM1の貝層が密集。
030	C5E1・f2		N-31-E	方形	4.0×3.7	約14.8	16-22	II 1	N	覆土中に多	I期か	入口部(南コーナー一部)
031	C4e4・c5		N-50-E	長方形	4.5×3.89	約17.5	8-12	I 1	N	〃	I期	
032A	B4f5・C4e6		N-30-E	(方形)	(6.0×6.0)	(約36)	10-14	I 1	N	〃	II期	
032B	B4f6・i7		N-30-E	長方形	(5.8×5.2)	(約30)	15-25	I (1)	N	〃	II期	S1022より新しい。

地原番号	地	区	長	方	寸	平	形	積	高	各	部	の	状	況	位	置	地	積	積	土	積	出	上	遺	物	時	路	備	考								
033	C409-a8		N-43°-E		長方形	5.12×3.86	(約19.7)	20-26	I 1	24	中央	中	N									I期															
034	C408-c8		N-35°-W		不定形	(約96)	10-26	II 1	37	南	多	N										覆土中に少量						人口配(南西部)									
035	C402-d3		N-12°-W		隅丸方形	3.0×5.04	約25	5	II 1	24	中央	多	N																								
036	C444-e1		N-18°-E		(隅丸長方形)	(5.3×5.1)	(約29)	5	II 1	12		多	N																								
037	C4-c2-f3		N-9°-W		(楕円形)	(6.8×6.45)	(約40)	8-16	I 1	(35)			N																								
038A	C414-f5		N-70°-E		()	(4.8×4.5)	20	II 1	(7)		中央	少	N																								
038E			N-59°-E		()	(5.0×4.8)	20	II 1	12		中央	少	N																								
039	C464-d1				(隅丸方形)	(5.4×5.1)	約25	20	II 1	(10)		中央	少	N																							
040	C443-d4				(楕円形)	(5.4×5.0)	20	I 1	7		中央	少	N																								
041	C38-b9		N-9°-W		長方形	5.73×5.6	約32	1	14			中央	少	N																							
042	C400-c3a1		N-34°-E		不定長方形	4.5×4.35	(約18)	1	(11-12)		中央	少	N																								
043	D368-c9		N-12°-E		(長方形)	5.3×5.9	約25	25	I (1)	21		中央	少	N																							
044	D369-c9		N-25°-W		長方形	(4.4)×(4.15)	乙	14-18	I 1	11			N																								
045	D366				不明																																
046	D365-b5		N-67°-W		方形	1.8×1.35	約21	16-20	I 1	16		中央	中	N																							
047	D368-b8		N-86°-W		隅丸長方形	4.8×4.2	約19	20-26	I 1	7		中央	多	N																							
048	C447-d8		(N 57°-E)		(楕円形)	(5.4×4.5)	(約20)																														
049	C310-g3		N-46°-E		楕円形	6.5×5.27	(約23)	10-14	I 1	14		中央	多	N																							
050	C440-b0		(N 9°-E)		(楕円形)	(5.0×4.6)	(約25)																														
051	B419-c4a9		N-26°-E		楕円形	(5.5×5.0)	(約20)																														
052	C448-b6		(N 10°-E)		長方形	(5.0×4.5)	(約19)																														
053	C447-a8		N-81°-W		隅丸長方形	(5.0×4.8)	(約24)																														
054	C427-b7		(N 9°-E)		(楕円形)	5.0×4.5	(約19)																														
055	C447-b7				()																																
056	D367-a8		N-41°-W		(隅丸長方形)	4.9×4.8	約23	12-20	I 1	23		中央	少	N																							
057	C467-a8		(N 9°-W)		()	(5.0×4.6)	(約22)	10-12	I 1	8		中央	少	N																							
058	C445-c9				不明																																
059	C447-e7		(N-22°-E)		(隅丸長方形)	(5.3×4.6)	(約24)																														
060A	C348-b9		N-29°-E		楕円形	(4.5×4.0)		15-28	I 1	11-14		中央	中	N																							
060B			N-70°-W		()																																
061	C313-D3a3				(隅丸長方形)	(5.2×5.2)	(約25)	30-33	I 1	10																											
062	C441-f2		(N-26°-W)		(楕円形)	(5.4×4.8)	(約24)																														

住所番号	地 区	長 軸 方 向	平 面 形 状	規 模		建 高 (m)	各部の状況		位 置	敷 地 面 積	覆 土	出 土 流 物	特 殊	備 考
				平 面 (m)	棟 高 (m)		壁 圧 柱 本 数	土 量						
063	C368・19	N-61°-W	(楕円形)	(5.3×5.0)	約26	24	II 1	10	中央	N	覆土中に少量	旧跡か		
064	C369・18	(N-54°-E)	楕円形	5.9×5.8	約33	24	I 1	12	中央	N	#	不明		
065	C365・15	(N-41°-W)	隅丸方形	5.74×4.5		5	I 1	10	中央	N	#	不明	北西部はS1065に切られている。	
066	C464・g5	N-60°-E	隅丸方形	4.73×4.3	約20	10~15	I 1	10	中央	N	#	旧跡か		
067	C462・g3	N 47° E	楕円形	5.2×4.5	約23	10~16	II 1	8~10	中央	N	#	不明		
068A	C340	N-55°-E	(円形)	5.2×5.2	(約25)		II 1		中央	N		旧跡		
068B	C411・C310	N-55°-E	(円形)	5.1×4.7	(約23)		II 1		中央	N		旧跡		
069	C457・e7	(=)	(=)	(5.0×4.6)	(約20)		II 1	10	中央	N		旧跡		
070	C382	(=)	(=)	(4.3×4.3)	(約18)		I 1	15	中央	N		不明		
071	C341・d2	(N-40°-W)	(=)	(3.5×5.0)	(約28)		I 1	10	中央	N		不明		
072	C366・h7	(N-10°-W)	隅丸方形	5.7×5.65	約32	20	II 1	19	中央	N		不明		
073	C461・11	(N-64°-E)	楕円形	6.6×5.1	約30	10	II 1	8	中央	N	覆土中に少量	旧跡か		
074	C346・g7	(=)	(楕円形)	(=)				9	中央	N		不明		
075	B410・B510	(=)	(=)	(=)				10	中央	N		不明		
076	C269・e9	N-50°-W	隅丸長方形	5.5×4.53	約24	30	II 1	20	中央	N	覆土中に少量	旧跡か		
077	C360・C461	N-80°-W	(=)	(6.2×5.2)	(約30)	10~16	I 1	12	中央西	N	#	旧跡		
078	C314・j5	(N-10°-W)	(楕円形)	(5.8×5.3)	(約22)		I 1	15~17	中央東	N		旧跡	入口部(南西部)	
079	C313・14	(N-95°-W)	(楕円形)	(5.2×4.4)	(約18)	20	II 1	15	中央	N	覆土中に少量	旧跡か		
080	B266・f6	N-3°-E	隅丸方形	5.2×4.96	約25	14~28	II 1	13	中央東	N	覆土中に多量	旧跡		
081	B245・d6	N-59°-E	楕円形	6.47×5.42	(約27)	12~24	II 1	11	中央	N	覆土中に少量	旧跡か		
082	B265・h5	(N-55°-E)	(楕円形)	(5.3×4.7)	(約24)		I 1	12	中央	N	#	旧跡か		
083	B257・e7	N-26°-E	隅丸方形	5.6×5.5	約30	17~20	II 3	17	中央	N	#	I期		
084	A313・13	N-66°-E	隅丸長方形	5.65×4.9	約27	12~18	I 1	10	中央	N	#	I期		
086	C270・g0	N 36° E	(=)	5.58×5.5	約30	14~22	I 1	12	中央	N		旧跡か	東部は川域外	
087	B345・a6	(=)	(=)	(=)			III 1	4				不明	#	
088	#		楕円形				III 1	4~5				不明	#	
089	A311・j1	N-41°-E	(楕円形)	5.3×5.4	約22	5	I 1	17	中央	N		不明	#	
090	A363	(楕円形)	(4.2)×5		16		I 1	8~10	中央	N		旧跡か	北東部は川域外	
091	A362・g3	N 37°-W	隅丸長方形	5.82×5.2	(約30)	15	II 1	23	中央	N		#		
092	A361・f1	不 明	円形	5.2×4.8	(約23)	28		13	中央	N	遺物の覆土中に少量	旧跡か		
093	A249	不 明	(=)	(=)								不明	[室内に埋設土器]	
094	A210・e0		隅丸方形	5.2×5.0	約28	18~24	I 1	19	中央	N	覆土中に多量	I期か	伊のみ	


生跡番号	地 区	区 長	方 向	平 面 形	平 面	面 積 (m^2)	壁 高 (m)	各 部 分 の 状 況	位 置	積 土 層	積 土	遺 物	時 期	備 考
095	A258			不明									不明	初のみ
096	A260・69			#									不明	初のみ
097	A256			(楕円形)					9				不明	
098	A265			隅丸方形	5.2×5.0	4925	10	1	17	中央	少		不明	初のみ
099	A277			不明									#	
100	B263・66			(楕円形)	(6.0×5.5)	(約30)							#	
101	B264・65			隅丸方形	5.9×5.1	4929	10	1	10~13	中央	少	N	遺跡中に少量	
102	C2c7・a7			#	5.4×4.8	4925	12~18	1	20	中央偏	少	N	不明	
103	B2a7・a8			円形	4.99×4.6	4917	22	1	15	中央	中	N	#	
104	A267・18			(楕円形)	(5.1×5.1)	(約25)							#	
105	A268・19			楕円形	5.02×4.7	(約21)	16~24	1	20	中央	多	N	遺跡の北・東・中	楕円形) 入口部(北東)
106	A25・B2a5			円形	5.5×4.6	(約19)	37~41	1	36	中央	多	N	遺跡の北・東・中	楕円形) 入口部(北東)
107	B2a5・a6			(N-56°-E)	5.2×3.3	4915	30	II	11		多	N	不明	
108	A256			(楕円形)	5.6×5.2	(約21)	10~14	1	20	中央	多		不明	
109	A277			不明									不明	
110	A267・b8			(N-6°-E)	隅丸方形	6.1×5.4	4922	15	II	22	中央	多	不明	初のみ
111	B5a7・b7			N 32°-W	#	4924	30	I	1		多	N	#	
112	B5c9			N-15°-W	隅丸長方形	4.6×3.6	4916	6~10	II	1		N	#	
113	B5a9・f9			N-6°-E	#	4935	11	II	1			N	#	
114	B5c7			N-0°	不定長方形	約22	7	II	1			N	#	
115	B5a7・17			N-30°-E	隅丸長方形	5.08×4.12	4921	10	1			N	#	
116	B5b9			N-42°-E	#	4922	12~15	1	1				不明	
117	A258			不明									#	
118	B2a5・e6			隅丸方形	5.4×5.34	4928	14~21	1	26	中央	多	N	#	初のみ
119	C2c6			(楕円形)	(4.8×4.5)	(約21)							#	
120	C2a5・e6			(隅丸長方形)			10	I	14	中央		N	地面に少量	
121	C2a5・a6			N 61°-E	(#)								不明	
122	B25・j6			(#)									#	
123	C2a4・a5			(#)									#	初のみ
125	B2a3・b3			隅丸長方形	5.35×4.76	4924	10~13	I	16		少	N	不明	上面に貝が散在
126	B2a4・b6			隅丸方形	5.8×(4.2)	(約24)	14	II	8	中央	多	N	遺跡中に少量	南西は区域外
127	C3a6			(楕円形)			20	II	6	(中央)	多	N	不明	南西は区域外

2. 土 壙

当遺跡の発掘調査によって検出された土壙は、調査区域のほぼ全面にわたって確認され、その数は1760基にのぼるが、すべてが縄文期にあたるものではない。なお、調査中に2基存在すると思われた土壙が1基に統合されたもの、あるいは消滅したもの、重複により本来の形状をかなり失っているもの等が多くみられる。その後整理の段階に、消滅したものは欠番とし、重複するものを個々に分け、埋設土器・地点只塚等を含めた数は1877基となる。

以上のようにかなりの数にのぼる土壙群はまた様々な形態をもって存在し、これらを逐一詳細にわたって検討を加えることは困難であり、従って、次の様な観点に立って一覧表記述・実測図作成にあたった。なお、観点は住居跡・竪表も同じである。

- ・位置の表示はグリッド名をもって示した。
- ・主軸方向は、長軸方向をもって示し、円形あるいは円形に近い楕円形は記述しない。
- ・規模は、前の数字を長径、後を短径としmで、壁高はそれぞれcmで記した。
- ・各部の状況は、壁はローマ数字でI～Vと記号化し、床もアラビア数字で表した。

壁	{	I	壁は床より垂直（垂直どみ）に立ちあがる。	{	1	床は平坦である。
		II	壁は床より外反（外反どみ）に立ちあがる。		2	床は皿状（鉢鉢）である。
		III	壁は床よりゆるやか（なだらか）に立ちあがる。		3	床は凹凸状である。
		IV	壁は床から袋状に立ちあがる。		3'	床は凹凸が激しい。
		V	壁は床よりV字状（U字状）に立ちあがる。（床の状況が硬い(→)軟弱(←)を記す）			
- ・覆土は、自然堆積(natural accumulation)・N 人為堆積(artificial accumulation) A と記した。
- ・形態分類 平面形などで分け、規模で細分した。
 - A 平面形が楕円形、円形で、壁は外反あるいはゆるやかに立ちあがるもの。
 - B 平面形が楕円形・円形で、壁は垂直に立ちあがるもの。
 - C 平面形が円形+長方形形状、断面がであり、新旧がわかるものは別に分類する。
 - D 平面形が（隅丸）長方形・方形である。
 - E 平面形が不定形であるもの。
 - F 平面形が楕円形・円形で深いピット状のもの。
 - G 平面形が長楕円形、断面がV字状をなすもの。
 - H 平面形が楕円形・円形、断面が袋状をなすもの。
 - I 只 塚
 - J 埋設土器

2. 形態不明。

さらに平面規模でⅠ～Ⅲに分け、壁高でa・bに分ける。

- | | | | |
|---|--------------------|---|-----------------|
| { | Ⅰ 平面規模が1～2 m以内のもの。 | { | a 壁高が50cm以下のもの。 |
| | Ⅱ 平面規模が1 m以内のもの。 | | b 壁高が50cm上のもの。 |
| | Ⅲ 平面規模が2 m以上のもの。 | | |

(例えはAⅠa・平面形が精円形で規模が1.5×1.2 m, 壁高は39cmなどの場合)

- ・平面形で重複により形状が不明なものについては推定で記し()を付加する。規模・覆土等についても同様である。
- ・重複し新旧関係が明確に把握されるものはA・B・Cに分け、BがAより新しい。
- ・貝塚・埋設土器については別欄をもうけて掲載した。
- ・時期が判定できる遺物を伴出する土壌について時期を記したが、遺物が少量、少片で時期を決定するに至らないものについては時期欄に△をもって記すことにした。
- ・実測図については、形態ごとに分類して掲載した。
- ・遺物については、第3章の遺物で、貝塚については、第4章の自然遺物のところで後述する。

形態一覧表

	A			B			C			D			E			F	G	H	I	J	K	
	遺物数	U数	小計	遺物数	貝塚	小計	遺物数	貝塚	小計	遺物数	貝塚	小計	遺物数	貝塚	小計							
I a	548	5	251	30	1	31	8		8	332	11	343	236	9	245							
I b	25	1	37	81	6	86	27	1	28	80	6	86	28		28							
小計	569	6	288	111	7	118	35	1	36	412	17	429	264	9	273	2		17	25		1259	
Ⅱ a	169	1	170	18		18				47	6	53	23	15	38							
Ⅱ b	4		4	19	3	22				7		7	3		3							
小計	173	1	174	37	3	40				54	6	60	26	15	41						315	
Ⅲ a	28		28	2	1	3	2		2	66	2	68	80	6	86							
Ⅲ b	1		1	5		5		1	2	22	1	23	18		18						8	
小計	29		29	7	1	8	2	1	4	88	3	91	98	6	104						56	
合計	586	6	591	158	11	169	38	2	40	524	28	552	367	20	387	2		8	13	25	30	1877

土 壤 一 覧

通称番号	測 区	土 種	形 態	平 面 形	規 模		各部の状況	層 別	時 期	備 考	調査年度	
					幅 (m)	長さ(m)						
S K 001	U5e1		H 1 b	四 角	1.4×1.3	05-06	層 1	1	N	調査地より一部が少量みられる。	Fig175 PL223	
S K 002	D5d1		A II a	四 角	0.16×0.65	15-17	層 3	1	A		Fig176 PL224	
S K 003	B3d1, b2		D 1 a	四 角	1.35×1.21	4-6	層 1	1	N			
S K 004	R3c2	N 51° W	A 1 b	楕 円 形	1.91×0.73	36	層 1	1	N			
S K 005	D3d2, c3	N 52° E	A 1 a	長 楕 円 形	1.57×0.82	17-28	層 1	1	N		Fig16	
S K 006	U5e2		J	四 角	0.45×0.4	32	層 1	2	N △	SK010内にみられる。	Fig189	
S K 009	B5e2	N 3° W	A 1 c	楕 円 形	1.33×0.85	32	層 3	1	N	ビットは本動より新しい。	Fig190 PL225	
S K 010A	B6d3, e2		F II a	不 定 形	(1.0)×(2.0)	35	層 1	1	N Ⅱ期		Fig189 PL226	
B	*		F II b	楕 円 形	3.8×3.6	106	層 2	1	N Ⅱ期		Fig190 PL226	
S K 011	U5e2	N 85° E	A 1 a	*	1.12×1.25	18	層 1	1	N		PL227	
S K 012	B6e2, d2	N 82° E	A 1 a	長 方 形 状	(1.0)×(1.2)	36	層 1	1	A	比較物らしい時期のものか。		
S K 013	A4d0		E 1 b	楕 円 形	1.08×(0.83)	56-74	層 3	1	A	*		
S K 014A	A5j1, B5j1	N 52° E	B II a	不 定 形	2.6×2.2	15	層 1	1	B		Fig147	
B	*	N 64° E	D 1 a	不 定 形 状	1.52×1.05	30	層 3	2	A		Fig147	
S K 015	A5j1, j	N 14° E	J II a	長 楕 円 形	3.3×1.7	18	層 1	1	N Ⅱ期		PL228	
S K 016	A5j1, j1	N 72° E	A 1 a	楕 円 形	1.5×1.05	18	層 1	1	N	南にSK017が隣接する。	Fig195	
S K 017	A5j1, j1	N 98° W	B II a	不 定 形	0.83×0.68	13	層 1	1	N	西にSK017が隣接する。		
S K 018	A5d1, b2		(D II a)	楕 円 形	3.15×1.3	24-32	層 1	1	B		Fig126 PL229	
S K 019	R5d2		B 1 b	*	1.50×1.3	52	層 1	1	2	N	北にSK020が隣接する。	Fig98
S K 020	B5d2, a2	N 71° W	A 1 a	*	1.37×1.71	20-29	層 3	2	N		Fig196 PL230	
S K 021	R3d2	N 5° W	B II a	*	0.92×0.86	30	層 1	1	N		Fig119	
S K 022	D5e2	N 98° E	C 1 b	*	(1.7)×1.4	16-30	層 1	1	2	N	Fig197 PL231	
S K 023	B3e1	N 80° E	A 1 a	*	1.33×1.18	16-18	層 1	1	N		Fig198 PL232	
S K 024	U5j1, j2	N 33° W	*	*	1.53×1.17	15	層 1	1	3	N	Fig199 PL233	
S K 025	Bj1, j	N 47° E	B 1 a	長 方 形 状	1.31×0.9	32	層 1	1	N Ⅱ期		Fig199 PL234	
S K 025A	B5d2		A 1 a	四 角	0.96×0.94	34	層 2	1	N △	南にSK019が隣接する。	Fig147	
B	*	N 92° W	B 1 a	不 定 形	1.3×(0.80)	20	層 2	1	N △		Fig147	
S K 027	A1j1	N 1° E	B 1 b	四 角	1.53×1.46	98-101	層 1	1	N	田舎民がやっている。	Fig196 PL235	
S K 028	A4d0	H 70° E	A 1 a	*	1.2×0.98	15	層 1	1	N	SK029と重複し本動が新しい。	Fig159	
S K 029	A4j1, j0	N 54° E (D II a)	B 1 a	長 方 形	3.8×(1.80)	20	層 1	1	1	N	作業跡の可能性がみられる。	Fig199
S K 030	B4j1	N 52° W	C 1 b	楕 円 形	1.6×1.2	33-32	層 1	1	N △	念動が字状の溝となる。	Fig196 PL236	
S K 031	A4j0	N 28° W	A 1 a	*	2.1×0.9	15	層 1	1	A	履利か成塚。		
S K 032	A6j1, c1	N 4° W	A 1 a	長 楕 円 形	1.74×1.3	15	層 1	1	N	電子探知少量のホンを含む。	Fig196	
S K 033	*	N 66° E	D II a	長 方 形 状	0.9×0.7	28	層 3	1	A		Fig130	
S K 034	A1j0, j0	N 37° E	F 1 a	長 方 形	1.96×1.7	31-03	層 1	1	N Ⅱ期		Fig128	
S K 035	B4j0	N 36° E	A II a	楕 円 形	0.67×0.52	21	層 2	1	N	履利か成塚跡。		
S K 036	B1j0, c0	N 57° E	C 1 a	*	1.62×1.17	23	層 1	1	N		Fig196 PL237-29	
S K 037	B4j0	N 40° W	D 1 a	長 方 形	1.25×1.01	17	層 1	1	N		Fig199	
S K 038	B5e1, B1j0	N 6° E	A 1 b	楕 円 形	1.32×1.68	48-55	層 1	1	N		Fig194	
S K 039	B4j0	N 37° W	A II a	*	1.5×0.88	25-30	層 2	1	N		Fig196 PL238	
S K 040A	B1j1, B2j1	N 43° E	A 1 c	*	1.1×1.0	21	層 1	1	N		Fig196 PL239	
B	*	N 59° E	B 1 b	*	1.1×1.06	52	層 1	1	N		Fig196	
S K 041	B5j0	N 38° W	A II a	*	3.69×0.6	35	層 1	1	N		Fig196	

建設番号	地 区	主 軸	形 態	平 面 積	展 開		各部の状況	備 考	建設品物	
					平 面 (m)	壁高(m)				
S K 042	B4R, H4g0	N-35° W	A I a	楕 円 形	1.17×1.0	24-36	Ⅱ 1	N	Fig10	
S K 043	B5I, I2	N 40° W	D I a	長 方 形 状	1.28×1.21	37	Ⅱ	- 1 1	Fig100	
S K 044A	B5I, g1	N-46° E	(E I a)	楕 円 形	1.01×1.05	29	Ⅲ 2	N	形態的にはC I bか。	
	Ⅱ		(B I b)	円 形	1.2×1.04	60	Ⅰ 1		Fig147	
S K 045	B3g1	N-47° E	A II a	楕 円 形	0.9×0.63	16	Ⅱ 1	N	Fig147	
S K 046	B3g1, B4g0	N-30° W	C I b	長 方 形	1.52×1.0	64	Ⅰ 1	N	河階状を呈している。	
S K 047	B5E, I	N-17° E	C I b	楕 円 形	1.36×1.25	32-76	Ⅰ 1	N	"	
S K 048	B5I, I	N 35° W	A I a	円 形	1.07×0.98	30-32	Ⅰ 1	N	Fig56 PI.240	
S K 049	B4E, I	N-84° E	C I b	楕 円 形	1.12×0.94	60	Ⅰ 1	N	Fig95 PI.241	
S K 050	B4E, I		A II a	円 形	0.55×0.54	10	Ⅲ 1	A	埋込か扶壁状	
S K 051	B4E, I	N-4° E	A I a	楕 円 形	1.1×0.72	13	Ⅲ 3	N	Fig7 PI.253	
S K 052A	B4E, I	N-14° W	E I a	不 定 形	0.8×0.6	30	Ⅲ 2	N	河階外段は張り出す(C I b)。	
	Ⅱ	N 22° W	D I b	楕 円 形	1.07×0.96	56	Ⅰ 1	N	"	
S K 053	B4g0	N-75° F	A II a		0.74×0.66	10	Ⅲ 2	N	埋 込	
S K 054	"	N 79° E	A I a	楕 円 形	1.22×0.75	10	Ⅲ 1	N	SK050と同様する。	
S K 055	"	N-45° W	"	長 方 形	1.85×1.38	25-35	Ⅰ 1	N	セツトは本跡より前し。	
S K 056	A4/D, B4a9	N 60° W	E I a	不 定 形	1.4×1.3	25	Ⅲ 3	N	Fig16 PI.246 Fig128	
S K 057A	B4a9	N 67° W	A I a	長 方 形	1.98×1.25	5	Ⅰ 1	N	Fig6 PI.247	
	Ⅱ	N-15° W	"	楕 円 形	1.12×0.94	36	Ⅲ 2	N	Fig6 PI.248	
S K 058	B4a8	N 47° W	A I a	"	1.1×1.91	10-12	Ⅲ 1	A	SK04Aの北に位置している。	
S K 059	B4a8	N-40° W	"	"	1.25×1.16	12-23	Ⅰ 1	N	Fig16 PI.249	
S K 060	B4a7, a8	N 40° E	"	"	1.74×1.39	7-10	Ⅰ 1	N	Fig57	
S K 061	B4a7, a8	N 61° W	D II a	六 角 形	2.09×1.5	10	Ⅰ 1	N	日 照	
S K 062	B4a7	N-44° E	A II a		2.14×1.56	14-16	Ⅰ 1	N	日 照	
S K 063	B4a7	N 47° E	A II a	楕 円 形	0.94×0.82	10-12	Ⅰ 1	N	Fig76 PI.251	
S K 064A	"	N-24° E	E I a	不 定 形	1.8×1.2	11	Ⅲ 1	N	Fig76 PI.251	
	Ⅱ	(N-33° E)	D I b	楕 円 形	1.01×0.84	57	Ⅲ 1	N	Fig148 PI.252	
S K 065	B5c, J1	N 45° E	A II a	"	0.65×0.62	10-16	Ⅲ	- 3	Fig76	
S K 066	B4g0		D I a	長 方 形 状	1.46×1.16	29	Ⅰ 1	N	Fig100 PI.255	
S K 067	"	N-12° E	F II a	(楕 円 形)	0.7×0.7	14	Ⅲ	1 2	Fig139 PI.256-272	
S K 068	B4g0, g1		A I a	楕 円 形	1.2×1.04	27	Ⅲ 1	N	Fig139 PI.256-272	
S K 069	B4g0	N 9° E	D I a	長 方 形	1.71×1.25	27	Ⅰ 1	N	Fig100	
S K 070	B4g0, h4	N-18° W	D I a	"	1.67×1.3	30	Ⅲ 1	N	Fig100	
S K 072A	B4E, I6	N-30° E	D I b	楕 円 形	1.21×1.17	51	Ⅲ 1	N	Fig148 PI.259	
	Ⅱ	N-60° W	A I b	"	1.1×0.88	55	Ⅰ 2	N	Fig148	
S K 073A	"	"	Z	不 規 則	1.5×X	44	Ⅲ 1	N	PI.260	
	A	N-10° W	(D I a)	長 方 形 状	1.75×1.3	43	Ⅰ 1	N	"	
	B	N 77° W	(D I a)	"	1.61×1.42	42	Ⅲ 1	N	"	
S K 074	B5c, d0	N-5° E	A I a	楕 円 形	1.7×1.6	69-44	Ⅲ	+ 1	N	Fig57
S K 075	B4E, d9	Z								
S K 076	B4a8	N 45° E	A I a	楕 円 形	1.38×0.88	14-16	Ⅰ 3	N		
S K 078	B4a9	N-50° E	D II b	長 方 形	2.2×0.53	37	Ⅰ 3	A	Fig126	
S K 079	B4E	N-M° E	A I a	楕 円 形	1.38×1.34	16-20	Ⅲ	+ 3	N	Fig57

遺跡番号	地区	方位	形状	平尺形	規模		高さの概況	遺土	時期	築	考	関連図表	
					長さ(m)	幅(m)							
S.K. 060	H47		A1a	円形	1.26×1.22	7-12	1	1		N	ハ		
S.K. 061	H40		*	楕円形	1.17×1.06	8-11	1	1		N			
S.K. 062	1551	N 32° E	A1a	*	1.06×0.82	15-23	11	1		N		南側の隅が一段低く傾いた	
S.K. 063	H45, 46	N 47° W	*	*	1.53×1.26	10-16	1	-1		N		Fig57	
S.K. 064	1551	N 48° W	*	*	1.12×1.03	15-23	1	1		N			
S.K. 065	H40	N 26° W	B1a	不定形	1.85×1.03	12	1	1	1	N			
S.K. 066	*	N 47° W	A1a	楕円形	1.5×1.27	8-12	1	1		N	ハ	ピットに埋	
S.K. 067	H40		*	円形	1.45×1.36	12-15	1	1		N	△	Fig57 PI-261 PI-262	
S.K. 068A	H49, 49	N 30° W	*		1.78×1.13	37	1	1		N	△	Fig57	
S.K. 07	*	*	*		11.07×*	36	1	1		N	△	Fig57	
S.K. 071	H45, 49	N 37° W	?		0.34×0.18	21				N	△	階段土層 基礎部分	
S.K. 092	*	N 26° W	△		1.89×1.26	22				N		埋	
S.K. 093	H45, 49	N 47-22	A1a	楕円形	1.30×0.94	19-28	11	1		N	ハ	1期	Fig128
S.K. 094	H49		A1a	円形	0.75×0.56	9-11	11	1		N	△		Fig55
S.K. 095	H49		?	*	0.45×0.44	20	1	2		N	1期	SI029の南側にあり、基礎火	Fig165 PI-266 PI-267
S.K. 096	H49	N 34° E	B1a	四方角形	0.86×0.71	17	1	1	2	N	埋	SI029の南側にあり、基礎火	Fig165 PI-266 PI-267
S.K. 097	H48		?	円形	0.49×0.47	25	11	2		N	埋	SI029の南側にあり、基礎火	Fig165 PI-266 PI-267
S.K. 098	H46	N 32° W	B1a	不定形	1.51×0.84	25	11	3		N			Fig139
S.K. 099	H49		?	円形	0.44×0.41	25	1	1		N	ハ	基礎部分に、基礎土層の	
S.K. 100	3467, 46	N 15° W	A1a	楕円形	1.45×1.1	14-23	1	1		N	△	Stoneの南側に設置する。	Fig58
S.K. 162	H46	N 37° W	B1a	正方形	2.4×1.08	31	1	1	3	N	△		Fig100 PI-270
S.K. 191	H46	N 80° E	C1b	楕円形	1.4×1.04	47	1	1		N	△		PI-271
S.K. 105	3467, 46	N 24° W	B1a	長方形	2.0×1.33	23	11	1	3	N	△	南に SI105a 接続する。	Fig100 PI-272
S.K. 106	*	N 34° W	B1a	楕円形	1.3×0.93	38	1	3		N	1期		Fig166 PI-273
S.K. 107A	H46	N 35° E	A1a	長方形	2.67×1.75	23	11	1	3	N			Fig149 PI-274
B	*	N 45° W	B1a	長方形	1.99×0.88	36	1	1		N			Fig148
S.K. 108	H46	N 62° W	A1a	正方形	1.73×1.61	19	11	1		N			Fig138
S.K. 109A	H47, 48	N 37° W	B1b	長方形	1.96×1.6	42	1	1		N			Fig159 PI-275
B	*		A1a	楕円形	0.16×0.12	15	1	1		N			Fig169
S.K. 110A	H47, 47	N 17° E	B1a	正方形	2.0×1.86	17	11	1		N	埋		Fig160 PI-276
B	*	N 85° W	B1b	長方形	1.47×0.9	52	1	1		A			Fig169
C	*	N 42° W	A1a	楕円形	0.72×0.62	30	11	2		N	埋		Fig169
S.K. 112	H47	N 17° E	B1a	長方形	2.3×1.26	58	1	3		N	△		Fig180
S.K. 113	2466	N 88° W	B1a	正方形	1.37×1.11	39-48	11	27		N		SI006の南側に設置する。	
S.K. 114A	H47, 48	N 42° E	B1a	*	2.34×1.75	66	1	4	1	N	△	南側に埋められているが、北側の	Fig147 PI-277
B	*	N 74° E	A1a	楕円形	0.99×0.82	55	1	2		N	△		
S.K. 115	1540	N 53° W	B1a	不定形	1.7×1.51	35	11	1	1	N	△	高直中に埋められている。	Fig129
S.K. 116	H45, 46	N 56° E	B1a	長方形	3.73×0.6	57	1	1		N	△	北、西側の埋められている。	Fig129
S.K. 117	247	N 67° E	A1a	長方形	1.94×1.53	25-25	1	2	2	N	埋		Fig168 PI-279
S.K. 118	H47	N 55° E	B1a	長方形	3.12×0.5	56	1	2		N	埋		Fig172
S.K. 119	*	?	円形	45	0.41×0.4	27	11	2		N	埋		Fig151
S.K. 120	*									N	埋	SI006の南側や中野山より	Fig181
S.K. 121	*									N	埋	185と接続する。	
S.K. 122	*									N	埋	SI118の南土層にみられる。	

遺構番号	地区	方位	形状	平面形	規模			各部分の状況	層上	時期	備考	関連図表
					平面(m)	壁高(m)	礎床					
SK 123	B467		Z						Ⅱ	Ⅰ	N	SI006の12に中央屋上出土。
SK 124	B467	N 60° E	A 1 a	長方形	1.38×1.07	23-25	Ⅱ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	N	前期 SI006の北側に位置する。
SK 125	B468		Z	円形	0.32×0.38	21	Ⅰ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	N	後期 壁土跡 白縁短欠片
SK 126A	B469	E-41° E	C Ⅱ b	楕円形	1.75×1.75	72	Ⅱ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	N	} 遺構 Fig185 PL283
B	*		Z						Ⅰ	Ⅰ	N	
SK 127	*										N	後期
SK 129	B469	N-30° W	B 1 b	楕円形	1.1×0.77	56-72	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	A	前期 Fig89
SK 131	B469, 40	N-4° E	D 1 a	方形	1.18×1.11	17	Ⅰ	Ⅰ	Ⅲ	Ⅲ	N	Fig100 PL294
SK 136	B479	N-76° E	A 1 a	楕円形	1.1×0.85	6-8	Ⅱ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	N	PL285
SK 137	*		*	*	1.12×1.04	16-24	Ⅱ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	N	△ Fig100 PL294
SK 138	B469	N-13° W	E Ⅱ b	不定形	2.6×1.74	64	Ⅱ	Ⅲ	Ⅰ	Ⅰ	N	△ PL287
SK 139	B479	N-85° W	A 1 a	楕円形	1.16×1.07	18-22	Ⅱ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅲ	A	△ Fig88
SK 140	B469	N-66° W	A 1 a	*	1.26×1.06	5-27	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	N	△ PL288
SK 142	B465, 15	N 7° W	D Ⅱ a	方形	2.4×2.34	32	Ⅰ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	N	Fig122 PL289
SK 143	B465	N-65° W	E Ⅱ a	楕円形	2.47×1.69	21	Ⅱ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	N	△
SK 144	B465, 15	N-66° E	*	*	(2.6)×(1.22) 2.03	20	Ⅰ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	N	△ Fig140 PL290
SK 145	B464	N-46° E	A 1 a	*	1.95×1.34	30-33	Ⅱ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	A	△ PL291
SK 146	B465, 66	N-74° E	E 1 a	不定形	2.03×(1.25)	40	Ⅱ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	N	△ 有蓋物をSK151に2り切らる。 Fig147 PL292
SK 147	B465, 66	N 7° W	B 1 b	不定形	1.74×1.52	33-69	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	N	△ 前期 床中央の円状土室。 Fig89 PL293
SK 148	B464	N-51° E	D Ⅱ a	長方形	2.3×2.05	25	Ⅰ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	A	△ Fig124
SK 149	B465	(Z)	A 1 a	不定形	1.66×1.6 1.5×1.4	45-80 80-110	Ⅰ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	A	△ 電柱の基礎施設と思われる。 Fig148
SK 150	B465	N-65° W	E 1 a	円形	1.6×1.5	25	Ⅰ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅱ	N	△ 床面に小型壺腹の器が出土。 Fig129 PL295
SK 151	B466	N-26° E	A 1 a	楕円形	1.06×0.98	34	Ⅱ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	N	△ 床に土器片が出土。 PL292
SK 152	B466, 64		E 1 a	不定形	1.6×1.2	30	Ⅱ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅱ	N	△ Fig129 PL296
SK 153	B465, 65	N-36° W	D 1 a	長方形	1.83×1.36	23-53	Ⅱ	Ⅰ	Ⅲ	Ⅲ	N	△ Fig100 PL297
SK 154A	D45	(Z)	A 1 a	不定形	2.0×	53	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	N	△ PL298
B	*	N 21° W	C 1 b	楕円形	1.53×1.35	18	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	N	△ 円筒状を呈している。
SK 155	B362		(E 1 a)	(*)	1.6×	26-36	Ⅱ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	A	△ 東に区域外となるが新しい「覆土」 Fig128
SK 156	B469	N-33° E	E 1 a	不定形	1.42×1.06	36	Ⅲ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	N	△ Fig105
SK 157	B467	N 3° W	F 1 a	不定形	1.76×1.15	23	Ⅱ	-1	Ⅰ	Ⅰ	N	} 遺構 △ 遺物はSK100によって切り取られている。 Fig105
B	*		E 1 b	方形	1.0×0.9	60	Ⅱ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	N	
SK 159	B464	N 5° W	A 1 a	楕円形	1.46×1.43	18-24	Ⅰ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	N	△ Fig126-28
SK 161	B463, 41	N-73° E	E Ⅱ a	不定形	2.4×1.86	22	Ⅱ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	N	△ 床面に小型壺腹の器が出土。 Fig129 PL302
SK 162	B463, 34	N 14° W	*	不定形	2.0×1.4	30	Ⅰ	Ⅰ	Ⅲ	Ⅲ	N	△ Fig119
SK 163	B467	N 2° E	*	不定形	2.86×1.9	19	Ⅰ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	N	△ 遺物は中央、南向き端位で出土。(埋蔵品) Fig131 Fig130 PL305
SK 164A	B467	N-23° E	B 1 b	*	(2.1)×1.52	52	Ⅲ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	N	} 遺物は床面に少量出土。 Fig130 PL305
B	*		B 1 b	楕円形	1.26×1.15	53	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	N	
SK 165	B465, 65	N 75° E	B Ⅱ b	*	2.6×2.0	122	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	N	△ Fig93
SK 166	B467	N-86° W	D 1 a	*	1.36×1.13	38	Ⅱ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	N	△ Fig100
SK 167	B467	N 4° E	A 1 a	*	1.1×1.07	28	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	N	△ SK168と重複する。
SK 168	B467, 67	N 80° W	E 1 a	不定形	1.43×1.1	38	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	N	△ SK167と重複し、歩廊の方が新しい。
SK 169	*	N-42° W	D 1 a	長方形	1.92×1.52	35	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	N	△ Fig100
SK 170	B467	N 66° E	F 1 a	不定形	1.53×1.23	35	Ⅰ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	N	△ Fig128

遺跡番号	地区	土 相	形 態	平面形状	規 模		各部の状況		築 上	時期	備 考	関連図表	
					平面(m)	高さ(m)	壁 体	土 台					
S K 171	B4g3, g4		A II a	円 形	0.82×0.76	18~22	1 1	1	Ⅱ	ハ		Fig70	
S K 172	B4g3	N 40° W	E I a	楕 圓 形	1.06×0.75	25	Ⅱ	1 2	Ⅱ	△		Pl.206	
S K 173	?	N-25° E	E I a	不定形円形	1.52×1.26	50	Ⅲ	1	Ⅱ	日積		Fig120 Pl.207	
S K 174A	B4f4		A II a	楕 圓 形	0.82×0.73	34	Ⅲ	1	Ⅱ	△		Fig144	
B	B4f3		遺跡名	*	1.01×0.71	68	1 1	Ⅱ				Fig145	
S K 175	*	N 47° E	A I a	*	1.24×0.86	22	1 1	Ⅱ	Ⅱ	△		Fig146	
S K 176	B4h3	N-65° W	E I a	不定形円形	1.27×0.7	13	Ⅱ	3	Ⅱ				
S K 177	B4g3, h3	N 43° W	E I a	長楕円形	1.52×1.2	22~24	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	△	遺跡の南面に位置する。	Fig87 Pl.208	
S K 178	B4g3, h3	N-45° W	A I a	楕 圓 形	1.53×1.0	9~16	1 3'		Ⅱ				
S K 179	*	N 47° E	*	*	1.88×1.51	12~16	1 3'	Ⅱ	Ⅱ	△	ビツは後述によるもの。	Pl.209	
S K 180	B4f3		E I a	不 定 形	1.71×1.4	17~27	Ⅱ	3'	Ⅱ	日積		Fig149	
S K 182	B4f5	N-24° E	D I a	長 方 形	1.27×1.14	75	1 1	Ⅱ	Ⅱ	△	遺跡内の新しい竪穴	Fig116 Pl.211	
S K 183A	B4g4-2		Z	不 規 則	0.93×0.58	20	Ⅱ	3	Ⅱ	△		Fig148	
B	*		E I b	楕 圓 形	1.1, 1.56	71	1 1	Ⅱ	Ⅱ	△		Fig148	
S K 184	B4h4	N 66° W	D I a	長 方 形	1.73×0.96	46	Ⅱ	1 4	Ⅱ	△		Fig160	
S K 185A	B4f4	N-53° W	Z	不 定 形	2.0×1.6	20	Ⅱ	1	Ⅱ	△		Fig169	
B	*	*	*	*	*	20	3	Ⅱ				Fig168	
C	*	N 41° E	*	不 規 則	1.01×1.04	35	1 2	Ⅱ	Ⅱ	△		Fig169	
D	*	N-34° E	E I a	*	1.4×1.0	82	1 1	Ⅱ	Ⅱ	△		Fig169	
E	*	N 45° W	D I b	長 方 形	0.9×0.78	46	1 2	Ⅱ	Ⅱ	△		Fig169	
S K 186	B4h3, h3		J	不 定 形	1.9×1.1	35	Ⅱ	1	Ⅱ	日積	壁及び礎で構成された	Fig197 Pl.212	
S K 187	B4f2	N-28° W	E I b	長 方 形	1.65×1.55	60~65	1 1	Ⅱ	Ⅱ	△		Fig89	
S K 188	*	N-16° E	D I b	長 方 形	1.39×1.2	52	1 1	Ⅱ	Ⅱ	△		Fig114	
S K 189	B4h2	N-5° E	B II a	円 形	0.9×0.46	30~38	1 1	Ⅱ	Ⅱ	△		Fig92	
S K 190	B4h2	N 30° E	A II a	円 形	0.86×0.78	6~8	Ⅱ	1 1	Ⅱ	△	ビツは今回より新しい。	Fig76	
S K 191	*	N 27° W	E I a	楕 圓 形	1.05×1.0	27~36	1 1	Ⅱ	Ⅱ	△		Fig97	
S K 192A	B4f1, f2	N-16° W	E I a	(楕 圓 形)	1.11×0.75	26~28	Ⅱ	1	Ⅱ	△			
B	*	N 44° E	D I a	長 方 形	0.65×1.0	67~68	1 2	A	Ⅱ	△	壊滅、基礎のみ。		
S K 193	B4f1	N-11° W	A I a	楕 圓 形	1.23×1.68	22~28	Ⅱ	1	Ⅱ	△		Fig58	
S K 195	B4h1		A II a	*	0.46×0.42	9~15	1 1	Ⅱ	Ⅱ	△		Fig76	
S K 196	B4h1	N 2° E	*	*	0.88×0.84	12	Ⅱ	1	Ⅱ	△	空中から撮影した写真を公表。	Fig77	
S K 196	B4e3, g2	N-30° E	E I b	長楕円形	1.52×0.96	55	1 1	Ⅱ	Ⅱ	△		Fig139	
S K 199	B4g2	N 20° E	A I a	楕 圓 形	1.65×1.25	12~16	1 1	Ⅱ	Ⅱ	△		Fig16	
S K 201	B4e5	N-24° E	A I a	長 方 形	1.5×1.68	20~23	1 Ⅱ	2	Ⅱ	△		Fig58	
S K 202	B4e2, e5	N-58° E	E I a	不 定 形	1.67×1.35	15~22	1 Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	△			
S K 205	B4h9	N 1° E	D I a	長 方 形	1.06×0.94	33	Ⅱ	1 1	Ⅱ	△		Fig100	
S K 209A	B4e3, f3		E I a	長 方 形	1.63×1.34	32	Ⅱ	1	Ⅱ	△		Fig111	
B	*	N 20° E	D I b	長 方 形	1.64×0.86	55	1 1	Ⅱ	Ⅱ	△		Fig111	
S K 207	B4e5	N-72° W	A I a	長楕円形	1.25×1.2	16~20	Ⅱ	2	Ⅱ	△		Fig58	
S K 208	B4e6	N 4° E	E I a	不定形円形	1.51×1.1	27	1 1	Ⅱ	Ⅱ	△	S2310と関係する。	Pl.213	
S K 209	B4h3, e5	N 5° E	D I b	長 方 形	1.54×0.6	80	1 1	A	Ⅱ	△	遺跡中からの遺物である。	Fig112	
S	B4e5		E I a	楕 圓 形	1.1×0.9	20~25	Ⅱ	1	Ⅱ	△	遺跡S2317によって埋められている。		
S K 213	B4g1	N 25° W	B II c	楕 圓 形	1.0, 0.8(0.8)	22	1 1	Ⅱ	Ⅱ	△		Fig121	

道路番号	地区	主軸	形態	平面形	規模		各部の状況			階	用途	備考	関連図紙
					平均(m)	総面積㎡	喫煙	床	土				
SK 214	B47, a7	N-43°W	DⅡa	(横円形)	2.1×1.35	35	Ⅱ	1	N		SK229と重複する。	Fig147	
SK 216	B4e6	N-19°W	AⅠa	狭長円形	1.90×1.1	25	1	1	N	△	SK208と重複する。	PL313	
SK 217	B4e6, e7		BⅠb	円形	2.2×2.0	140	1	1	N	ハ	SK212を切り、SK161に継ぎ足される。	Fig159	
SK 218	B4d9	N-52°E	AⅠa	長方形	1.22×0.9	9~11	Ⅲ	1	N		SK219と重複し本線の方が小さい。	Fig58	
SK 219	*	N-36°E	*	*	1.58×0.75	14~16	Ⅱ	1	N			Fig60	
SK 220	*	N-37°E	*	*	1.7×1.15	17~26	Ⅲ	1	N		SK219と重複する。	Fig69	
SK 222	*	N-84°W	*	*	1.25×1.05	48~50	1	1	N	△	S1004の東端を切る。	Fig69	
SK 225A	B4f7, e7		BⅠa	(*)	1.3×0.84	18	Ⅱ	1	N	△		Fig149	
B	*		DⅠb	長方形	1.48×1.24	54	1	1	N	△		Fig149	
SK 226	B4f5, f6		AⅠa	狭長円形	1.55×1.42	31~42	Ⅲ	3	N	Ⅲ期	S1009の南西を切る。	Fig69	
SK 227	B4e7, e8	N 8° E	EⅠa	不定形	1.8×1.3	29~28	Ⅲ	1	N		S1006の東側に位置する。	Fig159 PL314	
SK 228	B4e6	N 40° W	AⅠb	横円形	1.9×1.6	48~52	Ⅱ	1	N	△		Fig74 PL315	
SK 229	B4f7		DⅠa	長方形	1.25×1.1	27	1	1	N	Ⅲ期	SK214と重複する。	Fig147	
SK 230	B4d3, d6	N-79°W	DⅡc	長方形	2.4×1.4	26	Ⅲ	1	N	△	北: SK231と重複する。	Fig152 PL316	
SK 231	*	N-88°W	BⅠa	*	1.95×1.47	28~32	1	1	N	△		Fig97	
SK 232	B4d8		AⅠa	横円形	1.2×0.91	28~32	1	1	N		ビッドはS1004の北端と重なっている。		
SK 233	B4e5, B511	N-60°W	DⅡb	長方形	2.12×1.35	51	Ⅱ	1	N			Fig126	
SK 234	B4e5, e7		AⅡa	横円形	1.0×0.7	17~42	1	1	N		S1005の南側に位置する。	Fig76	
SK 235	B4e5, e8	N-65°W	DⅠa	不定長方形	1.85×1.85	32	Ⅲ	1	N	△		Fig101	
SK 236	*	N-42°E	DⅠa	*	1.85×1.15	24	Ⅱ	1	2	N			
SK 237	B4e7	N-55°W	DⅠa	長方形	1.43×1.1	26	Ⅲ	1	N	△		Fig101	
SK 238	B4e5, f1	N 14° E	DⅡb	*	2.43×1.63	80	1	1	N	△	2本の重複の可能性がみられる。	Fig126	
SK 239	B4e7	N 40° W	DⅠa	*	1.8×1.1	34	1	1	5	N	△	壁がけにビッドがのこる。	Fig101
SK 240	B4e7	N 30° W	*	不定長方形	1.77×1.28	25	Ⅲ	1	4	△	ビッドはS1020の柱状の可能性がみられる。	Fig102	
SK 241	B4d3, e4	N-59°E	DⅡb	長方形	3.8×1.92	30~195	1	1	△	△	遺物は流れたかと思われる。	Fig126	
SK 242	B4e4	N-68°E	DⅡa	*	2.06×1.48	21	1	1	N	△		Fig122 PL317	
SK 243	B4b5		AⅡa	横円形	0.79×0.67	25~35	Ⅲ	3	A		境目によるものか。	Fig76 PL318	
SK 245A	B4e3, e4	N-68°W	DⅠa	長方形	1.88×1.6	25	Ⅲ	1	N	△	ビッドは本線より新しい。		
B	B4e3	N-57°W	AⅠc	横円形	1.2×0.9	49	Ⅲ	2	N	△			
C	B4e4	N-80°W	AⅡa	*	0.87×0.68	40	1	1	N	△			
SK 247	B4e3, e4	N-37°W	EⅠa	不定長方形	1.43×1.1	27	Ⅲ	3	N	△	ビッドはS1015, 027の柱状か。	PL321	
SK 248	B4e3	N-20°W	EⅡa	不定形	2.58×1.38	37	Ⅲ	3	N	△		PL322 Fig125	
SK 249A	B4e3, f5	N-89°E	DⅠa	不定長方形	1.87×1.98	17	1	1	N	△	西側は壁を受け付けている。	Fig100 PL323	
B	*		DⅡc	円形	0.8×0.75	58	1	1	N	△		Fig100	
SK 250	B4d4, d5	N-65°E	DⅠb	不定形	1.81×1.6	83	Ⅲ	1	6	A	Ⅲ期	S1021, SK242より新しい。 ビッドは両側部分のものと重複する。	Fig127 PL324
SK 251	B4g2		DⅠa	不定形	1.37×1.14	18	Ⅲ	3	1	A			
SK 252	B4b4, b4		DⅠa	長方形	1.6×1.26	20	Ⅲ	3	N		SK164より本線の方が小さい。		
SK 253	B4f2		EⅠa	不定形	1.23×	31	Ⅲ	3	N	△	SK162より古くSK287より新しい。	Fig129	
SK 254	B4b5, g8	N-78°E	DⅡa	長方形	0.94×0.65	27	1	1	N	Ⅲ期		Fig129	
SK 255	B4b8		DⅠb	長方形	1.2×1.0	65	Ⅲ	1	N	△	S1019より本線が新しい。		
SK 256	B4c3, e3	N 31° W	DⅠa	*	1.51×1.2	23	Ⅲ	3	N	Ⅲ期		Fig102	
SK 257	B4f5	N-67°E	DⅠb	*	1.63×0.65	91	1	1	A	△	異形の断面式か。遺物は流れたか。		
SK 258	B4e3, e5	N-99°E	DⅡb	*	1.03×0.7	90	1	1	A	△	*		

遺構番号	地区	坐向	形制	平面形	規模			各部の状況	土	時期	備考	関連図版	
					平面(m)	壁高(m)	礎石径(m)						
S K 239	B4c1, c5	N-58° E	D I k	長方形	1.48×0.74	37	1	1	A	△	遺上は破損で、ブロッツまじりである。		
S K 260	B4c7, c6	N-5° E	D I a	*	1.4×0.95	34	1	3	N	△	SK261より本跡は新しい。	Fig101	
S K 261	B4c6, c5	N 36° E	*	*	1.55×1.1	48	II	3	N	□	SK260より本跡は古い。	Fig101	
S K 262	B4c5	N-35° E	E I a	不定形	2.1×1.15	34	II	3'	6	N	△	北山壁によってロッドがみられる。	Fig135
S K 263	B4c5	*	*	長方形	1.7×1.35	32	II	1	6	N	△	SK262と真裏の間の壁は不明	Fig139
S K 264	B4c5, d6	N-32° E	A I b	楕円形	1.85×1.43	62	1	1	N			Fig74 PL325	
S K 265	B4c5	*	A I a	円形	1.2×1.2	34	II	3	N				
S K 267A	B4c5	N 50° W	E I a	楕円形	0.331×0.468	16	1	1	N	△	SK311より本跡の方が古い。	Fig149	
B	*	*	B II b	円形	0.89×0.7	86	1	2	A	△		Fig143	
S K 268	B4c5, b6	*	A I a	楕円形	1.35×1.1	18-24	III	1	1	N	△	ロッドはS1014-S1016の様か。	PL326
S K 269	B4c5, b5	*	B I a	半圆形	1.73×1.13	85	1	4	2	N	△	ロッドはS1012の様か。	Fig148
S K 270	*	N-57° W	D I b	円形	2.1×1.95	56	I	-1	6	N	△	遺上土層、西壁より土壁に多量埋出する。	Fig116 PL327
S K 271	B4c5	*	A I a	*	1.2×1.1	33	I	1	N	△	SK272より新しく北面に少量のハマドリ出た。	PL549	
S K 272	*	*	Z	不定形	1.9×0.85	57	1	3	6	N	△	S1013の東西ローマに位置する。	Fig188
S K 273	B4c7	*	A II a	円形	0.76×0.65	12-15	1	1	N			Fig76	
S K 274	B4c2, c3	N-50° E	D I b	長方形	1.35×0.9	75	1	1	N			Fig116 PL328	
S K 275	B4d, d5	*	D I a	楕円形	1.37×1.25	38-46	I	1	A	△	床中央にロッドがみつかる。	Fig87	
S K 276	B4d5	*	D I o	円形	1.1×0.97	50	I	1	N	△		Fig116	
S K 277	B4c3	*	B II b	円形	0.82×0.8	76	1	1	N			PL329	
S K 278	B4d3	*	A I a	楕円形	1.74×1.43	18-20	1	1	N	△		Fig59	
S K 280	B4d2, d3	N 86° W	C I a	*	1.7×1.25	22-42	I	1	1	N	△	Fig64	
S K 281	B4d2	N 39° E	D I a	長方形	1.63×0.8	40	I	2	N	△		PL330	
S K 282	*	N-8° W	*	不定形	1.63×0.9	33	II	3	2	A		ロッドは根か。	Fig76
S K 283	B4c2, c3	N 33° W	A II a	楕円形	0.99×0.97	6-13	III	3	1	A		Fig76	
S K 284	B4c2, c2	N-58° E	A II a	楕円形	0.9×0.7	30-30	III	3	2	N		柱穴道のものがみられるが性別は不明	Fig76 PL331
S K 285	B4c2	*	*	円形	0.95×0.8	20-22	III	3	N				
S K 286A	B4d1, e1	N 85° E	E I a	楕円形	1.12×1.13	*	I	-1	4	N	△		
B	*	N-36° W	D II c	方形	0.81×0.81	40	I	1	1	A		遺上は破損で多量のセームブロッツを含む。	
S K 287	B4f5	N-36° E	Z	半円	1.4×1.0	19	III	3	2	N		SK253より本跡の方が古い。	Fig74 PL332
S K 288	B4e2	N 63° E	A I e	(楕円形)	1.13×0.65	65-71	1	1	1	N			
S K 289A	*	*	Z	不明	*	6	I	1	2	N	△		
B	*	N 7° W	D II a	*	0.7×0.68	40	1	1	A	△			
S K 290	Y	*	E II a	不定形	0.95×0.57	27	III	3	1	A	△	壁根が狭狭	
S K 291	*	N 48° E	D II a	*	0.72×0.58	17	II	3'	N				
S K 292	B4e1, f1	N 60° E	*	楕円形	0.57×0.6	35	1	1	N			Fig170	
S K 293	B4d1, f1	N-72° E	A II a	*	0.43×0.43	6-13	I	1	N			Fig77	
S K 294A	B4f2	N 70° W	D II b	方形	0.85×0.85	72	1	1	N				
B	*	*	E II a	不定形	0.74×0.7	30	II	2	1	N			
S K 295	*	*	A II a	楕円形	0.69×0.69	16-22	II	2	N			Fig78	
S K 296	B4f1	N-9° E	B II b	*	1.04×0.9	76	1	1	N	△	SK297より本跡の方が新しい。	Fig89 PL333	
S K 297	*	N-65° E	A I a	*	1.04×0.9	19	II	3	N			Fig89	
S K 298	B4g2, f2	D I a	長方形	1.1×0.88	23	II	3	2	N			Fig101 PL334	
S K 299	Y	N-57° W	*	長方形	1.7×1.24	45	II	3	1	N			

遺構番号	地 区	方 向	形 状	平 面 形	規 模		各部分の状況			周 辺	備 考	関連図版	
					平 間 (m)	壁高(m)	壁 体	ビ ー ト 跡	土				
S K 300	B4g3		E I a	不 定 形	1.25×0.8	13	II	3	1	N	SK301より東側の方が古い。	Pl.335 Fig95	
S K 301	B4g2	N-30° E	C I b	楕 円 形	1.4×1.12	30	I	1	1	N	SK302より本跡の方が新しい。	Fig101	
S K 302	*	N-82° W	D I a	長 方 形	1.4×1.05	19	III	1	1	N		Fig101	
S K 303	*	N-20° E	*	長 方 形 状	1.23×0.92	23	II	1	1	N		Fig101	
S K 304	B4g1	N-60° E	*	*	1.34×1.1	27	III	3	3	N	跡中央は埋戻をうけている。		
S K 305	*	N-40° W	E I a	楕 円 形	1.27×1.1	37~40	II	2	2	A		Fig87	
S K 306	B46p	N-65° W	E I a	不 定 形	1.8×1.0	18	III	3	3	N	S1016の入口側にあり住居より新しい。	Fig129 Pl.330	
S K 307	B465	N-22° E	A I a	楕 円 形	1.37×1.09	20	III	2	5	N	S1017の側に併し、日本の柱状が並ぶ。	Fig29 Pl.337	
S K 308	B445, a5	N 41° W	*	*	1.93×1.2	18~20	I	3	5	H		Fig29 Pl.336	
S K 309	B443	N-41° W	D I a	長 方 形 状	1.04×0.8	17	II	3	N			Fig101	
S K 310	B443, 44		E I a	不 定 形	1.5×1.1	25	1	2	N	土跡		Fig129	
S K 311	B444	N 43° W	D I a	長 方 形 状	1.63×1.30	47	II	2	2	N	ピットはS1017の柱状か。	Fig102 Pl.339	
S K 321	C5e2, B5y2	N-30° E	D I a	不 定 形 四 角 形	1.3×1.08	24~33	I	1	1	N		Fig87	
S K 322	C5a2, a1	N-87° W	A I a	楕 円 形	1.55×1.06	16~28	I	1	N	△		Fig29 Pl.340	
S K 323	C5a1	N 42° E	A II a	*	1.0×0.65	14~18	II	1	N			Fig76	
S K 324	C5a1, a2	N-54° W	A I a	長 條 四 角 形	1.41×0.35	20~24	II	1	N				
S K 325	C5b1, b2	N-8° W	D I a	長 方 形 状	1.54×1.22	20	1	1	N			Fig101	
S K 326	B46i	N-40° W	A I b	楕 円 形	1.48×1.34	51	I	1	N	土跡	上部が崩壊し、決が完満。	Fig74	
S K 327	C2d2	N-35° E	D I a	長 方 形	1.67×1.4	38~42	II	1	N	△		Fig102	
S K 328	C5c2	N 7° W	D I a	*	1.28×0.88	16~25	I	1	N		床は北側へ傾斜をふいている。		
S K 329	C5c2, d2	N-47° E	*	*	1.61×1.1	28	1	1	N	△		Fig101 Pl.341	
S K 330	C5d2, e2	N-38° W	*	不 定 形 長 方 形	1.55×1.14	45	II	1	N	1期		Fig102 Pl.342 Fig149	
S K 331A	*		A I a	長 條 四 角 形	1.8×1.1	23	II	1	N				
B	*		D II b	四 角 形	0.65×0.6	84	I	1	N				
S K 332	C5e2	N 33° E	A I b	楕 円 形	1.06×0.89	52~62	I	1	N			Fig74	
S K 333	C5e1, e2		D II a	四 角 形	1.02×0.94	18	1	1	N			Fig92 Pl.343	
S K 334	*		A II a	*	1.09×0.98	12~20	I	1	N	△		Fig76	
S K 335	C5e2, f2		D II a	長 方 形	0.97×0.68	14	I	1	N			Fig126	
S K 336	C5d1		A II a	四 角 形	0.89×0.65	26~23	II	2	N	△		Fig76	
S K 337	C5d3		A I a	楕 円 形	1.28×1.03	16	I	1	N			Fig99	
S K 338	C5g1	N-30° W	A I a	*	1.33×1.1	12~22	I	1	N			Fig60	
S K 339	C5d5		D I a	長 方 形	1.14×1.0	19	1	2	2	H	ピットは板によるもの。	Fig101	
S K 340A	C5k2, i1	N-68° E	D II a	*	2.2×1.8	20	II	1	N			Fig97	
B	*		D I b	*	1.7×1.52	52	I	1	N			Fig87	
S K 341	C5h2	N 82° E	不明	不 定 長 方 形	2.17×1.02	98	III	2	A				
S K 342	C5a2, d2	N 32° E	D I a	*	1.48×0.35	46	II	3	A		住居は平明だが覆土は敷設してある。	Fig101	
S K 343	C5i2		A I a	楕 円 形	1.55×1.25	37	II	1	N			Fig29 Pl.344	
S K 344	C5a1, b2	N-32° W	(A I a)	長 條 四 角 形	1.25×1.05	18~20	II	3	N		SK382と重複し本跡の方が古い。		
S K 345	C5g2	N-87° E	A I a	楕 円 形	1.5×1.05	14~18	III	2	2	N	ピットは本跡より新しい遺構。		
S K 346	C5h1		A II a	四 角 形	0.89×0.84	13~17	I	1	N		覆土層にカーボン少量含まれる。	Fig76	
S K 347	C5h1, j1	N-85° E	A I a	楕 円 形	1.15×1.02	31~36	I	1	1	N	1期	覆土層に炭灰を含む少量の灰塵が混入している。	Fig101 Pl.345
S K 348	C5c2		*	*	1.72×1.3	25~24	III	1	N			Fig29	
S K 349	C5a1	N-62° W	E I a	*	1.83×1.07	20	II	1	N	△	長方形の土跡により覆土されている。	Fig129	

道標番号	地区	主軸	形態	平面形	規模		各部の状況		備	時	考	関連図説
					平面(m)	高さ(m)	礎	礎				
S K 350	C140	N-21° E	A I a	楕円形	1.43×1.12	18-21	Ⅱ	1	Ⅱ	Ⅲ型		Fig60 Pl.345
S K 351	C5e1	N 71° E	#	#	1.2×0.84	10-12	Ⅱ	1	Ⅱ	N	東面にみられるピットは比較的 深い。	Fig60 Pl.347
S K 352	C5M1, b2		B I b	#	1.56×1.14	57	Ⅰ	1	Ⅰ	N	S K 344と重複し本標の方が高 い。	Fig116
S K 353 A	C4d0	N-5° E	D I a	長方形	2.1×1.5	29	Ⅰ	1	Ⅰ	N	遺物に泥れ込みのものと思わ れる。	Fig149
B	#	N 3° E	A II b	楕円形	0.9×0.85	56	Ⅰ	3	Ⅲ	N		Fig149
S K 354	C140, B3		D I a	長方形	1.48×1.23	19	Ⅰ	1	Ⅰ	N		Fig102
S K 355	C5e1, f1	N-45° E	#	(長楕円形)	1.85×1.0	16	Ⅰ	1	Ⅰ	N	△	Fig102 Pl.379
S K 356	C4B0		A I a	楕円形	1.45×1.05	33	Ⅰ	1	Ⅰ	H	△	Fig60
S K 357	C40	N-77° E	#	#	1.13×0.8	12-15	Ⅱ	1	Ⅱ	N		Fig60
S K 358	C4g0	N-27° W	A II a	#	2.3×1.62	20-40	Ⅰ	3	Ⅲ	N	△	Fig60 Pl.348
S K 359	#	N 41° W	A II a	#	0.85×0.6	12-40	Ⅰ	2	Ⅰ	N		Fig77
S K 360	#	N-27° W	A I a	#	1.25×0.78	10-12	Ⅱ	3	Ⅰ	A	△	Fig60
S K 361	C4h0, g0		A I a	#	1.67×1.32	78	Ⅱ	2	Ⅰ	N	△	Fig59
S K 362	C4h0, g3		D I a	長方形	1.7×1.65	20	Ⅱ	3	Ⅲ	N	△	Fig102
S K 363	C4B0	N-82° W	A II a	楕円形	0.9×0.68	20-24	Ⅰ	1	Ⅰ	N		Fig77
S K 364	C4h0, j0	N-3° W	A II a	#	2.0×1.65	30-33	Ⅰ	3	Ⅰ	N	△	Fig63 Pl.36-38
S K 365	C4h0		A II a	#	0.7×0.7	12-14	Ⅰ	1	Ⅰ	N		Fig77
S K 366 A	C4h0, g0	N-45° E	E I a	不定形	1.32×0.8	9	Ⅱ	1	Ⅰ	N	△	部分的に埋没をうけている。 Fig149 Pl.331
B	#		B I b	円形	1.12×1.12	54	Ⅰ	1	Ⅰ	N	△	Fig149
S K 367	C419		A I a	#		45-50	Ⅰ	1	Ⅰ	N		上層サブリングを兼ね Fig60 Pl.352
S K 368 A	C4g1	N-65° E	E I a	不定形	1.04×0.77	12	Ⅱ	1	Ⅰ	N	△	形態は(C1b)とも思われる。 Fig66 Pl.30-34
B	#		B I a	円形	1.4×1.21	47	Ⅰ	1	Ⅰ	N	△	遺土中に分銅型分銅が出土。 Fig66 Pl.30-34
S K 369	B4J4		A II a	楕円形	0.95×0.85	8-15	Ⅰ	3	Ⅲ	H		Fig77
S K 370	#	N-8° E	E I a	不定形	1.2×0.85	35	Ⅱ	3	Ⅲ	H		東壁に方形の礎り込みがみら れる。
S K 371	B4i3, h	N 10° E	E I a	不定形	1.87×1.05	46	Ⅱ	1	Ⅰ	N		礎土上層に埋没がみられる。 Fig129
S K 372	B4i3, g3		F I b	#	1.06×0.88	15-75	Ⅰ	3	Ⅲ	N		不定形の張り込みがみられる。 Fig130
S K 373	C4e4, B4J4		A I a	楕円形	1.64×1.24	35-40	Ⅱ	3	Ⅲ	N		Fig60
S K 374	C4e4	N 7° W	D I a	長方形	1.52×1.37	32	Ⅱ	3	Ⅲ	N		Fig100
S K 375	C4e4	N 8° W	#	#	1.68×0.86	31	Ⅱ	1	Ⅱ	N	△	Fig100
S K 376 A	C4e3, a4	N-24° W	D I a	#	1.5×1.1	19	Ⅰ	4	Ⅰ	N	△	ピットは本跡より新しい。 Fig149
B	#		D I b	#	1.12×0.76	20	Ⅰ	1	Ⅰ	H	△	Fig149
S K 377	B4J6		D I b	#	1.77×1.47	05	Ⅰ	3	Ⅱ	N	△	壁は円筒状をなしている。 Fig116
S K 378	C4e3, b3	N-50° E	D I a	#	1.75×1.7	40	Ⅱ	3	Ⅲ	N	△	壁は四角となる。 Fig100
S K 379	B4J3		B I b	(円形)	1.2×1.1	105	Ⅰ	1	Ⅰ	N		平面形あるいは方形の礎。 Pl.355
S K 380	#	N-30° E	E I a	不定形	1.24×0.77	23	Ⅱ	3	Ⅲ	N	△	S K 391と重複し本標の方が 深い。
S K 381	B4J2	N-56° W	E II a	#	2.95×1.24	28	Ⅱ	3	Ⅲ	N		
S K 382	B4J2, i2		B I a	円形	1.2×1.2	40	Ⅱ	1	Ⅰ	N		Fig149
S K 383	#		C I b	#	1.35×1.09	42	Ⅰ	1	Ⅰ	N	△	Fig149 Pl.356
S K 384	B4I2	N-36° W	D I a	長方形	1.18×0.82	34	Ⅱ	1	Ⅰ	N		
S K 385	B4I1	N 47° W	#	#	1.61×0.80	27	Ⅱ	1	Ⅱ	N	△	
S K 386	#	N-58° W	A II a	楕円形	0.75×0.59	12-15	Ⅰ	3	Ⅰ	N		Fig77
S K 387	#		A I a	#	1.12×0.95	20-24	Ⅰ	1	Ⅰ	N	△	Fig60 Pl.357
S K 388	B4I1, i2	N 36° W	E I b	不定形	1.78×1.15	65	Ⅱ	3	Ⅲ	N	△	Fig138

遺構番号	地区	主軸	形態	平面形	規模		各部の状況			構造	時期	備考	関連図表
					長さ(m)	幅(m)	壁	礎	土				
SK 389	C4a2		B1b	円形	1.33×0.95					N		覆土層に覆瓦が入る。	Fig69
SK 390	C4a3	N 4° E	B1a	*	1.09×0.99	21	1	3	2	N			
SK 391	B4j3	N-69° W	A1a	楕円形	1.05×1.05	35	1	1	1	N	△	SK389より本跡は新しい(SK01より古い)。	
SK 392	C4a1, B4j1	N-72° E	B1a	不定形	1.79×1.28	41	II	2		A		覆土中に多くのロームブロックを含む。	
SK 393	C4a1, a2	N 78° E	D1a	長方形	1.32×0.8	20	I	1	1	N			Fig103
SK 394	C4a2, b2	N 37° W	A1a	楕円形	0.8×0.56	12~14	II	3	2	N			Fig77
SK 395	C4b2	N-90° E	D1a	長方形状	1.51×0.69	25	I	3					Fig103
SK 396	C4b1		B1a	円形	1.33×1.06	42~46	I	1	1	A			Fig67
SK 397	*		A1a	*	1.08×0.89	10~12	II	2		N		床中央の跡は階段による。	Fig77
SK 398	C4b2, c2	N-35° E	A1a	楕円形	1.31×0.94	5~8	I	1	1	N			Fig60
SK 399	C4a2	N-30° W	(B1b)	*	1.37×0.95	67	I	1	1	N		SK404と重複し本跡の方が新しい。	
SK 400	C4a2, B4j2	N-45° W	(B1a)	*	(0.7)×1.0	43	I	1	1	N			Fig174
B	*	N-67° W	D1b	長方形	4.17×1.86	105	I	1	1	△		西にSK406が検出している。	Fig174
SK 401A	C3j3		(B1b)	(楕円形)	1.27×1.15	-62	I	1	1	N			Fig69 Pl.328
B	*	N-87° W	B1b	楕円形	1.56×1.46	75	I	1	1	N	1期	覆土下層に60cm厚は電線跡の痕跡	Fig69
SK 402	C5a1, j2	N 31° E	A1a	*	1.97×1.8	46~48	II	+1	1	△		遺物は覆土中からのもので多く鳥獣骨が出土	Fig60 Pl.329-330
SK 403A	C5j1, j2		Z	不定形	1.46×(0.1)	23	II	3	1	N		浅いピットがみられる。	Fig151
B	*	N-16° W	B1b	楕円形状	1.52×1.38	62	I	1	1	N	△	円柱状をなしている。	Fig151
SK 404	C4a2, a3	N-22° W	G1b	長楕円形	3.22×0.8	113	I	1	3	N		1ピット状で開口幅60cm、奥部幅20cm	Fig174 Pl.330-341
SK 105A	B4j1		E1b	不定形	1.66×1.33	43~62	II	2		△			
B	*	N 37° E	A1a	(楕円形)	1.03×0.93	47	II	1				SK392と重複する。	
SK 406	B4i6	N-73° E	D1a	長方形状	1.72×0.96	19	II	2	1	N			Fig103
SK 407	B4j6		B1a	円形	1.56×1.4	38	I	1	2	N	△	S1023の南西にあり壁にピットがみられる。	Fig67 Pl.361
SK 408	B4j6	N-76° W	A1a	楕円形	0.93×0.81	18~20	I	1	1	△	前期		Fig77
SK 109	B3j8	N-67° W	D1a	長方形	1.6×1.13	27	III	1		N	△		Fig103
SK 410	B3j7, j8	*	*	*	1.45×1.0	20	III	1		N	△	S1032と重複し本跡が新しい。	Fig103
SK 411	B3j9	N-58° E	*	楕円長方形	1.88×1.52	32	II	1		N	△	部分的に覆瓦がみられる。	Fig103 Pl.362
SK 412A	B4i0, j0	*	*	長方形	1.11×0.85	20	I	1	1	N		芝草に壁の残り込みがみられる。	Fig103
B	*	N-41° W	*	*	1.09×0.58	32	II	2	1	N		床中央はやや凹みをなす。	Fig103
SK 413	B4i0		A1a	円形	0.94×0.85	13	I	1	1	N			Fig77
SK 414	*	*	*	*	0.63×0.46	24~27	I	1	1	N		SK415と重複し本跡の方が古い。	Fig77
SK 415	*	N 12° E	E1a	(楕円形)	1.38×0.86	46	I	3	2	N		ピットはSK415より新しい。	
SK 416	C4e0	N-70° E	G1b	長楕円形	3.14×1.3	73	I-0	1		N		1ピット状で開口幅3.5×1.4m	Fig173 Pl.365
SK 417	C4d0, e0	N 53° E	D1a	楕円長方形	1.9×1.36	25	III	1		N			Fig104
SK 418	C4f9	*	*	長方形状	1.12×1.08	29	II	1		N			Fig103
SK 419	C4e0	A1a	円形	1.1×1.02	21~23	I-0	1			N		床中央付近は覆瓦をうけている。	Fig60
SK 420	C4e0	*	*	楕円形	1.4×1.11	18~22	II	2		N			Fig61
SK 421	C4f0, e9	*	*	*	1.7×1.45	26~23	I	1		N	△		Fig61
SK 422	C4d8	D1a	長方形	1.51×1.1	23	II	1	2		N		覆土は瓦葺で新しい時代の所産	Fig103 Pl.376
SK 423	C4d8	A1a	楕円形	1.36×1.28	8	I	1			N			Fig61
SK 424	C4d0, e0	N-68° W	E1b	不定形	2.83×1.79	73	I-0	2		△		SK032と重複し本跡が新しい。	Fig160
SK 425	C4e0	N-7° E	E1a	*	0.89×0.78	(20)	II	2	3	N		ピットはS1034との関係がみられる。	
SK 426	C4a6	D1a	楕円長方形	1.62×1.49	30	II	1	1		N	△		Fig104

遺構番号	地区	方位	形状	平面形	風		各部の状況	層	用途	備考	関連図表
					平面(m)	厚高(m)					
S.K. 427	Bt6, J7	N-2°E	D I a	長方形	1.94×1.36	57	I 1 1	I 1	N	図形に不定形の遺りみられる。	Fig117
S.K. 428	C466	N 20°E	A I a	隅四角	1.13×0.74	15-18	II 1	N	N		
S.K. 429	C466, B9	N-70°E	D I a	*	1.32×0.95	27	III 1	N	N		Fig104
S.K. 430	C467	N-88°E	A II a	*	0.69×0.74	18-20	II 2	N	N		Fig77
S.K. 432	C468, B	N-38°E	D I a	長方形	1.57×1.28	27	II 1	N	▽ △		Fig104
S.K. 433A	C468	N-49°W	D I a	*	1.88×1.2	26	II 2	N			
B	*		D II b	方形	0.95×0.7	86	I 1	N			
S.K. 434	C469	N 30°W	A II b	隅形	1.1×1.0	12-15	I 1	N	N		Fig77
S.K. 435	C469, g9		D I a	長方形	1.59×1.54	95	I 1 1	N	N	ピットは本跡より新しい。	Fig104
S.K. 436	C469		A I a	隅四角	1.17×0.93	16-20	II 2	66	△	掘り出しや敷瓦である。	Fig61
S.K. 437	C469, h4		A I a	*	1.77×1.15	22-25	II 2	85			Fig60
S.K. 438	C468	N-27°E	A II a	不定形円形	0.84×0.6	22-32	II 2	N	N	掘り出しによるものか。	Fig77
S.K. 439	*		D I a	隅長方形	1.1×1.02	*	III 1	N			
S.K. 440	*	N-48°E	A I a	隅四角	1.15×0.9	10-15	II 2	N	N	掘り出し部分のみみられる。	
S.K. 441	C469	N-50°E	D II a	長方形	0.95×0.75	13	III 2 1	66		方形のピットは本跡より新しい。	Fig120
S.K. 442	C468, 29		A I a	隅四角	1.11×0.88	8-12	II 1	N	N	ピットは本跡より新しい。	
S.K. 443	C468, 48		J	円形	0.47×0.46	35	I 1	66	目録	S1034の前部に位置する。	Fig69 PI.369
S.K. 444	C467		J	*	0.41×0.36	38	I 1		*		Fig68 PI.368
S.K. 445	*		J	*	0.38×0.36	23	I 1		*	S1037の北東コーナーに位置する。	Fig69 PI.370
S.K. 447	C467	N-38°W	A II a	隅四角	0.8×0.7	10	II 2 1	N		S1032より新しい。	Fig77
S.K. 448	*		D II a	不定形	1.03×0.7	14-30	III 2 2	N	△	*	Fig130
S.K. 449	C465		A II a	長方形	0.84×0.66	22-26	III 3		△	*	Fig77
S.K. 450	C465, h5		E III a	不定形	2.32×2.05	45	III 1 1	26	III 3	地上に一部だけ残して地上している。	Fig148
S.K. 451	*		*	*	2.13×1.49	27	III 3	N	△	部分的に掘り出される。	Fig143 PI.366-67
S.K. 452	C465		D I a		1.09×1.01	35	III 1 1	N	△	床面が小規模のものか地上。	Fig104 PI.367
S.K. 453A	*	N 36°W	E III a	不定長方形	2.06×1.5	20-30	III 3	A	△	A. 目の前跡部は不明瞭である。	PI.267
B	*		D I b	長方形	1.0×0.8	85	I 1		△		PI.367
S.K. 454	C465, C5	N 14°E	E I a	不定形	1.69×0.9	51	III 3 2	66	△	方形のピットにしっかりとっているが形跡不明	Fig120 PI.263
S.K. 455	C464, 35		A I a	不定形円形	1.2×1.0	13	III 3 3	N			Fig61 PI.367
S.K. 456	C465	N-56°W	D I a	長方形	1.38×0.77	20	II 1 1	N			Fig104 PI.372
S.K. 457	C464, c5	N-60°E	D II a	*	2.66×1.0	13	I 1 7	N	△	遺構の大きなピットは新しい。	PI.374
S.K. 458	C464, 26	N-40°E	E I b	不定長方形	1.8×1.53	30	I 1 1	N	△	北東部の隅形ピットは本跡より新しい。	Fig138
S.K. 459	C464, d5	N 07°E	E I a	不定形	1.96×1.14	18	I 1 2	N	△	東部に隅形ピットは本跡より新しい。	Fig130 PI.375
S.K. 460	C464, 34	N-27°W	A I a	隅四角	1.17×0.94	20-26	I 1	N		S1033の中央や南東隅に位置する。	Fig61
S.K. 461	C464, 54	N-3°E	E III a	不定形	3.1×1.3	21	III 3 4	N	△	大小のピットは本跡より新しい。	
S.K. 463	C464	N-17°E	E I a	*	1.35×0.66	18-26	I 3 1	H		ピットはS1031に近い0.8mの柱と見られる。	Fig130 PI.373
S.K. 464	*		A II a	隅四角	0.82×0.74	15-18	II 3	N	△		Fig77
S.K. 465	*	N-38°W	*	*	1.12×0.68	24-25	II 2	N			Fig61
S.K. 466	C469		E III b	不定形	3.64×1.99	156	III 2	66		S1040と重複し、本跡の方が新しい。	Fig169
S.K. 467	C463		D I a	隅長方形	1.0×0.89	28	I 1	N			Fig103 PI.378
S.K. 468	C463, c3		A I a	隅形	1.17×1.15	20-27	I 1	66	△	南壁の隅やオープニングのみみられる。	Fig61
S.K. 469	C464	N-0°E	D II a	不定形	1.9×0.62	28	I 1 3	N		方形の遺構より、ピットは本跡より新しい。	Fig139
S.K. 470	C467	N-57°E	D II a	長方形	0.94×0.74	6-43	I 1 1	66			

遺構番号	地区	土 輪	形 態	平 面 形	規 模		各部の状況			層 土	時期	備 考	関連図版
					下 面 (m)	壁 礎 (cm)	壁 床	ピ ン 数	備 考				
S K 471	C4c5, c6	N-70°E	D I a	長 方 形	1.42×1.1	46	II	3	2	N	△	北壁をSK472によって切られている。	Fig104
S K 472	C4c5, b6		*	*	1.53×1.0	20	II	1	2	N	△		PL380
S K 473	C4b5, b6		*	*	1.7×1.27	25	I	3	2	N	△		Fig104
S K 474	C4f7	N-13°W	B 1 b	楕 円 形	1.67×0.87	50-56	I	1	1	NO	△	長方形の土溝が南に張り込んでいる。	Fig89
S K 475A	C4g7	N-69°W	A I a	*	(0.75)×0.88	14-20	II	1	1	N	△		
B	*		B II b	*	0.92×0.6	65-68	I	3	3	N	△		
S K 476	*	N-11°E	D III a	長 方 形	2.78×1.57	20	I	1	1	N	△	ピットは本跡より新しい。	Fig160
S K 477	*		D I a	長 方 形	1.38×1.32	35	I	1	1	N			Fig104 PL381
S K 478	C4g6, g7		*	楕 円 長 方 形	1.43×1.04	30	I	1	2	N		南東壁に2ヵ所のピットがみられる。	Fig105
S K 479	C4c2		B 1 a	四 角 形	0.92×0.43	35	I	1	1	N		SK480と重複し、北東壁を本跡が切っている。	Fig150
S K 480	*	N-46°E	D I a	楕 円 長 方 形	1.69×1.39	14	I	1	1	N	△	本跡はSK479よりよく、西壁に張り込みがある。	Fig150 PL382
S K 481	C4c2, c3		E III a	不 定 形	3.03×(1.4)	32	III	2	4	NO	△		Fig169
S K 482	C4c2	N-80°E	D I a	長 方 形	1.13×0.68	17	I	1	2	N	△	ピットは本跡より新しい。	Fig105
S K 483	C4c1, d1	N-34°W	A I a	楕 円 形	1.5×0.84	20	II	2	2	N			
S K 484	*	N-53°W	E I a	不 定 形	1.13×0.74	17	III	2	1	N			
S K 485	C4c1		E I b	四 角 形	1.16×1.02	53	III	1	1	NO	△	壁はわずかにオーバーハンズさみとなる。	PL383
S K 486	*	N-38°E	E I a	不 定 形	1.33×0.78	21	III	3	3	N		楕円形と方形の重複が考えられる。	
S K 487	D4b, c0		B 1 b	楕 円 形	1.41×1.23	70-85	I	1	1	A	△	SI029より新しくピットはSI075のものか。	Fig90
S K 488	R4j1	N-67°E	D II a	長 方 形	0.8×0.48	11	III	1	1	N			Fig121
S K 489	*	N-8°E	A II a	四 角 形	0.84×0.57	10-12	II	1	1	N			Fig78
S K 490	*	N-66°E	D I a	長 方 形	1.38×0.66	21	III	1	1	N		ピットは本跡より新しくSI029の可能性がある。	Fig105 PL384
S K 491	C4e9		B 1 a	四 角 形	0.92×0.59	24-28	I	1	1	N	重複△	SI033の壁を切り、北壁に透射穴あり。	Fig92
S K 492	H4j9		A 1 b	*	1.24×1.2	53	I	1	1	N		北より重複53から、中段より外反がみられる。	Fig104 PL385
S K 493	C4d1, e4		J	*	0.73×0.48	23	I	1	1	NO	II	SI040の南の位置している。	Fig109 PL386
S K 494	C4c2, d2		A II a	四 角 形	0.94×0.92	14-22	II	1	2	NO		床は西に傾斜している。	Fig77
S K 495	C4c3, d3	N-51°E	E I a	長 楕 円 形	1.75×0.68	22	III	2	1	NO	△		Fig130
S K 496	C4d3	N-82°E	D I a	長 方 形	1.47×0.83	12-32	II	1	2	N	△	ピットは本跡より新しく、SI056-040のものか。	Fig103 PL387
S K 497	C4a1		E III b	不 定 形	2.1×1.55	25	III	3	2	NO			
S K 498	C3d1, b0	N-22°W	A I a	楕 円 形	1.07×0.62	13-18	II	1	3	N		女輪壁に切っさつたピットが並ぶ。	Fig138
S K 499	*	N-39°W	E 1 b	不 定 形	1.62×1.15	71	III	2	2	N			
S K 500	C3e5, a9		D I a	長 方 形	1.65×0.93	38	III	3	3	NO		覆土は軟質である。	
S K 501	*		A II a	楕 円 形	0.52×0.73	8-12	III	3	2	NO		現況によるものか。	
S K 502	C3a9	N-79°E	D I a	長 方 形	1.08×0.81	51	III	1	1	N			Fig105
S K 503	C3a9		D 1 b	*	1.2×1.1	63	III	3	3	NO		覆土は軟質である。	Fig117
S K 504	C3a5, b9		D 1 a	*	1.4×1.1	34	III	3	3	A			Fig105
S K 505	C3a9	N-39°E	D III a	*	2.86×2.17	66-88	III	1	1	N	△	北壁はゆるい傾斜を示している。	Fig100 PL388
S K 506	C3a9		E III a	不 定 形	2.44×1.0	32	I	2	1	N			Fig160 PL389
S K 507A	*	N-16°E	D II a	方 形	0.9×0.86	36	I	1	1	N			Fig135
B	*		D 1 a	*	1.24×1.02	35	III	3	3	A			Fig105
S K 508	*	N-12°W	A 1 a	楕 円 形	1.2×0.75	25	III	3	3	NO		大部が覆土をうけている。	
S K 509	*		D 1 a	長 方 形	1.47×1.2	35	I	3	1	N		ピットは本跡より新しい。	
S K 510	C3a7, a8	N-73°W	A II a	長 方 形	0.9×0.7	14-32	I-III	1-3	1	N		部分的に覆土がみられる。	Fig78
S K 511	*	N-80°W	A II a	楕 円 形	0.6×0.39	12-18	III	3	3	A			Fig79

道庁番号	地区	主軸	形	形	平面形	面積		基壇の状況		階上	坪数	備考	備考	関連図			
						平面(m ²)	基礎(m ²)	壁	柱								
S K 512	C3a8, b8	N-69°W	E I a	不定形	0.6×0.39	21	II	2	A					覆土は敷設で不連続している。	Fig130		
S K 513	"	N-5°E	"	"	1.52×0.52	14	II	3	A					"	Fig139		
S K 514A	C3a7	"	"	"	(1.6)×1.42	25	II	3	N								
B	"	"	A I a	四角形	1.05×1.04	33	II	2	N								
S K 515	C3a6	N-9°W	Z	"	1.03×0.8	40	II	1	N						覆土はAK06が連続している。	Fig150 Pl.300	
S K 516	"	"	E III a	不定形	2.3×1.52	43	II	3	N	△					覆土はAK06が連続している。	Fig150 Pl.300	
S K 517	C3a7	N-68°E	A I a	楕円形	1.02×0.73	5-8	III	3	"						覆土によるものか。		
S K 518	C3a7, b7	N-63°E	D I a	長方形	1.3×0.7	15	II	2	Z	N						Fig160 Pl.301	
S K 519	"	"	B II a	楕円形	0.82×0.4	45	I	1	NO						覆土は敷設である。		
S K 520	C3a7	N-75°E	E I a	不定形	1.3×0.8	10-42	II	3	A						北水壁に塗土のみられる。	Fig130	
S K 521	C3a6	N-60°E	D III b	長方形	2.1×1.5	60	I	1	N	△					覆土は打穿、石壁が毎1点出下	Fig127 Pl.302	
S K 522	C3a6	"	D I a	"	1.1×1.08	55	II	3	I	N							
S K 523	C3a6	"	E I a	不定形	1.65×0.88	20-32	II	3	Z	N						ピットは覆土によるもの。	
S K 524	"	N-57°W	E I b	長方形	1.43×1.0	39	II	2	NO	△					覆土は不連続である。		
S K 525	"	N-14°W	"	長方形	1.6×1.1	63	I	1	N	△					SK021と重複する箇所は不連続	Fig117 Pl.305	
S K 526	C3a8	N-65°E	G III b	長方形	3.45×1.05	93	I-II	2	N	△					壁は厚125.38×0.48m、水中にゆるい地質。	Pl.303	
S K 527	"	"	D I a	楕円形	1.06×1.0	13-23	I	1	N	△					覆土は中1歩留の覆土柱を突き	Fig106 Pl.304	
S K 528	"	N-64°W	A II a	"	0.7×0.52	15-20	I	1	NO						覆土、床とも敷設である。	Fig77	
S K 529	C3a9, e9	N-30°W	A I b	"	1.62×1.6	45-52	II	3	N						覆土は敷設である。	Fig74	
S F 530	"	"	A II a	"	1.0×0.85	20-25	II	3	Z	N					"	Fig78	
S K 531	C4f5	"	D II a	楕円形	0.96×0.82	28	II	1	N								
S K 532	"	"	B II a	楕円形	0.97×0.85	29	II	1	N								
S K 533	C4e3, f3	N-31°W	D I a	長方形	1.41×0.95	21	I	1	N								
S K 534	C4e3	N-34°E	A I a	長方形	1.3×0.69	33	I	1	I	N					壁に鉄筋が	Pl.309	
S K 535	C3a8	N-54°W	A III a	長方形	2.08×1.2	33-39	I	3	N						北側に階段をなす。	Fig83	
S K 536	"	N-49°E	D I a	方形	1.32×0.85	43	I	3	NO						覆土は敷設である。	Fig153	
S K 537	"	N-16°W	D III a	長方形	2.3×1.33	70	II	3	N	△							
S K 538	C3a7	"	D I a	"	1.95×1.4	49	I-II	2	N	△							
S K 539	"	"	A II a	楕円形	0.95×0.9	15-20	I-II	3	N						床面に覆土がみられる。	Fig78	
S K 540	C3a6, b7	"	A I a	"	1.1×1.06	15	II	1	Z	N					ピットは床より新しい。	Fig84	
S K 541	C3a6	"	"	"	1.5×1.44	66	II	3	N						SK042と重複し、不連続の箇所が多い。	Fig150	
S K 542	C3-6, 46	N-63°W	"	"	1.0×0.85	22	II	1	N								
S K 543A	C3a7	N-55°E	D I a	長方形	1.17×1.03	37	I	1	N								
B	"	"	Z	1×1	0.87×0.7	42	II	3	NO								
S K 544	"	N-2°W	A I a	楕円形	1.3×0.91	33	III	2	NO						床中に覆土がみられる。		
S K 545	C3a7, d9	N-65°W	D III b	長方形	2.14×1.46	92	I	1	N	△							
S K 546	C3a7	"	A I a	楕円形	1.3×1.2	33	I	3	N								
S K 547	C3a9	"	A II a	"	0.84×0.82	18	I	1	NO								
S K 548	"	N-32°W	D I a	長方形	1.05×0.87	41	I-II	2	N								
S K 549	C3a6, d7	N-59°E	"	"	1.46×0.96	19	I	1	N	△							
S K 550	C3a6	N-47°E	D III b	"	2.04×1.37	77	I	1	N								
S K 551	C3a9, d9	"	A II a	楕円形	0.92×0.89	12-15	I	1	I	N	△						
S K 552	C3a9, d9	"	D I a	長方形	1.33×1.07	15	I	1	N								

調査番号	基 礎	主 軸 形 態	平 面 形	尺 寸		各部の状況			備 考	調査団名	
				平 面 (m)	壁厚(m)	基 礎	土 質	七 土			
S K 553 A	C340	N-11° E	E I a	不定形	1.76×1.22	30	II	1	N	Fig99 PL407	
B	#		D II b	方 形	0.9×0.74	71	I	1	N	Fig99 PL407	
S K 554	C349, 40	N-63° E	E I a	不定形	1.37×0.9	10	II	1	N	Fig130	
S K 555	C340	N-42° E	A II a	楕円形	0.87×0.73	20-22	II	1	N	ピットは遺構と同時期であらう。	
S K 556	C340, 40	N-73° W	A I a	#	1.26×0.96	18-28	I	3	A	Fig101 PL408	
S K 557	C441	#	#	#	1.2×0.96	4-8	I	1	N	Fig101	
S K 558	C421, e1		A II a	#	0.95×0.86	16-18	I	1	N	Fig76	
S K 559	C340, 40	N-21° E	D I a	長方形	1.13×0.86	33	I	1	N	Fig105	
S K 560	C340, C441	N-76° E	E I a	扇形状	1.22×0.5	11	I	1	N	ピットは同時期のものか。	
S K 562	C340		A II a	円 形	0.97×0.9	15-21	II	3	N	覆土はやや軟弱である。	
S K 563	C340, 40		A I a	楕円形	1.03×0.91	12-16	I	1	N	SK1014と重複し本跡の方が新しい。	
S K 564	C340	#	#	#	1.29×1.14	28-30	II	2	N	Fig101	
S K 565	#		D I b	円 形	1.22×1.09	42-52	I	1	N	Fig90	
S K 566	C349, 40	N-27° E	D I a	長方形	1.30×0.9	16	I-II	1	N	Fig78	
S K 567	C349		A II a	楕円形	0.84×0.75	7-10	II	1	N	Fig120	
S K 568	#		D II a	長 方 形	0.78×0.65	13	I	1	N	Fig120	
S K 569	C348	N-50° E	#	#	0.98×0.71	9	I	1	N	Fig120	
S K 570	C347, e8	N-44° W	A II a	楕円形	0.50×0.92	34-38	II	1	N	Fig78	
S K 571	C348, e8	N 1° W	E I b	不定長方形	1.58×1.02	58	II	2	N	SK576と重複し本跡の方が古い。	
S K 572	C348, e9		E I a	#	1.18×0.84	6	III	3	OC	SK1041より本跡の方が古い。	
S K 573	C349	N 92° E	D I b	長 方 形	1.78×1.29	92	I	1	A	Fig117 PL402	
S K 574	C348		A II a	楕円形	0.95×0.82	43-47	I	1	N	Fig78	
S K 575	C349	N 46° W	A I a	#	1.07×0.68	18-23	II	2	N	裏面にみられる掘り込みは新しい。	
S K 576	C348	N 47° E	E I b	#	1.19×0.98	43-50	I	1	N	SK571と重複し本跡の方が新しい。	
S K 577	C348		D II a	長 方 形	1.0×0.82	38	III	2	N	床は南に傾斜を示している。	
S K 578	C349	N-16° E	D I a	#	1.29×0.81	23	III	1	N	Fig120 PL403	
S K 579 A	C348, 40	N 24° E	F I a	不定形	(0.94)×1.3	36-46	II	3	N	納付関係はそれほど明確ではない。	
B	C349	N-24° E	D II b	楕円形	0.92×0.72	84	I	1	N	Fig160 PL404	
S K 580	C349	N-25° E	D I a	長 方 形	1.87×1.03	10-20	III	-1	N	SK591と重複し本跡の方が古い。	
S K 580	C445		D II a	楕円形	0.97×0.78	12	II	1	N	ピットは本跡より新しい。	
S K 581	C349, 40		D I a	長 方 形	1.4×0.88	60	II	1	A	PL405	
S K 582	C348, 48	N 30° E	D II a	方 形	0.96×0.77	24	I	2	N	Fig160 PL404	
S K 583	#	N-37° E	E I a	不定形	1.38×0.74	22-26	III	3	N	ハ	
S K 584	C445		J	円 形	0.78×0.72	30	I	1	N	II期 Fig189 PL409	
S K 585	#		Z	不 規 則	1.07×0.73				△	つぶれた状態で遺物のみ出土。 Fig160	
S K 586 A	C349, 49		E I a	不定形	1.27×1.1	28	II	1	N	形態はC10の可能性がある。	
B	#		D II b	方 形	0.68×0.65	74	I	1	N		
S K 587	C348		E II a	不定形	0.72×0.57		II	2	N	覆土によるものか。	
S K 588	C349		C I a	楕円形	1.3×0.78	42	I	1	N	重複しているがほぼ同時期。	
S K 589	C441		D II b	不定形	3.3×2.28	30	II	1	I-4	N	本跡は仕舞より新しいがピットはSK0060。
S K 600	#		D I a	扇形状	1.95×1.44	34	I	1	N	△ Fig195	
S K 601 A	C340, 40	N-49° E	E II a	不定形	2.3×1.8	18-30	II	1	N	Fig150 PL411	
B	#		A I a	楕円形	1.14×0.98	33	II	2	N	△ Fig150 PL411	

遺構番号	地 区	主 軸	形 態	平 面 形	規 模			各部の状況	敷 土	時 期	備 考	関連図版
					平 面 (m)	壁 高 (m)	床 高 (m)					
S K 602	D3d9	N 70° E	F I a	不 定 形	2.08×1.34	45	II 1 1	N	△	床中央に施土がみられその東西に溝が入る。	Fig112 PL412	
S K 603	D3d5, d0	N-80° E	A I a	楕 円 形	1.83×1.48	29~31	II 1	N			Fig62	
S K 604	D3d4, d9	N-15° W	D I a	長 方 形 状	1.83×1.36	31	II 1	N	△		Fig106	
S K 605	D3c9, e0	N-5° E	D I a	長 方 形	1.27×1.04	20	II 2	N			Fig105	
S K 606	D3d8, b9		H I b	円 形	1.07×0.96	70	II 1	N		床付近で僅かに敷土をみしている。	Fig175 PL415	
S K 607	D3d8	N-67° E	D III a	長 方 形 状	2.31×1.47	30	II 1 4	N		ピットは埋土によるものか。	Fig122	
S K 608	D3d7, d8	N-43° E	*	長 方 形 状	2.45×1.75	35	II 1	N	△		Fig123	
S K 609	D3d7	N 70° W	E III a	不 定 形	2.45×1.22	15	II 1 2	N	△	ピットは埋土によるものか。	Fig141	
S K 610	D3d9	N-56° E	D I b	長 方 形	1.46×1.17	63	II 1	N		覆土上層に砂質粘板岩の砕石が出土。	Fig117	
S K 611	D3d8	N-53° W	D I a	*	1.4×1.32	35	I 1	N			Fig106	
S K 612	D3c7	N-28° W	*	*	1.56×1.06	25	II 1	N	△		Fig106	
S K 613	D3e6	N-90° E	*	長 方 形 状	1.67×1.07	41	II 1	N	△			
S K 614	D3d6, e7		A I a	楕 円 形	1.3×1.14	25~25	I 1 1	N	△	ピットは本跡より新しい。	Fig61	
S K 615	D3c6	N-0° E	D II a	長 方 形	1.0×0.89	30	II 1	(A) II 4		床中央付近に一括出土。	Fig120 PL414	
S K 616	D3e7, b7	N-38° W	D III a	不 定 形 状	2.27×1.39	20	II 1 2	N	△	ピットは本跡より新しい埋土。		
S K 617A	D3e9	N-84° W	D II a	長 方 形 状	1.8×1.37	20	I 1	N	△		Fig161	
B	D3b9		A I b	楕 円 形	1.27×0.87	74	I 1	N		R, Cの断面は明確ではない。	Fig161	
C	*		B I b	*	1.8×1.42	56~68	I 1	N			Fig170	
S K 618A	D3e0	N-35° E	F III a	三 角 形	4.1×3.35	28	II 1 2	N	△		Fig170	
B	*		B I b	円 形	1.2×1.2	66	I 1	N			Fig170	
S K 619	D3e5		Z (D I a)		1.55×0.9	44	II -1	N	△			
S K 620	C4f3, f4		A I a	楕 円 形	1.37×1.16	30~35	II 2	N			Fig62	
S K 621	C4d4, e4	N-62° W	*	長 楕 円 形	1.32×0.77	15~17	II 1	N			Fig62	
S K 622	C4e3, e4		E III a	不 定 形	2.38×1.23	40	II 1	(A) △			Fig143 PL415	
S K 623	D3d0		A I a	円 形	1.06×1.05	14~16	II 1	N	△	覆土上層は軟質である。	Fig62	
S K 624	*		A II a	*	0.89×0.83	24~26	II 1	N	△		Fig78	
S K 625	D3d8, b9	N-84° E	D I a	長 方 形 状	1.23×0.9	28	II 1	N	△		Fig107	
S K 626	D3d9, b0	N-84° E	D I a	長 方 形 状	1.38×0.84	30	II 1	N	△		Fig107	
S K 627	D3d9, a2	N-16° W	D I a	楕 圓 形 状	1.57×1.08	42	II 1	N	△		Fig107	
S K 628	D3e9		A I a	楕 円 形	1.42×1.61	75	II 1 2	N	△	ピットは本跡より新しい。	Fig62 PL415	
S K 629	D3d0		A I a	楕 円 形	1.07×0.96	23~25	II 1	N	△	覆土はやや軟質である。	Fig62	
S K 630	D3d3, d0		A I a	*	1.13×0.97	15~20	I 1 1	N	△		Fig62	
S K 631	D3a9		A II a	*	0.75×0.7	18~20	II 1 3	N	△	ピットは本跡より新しい。	Fig78	
S K 632	D3e9	N-6° E	A I a	*	1.37×1.11	38~40	II 1	N	△	表面乗積土あり。	Fig62	
S K 633	D3e9		A II a	円 形	0.81×0.77	20~22	I 1 1			ピットは本跡より新しい。	Fig78	
S K 634A	C3B, D3a9	N-42° W	D III a	不 定 形 状	2.2×1.74	30	II 1	N	△		Fig130	
B	*		B I b	*	1.6×1.2	52	II 1	N			Fig150	
S K 635	D3d5, e9		D I b	楕 円 形	1.2×1.02	64	I 1	N		形態的には(CB)とも思われる。		
S K 636	D3a0	N-0° E	A II a	不 定 形 状	0.97×0.66	28~30	II 2	(B) △			Fig161	
S K 637A	D3d4	N 37° W	D III b	長 方 形	2.38×(1.3)	66	I 1	N	△		Fig161	
B	*		(A I b)	(楕 円 形)	1.27×0.81	78	I 1	N			Fig161	
S K 638	D3d5, e5	N-2° E	(D III b)	*	2.5×1.53	120	I 1	N	I 1 1		Fig99 PL417	
S K 639	A3d3		B II a	円 形	1.07×0.93	31	II 1	N	△		Fig161	

遺構番号	地区	主軸	形態	平面形	規模				各部の状況	層土	時期	考	関連図版
					平面(m)	幅	壁	礎石					
S K 640	D365		(B I b)	楕円形	1.07×0.68	92	I	1	N	△		Fig161	
S K 641	D364, b5		Z	不規則	1.07×0.75	40	I	1	N		S K 637-640と重複し本跡の方が古い。	Fig161	
S K 643	D365		D II a	不定形	0.98×0.85	30	II	1	N	△		Fig120	
S K 644	D366, 17	N 61° E	E I a	不定形	1.83×0.84	16	II	1	N	△	床面内部に一掃して出土。	Fig130 PL418	
S K 645	*	N-74° E	*	*	1.9×0.98	40	II	1	N	△	S K 643と重複し本跡の方が古い。	Fig131	
S K 646	D366, 27	N-81° E	A I a	楕円形	1.62×1.19	18-25	II	1	N	II	覆々しやや敷瓦である。		
S K 648	D367, 36	N 31° E	D I a	楕円長方形	1.62×1.33	15	II	1	CO	III期	S1043の壁に接し本跡の方が新しい。	Fig107	
S K 649	D368		*	*	1.46×1.2	46	II	1	I	N	*	Fig106 PL419	
S K 650	D368, 10	N-30° W	A I a	楕円長方形	1.73×1.35	13-23	II	2	2	N	II期	S K 649に併つて、ピットは覆瓦によるもの。	Fig62
S K 651	C460	N 38° F	D I a	長方形	1.35×0.8	10-25	I	2	2	N	△		Fig107
S K 652 A	*	N-88° E	E II a	不定形	0.8×0.46	16	I	1	1	N	△		
B	*		B II a	楕円形	0.48×0.43	37	I	2	1	N	△	ピットはS1042の柱穴か。	
S K 653	*		A II a	円形	0.77×0.73	14-18	II	1	I	N		覆土中に地土を混入する。	Fig76
S K 654 A	C460, 10	N-25° W	A I a	楕円形	1.56×0(0.6)	42	II	1	I	N		S1042と重複し本跡の方が新しい。	Fig62
B	*		B II a	円形	0.82×0.82	68	I	1	I	N			
S K 655	C460, C561		A II a	*	0.93×0.85	10-15	II	1	I	N			Fig76
S K 656 A	D365, a7		E I a	不定楕円形	1.7×(1.5)	18	II	1	I	N			Fig151
B	*	N-50° E	B I b	長方形	1.48×1.9	66	I	1	CO	II期	北方より移築された状況で出土。土中の土層の混雑も考えられる。	Fig151	
S K 657	D366, c6	N-10° W	(Z) (A I a)		1.4×1.15	17	II	1	CO	△	北は覆瓦をうけアランは不明である。		
S K 658	D366		(Z) (A I a)		1.48×1.38	14	II	3	CO	△	跡はS K 657と同じ覆瓦をうけている。		
S K 659	*	N-12° W	A II a	楕円形	0.72×0.62	15-20	II	1	I	N			Fig76
S K 660	*	N-19° W	A I a	楕円形	0.82×0.66	12-23	II	2	1	N			Fig76
S K 661	*	N-86° E	A I a	*	1.39×0.77	22	I	1	1	N			Fig62
S K 662 A	C367		E II a	不定形	2.78×2.4	10	II	1	I	N			Fig98
B	C367		B I a	楕円形	(1.3)×1.3	60	I	1	I	N		東壁が今のオーブ・ハンダさみとなる。	Fig98
C	*		B I b	円形	1.36×1.3	62	I	1	I	N		形制的に(C367)の可能性あり。	Fig98
S K 663	D366		J	*	0.43×	14				III期	北は南面に傾斜を帯びている。	Fig100	
S E 664	D365, b3		A I a	円形	1.9×0.9	26-44	II	1	I	N	△		Fig62
S K 665	C367, 77	N 42° W	D I a	長方形	1.44×0.62	14	II	1	I	N			Fig107
S K 666 A	C366, 17	N-13° W	D I a	*	1.34×1.22	12-20	II	1	I	N			
B	*		A I a	楕円形	0.93×0.9	18-26	II	3	3	N		ピットは覆瓦によるものか。	Fig62
S K 667 A	C37, 18		E I a	不定形	1.3×1.2	11	II	1	I	N			Fig131
B	*		Z I *	*	1.41×1.05	35	II	2	I	N			Fig131
S K 668	C368	N-30° W	D I b	長方形	1.25×1.7	87	I	1	CO	△	覆々し前で壊。		Fig117
S E 669	C368, 18	N-6° E	A I a	楕円形	1.08×0.9	24-30	I	1	2	N		北は傾斜を帯びている。	Fig62
S K 670 A	D366		E I a	不定形	1.38×1.32	32	II	1	I	N			Fig131
B	D366		F	円形	0.56×0.43	117	I	2	I	N			Fig151
C	D368		B II b	楕円形	0.85×0.64	91	I	2	I	N	III期	遺物は覆土層上に多く出土。	Fig151
S K 671	C360, 10		J	円形	0.65×0.4	16	I	1	I	CO		口縁部を下にして埋設されている。	Fig130
S K 672	C368, 19	N-87° E	E I a	不定形	1.35×0.8	18	II	3	5	CO	△		
S K 673	C368, 6f		A II a	楕円形	2.6×2.18	7	II	1	I	N	△	ピットはS1049の可能性がみられる。	PL420
S K 674	D363, a6	N-30° W	E I a	不定形	1.7×1.1	30	II	1	1	N			Fig130
S K 675	D365	N-77° W	*	三角形	1.6×1.3	18	II	1	2	N	△		Fig131

通称番号	地区	主軸	形	平面形	規模		各社の状況		種	時期	備考	関連図表	
					中 由 (m)	壁高×床高	竣工	ビツ					
S K 676	C47		J	円形	0.94×0.9	30	1	1	N	日製	両方に吹き出しされ、両側天井、電灯は暗い。	Fig109 PL421	
S K 677	D3a	N 30° E	C II a	不定形円形	2.75×1.95	22~72	1	1	2	N	日製	円筒状で機手ノコに多く出た円部にビツ	PL422
S K 678	C38	N~40°W	D I a	長方形	1.27×1.25	25	II	3	3	A Δ		Fig106	
S K 679	C3a		A II a	楕円形	0.97×0.83	20~23	1~0	1	1	N Δ		Fig8	
S K 680	C5a		E III a	不定形	2.6×1.33	15	II	3	3	60	日一期	S1063の南西部にあり多量の土器が出た。	Fig141
S K 681	C48, 5a	N~6°W	D I a	楕長方形	1.28×1.02	24	II	3	3	N		Fig107	
S K 682	C48		A II a	楕円形	0.95×0.75	12~14	1	1	1	N		Fig79 PL423	
S K 683	C48	N~10°W	E III a	不定形	2.82×1.53	18	II	1	2	N		Fig161	
S K 684	C48, 5	N 52° W	E I a	*	1.37×0.85	41	II	1	3	N		機手はやぐ軌道である。	Fig2
S K 685	C47, 3		A I a	円形	1.13×1.0	15~18	2	1	1	N		Fig2	
S K 686	C47, 6		*	楕円形	1.5×1.34	15~18	II	3	3	N			
S K 687	C48		A II a	円形	0.64×0.6	*	1	1	1	N		ビツは本機より新しい。	Fig79
S K 688	C48	N~30°E	F I a	不定形	1.19×0.7	21	II	3	3	N		Fig130	
S K 689	C48		A II a	楕円形	0.8×0.65	25~28	II	3	3	N		床中央の凹は機手による。	Fig79
S K 690	C47		*	*	0.81×0.74	18~24	1	3	3	20		*	Fig79
S K 691	C47		*	円形	1.0×0.3	15~17	1	3	3	N			Fig79
S K 692	C47		*	楕円形	0.95×0.92	22~26	1	1	1	N			Fig79
S K 693	C47	N~60°E	A I a	*	1.2×0.95	13~19	1	1	1	N			Fig2
S K 694	C47, 17		*	*	1.17×1.07	15~18	1	1	1	A			Fig2
S K 695	C46	N~82°E	E I a	不定形	1.7×1.1	34	1	3	3	A Δ		S K 700と共通し、本機の方が新しい。	Fig79
S K 696	*	N 5° W	A II a	楕円形	0.85×0.77	20~27	III	2	2	60		機手も軌道でビツは機手によるもの。	Fig2
S K 697	*	N~15°E	A I a	*	1.16×1.02	35~45	1	3	2	20 Δ		*	Fig2
S K 698	C15, 6	N~44°W	D II a	方形	0.95×0.85	22	I	1	1	N		次、機手と軌道である。	Fig130
S K 699	C46	N~50°W	D I a	長方形	0.98×0.82	23	I	3	3	N			Fig107
S K 700	C46	N~62°E	E I a	不定形	1.8×1.4	28	II	3	2	N			
S K 701	C46	N 13° W	E III a	*	2.06×1.23	9	II	1	1	N Δ		北側の門は本機より新しい。	
S K 702	C47, D3a	N~8°W	A III a	楕円形	2.43×2.06	22~26	II	3	3	60 Δ			Fig3
S K 703	C47, D3a		B I b	円形	1.82×1.5	16~18	1	1	1	N Δ		円筒状を見ている。	Fig66
S K 704	C47	N 5° W (E I a)	不定形	1.65×1.23	32	III	3	3	N Δ		S K 705と共通し、本機の方が古い。	Fig79	
S K 705	*	N 30° W	A II a	楕円形	0.93×0.81	25~27	1	1	1	N			Fig79
S K 706	C45		*	円形	0.92×0.8	34~36	III	1	1	50		ビツは今や新しい。	Fig79
S K 707	*	N~44°W	D I a	長方形	1.58×1.2	13	III	1	1	N			Fig107
S K 708	C44, 3	N 90° W	*	*	1.8×1.3	30	II	1	3	60 Δ		ビツは機手、機手によるもの。	Fig106
S K 709	C44, 4	N~24°E	B I b	楕円形	1.5×1.22	64	II	2	60 Δ		楕円状、すり鉢式の張り込みがみられる。	Fig132 PL424	
S K 710	C44	N~24°E	D I a	長方形	1.07×0.86	37	1	1	1	N		ビツは本機より新しい。	Fig130 PL424
S K 711	C43, 4	N 10° W	A I a	楕円形	1.48×1.03	30~40	1	1	1	N Δ			Fig3
S K 712	*	N~50°E	E I a	不定形	1.48×0.94	33	II	1	1	N Δ			Fig130
S K 713	C43, 4	N~28°E	C I b	楕円形	1.82×1.37	22~32	1	1	1	N Δ		可能性の不明な一時期の機手によるもの。	Fig66 PL425
S K 714	C43, 3	N~40°E	D I a	長方形	2.1×1.61	32	III	3	3	60 Δ			Fig3
S K 715	C43	N~67°E	A I a	楕円形	1.5×1.35	34~34	II	2	1	N		機手ノコに機手を混入する。	Fig3
S K 716	C43, 3	N~50°W	B I b	*	1.22×1.3	168	1	1	1	N Δ			Fig3
S K 717	C43		A I a	*	1.1×0.94	46~56	1	2	2	60 Δ		機手はやぐ軌道である。	Fig75
S K 718	C43, 3	N~90°W	E III a	不定形	2.74×1.86	29	II	1	1	N	日製		Fig141 PL426

選積番号	地 区	主 軸	形 態	平 面 形	風 隔		各部の状況		備 考	関連図版				
					干 預 (m)	壁 高 (m)	壁 太 (m)	上 部						
SK 719	C43	N-32°W	D1a	方 形	1.05×0.9	59	II	3	1	△	Fig79			
SK 720	C43	N-63°E	A11a	楕 円 形	1.5×0.75	10~14	II	1	1	N	△	ピットは本跡より新しい。	Fig79	
SK 721	C43		A11a	円 形	0.87×0.8	20~26	II	1	1	N		Fig79		
SK 722	*	N-86°E	*	楕 円 形	0.75×0.6	11~16	II	1	1	N		Fig79		
SK 723	C42, 12	N-18°W	E11a	不 定 形	0.78×0.92	24	II	3	1	特		横+は中や軟質である。	Fig139	
SK 724	C42, 13	N-89°W	D1a	長 方 形	1.22×1.0	26	II	1	1	N		*	Fig107	
SK 725	C43	N-80°E	A1a	楕 円 形	1.09×0.77	18~24	II	3	1	N		ピットは本跡より新しい。	Fig63	
SK 726	C42, 13		*	楕 円 形	1.15×0.95	23~26	I	1	1	N			Fig63	
SK 727	C42, 13	N-86°E	D1a	長 方 形	1.75×0.71	30	II	1	1	N	△		Fig107	
SK 728	C45	N-41°E	D1b	*	1.18×0.86	52	III	1	1	特		SK794より新しく機土は軟質である。	Fig79	
SK 729	C42, 13	N-88°E	A11a	楕 円 形	0.61×0.51	20~26	II	1	1	N			Fig79	
SK 730	C43	N-70°E	D11a	長 方 形	0.77×0.57	23	II	1	1	N			Fig121	
SK 731	C43	N-5°W	E11a	長 方 形 状	1.26×0.5	10	II	2	2	N	△			
SK 732	C44		R11c	河 形	0.83×0.77	38~40	I	1	1	N	△		Fig92	
SK 733	C44, 13	N-85°E	E11a	不 定 長 方 形	1.39×0.7	26	II	2	1	N		ピットは機土によるものか。		
SK 734	C44, 15	N-41°E	D11a	長 方 形	1.11×0.76	28	II	1	1	N			Fig107 PI.427	
SK 735A	C42, 12		D1a	不 定 形	1.64×1.55	34	III	1	1	N		} △ 彫蝕的にはC10bとも思われる。	Fig151	
B	*		D11b	方 形	0.98×0.81	114	I	1	1	N			Fig151	
SK 736	C42	N-27°W	A11a	楕 円 形	1.65×1.6	24~28	II	1	1	N	△		Fig63	
SK 737A	C42	N-26°E	E11a	不 定 形	1.7×1.28	18	I	1	1	N		} △	Fig151	
B	*		B11b	楕 円 形	1.07×0.96	78	I	1	1	N			Fig151	
SK 738	C42	N-37°W	A11a	楕 円 形	1.34×0.94	16~20	II	1	1	N				
SK 739	C41, 12		A11a	円 形	0.99×0.9	15~17	II	1	1	△		SK962の跡を切っている。	Fig79	
SK 740	C41		A11a	*	0.9×0.83	35~36	II	1	1	N	△		Fig79	
SK 741	C41, 12	N-90°E	D11a	長 方 形	1.65×1.04	17	I	1	1	N	△		Fig107	
SK 742	C41		*	楕 圓 長 方 形	1.4×1.16	31	II	1	1	N	△		Fig107	
SK 743	C41		(A11a)		1.04×0.83	33	II	1	1	N	△		SK797より本跡の方が古い。	
SK 744	C41		A11a	(円 形)	1.2×1.0	35	II	1	1	N	△		SK728と重複し本跡の方が新しい。	
SK 745	C42	N-22°W	D11a	長 方 形 状	1.36×1.08	16	II	1	1	N			SK788と重複し本跡の方が新しい。	PI.426
SK 746	C41, C30	N-18°W	A11a	楕 円 形	2.32×1.83	22~26	I	1	1	N	△		Fig63	
SK 747	C30, C41		A11a	*	1.95×1.8	22~28	II	1	1	N	△			
SK 751	C47, 48	N-39°W	*	*	1.05×0.67	17	II	1	1	N			Fig63	
SK 752	C47	N-65°W	E11a	不 定 形	1.92×1.04	28	II	3	2	N			Fig130	
SK 753	*	N-10°W	D11a	長 方 形	0.96×0.78	19	II	1	1	N	△		Fig121	
SK 754	C4-8		A11a	円 形	0.73×0.73	17~20	II	1	1	N			Fig79	
SK 755	C10		A11a	楕 円 形	1.29×1.15	22~26	I	1	1	N			本跡はS3029より新しい。	Fig63
SK 757	C41, 12	N-85°W	R11b	*	2.42×1.57	32~36	I	1	1	N	△		Fig93	
SK 758	C41		E11a	不 定 形	2.14×(1.63)	28	II	1	1	N	△		Fig141	
SK 759	C41, 11	N-50°W	A11a	長 方 形 状	1.86×1.13	25	I	1	1	N	△		Fig63	
SK 760	C42, 12	N-41°W	D11a	長 方 形	1.82×1.59	34	I	1	1	N	△			
SK 761	C41, 12	N-85°W	E11a	不 定 形 状	2.05×1.22	44	II	1	1	N	△			
SK 762	C42, 12	N-90°E	*	不 定 形	3.11×1.5	42	I	1	1	N			SK761と重複し本跡の方が古い。	
SK 763	C42	N-50°W	E11b	*	2.17×0.77	65	II	2	1	A	△		S1037と重複し本跡の方が新しい。	

遺構番号	地区	主軸	形	平面形	縦		各部の状況			土	時期	備考	関連図版
					長さ(m)	幅(m)	礎	床	ヒツト数				
S K 764	C4L, f2	N-25° E	E 1 a	不定形内形	1.38×1.12	37	I	1	3	90	△	ビツトは埋居によるもの。	
S K 765	C4L, f1		A 1 a	円形	1.25×1.1	26~30	I	1	1	N			Fig63
S K 766	C4g1, C3g0	N 75° W	A 1 a	長方形	2.45×1.24	24~28	II	1	1	N	△		Fig84 PL430
S K 767	C411	N-25° E	D 1 a	不定長方形	1.62×1.05	36	III	1	1	N	△	SK743と重複し本跡の方が新しい。	
S K 768	C411	N-0° E	E 1 a	不定形	1.37×0.8	20~34	II	1	1	N	△		Fig130 PL429
S K 769 A	C3e9, f9		(D 1 a)	[長方形]	1.04×(0.53)	35	I	1	1	N	△	St049と重複し新旧は不明	Fig117
B *	*	N-8° W	D 1 b	長方形	1.78×1.33	85	I	1	1	N			Fig117
S K 770	D3a7, a8	N-49° W	D 1 a	*	2.05×1.74	20	I	1	1	N	埋居	遺物は遺土上に多く、北西部には礎石がある。	Fig123
S K 771 A	C3g0		B 1 b	楕円形	1.27×0.9	59	II	2	1	N	埋居		Fig152 PL428
B *	*	Z				50	II	1	1	N			Fig152 PL428
C *	*	B 1 b	不定形		1.04×1.0	87	I	3	1	N		西側の扉部に漆喰土層がみられる。	Fig152 PL428
S K 772 A	C3g9, g0		E 1 a	不定形	1.43×	30	II	1	1	N	△		Fig151
B *	*	N-0° E	D 1 a	方形	0.98×0.98	38	I	1	1	N			Fig151
C *	*	N-49° W	D 1 b	長方形	1.16×0.94	78	I	1	1	N			Fig151
S K 773	C3g0, h0	N-24° W	D 1 a	楕円形	0.98×0.76	32	II	1	1	N			Fig108
S K 774	C3b0	N-32° W	A 1 a	*	1.37×1.12	26	II	1	1	N			Fig63
S K 776	C3b0	N-38° E	*	*	1.19×0.8	24~28	II	1	1	N	△		Fig64
S K 777	C3b0	N-38° W	*	*	1.84×1.24	10~16	I	1	1	N			Fig64
S K 778	C3b0	N-9° W	*	*	1.42×0.98	24~30	I	1	1	N	△	ビツトは新しい埋居によるもの。	
S K 779	C3b9	N-45° E	E 1 a	不定形内形	1.33×0.96	21	I	1	1	N		SK792と重複し本跡の方が古い。	Fig131
S K 781	D3a0, C3j0		D 1 a	楕長方形	1.32×1.09	32	II	1	1	N	△		Fig108
S K 782	D3d0	N 30° W	D 1 a	長方形	1.39×0.97	42	II	1	1	N	△	覆土はやや軟弱である。	Fig108
S K 783	D3j0	N-43° W	D 1 a	長方形	2.08×1.47	40	I-II	1	3	N	△		Fig123
S K 784	D3j9, a9		D 1 a	*	1.07×0.93	19	III	3	1	A	△	覆土はやや軟弱である。	Fig108
S K 785	C3j9	N-2° W	A 1 a	楕円形	1.27×0.95	3~15	III	2	1	N	△		Fig64 PL432
S K 786	C3i9, j9	N-28° E	A 1 a	*	1.48×1.14	30~50	I	3	4	A	△	室の敷居が埋居をうけている。	
S K 787 A	C3j9, j8	N 61° W	E 1 a	不定長方形	2.7×1.67	35	II	1	1	N	埋居	前回の遺構中に多くの土師と不定形内形。	Fig151
B *	*	*	*	不定形	1.31×1.0	33	II	1	1	N	埋居		Fig151
S K 788	C3j9, j8		A 1 a	円形	1.48×1.34	20~28	I	1	1	90	△		Fig64
S K 789	C3j8	N 75° E	C 1 b	楕円形	1.64×1.17	29~23	I	1	1	N	△		Fig67
S K 790	C3j8		A 1 a	*	1.00×0.93	25~28	I	1	1	N			
S K 791	C3j7, j8	N 110° E	B 1 b	*	2.12×1.26	57	I	1	1	N	△		Fig93
S K 792	C3j7	N-60° E	D 1 a	長方形	1.98×1.31	26	I	1	4	N	△	ビツトはSK1066の礎石か。	Fig162 PL433
S K 793	D3a7	N 81° W	E 1 a	不定形	3.58×1.12	21	II	1	3	N	△	*	Fig131 PL434
S K 794	C3j7	N 40° E	D 1 a	長方形	1.52×1.19	40	I	1	1	N	△		Fig108
S K 795 A	C3j7, D3a7		E 1 a	不定形	1.26×(0.96)	85	I	1	1	N	埋居	SK790の礎石を本跡が切っている。	Fig167 PL433
B *	*	N 60° E	D 1 b	方形	1.43×1.51	60	I	3	1	A	埋居		
S K 796	C3j9		J	円形	0.37×0.36	27	I	2	1	90	埋居		Fig130
S K 797	C3b0, h0	N 44° E	D 1 a	長方形	3.52×1.77	35	II	1	1	N	△	ビツトは埋居によるもの。	
S K 799	C3g0, h0	N-0° W (D 1 a)	(長方形)	(長方形)	0.91×1.13	43	II	3	1	N	△	堀にSK1063の礎石、北はSK800と似ている。	Fig152 PL436
S K 802	C3g0	N-0° E	D 1 a	長方形	1.6×1.65	48	III	2	1	N	△	部分的に埋居がみられる。	Fig152 PL436
S K 801	C3g0	N 21° W	A 1 a	楕円形	1.43×0.88	45	II	1	1	N	△		
S K 802	C3f0		E 1 a	不定形	2.43×2.16	25	II	2	1	N	埋居	北西側にD32+D30のみみられる。	Fig142 PL437

遺構番号	地区	上地	形態	平面形	規模		各部の状況		種別	備考	関連図	
					平面(m)	埋没(m)	壁	礎				
S K 803	C2R, 18		F I a	不定形	2.08×1.06	47	1	1	3	N	ピットはS1049の柱穴か。	
S K 804	C2J7	N-53°W	E I a	*	1.27×0.96	40	Ⅱ	2		△		Fig131
S K 805	C366	N-36°W	D I a	長方形	1.32×1.11	30	Ⅱ	1		N	上層遺構下に遺物が散見されている。	Fig108
S K 806	C365	N-75°E	D II a	楕円形	2.94×1.02	35	Ⅱ	1		N		Fig123
S K 807	C25, 16	N-10°W	D I a	長方形	1.50×0.80	30	Ⅱ	1	3	△	ピットはS1072の柱穴か。	Fig164
S K 808	C366		D I a	長方形	1.3×1.4	34	Ⅱ	1	1	N	ピットは本館より新しい。	Fig108
S K 809A	C367		E I a	不定形	1.2×1.0	26	Ⅱ	0		△		} Ⅱ
B *	*		B II b	楕円形	0.96×0.76	72	1	1		N		
S K 810A	C367	N-57°W	D I a	長方形	2.35×1.81	25	Ⅱ	-1		△	床のほぼ中央に2ヶ所ピットがみられる。	Fig152
B *	*		D II b	円形	1.0×0.91	121	Ⅱ	1		N		
S K 811	C367, g7	N-36°W	A I a	楕円形	1.70×1.32	20-26	1	1		N		Fig64
S K 812	*	N-43°E	*	*	1.63×1.24	20-30	Ⅱ	3		N	床中央の覆土中に少量出土。	Fig64
S K 813	C367		*	*	1.66×1.26	17-24	Ⅱ	1	1	N		Fig64
S K 814	C366	N-13°W	*	*	1.33×1.30	35-40	Ⅱ	1	1	N	本館はS1074より新しい。南圧より出土。	Fig64
S K 815A	C368, 18		E I a	不定形	(1.09)×1.16	20	Ⅱ	1		N		Fig131
B *	*		*	*	1.61×(0.7)	28	Ⅱ	3		N		} Ⅱ
S K 816A	C366	N-69°E	A II a	不定形(円形)	2.47×(1.55)	20	1	1		N	床両方の間に遺物は集中して出土。	
B *	*	N-55°W	E I b	*	1.43×1.0	43	Ⅱ	3		N		Fig153
S K 817A	C367	S-68°E	E I a	*	(1.3)×1.3	46	Ⅱ	1	1	N	床のほぼ中央にピットがみられる。	Fig152
B	C368		D I b	円形	1.7×1.36	76	1	1		N		Fig152
S K 818	C366, g6	N-89°E	D II a	長方形	1.90×1.55	21	1	1		N	S K808と重なり本館の方が新しい。	Fig152
S K 819	C367		E I a	正三角形	1.75×1.4	33	1	1	1	N		Fig64
S K 820	*	N-35°E	A I a	楕円形	1.45×1.1	14-18	Ⅱ	-1		N	ピットはS1074の柱穴か。	Fig64
S K 821	C367, g8		A I a	(楕円形状)	1.60×0.83	26	Ⅱ	1		N	S K820と重なり、本館の方が古い。	Fig153
S K 822	C367	N-90°W	D I a	長方形	1.89×1.52	30	Ⅱ	1	2	N	ピットは本館より新しい様式。	Fig123
S K 823A	C367		E I a	不定形	2.66×1.64	25	Ⅱ	1	2	N		Fig123
B	C367		H I b	円形	1.7×1.0	70	Ⅱ	1		N	南東部かみずかに侵入を示す。	Fig153
S K 824A	C365		D II a	長方形	1.12×0.68	16	1	1		N		Fig150
B *	*	N-35°W	D I a	楕円形	1.06×0.85	40	1	1		N		Fig153
S K 825A	C366, g6		E I a	不定形	1.18×0.64	70	Ⅱ	1		N		Fig123
B *	*	N-56°E	G I b	楕円形	2.2×1.1	92	1	2		N		Fig123
S K 826	C365, 16	N-54°E	D I a	楕円長方形	1.37×1.03	25	Ⅱ	3		N		Fig108
S K 827	C365	N-37°W	E I a	不規則角形	1.76×0.97	15-76	Ⅱ	3		N	ピットは覆土によるもの。	
S K 828	C366	N-52°E	F I a	長方形	1.4×0.86	15	1	1	3	N	内壁、内柱の新しい掘り込みがみられる。	Fig121
S K 829	C365	N-58°W	D II a	*	0.84×0.58	17	1	1		N		
S K 830	C367, g5	N-29°E	A II a	楕円形	1.0×0.73	17-22	Ⅱ	1	1	A	覆土は軟弱でやや古い。	Fig79
S K 831	C366		A I a	円形	1.17×1.12	20-30	Ⅱ	3		N	*	Fig64
S K 832	C365		A II a	楕円形	0.82×0.71	11-14	1	1		N	*	Fig60
S S A31	*		A I a	円形	1.15×1.11	26-35	Ⅱ	1		N		Fig64
S K 834	*	N-31°E	A II a	*	0.95(1.1)×0.65	13-31	Ⅱ	3	3	A	覆土は軟弱で長軸上にピットがまみれる。	Fig60
S K 835	C366, K	N-17°E	*	楕円形	0.96(1.05)×0.80	5-15	Ⅱ	3		N		Fig79
S K 836	C363, 14	N-45°W	*	*	0.9×0.32	18-22	Ⅱ	2		N		Fig60
S K 837	C362, 13	N-52°W	D II a	長方形	2.16×0.82	26	Ⅱ	1		N	北壁側の床は埋戻しをうけてい	

遺構番号	地区	上端形状	断面形状	平面形状	規模		各部の状況	層上	基礎	備考	関連図表	
					平面(m)	壁高(m)						
SK 838	C3c, e4	N-61°E	F1b	不定形	1.1×0.8	5-25	II 2 2	II	△	北壁にビードが取り付けられている。	Fig109	
SK 839	C3b	N-47°W	A1a	横円形	1.42×0.93	10-30	II 1 3	N		床の厚は概ね1.5m以上あり、壁は	Fig64	
SK 840A	C3g	N-45°W	D1a	長方形	1.36×1.0	62	II 1 1	N		SK832, 860と重複する。	Fig101	
B	*	N-24°E	E1a	不定形	1.0×1.41	45	II 3 2	N	△		Fig101	
SK 841	D3a4		B1b	円形	1.40×1.31	102	I 1 1	N	△	SK854, 859と重複し、本跡の方が古い。	Fig102	
SK 842	C3b, g4	N 52° E	D1a	横円形	1.56×1.35	25	II 1 1	N			Fig107	
SK 843	C3b, g4		A1a	円形	1.3×1.0	26	II 1 2	N		南壁面に施すビードはSK849の跡だ。	Fig65, PL439, Fig65, PL440	
SK 844	C3g, f9	N-66°W	*	横円形	1.39×1.60	30	II 1 1	N	ハ			
SK 845	C3g9	N-32°E	A1a	横円形	0.93×0.72	19-27	II 2	N		壁の中に少量の土がみられる。	Fig80	
SK 846	C3g9	N-21°E	E1a	不定形円形	1.70×1.03	20-34	1 1 1	N	ハ	2基のうちの1基が考えられる。	Fig132, Fig141	
SK 847A	C3b, h5	N-49°W	D1b	長方形	2.56×1.21	70	II 1 1	N		SK868が重複。本跡が古い。	Fig170	
B	*		E1b	不定形円形	0.95×0.80	30	II 2	N	ハ		SK847A, SK1056を切っている。	Fig170
SK 848	C3b, h5		F1a	不定形	1.37×1.04	37	II 3 3	N	△	SK848と重複し、本跡の方が古い。	Fig133	
SK 849	C3b	N-51°W	*	*	1.17×0.94	21-27	II 3	A		部分的に掘削されている。		
SK 851A	C3b, j5		A1a	円形	0.72×0.71	26	II 1 1	N		ハ	Fig133	
B	*	N 12° E	D1a	長方形	1.94×1.04	33	1 1 1	N			Fig133	
SK 852	D3a5, C3j5	N-45°W	*	長方形	2.85×1.44	29-25	II 1 1	N		SK860と重複する。	Fig108	
SK 853	D3a4, e5	N-32°E	D1b	*	2.77×1.33	20	I 1 1	N	△	SK864と重複し、本跡の方が古い。	Fig102	
SK 854	D3a4, C3j4		B1b	不定形	2.56×1.37	15	II 1 1	N	△	SK811, 853と重複する。	Fig162	
SK 855	D3a4, e4	N-30°E	D1a	横円形	1.93×1.55	12-15	II 1	N	△	SK877, 1194によって覆われている。	Fig108	
SK 856	D3a4, C3j4	N 17° E	*	長方形	1.63×1.23	17	II 1 1	N			Fig162	
SK 857	C3h	N-71°W	A1a	横円形	1.57×1.13	3-9	II 1	N			Fig65	
SK 858	C3b	N-34°W	E1a	不定形	1.45×1.2	27	B-8 3 3	A	△			
SK 859	C3b, j5	N-0°E	A1a	横円形	1.32×0.93	4-10	II 1 1	N			ビードは掘削によるもの。	Fig65
SK 860	C3b, j5	N-60°W	A1a	横円形	1.11×1.0	8-10	I 1 1	N			Fig65	
SK 861	C3j6	N-45°E	D1a	長方形	1.42×1.66	28-40	II 3	A	△	SK875とも重複し、本跡の方が古い。	Fig134	
SK 862	C3b5		A1a	円形	1.3×1.05	6-11	I 1 1	N			Fig65	
SK 863	C3a, h4	N 28° E	A1a	(有物)	1.07×1.02	16-20	I 1 1	N		トットには土層より新しい。	Fig143	
SK 864A	F3b3	N-30°E	E1a	不定形	1.75×1.22	28	I 1 1	N		ハ	Fig143	
B	*	N-12°W	D1a	円形	0.86×0.84	30	II 1 1	N				
SK 865	C3b	N-15°W	A1a	長方形	2.18×1.34	18-28	I-8 1 2	N	△	ビードは1212(2)324期である。	Fig84	
SK 866	C3b5	N-6°E	D1a	長方形	1.57×1.1	12-17	I 1 1	N	△		Fig160	
SK 867	F3b4	N-26°W	A1a	横円形	2.14×1.52	19-23	I 1 3	N		ビードはS1076(078)の跡だ。	Fig84	
SK 868	C3b1	N-65°W	F1a	不定形	1.53×1.0	18-23	II 1 1	N	ハ	壁の上ややがて覆われている。		
SK 869	C3b1	N-32°E	D1a	長方形	1.61×1.35	14-15	II 1 1	N	ハ		Fig110	
SK 870	C3b4	N-85°W	E1a	不定形円形	1.6×0.9	17-23	II 1 1	N	△	床の厚は1.1m程度をなす。	Fig132	
SK 871	C3a, h3	N-45°W	E1a	不定形	1.83×1.58	16-21	II 1 1	N	△	床の内壁は掘削されている。		
SK 872	C3a3	N 15° W	A1a	横円形	2.02×1.32	14-16	I 1 1	N	△		Fig84	
SK 873	C3a2, a3		D1a	(有物)	0.97×0.92	29	I 1 1	N	△			
SK 874	C3b1	N 41° E	F1a	不定形円形	1.3×0.85	14-22	II 1 3	N		SK873と重複し、本跡の方が古い。		
SK 875	C3b, j7	N 66° E	D1a	長方形	1.90×0.93	17-23	I 1 1	N	△	大部分は掘削されている。	Fig134	
SK 876	C3a3	N 17° E	B1b	不定形	2.6×0.9	4-12	I 1 1	N	△	ビードは本跡より新しい。	Fig141	
SK 877	C3a4	N 89° E	A1a	横円形	1.18×0.81	10-10	I 1 1	N			Fig16	

調査番号	地 区	上 船 形 態	平 面 形	規 模		各部の状況		層	時期	備 考	製造国			
				平 尺 (m)	壁高(m)	噴 床	セ ン							
S K 878	C361	N-66°E	E型	長方形	2.6×1.14	8~20	II	1	N	△	部分的に埋没が入る。			
S K 879	C361	N 67° E	D 1 a	長 方 形	1.83×1.48	13~19	I	3	4	N	△			
S K 880	C365	N-83°E	D 1 a	*	1.4×0.85	20~30	II	1	1	N	△	SK881と重複する。	Fig117	
S K 881	C363	N 46° W	A 1 a	横 円 形	0.98×0.76	14~16	II	1	1	N		床の北部は覆土を受けている。	Fig90	
S K 882	C362 b3	N-46°W	A 1 a	*	1.44×0.8	12~30	II	1	1	N		ビツは本跡より新しい。	Fig95	
S K 883	C362	N-22°W	A 1 a	*	1.04×0.84	22~25	II	1	1	N	△		Fig95	
S K 884	C362		A 1 a	*	0.91×0.85	18~20	1	1	1	N			Fig95	
S K 885	C362		A 1 a	*	1.38×1.1	18~22	1	3	1	N	△	SK884と重複し本跡の方が新しい。	Fig95	
S K 886	C362, f2	N-15°W	E型	不定形状	2.04×1.05	7~11	III	1	1	N	△	床の北部はかなり覆土をつけている。		
S K 887	C361		A 1 a	円 形	1.22×1.14	10~12	II	1	1	N	△		Fig95 Pl.442	
S K 888	C363		A 1 b	横 円 形	1.2×1.09	40~56	II	1	1	N	△		Fig95	
S K 889 A	C362	N-65°E	A 1 a	*	2.17×1.41	25	II	1	1	N	△	床の中央に長方形の張り込みがある。	Fig154 Pl.443	
	B *	N 47° W	D 1 a	長 方 形	0.98×0.73	35	II	1	3	N	△		Fig154 Pl.443	
S K 890	C362	N-9°W	E 1 a	不 定 形	1.22×0.94	8~28	III	3	A			残存部か。		
S K 891	C362	N-31°E	*	不定長方形	1.12×0.92	15~24	III	1	1	N		ビツは本跡より新しい。		
S K 892 A	C361, g2	N-30°W	E型	不 定 形	2.25×1.24	30~36	II	1	1	N	目録	床中央の面に毛氈の七輪が覆土に出た。	Fig154	
	B	C361	E 1 a	*	(1.1)×1.2	33	I	1	3	N			Fig154	
	B'	C362	N 43° E	A 1 a	横 円 形	1.16×0.8	48	II	2	N				Fig154
S K 893	C361	N-17°E	E 1 a	*	1.5×1.0	32	II	2	N			南方側に覆土をつけている。		
S K 894	C363	N 29° E	A 1 a	*	1.51×1.21	25~30	I	3	20	A		床中央に深いビツがみられる。	Pl.441	
S K 895	C361	N-61°E	*	*	1.37×1.05	23~26	1	1	3	N		北東部の壁に階段によるもの。	Fig95	
S K 896	C361	*	河 形		1.47×1.39	33~44	II	1	1	N		覆土は敷設である。	Fig95	
S K 897	C361, g1	N-65°W	D 1 a	不 定 形	3.06×1.5	27	II	3	N	△			Fig142 Pl.445	
S K 898	C362, f2	N-41°W	D 1 a	長 方 形	1.73×0.95	30	II	1	N			床中央の壁に階段によるもの。	Fig109	
S K 899	C362	N 32° E	A 1 a	横 円 形	1.18×1.02	12~16	III	3	20			ビツは覆土によるものか。	Fig95	
S K 901	C366	N-32°W	D 1 a	*	1.0×1.4	30~36	II	3	20				Fig108	
S K 902	C366	N-38°W	A 1 b	*	1.33×1.1	40~60	II	1	A			覆土やや敷設である。	Fig75	
S K 903	C366		A 1 a	*	1.22×0.87	20~25	III	3	N				Fig95	
S K 904	C366	N 70° W	D 1 a	長 方 形	1.58×1.32	27	II	1	N	△			Fig105	
S K 905	C366, c7	N-54°W	D 1 a	長 方 形	0.96×0.96	20	I-II	1	N				Fig121	
S K 906	C366		A 1 a	円 形	0.82×0.81	30~32	II	1	N				Fig90	
S K 907 A	C367, b7	D 1 a	長 方 形		1.38×0.78	28	I	1	N	△		床の中心に土中の遺土中に多く遺物出土。	Fig167	
	B *		($\frac{1}{2}$) B 1 b	円 形	(0.7)×0.58	158	1	1	N				Fig167	
S K 908 A	C367, c5		F 1 a	不 定 形	(1.23)×1.31	44	1	1	N	△		SK907と重複し、遺土不詳。	Fig167	
	B *		($\frac{1}{2}$) B 1 b	横 円 形	1.05×0.92	140	I	1	N				Fig167	
S K 909	C367	N-25°W	(Z)									目録		
S K 910	C365	N-15°W	A 1 a	横 円 形	0.80×0.71	26~28	I	1	N	△	目録	S366の角部に位置する。	Fig80	
S K 911	C365	N-78°W	A 1 a	*	1.84×1.35	25~31	II	1	N	△		S366の東壁に付属し本跡が古い。	Fig90	
S K 912	C361, b4	N-67°E	D 1 a	長 方 形	1.84×1.35	28	II	1	N				Fig109	
S K 913	C361	N-60°W	D 1 a	*	1.37×1.12	30	II	1	N			覆土中の敷設である。	Fig109 Pl.446	
S K 914	C363		A 1 a	河 形	0.60×0.54	12~16	II	1	N			*	Fig90	
S K 915	C362, g2	E型	横 円 形		0.98×0.82	25	II	2	1	A	△		Pl.447	
S K 916	C362, f2	N-34°E	D 1 a	長 方 形	2.33×1.06	32	II	1	N					

遺跡番号	地 区	主 軸 方 向	形 態	平面形	規 模		各層の状況	層 数	時期	備 考	関連図版
					平面(㎡)	高さ(m)					
S K 917	C464	N-60°E	A I a	楕円形	1.25×1.04	15~22	Ⅲ 2 3	N	△	ビツトは本跡より新しい。	Fig66
S K 918	C463,b3	N-60°W	D I a	長方形	1.63×1.23	17	Ⅱ 1	N			Fig109 Pl.449
S K 919	C463	N-40°E	A I a	楕円形	1.25×1.09	14~17	Ⅱ 1	N			Fig66
S K 920	C465		*	*	1.05×0.85	22	Ⅲ 2 2	N		ビツトは後品によるもの。	Fig66
S K 921	C465		D I a	方 形	1.07×1.04	35	-	1	N		Fig121
S K 922	C465,b6		A II a	円 形	1.04×0.98	22~26	Ⅲ 1	N			
S K 923	C469	N-21°W	*	*	1.00×0.94	16~20	Ⅲ 1	N			Fig60
S K 924	C469	N-67.5°W	A I a	楕円形	1.04×0.9	10~16	Ⅱ 1	N			Fig66
S K 925	C468	N-13°E	*	不定形円形	1.25×0.96	15	Ⅲ 1	N			Fig66
S K 926	C468,a8		A II a	円 形	0.97×0.94	28	Ⅱ 1	N			Fig66
S K 927	C468,b8		A I a	*	1.19×1.18	35	Ⅲ 2 1	N	△	ビツトは本跡よりやや新しい。	Fig67
S K 928	C468		B II a	*	0.77×0.75	17~18	Ⅰ 1	N			Fig62
S K 929	C469		B I b	*	1.55×1.34	50~58	Ⅱ 1	N	△		Fig60
S K 930	C468	N-60°W	A II a	楕円形	1.02×0.90	18~20	Ⅲ 2	N			Fig60
S K 932	C468		F I a	不定形円形	1.33×0.94	20	Ⅲ 1	N		北側の遺土中に少量の貝を含ま。	Fig190
S K 934	C468		A II a	円 形	0.72×0.66	13~23	Ⅲ 1	N			Fig60
S K 935	C468,b7	N-75°E	F I a	不定形円形	1.2×0.78	27	Ⅲ 1 2	N	初期	ビツトは本跡より新しい。	Fig132
S K 936	C467	N-35°E	B II a	*	0.80×0.66	26	I 1 1	N			Fig130
S K 937	C467	N-35°E	D I a	長方形	1.08×0.72	30	I 1 3	N	△	ビツトはほぼ同時期である。	Fig109
S K 938	B439		A I a	円 形	1.23×1.08	20~30	I 1	N	△		Fig66
S K 939	B439,b3	N-23°W	F I a	不定形	1.3×0.98	27	Ⅲ 3 1	N	△	ビツトは本跡より新しい。	
S K 941	C467	N-78°E	*	*	1.67×1.34	30	I 1	N			
S K 942	C466,b7	N-86°W	*	不定形方形	1.69×1.28	27	I 1 3	N	△		Fig132
S K 943	C467	N-85°E	A I a	楕円形	1.28×0.96	12~30	Ⅱ 3	Ⅱ	△	層上はやや軟質である。	Fig66
S K 944	C467	N-21°W	J	楕円形	1.33×1.0	53	Ⅱ 1	Ⅱ	初期	口縁部は南西向、傾斜に埋没されている。	Fig191 Pl.449
S K 945	*	N-35°W	A I a	長楕円形	1.52×1.1	20~23	Ⅲ 2 2	N			Fig66
S K 947	C466		B II a	不定形	2.1×2.1	20	Ⅲ 1	Ⅱ	初期	遺土中に多量の土器片が出土。	Fig132
S K 948	C467		F I a	*	1.65×1.5	26	Ⅱ 1 8	N	△	ビツトは7000年の人口増加期から。	
S K 949	C465	N-25°E	C I b	楕円形	1.6×1.38	21~94	I-Ⅲ 1	N	△	S503の伊を切っている。	Fig66
S K 950 A	C467		E I a	不定形	1.9×(1.0)	18	Ⅱ 1 5	N	初期	ビツトはS503-209/210/211より新しい。	
B	C466,a7		F I a		1.68×1.28	30	Ⅲ 3	Ⅱ	初期		(1/3)
S K 951	C466,b3	N-27°W	A I a	楕円形	1.4×1.2	14~26	Ⅱ 1 3	N	△	南側のビツトは本跡より新しい。	Fig66 Pl.430
S K 954	C368,b8		A II a	円 形	0.85×0.75	20	Ⅲ 3	A		層上は軟質であり新しいもの。	
S K 955	C367,a8		E I a	不定形円形	1.7×1.45	30	Ⅲ 3	Ⅱ	△		Fig132
S K 956	C367		A I a	円 形	1.1×1.05	30	Ⅱ 1	N	△		Fig66
S K 957	C365,a5	N-75°W	D II a	長 方 形	2.5×1.47	12	I 1 1	N	△	ビツトは本跡より新しい。	Fig123
S K 958	C365,b5	N-67°W	D I a	*	1.7×1.12	22	I 1	N	△		Fig109
S K 959 A	C465		E I a	不定形	1.1×0.69	30	Ⅱ 1	N	初期	S K958に切られている。	Fig133 Pl.451-452
B	*	N-35°E	(G I b)	長楕円形	1.5×1.06	96	I 35	N		北内側に奥の隅がふたつとある。	Fig133 Pl.451-452
S K 960	C365	N-51°W	A I a	楕円形	1.77×1.66	9~16	Ⅱ 1	N			Fig66
S K 961	*	N-56°W	A I a	*	1.33×1.0	7~9	Ⅱ 1	N		座中央に奥の隅がふたつとある。	Fig66
S K 962	C365	N-20°E	*	*	1.02×0.65	21~34	Ⅱ 2	A		遺土は軟質である。	Fig66
S K 963	*	N-56°W	A II a	*	0.93×0.7	16~20	Ⅲ 2 1	N			Fig60

道標番号	地区	主軸	形態	平面形	規模		各部の状況		備	時期	備考	関連図版	
					平面(m)	壁高(cm)	壁	床					土
S K 964	C3c5, c6	N-82°-E	D I a	長方形	1.1 × 0.95	44-46	I	1	N	△		Fig109	
S K 965	C3c5	N-42°-W	A I a	長方形	1.85 × 0.90	22-24	II	-1	N			Fig66	
S K 966	#	N-20°-W	#	楕円形	1.13 × 1.07	24-26	II	2	1	N	△	覆土は軟質である。	Fig66
S K 967	C3c4	N-65°-W	#	#	1.0 × 0.7	20-22	II	2	II		#		
S K 968	C3c5	N-35°-W	#	長方形	1.68 × 0.97	6-16	II	1	3	A	#	Fig67	
S K 969	C3c4, c6	N-47°-E	A II a	楕円形	0.9 × 0.65	18-23	II	2	2	II	#		
S K 970	C3c6	N-7°-E	A I a	#	1.12 × 0.95	16-20	II	2	1	N	△	Fig67	
S K 971	C3c6	N-15°-W	A I a	#	1.2 × 0.85	6-15	III	1	A			体中央は壁により凹みをなす。	
S K 972A	C3c9, 19		Z	平	0.41 × 0.74	15	II	2	N	II	II	Fig110	
B #	#	N-27°-W	D I a	長方形	1.3 × 1.04	48	I	1	N			SK779を切り、本跡が新しい。	Fig110
S K 972A	C3c6	N-45°-W	A I a	不定形	1.4 × 1.15	12	II	1	N			覆土は軟質である。	PL455
B #	#	#	A II a	円形	0.8 × 0.78	44	II	2	III		#		
S K 974	#	N-15°-E	D I a	長方形	1.95 × 1.4	48	I	1	1	N	△	南側に壁の跡がみられる。	
S K 975	C2c5, b5	N 80° W	#	#	1.65 × 0.95	42	I-II	1	A	△		覆土は軟質である。	
S K 976	C3c5		D I a	不定形	1.15 × 0.95	13	II	3	A				
S K 977	C3c4, b5		A II a	円形	0.96 × 0.92	23-25	II	1	A			覆土は軟質でロームブロックを多く含む。	Fig80
S K 978	C3c4, c4	N-6°-E	D II b	長方形	3.2 × 2.45	67	I	1	N	△	#	Fig163	
S K 979	C3c4	N-50°-E	E I a	不定形	1.95 × 1.7	36	II	3	1	N	△	#	Fig163
S K 980	C3c4, d4	N-90°-E	A II a	楕円形	0.98 × 0.63	10-18	III	3	II			壁の跡が複数ある。	Fig80
S K 981	C3c4		#	円形	0.87 × 0.82	20-25	II	1	N				
S K 982	C3c5	N 60° W	D I a	長方形	1.5 × 1.2	12	II	1	N			東側に方形の段がみられる。	PL453
S K 983	C3c4	N-39°-E	A I a	楕円形	0.91 × 0.65	10-12	III	1	1	N		ピットは本跡より新しい。	Fig81
S K 984	C3c4, e4	N-75°-E	D I a	隅丸長方形	1.37 × 1.2	49	II	1	1	N	△	#	Fig110
S K 985	C3c4	N 57° W	E I a	不定形	#	27	II	3	1	II			Fig132
S K 986	C3c3, e3	N-88°-E	C I b	楕円形	1.35 × 1.03	15-16	I-II	1	1	N		東側に段差を有する。	
S K 987	C3c3	N-27°-E	E I a	不定形	2.0 × 1.36	17	II	1	2	N		南北方向に壁がみられる。	Fig132 PL454
S K 988	C3c1, e3	N-65°-W	D I a	隅丸長方形	1.52 × 0.94	12	II	1	A				
S K 989A	C3c3		E I a	不定形	1.5 × 1.2	6-10	III	2	2	N			Fig132
B #	#		E I a	#	1.1 × 0.82	26	I	1	4	A			Fig132
S K 990	C3c3, d3	N-52°-E	A II a	楕円形	0.98 × 0.81	20-25	II	3	A			覆土は軟質でやや新しいものか。	Fig80
S K 991	C3c3	N 25° W	A I a	#	1.1 × 0.85	22-25	II	1	4	II		ピットは本跡より南東に並び覆土は軟質。	Fig87
S K 992	C3c4	N-45°-E	A I a	#	0.87 × 0.76	7-15	II	1	1	N		ピットは本跡より新しい。	Fig81
S K 993	C3c4	N-80°-N	C II a	不定形	1.67 × 1.3	20-40	I-II	1	1	N	△		Fig84
S K 994	C3c3, c4	N 44° W	A I a	楕円形	1.09 × 0.77	14-18	II	3		II			
S K 995	C3c3	N 83° E	D I a	長方形	1.9 × 1.66	46	I	1	1	II	II	覆土は軟質でロームブロックを含む。	Fig170
S K 996	C3c3, b3	N-16°-W	D II a	長方形	3.08 × 2.78	33	I	1	1	II	△	#	Fig170 PL456
S K 997	C3c2, e3	N 89° W	D I a	#	1.7 × 1.52	42	I	1	1	II		南側に段差がみられる。	Fig109 PL457
S K 998A	C3c3, e4	N-21°-W	D II a	長方形	2.02 × 0.9	18	II	1	1	II	△	覆土は軟質でロームブロックが多い。	Fig172
B #	#	N 22° W	D II a	#	2.74 × 2.2	25	II	1	1	II	△	#	Fig172
S K 999	C3c4	N-95°-E	#	#	3.5 × 2.53	35	I	1	1	II		SK998と隣接し49mが新しい。	Fig172
S K 1000	C3c3	N-54°-E	E I a	不定形	1.46 × 0.8	11	II	2	N	△		北の側面に凹みをなす。	Fig132
S K 1001	C3c2	N 5° W	D II b	長方形	2.83 × 1.15	56	II	1	N	△		東側に土壁の残りがみられる。	
S K 1002A	C3c2, b2	N-12°-W	D I b	(#)	1.63 × 1.0	46	I	1	N			覆土は今の軟質である。	Fig162

遺構番号	地区	土 地 形 態	平 面 形 態	規 模		各部の状況	属 類	備 考	関連図		
				子 洞 (m)	掘 削 深 度 (m)						
SK1007b	C362	N-14°E	E1b	不定形	1.54×0.83	80	II 3	N	掘上は軌道でロームブロックを含む。	Fig102	
SK1009	C362,33	N 20°W	D1a	長方形	1.8×1.30	34-36	II 1	N △		Fig110	
SK1004	C361	N-62°E	E1a	不定形	1.3×0.85	65	II 1	N	SK978と重複する。	Fig163	
SK1005	C361,42	N 24°E	D1a	長方形	1.48×1.1	27	II 1	N	溝内壁がゆるい傾斜をもつ。		
SK1006	C362,43	N-26°E	B1b	楕円形	1.02×0.72	72	I 1	N	西壁の基部に浮き台を有する。	Fig90	
SK1007	C362	N-71°W	E1a	矩形形	2.05×0.98	40	II 1	A △	SK978跡を埋り隠す跡。	Fig143	
SK1008	C362,47		B1b	円形	0.56×0.51	88	I 1	N			
SK1009	C361	N-14°E	F1a	不定形	1.54×1.06	15-16	II 3	A △		Fig133	
SK1010	*		A1a	円形	0.96×0.9	18-20	II 1	N △		Fig90	
SK1011A	C362,41	N-32°E	D1b	長方形	1.5×1.41	77	I 2	N	SK1011Bより古く、SK1002より新しい。	Fig162	
B	C361		E1b	不定形	(1.46)×1.2	73	II 2	N			
SK1012	C362	N 40°W	A1a	楕円形	0.95×0.78	70-72	II 3	A	掘上は軌道で敷いたもの。		
SK1013	C361	N 65°E	A1a	長方形	1.43×0.77	14-20	I 1	N △	SK978の南側にありゴットはその跡。		
SK1014	C360		B1b	円形	1.4×1.36	51-63	I 1	N △		Fig90	
SK1015	*	N 73°E	*	楕円形	1.43×1.17	50-54	I 1	N		Fig90	
SK1016	C362	N-44°E	A1a	*	0.8×0.6	26	II 1	N			
SK1017	C361,42	N-40°E	D1a	*	1.18×0.8	27	I 1	N	北側に排水の溝がある。	Fig133 2L457	
SK1018	C361,41	N-61°W	*	不定形	1.95×0.93	42	III 3	N	溝中央に傾斜が入る。	Fig132	
SK1019	C361,41	N 7°E	D1a	長方形	1.62×1.02	40-43	I 1	N △		Fig97	
SK1020	C361	N-37°E	E1a	不定形	1.64×1.21	11	II 1	N	ビートは平壁より傾いた。		
SK1021	C362	N-36°W	D1a	矩形形	1.77×1.41	49	I 1	N △	成層の傾斜が緩いものあり。	Fig119	
SK1022	C361	N 30°E	A1a	長方形	1.54×0.95	17-15	II 1	N	ビートは平壁より傾いた。	Fig97	
SK1023	C362	N 48°W	D1a	長方形	1.90×1.06	33	II 2	N		Fig110 2L458	
SK1024A	C362,40		G1b	*	1.13×0.87	46	II 2	N	田跡	Fig134	
B	C362,40	N 47°E	D1a	長方形	1.74×1.36	63	II 1	N	本宮150(164)より新しい。	Fig154	
SK1025	C360, C361	N 72°E	E1a	不定形	1.59×0.95	37	II 1	N △		Fig113	
SK1026A	C361,41	N-47°E	(E1a)	*	(0.9)×0.67	20	III 1	N △	掘上は中々傾斜である。		
B	*	N 25°W	B1b	楕円形	1.53×1.31	29	I 1	N △			
SK1027	C361		D1a	長方形	1.52×1.20	30	I-2	I 1	N △	ビートは平壁より傾いた。	Fig111
SK1028	C361		E1a	不定形	2.08×0.97	32	II-3	I 1	A △	2部の土質の構成が異なる。	
SK1029	C360, C361	N 37°E	E1a	*	1.79×1.1	30	II-1	I 1	N		Fig131
SK1030	C360,49	N-25°W	D1a	長方形	2.45×1.7	41	I 1	N	SK1024と重複する。	Fig154	
SK1031	C361,41		E1a	長方形	1.15×0.90	30	II 2	A △	ビートは傾斜によるもの。	Fig112	
SK1032	C360, C361	N 40°W	A1a	長方形	1.1×0.85	15-19	II 1	N △	ビートは平壁より傾いた。	Fig97	
SK1033	C360	N 23°W	E1a	不定形	1.07×0.65	18	II 2	A			
SK1034	C360,40	N-26°W	A1a	楕円形	1.15×0.78	32-40	II 3	A △		Fig97	
SK1035	C360,40	N 27°W	A1a	*	0.92×0.80	25-26	II 1	A △		Fig90	
SK1036	C360		A1a	円形	0.70×0.66	16-20	II 1	N		Fig92	
SK1037	*		D1a	長方形	1.37×1.27	32	I 1	A △	ビートは傾斜によるもの。	Fig110	
SK1038	C360,40	N-37°E	D1b	*	1.68×1.15	53	II-4	N △	前記壁はゆるい傾斜を有する。	Fig118	
SK1039	C360	N 56°W	*	*	1.93×1.25	66	I 1	N △		Fig128	
SK1040	C360	*	*	円形	1.30×1.1	40	I 1	I 1	N	Fig1040	
SK1041	C360	N-75°W	E1a	不定形	1.72×1.15	43	I 1	N △	西内部の基部に段を有する。	Fig94	

遺構番号	地区	主軸	方位	平面形	規模		各部の状況	層	時期	備考	関連図
					手廻り(m)	奥高(m)					
S K 1042	C363, e4	N-4°W	A 1 a	長方形	1.07×0.82	47	II	1	N	SK998・999と重複し本跡の方向が異なる。	Fig67
S K 1043A	G249, e9	N-30°W	F 1 a	長方形	3.41×0.6	105	V	2	N		Fig173 PL439
										SK1043Aを切っている。	Fig175
S K 1044	C399		A 1 a	不定形	1.04×1.05	25-30	II	1	N		Fig67
S K 1045	C285, e6	N-10°W	*	長方形	1.58×1.2	18-25	II	1	N	ヒットは本跡より新しい。	Fig67
S K 1046	C288		E 1 a	不定形	1.55×1.95	22	I	1	N	西側のヒットはSK998の建込。	Fig183
S K 1047	C367, e7		D 1 b	長方形	1.48×0.94	70	I	1	A		Fig118
S K 1048	C247, d1	N-60°E	A 1 a	長方形	1.57×0.94	45	II	1	N		Fig67
S K 1049	C269, a9	N-24°W	D 1 a	長方形	1.40×1.10	27	II	1	N	敷土はやや軟弱である。	Fig112
S K 1050	C2a9		D 1 a	円形	1.08×1.04	22	II	1	N		Fig110
S K 1051	C268	N-15°E	A 1 a	長方形	1.6×1.12	22-26	II	1	N	南側は覆土を定めている。	Fig67
S K 1052	C268, e8	N-70°E	D 1 a	長方形	2.05×1.3	20-38	II	3	N	ヒットは覆土によるものか。	Fig110
S K 1053	C285	N-82°W	A 1 a	長方形	1.04×1.37	25-28	I	1	N		Fig67
S K 1054	C268	N-81°W	C 1 b	*	1.68×1.47	38-74	I-II	1	N	西壁の柱間に段を有する。	Fig96
S K 1055	C285	N-77°E	A 1 a	*	1.01×0.78	22-25	II	1	N		Fig81
S K 1056A	C268		E 1 a	不定形	2.4×1.9	44	II	1	N	SK947と重複するや隙は不明。	Fig170
			D 1 b	長方形	1.02×0.9	96	II	2	N		Fig170
S K 1057	C268		F 1 a	不定形	1.62×1.15	21	II	3	A	敷土は軟弱である。	
S K 1058	C267		D 1 a	長方形	1.14×0.9	22	II	1	N		Fig121
S K 1059	B277, C267		B 1 b	円形	1.52×1.27	55-64	I	1	N		Fig91
S K 1060A	B278		D 1 b	*	1.34×1.3	70	II	1	N		Fig6
			*	*	1.3×1.2	67	I	1	N		Fig60
S K 1061	B278, J7		D 1 a	長方形	1.87×1.55	30-34	II	1	N		Fig111
S K 1062	B266, J6	N-0°E	D 1 a	*	1.07×0.82	20	II	1	BS	北壁は覆土がみられる。	
S K 1063	B279, J6	N-10°W	D 1 a	長方形	0.96×0.92	12	II	3	N		
S K 1065	B279	N-55°W	E 1 a	不定形	1.39×0.86	35	II	3	N	部分的に覆土がみられる。	Fig133
S K 1066	B266, J9		B 1 b	円形	1.15×1.08	23	I	1	N	SK998と重複し本跡を断っている。	Fig135
S K 1067	B279	N-11°W	E 1 a	長方形	0.95×0.68	13-25	III	3	N	部分的に覆土がみられる。	
S K 1069	B279	N-22°E	F 1 a	不定形	1.23×1.02	25-45	III	1	N	ヒットは本跡よりやや新しい。	Fig133
S K 1070	B268	K-9°W	D 1 a	長方形	1.10×0.79	17	II	1	N	中央部に段がみられる。	Fig112
S K 1070	B279	N-15°E	F 1 a	不定形	1.02×0.87	11	III	1	N		
S K 1071	C258	N-38°E	C 1 b	長方形	1.23×1.00	41-60	I	1	N	SK998と重複し本跡を断っている。	Fig91
S K 1072	B279, J6		A 1 a	*	0.60×0.55	10-12	II	1	N		
S K 1073	B278		*	*	0.80×0.65	46-48	II	1	N		Fig133
S K 1075	B279, e9		E 1 a	長方形	0.92×0.64	17	I	1	N	敷土はやや軟弱である。	Fig139
S K 1076	A269	N-33°W	A 1 a	長方形	0.97×0.88	12-19	II	1	N		Fig91
S K 1077	B267, J9	N-26°W	E 1 a	不定形	2.00×1.30	45	II	3	N	SK1065と重複する。	Fig110
S K 1078	B267	N-58°E	D 1 a	長方形	1.57×1.04	38	I-II	1	N	敷土はやや軟弱である。	Fig110
S K 1079	B266		A 1 a	円形	0.84×0.83	13-14	II	1	A		Fig81
S K 1080	B279	N-33°W	D 1 a	長方形	0.98×0.52	11-15	II	1	N		Fig154
S K 1081	B267		E 1 a	不定形	2.40×1.76	20	II	1	N	SK998の重複し、アサシ14不明。	
S K 1082	B267, J9		*	*の跡		24	II	1	BS	SK1067, 1068と重複する。	

遺構番号	加工	方位	軸	軸	意	平面形	規模		各部分の状況			備考	時期	地	名	関連図版
							平面(㎡)	壁高(m)	壁	床	土					
S K 1083A	B2g6	N 62° E	D 1 a	長方形		2.9 × 1.83	12	II	1	N	△					
B	#		D II a	円形		0.8 × 0.9	28	I	1	N						
S K 1084	B2g8	N 64° E	D III a	長方形		2.21 × 0.85	16	II	1	N						
S K 1085A	B288	Z				(1.0) × (0.53)	20-25	III	3	I	N	△				
B	B279, a9		B 1 b	円形		1.43 × 1.34	54	II	1	N			SK1077と重複する。			
S K 1086A	B279		A 1 a	(楕円形)		(1.22) × 0.74	28	III	3	N			形勢的にはC76a。			
B	#		B 1 b	円形		1.45 × 1.14	83	I	1	N						
S K 1087	B267, g7		B 1 a	#		1.36 × 1.23	32-36	I	1	N	△	ハ	東側の裾部に段差がみられる。	Fig87 Pl.460		
S K 1088A	B218	N 49° E	A III a	楕円形		2.1 × 0.95	34	II	3	N	△		東北はやや軟弱である。			
B	B218	N 3° E	D III b	長方形		2.16 × 1.94	53	I	1	OO			横上はやや軟弱である。	#		
C	B217, i8		B 1 b	円形		1.46 × (1.23)	72	I	1	N			#			
C	#		B II b	#		1.0 × 1.0	75	I	1	N			#			
S K 1089A	B267		B 1 b	#		1.38 × (1.2)	64	I	1	I	N	△	#		Fig172	
B	B217		#	#		1.4 × 1.58	72	I	1	(I) N			#			
S K 1090	B267, h8	N 26° E	C 1 b	不定形		2.25 × 1.33	36	I-II	1	N	△	ハ	北側に他の土層の乱成がみられる。	Fig96		
S K 1091	B2g6, a9	N 35° W	B 1 b	円形		1.43 × 1.15	65-95	I	1	N			SK1080と重複し本誌が欠ける。	Fig154		
S K 1092	B2g7	N 78° E	D 1 a	長方形		1.96 × 1.32	56	I	1	N				Fig111		
S K 1093	B2g6	N 38° W	C 1 b	楕円形		1.94 × 1.28	133	I-II	1	N	△		円筒状を呈している。	Fig87 Pl.463		
S K 1094	B2g6, h6	N 33° W	A 1 a	#		1.32 × 1.04	38-42	II	1	2C	前期		遺物は真中央の假土層上に多くみられる。	Fig68 Pl.462		
S K 1095	B267		B 1 b	#		1.6 × 1.35	80	I	1	N	△		南西の裾部に段を有する。	Fig171		
S K 1096	B266	N 52° E	#	#		1.65 × 1.44	98	II	1	N	△		SK1066・1073・1074と重複する。	Fig155		
S K 1097	B276, F9	N 21° E	A 1 a	#		1.26 × 0.98	12-15	II	1	N			SK1158と重複する。			
S K 1098A	B256		A II a	(楕円形)		0.64 × (0.45)	4-6	III	3	N						
B	B276		D II a	方形		1.06 × 0.9	43	II	1	正 N						
S K 1099A	B268, e9		A II a	楕円形		0.9 × (0.56)	12	II	1	N			SK1158と重複する。	Fig155		
B	#		B II a	#		0.91 × 0.8	42	I	1	N			横上はやや軟弱である。	#		
S K 1101	C3j3	N 7° W	A 1 a	円形		1.13 × 1.1	40-43	I-II	1	N	△	ハ		Fig88		
S K 1102	B263, e1		#	楕円形		1.4 × 1.12	35-28	I-II	1	N	△					
S K 1103	C3j3	Z				1.42 × 0.55	32-30	III	2	N						
S K 1104	D3e3		(B 1 b)			1.08 × 0.48	94	I	1	OO						
S K 1105A	B419	N 45° W	D II a	不定形		(0.48) × 0.8	10	II	2	N	△		形勢的にはC76a。	Fig99 Pl.463		
B	#		D 1 a	長方形		1.15 × 0.96	40	II	1	N				Fig98		
S K 1106	C4e7, a8	N 67° W	D 1 a	楕円形		1.5 × 0.96	20	I	1	N						
S K 1107A	C4e6, e7		#	不定形		1.53 × 1.0	30	II	2	I	N	△		Fig133 Pl.464		
B	#		#	#		1.52 × (0.94)	22	II	1	2 N	△		Fig135			
S K 1108	C4c7		D 1 b	方形		1.22 × 1.1	51	I	1	1 N	△		ピットはS1069の柱穴か。	Fig118		
S K 1109	C3e6		A 1 a	楕円形		(0.88) × 0.98	16	II	1	1 N			S1069と重複する。	Fig107		
S K 1110	C4e6	N 38° W	#	#		1.32 × 1.1	18-34	I-II	1	N	△	ハ	S1038の西壁に位置する。	Pl.465		
S K 1111	C4e6		(D III a)	楕円形		1.95 × 1.9	3	III	1	N	△	ハ		Fig176		
S K 1112	C4e5, e6	N 3° W	C 1 a	不定形		1.57 × 0.75	21	II	1	N	△	ハ		Fig134		
S K 1113	C4e6, e6		(D 1 a)	長方形		(1.13) × 1.36	27	II	1	N						
S K 1114	C4e7		A II a	円形		0.65 × 0.64	12-14	I	3	N						
S K 1115	C4d7	(N 37° W)	B 1 b			0.38 × 0.36	11	II	2	N						Fig130 Pl.466

遺構番号	地区	主筋	断面	平面形	規模			各部の状況	備	時期	備考	関連図
					平面(m)	壁高(cm)	壁厚(cm)					
SK1116	C45		(DIIa)	長方形	6.73×0.89	17	II 1	N			SI28と重複する。	Fig176
SK1117	C46		(DIIa)	?	0.85×0.7	16	II 1	N			?	
SK1118	C45, a7		(AIIa)	楕円形	1.35×0.75	17	II 1	N	ハ		SK1117と重複し本筋の古い。	
SK1120	C4-5	N 7°W	AIIa	?	1.32×1.04	8-14	II 3	N				Fig98
SK1121A	C45		?	?	1.38×1.2	16	II 1	1 N			A: Bの断面図は用紙ではない。	Fig94 Fig467
B	?		IIIc	円形	0.92×0.5	49	I 1	1 N				Fig94
SK1122	C39		J	?	0.32×0.33							
SK1123	?		Z									
SK1124	?	N 85°E	AIIa	楕円形	0.71×0.67	18-21	II 2	A	自然		遺物は中央部に設置された状態で出土	Fig91
SK1125	C29	N 85°W	AIIIa	長方形	2.3 ×1.68	16-21	II 3	N			S106の西側に重複し本筋が新しい。	Fig84
SK1126	?	N 22°W	BIIa	楕円形	1.28×0.95	25-25	I 3	N			壁は3/4が敷設である。	Fig98
SK1127	C91	N 31°W	DIIa	長方形	1.34×0.98	14	II 1	N				Fig112 Fig468
SK1128	C3 2, 3	N 5°W	?	?	1.87×1.32	15	II 1	N	△		SK982と重複する。	
SK1129A	C3 1, 2		DIIb	?	1.55×0.83	50	II 1	N				
B	?	N 76°W	EIIIa	長方形	11.03×0.77	20	I 3	3 A			ビートは埋没によるものか。	
SK1130	C33, 14	N 41°E	EIIa	不定形	1.72×0.56	29-34	II 2	2 A	ハ		S107の東西に設置しビートは片側のみ。	Fig134
SK1131	C34	N 32°W	OIIa	長方形	1.44×1.3	34-46	I 1	2 既	ハ			Fig112
SK1132	C34, 15	N 64°W	AIIa	楕円形	1.16×0.86	27-34	II 1	1 N			ビートは本筋より新しい。	Fig98
SK1133	C84	N 38°E	EIIa	不定形	1.09×0.55	20	II 2	2 既			ビートはS107の北側か。	
SK1134	C34		AIIa	楕円形	0.91×0.87	28-30	II 1	1 N	△			Fig81
SK1135	?	N 73°E	EIIIa	不定長方形	2.04×1.28	23	II 1	3 N	N		ビートはS107の北側か。	Fig44
SK1136	C91, C41	N 35°E	CIIa	楕円形	1.25×0.9	36	II 1	1 既				
SK1137	C41	N 38°E	DIIa	隅丸長方形	1.77×1.2	20	II 1	N				Fig111
SK1138	C40	N 36°W	EIIa	不定長方形	1.5 ×1.04	22	II 3	1 N				Fig134
SK1141	C26		BIIa	不定形	1.8×1.1	13	I 1	3 N	自然		北側の風土中に少量の粘土かみらる。	
SK1142	C26		BIIb	円形	0.53×0.45	33	I 2	2 N			ビート状でS127の北側か。	
SK1143	C34, a6		Z		1.11×(0.78)	42	II 1	N	ハ		本筋はS127より新しい。	
SK1144	C36	N 85°E	AIIa	楕円形	0.9 ×0.75	51	II 1	2 既			壁は3/4が敷設である。	
SK1145A	C26		AIIa	?	1.27×1.7	16	II 1	1 N			ビートS125: 126の北側か。	Fig135
B	C26		BIIa	楕円形	1.52×1.56	76	I 1	N			遺構は西側の風土中に多くみられる。	?
SK1146A	C26, b6		BIIa	円形	1.94×1.04	76	II 1	N	△		不定長方形の土壌をとり戻す。	
B	C26		BIIa	?	0.95×0.5	15-18	II 2	N				
SK1151	b27, a7	N 86°W	OIIIa	長方形	2.5 ×2.0	30	II 1	3 N	△		北側のSK11392によって破られた。	Fig125
SK1152	b27		DIIa	円形	1.94×1.3	35	I 1	1 N	ハ		SK1154と重複する。	Fig119
SK1154	?		?	隅丸長方形	1.64×1.55	25	I 1	1 N	△		床の面は埋没をうけている。	
SK1155	b27	N 8°E	EIIa	不定形	1.07×1.35	18	I 1	1 N			SK1156と同じ形、ビートは新しい。	
SK1156A	B26	N 86°E	OIIa	長方形	0.92×1.13	14	II 1	1 N	△		SK1155と重複する。	
B	?	N 5°W	DIIa	?	1.54×1.01	49	II 3	A				
SK1157	b27	N 47°W	EIIa	不定形	1.6 ×1.25	49	II 1	2 既	△		SK1154と重複する。	Fig471
SK1158	b29		BIIa	楕円形	1.09×1.04	54	I 3	2 既	自然			Fig136
SK1160	B26	N 29°W	DIIa	長方形	1.1 ×1.0	29	II 3	3 N	△		ビートは本筋より新しい。	Fig162 Fig470
SK1161	B26		BIIa	円形	1.0 ×0.93	45	I 1	1 N	ハ		SK1160と重複する。	Fig167
SK1162	B26, 47	N 66°W	OIIIa	長方形	2.3 ×1.63	196	II 1	N				Fig167 Fig472

遺構番号	地区	主軸方位	形状	平面形	規模		各部の状況		層上	時期	備考	関連図版	
					平面(m)	厚さ(m)	礎	礎					
S K1165	B27	N 13° W	E 1 a	不定形	3.22×0.54	14	II	3	2	N	△	ビッドは埋瓦によるもの。	Fig198 Pl.173
S K1164	〃	〃	E 1 a	不定形	0.8×0.52	22	II	1	1	N	△	SK1173より新し。横すじ やや残存。	Fig198 Pl.173
S K1165A	B27, a7	N 12° W	〃	〃	(1.95)×1.4	25	II	1	1	N	△		
B	〃	〃	Z	〃	(1.3)×1.04	46	II	5	10	VA			
S K1166	B28		H 1 b	門 形	0.9×0.86	53-54	III	1	1	N		横すじ上部のみ残存が認めら れる。	Fig175 Pl.174
S A1167	B28		D 1 a	方 形	1.6×1.03	20	II	3	1	N			Fig112 Pl.125
S K1168	B29	N 41° E	E 1 a	不定形	1.11×0.82	9-26	II-III	3	2	VA		ビッドは埋瓦によるものか。	Fig134 Pl.126
S K1169	B27	N 30° W	〃	不定形	1.02×1.18	17	II	3	1	N	△		68
S K1170	B29	N 28° E	A 1 a	柱 石 形	1.47×1.36	18-20	II	1	1	N	前期		Fig26 Pl.127
S K1171	B29		H 1 b	門 形	1.08×1.6	66-68	I	1	1	OC	1期		Fig21
S K1172	B28, a7	N 14° W	A 1 a	楕 圓 形	1.68×1.17	14-16	II	1	1	N			Fig68
S K1173	B28	〃	〃	〃	1.13×0.92	20	III	2	1	N			〃
S K1174	B28	N 52° W	〃	〃	1.3×0.9	28-34	II	2	1	N		真土中に少量の瓦の破片がみ られる。	〃
S K1175	B28, b8	N 50° E	D 1 a	柱 石 形	1.48×1.3	22	I-II	3	1	N	△	ビッドはS1000の破片か。	Fig160
S K1176	B29, 1a	N 50° W	正確な E 1 a	不定形	2.8×1.73	22	II	5	6	III	△	S1000の伊予破り瓦の破 片も残存。	Fig143 Pl.129
S K1177	B28	N 47° E	E 1 a	〃	1.2×1.07	15	III	3	5	N		ビッドは埋瓦によるもの。	Fig134
S K1178	B29, 1a	N 7° W	〃	〃	1.6×1.15	34	II	3	1	N	△	ビッドはS1000の破片か。	Fig128
S K1179	B29	N 9° E	〃	〃	1.56×0.81	15	III	2	1	N		SK1172と異なり埋瓦が少なく ない。	Fig134
S K1180	B27, a7	N 28° W	D 1 a	柱 石 形	1.78×1.3	25	III	3	1	N	△	ビッドは本舞より新し。	
S K1181	B28	N 27° E	〃	〃	1.45×1.26	35	II	1	1	N	△		Fig117
S K1182	B28, a6	N 25° E	D 1 a	〃	2.35×1.4	35	I-II	1	1	OC	前期	埋土中に少量の瓦の破片がみ られる。	Fig129 Pl.143
S K1183	B27, 1A	N 48° W	E 1 a	不定形	2.25×1.2 1.3	27	II	1	2	N	△	北西側にS1200の遺すじが みられる。	Fig111
S K1184	B28, a9	N 49° W	D 1 a	柱 石 形	1.37×1.26	41	II	1	1	N			Fig111
S K1185	B28	N 52° E	〃	方 形	1.22×1.46	21	III	2	3	N	△		
S K1186	B28, 1a	N 4° E	D 1 b	平 定 形	1.5×1.43	60	II	1	1	VA			Fig128
S K1187	B29	N 7° E	正確な E 1 a	〃	1.83×1.3	34	III	1	1	II			Pl.141 Fig28 Pl.142
S K1188	〃	〃	A 1 a	楕 圓 形	1.4×1.3	60	II	1	1	N			Fig26
S K1189	B30	N 60° W	〃	〃	1.15×0.82	12	III	1	1	N			
S K1190	B27		D 1 a	方 形	0.89×0.87	10	II	3	2	N		部分の埋瓦がみられる。	
S K1191	B27	N 26° W	D 1 b	柱 石 形	1.28×1.0	60	I	1	1	VA		真土に埋瓦がビッドは新し。	
S K1192	B29	N 27° W	D 1 a	〃	1.1×0.9	14	II	1	1	II		ビッドはS1000(II)とみられる。	Fig134 Pl.143
S A1193	B28, 1a	N 37° E	E 1 a	不定形	1.45×1.1	32	II	1	2	N	△	SK1192と異なり埋瓦が少 ない。	Pl.143 Fig134
S K1194	B28, 1a	N 25° E	D 1 a	柱 石 形	2.15×1.05	51	I-II	1	1	N	△		Fig134
S K1195	B28, a3		D 1 a	〃	1.08×0.8	34	II	1	1	N			
S K1196	A29, B29	N 50° W	E 1 a	柱 石 形	1.2×1.06	13	III	3	1	N			
S K1197	B27		A 1 a	門 形	0.99×0.84	45	II	1	1	N		ビッドは本舞より新し。	Fig60
S K1198	A27, B27	N 35° E	A 1 a	平 定 形	2.4×1.94	42	II	1	1	VA	前期		Fig24
S K1199	B27		D 1 a	平 定 形	1.22×1.2	36	II	1	1	N	△		
S K1201A	B28	N 22° W	D 1 a	柱 石 形	(0.7)×0.36	58-59	II	1	1	N	前期		Fig141 Pl.143
B	〃	〃	F	同 形	0.9×0.9	273	I	2	1	N		鉄線瓦が土中に残っている。	
S K1202	B28, 7	N 73° W	E 1 a	不定形	2.62×1.36	59-65	II	1	4	N	△	SK1206より新し。	Fig47
S K1203	B28, 17	N 105° E	D 1 a	柱 石 形	1.39×1.52	43	II	1	1	N	△	ビッドはS1000の破片か。	Fig111
S K1204	B28		E 1 a	平 定 形	1.93×1.6	35	II	1	1	N		SK1202と異なり埋瓦が少 ない。	

遺構番号	法区	土輪	形勢	平面形	尾 端		各面の状況		層	時期	備 考	関連図版		
					平 面 (m)	壁 高 (m)	壁 厚	ピ ン 土 数						
S K 1205	B1g, c1	N-07°W	D I a	長方形	1.4 × 1.4	65	II	1	2	N				
S K 1207	B3a, c7		H I b	隅丸方形	1.7 × 1.68	92~94	II	1	1	IV	耳取	跡はD10に近く、下層は少量の土出土。		
S K 1208	B3g1	N-52°E	(E I b)	窪 円形	1.89 × 1.09	68	II	2	1	N	△	SK1237を切り壁はややV字状をなす。		
S K 1209	b77, f6	N-05°W	A I b	*	2.03 × 1.17	75~85	II	2	1	N		本層はSK1257の階層を穿っている。	Fig167	
S K 1210	B2b5	N 13° E	A II a	*	0.79 × 0.67	9~11	II	1	1	N			Fig161	
S K 1211	B2b5, g5	N-07°W	A II a	*	0.92 × 0.49	14~18	II	1	1	IV			ピットは機軸によるもの。	
S K 1212	B2f0, a0		H I b	円 形	1.30 × 1.15	87	II	1	1	N			Fig175 PL164	
S K 1213	B2f0, b0	N 31° E	A I a	長方形	1.98 × 0.99	74~81	II	1	4	N			平面図は中や後期状ともみられる。	
S K 1214	B2f0	N-7°W	E I a	不定形	1.51 × 0.62	12	II	1	1	N	△		分銅型行巻が出た。	Fig134
S K 1215	B2f9	N 39° W	B I a	隅 円形	1.13 × 1.0	31~34	I	1	1	N			Fig168 PL145	
S K 1216 A	B2f9, c0	N 50° W	D I a	六角形	1.25 × 1.7	50	II	3	1	IV			機軸は中や後期である。	
B *			D I a	(方 形)	(0.6) × 0.6	37	II	2	1	IV			*	
S K 1217 A	B2c0	N-34°E	E II a	不定形	(0.58) × 0.94	23	II	3	1	IV			*	Fig194 PL156
B *			D I a	方 形	0.98 × 0.92	42	II	3	1	IV			*	
S K 1218	B2b0	N-23°W	A I a	隅 円形	1.72 × 1.64	15~20	II	2	1	N			Fig166	
S K 1219 A	B2f0		E I a	不定形	1.1 × 0.9	21	I	2	1	N	△		Fig155	
B *		N-5°E	D II a	長方形	2.0 × 1.64	28~30	II	1	1	N			*	
S K 1220	B3b3, B3b1	N 38° W	(H I a)	*	1.27 × 0.52	38~48	II	1	2	IV			有車壁は内わかし、東西壁は外に及ぶ。	Fig187 PL147
S K 1221 A	B3b0, c0	N-73°E	E I a	不定形四角	1.02 × 1.03	10	II	1	1	N				
B *	B2f9, c0		H I b	隅 円形	1.08 × 1.06	66~52	III	2	1	N			機軸は中や後期で機軸が入る。	
S K 1222	B3b9, d9	N-34°E	D I a	長方形	1.63 × 1.25	20	I	1	2	N			Fig115	
S K 1223	C2b8	N-26°W	B I a	*	2.34 × 1.96	70~75	II	1	1	N	△		SK201・SK276と連続する。	Fig177
S K 1224 A	C2b7		D I a	長方形	0.73 × 0.84	10	III	1	1	N				
B *			B I a	円 形	0.34 × 0.38	46	I	1	1	N				
S K 1225	C2b7, k7		E I a	不定形	0.88 × 0.75	30	III	1	1	N			Fig199	
S K 1226	C2b7	N 16° E	D I a	長方形	1.96 × 0.99	52	I	1	2	N	III		ピットは本層よりやや浅い。	Fig162 PL188
S K 1227	C2b7	N-82°W	B I a	不定形	1.09 × 0.97	17	II	2	1	N			ピットはD106の柱石か。	Fig163
S K 1228	C2b7, k7		D I a	長方形	1.30 × 1.14	50	I	1	1	N	△		Fig112	
S K 1229	B2c0, f, c6	E 73° W	H I b	長方形	1.54 × 1.07	32	(b=)	1	4	N	△		ピットはSK200の柱石か。	
S K 1230	B2b5, e8	N-85°W	A I a	隅 円形	1.75 × 1.06	20~48	II	1	3	N	△		ピットはSK200、平光は機軸に入る。	Fig164
S K 1231	B3b7, c7	N-21°W	E II a	不定形	2.4 × 1.34	12	II	1	1	IV	△		柱の北三方形が張り込みのみみられる。	Fig144
S K 1232	B2c7	N-20°E	B I b	*	0.96 × 0.72	52	I	1	1	N				
S K 1233	B2b0	N 56° W	B I b	隅 円形	1.73 × 1.63	224	I	1	1	N	IV		電線跡と壁とついている。	Fig127 PL180
S K 1234	B2b5, d8	N-85°W	D I a	長方形	2.14 × 1.43	25~46	II	(2)	2	N	III		Fig111	
S K 1235	B2b6	N-38°W	A I a	隅 円形	1.07 × 1.78	29	II	1	1	N			Fig168	
S K 1236	B3b1	N 78° W	D I a	長方形	1.72 × 1.13	45	II	1	1	IV			SK201と連続、本層破れなし。	Fig111
S F 1207	B2b7	N-20°E	A I a	不定形	0.81 × 1.20	48	III	1	1	N			SK1298によって穿られている。	
S K 1238	f7b, b, e1	N 84° E	A I a	隅 円形	0.88 × 0.75	10~18	II	3	1	N			Fig169	
S K 1239	B2b5, e1		E II a	不定形	2.42 × 1.25	43	II	1	1	N			Fig144	
S K 1240	B2b4		Z	隅 円形	0.28 × 0.28		II	1	1	N			機軸	
S K 1241	C2b0	N-56°W	D I a	長方形	1.69 × 0.9	34	II	1	1	N				
S K 1242	B2b0	N 59° W	A II a	隅 円形	0.82 × 0.74	47	II	1	1	N	△		ピットは本層より浅い。	Fig161
S K 1243	B2b5, g5	N 81° E	A I a	*	1.32 × 1.0	25~38	II	1	1	N	△		方形柱溝SK204の北東に連続する。	Fig161

造機番号	地区	歩 数	軸 造	平 面 形	規 格		各部の状況		備 考	関係図版	
					平面(m)	取高(m)	壁 体	ピロ 上階			
S K1214	H2g5		F I a	不定形	1.8×1.30	19-20	I 2	00	△	SX004と重複し無い溝が北東へ走る。	Fig134
S K1245	H2g5	N-80°E	A I a	積 円 形	1.17×1.3	22-24	II 1	N	△		Fig9 Pl.499
S K1247	H2g3, g3	N 4° W	B I a	不 定 形	1.66×0.92	32	II 1	06	△	階上の土層は軟弱である。	Fig134
S K1248	H2h3, h3		D II a	長 方 形	4.65×	40	I 1	2 N	△	SX004の溝と重複しプランは不明。	
S K1249	H2L, h2	N 70° W	*	*	2.77×2.16	45	I 1	1 N			
S K1251	H2L	N 54° W	A I a	*	1.95×1.15	41	II 1	2 N	△		Fig111
S K1252	H2h2, h2	N-42°E	B I a	積 円 形	1.45×1.02	40	I 1	N	△		Fig98
S K1253	H2h1, h2	N 12° E	A I a	*	1.3 ×1.13	25-32	II 1	2 N	△	床は東へ向かい傾斜をもち、	Fig99
S K1254	H2h1, h2	N-80°E	*	*	1.17×0.94	32-35	II 1	1 N	△	ピットは階上よりやや傾斜し、	Fig99
S K1255	H2h2	N-45° E	*	*	1.2 ×1.0	30-38	II 1	1 N			Fig99
S K1256	H2h2		C I a	長 矩 形	2.1 ×1.34	38	II 1-2	2 N	△	階の中庭は埋まれている。	Fig136
S K1257	H2h3, h2	N 60° E	C I b	*	2.0 ×1.3	32-35	II 1	1 06	△	SX004によっての両端を穿ら れている。	
S K1258	H2h3, g3		?	不 定 形	2.9 ×2.0	38-44	I 1	1 N	△	西側に新しい溝が込みみ られる。	
S K1259	H2g5, g3		A I a	積 円 形	1.24×1.15	34-38	II 1	1 N	△		Fig99
S K1260	H2g2	N-35°E	D III a	積 円 長 方 形	2.8 ×1.5	30	I 1	N	△		Fig124
S K1261	H2g4		D II a	方 形	1.95×0.94	28	I 1	N	△		Fig121
S K1262	H2h1, g1		(A III a)	積 円 形	4.78×2.2	20	II 1	N	△	大井口横で東西に延長して いる。	Fig176
S K1263	H2g1		A I a	積 円 形	1.18×1.08	28-40	I 1	1 06			Fig99
S K1264	H2g1	N-30°E	*	積 円 形	1.13×0.94	20-22	II 1	N			Fig99
S K1265	H2g5, g1	N-30° E	B III a	*	2.26×1.32	22-26	I 1	N			Fig92
S K1266	H2L, g1	N 2° W	A I a	*	1.63×1.1	28-37	II 1	N	△	SX1267と重複し、その部分が ない。	Fig99
S K1267A	H2L, h2	N-64°E	D III b	長 方 形	3.5×1.6	60	II 1	N	△	北西側に円形の土層がみ られる。	Fig173 Pl.491
H *	*	N-64°E	C III a	長 方 形	3.0 ×2.0	170	V 2	2 N		壁中央の柱脚に付着するピ ットがある。	Fig173
S K1268	H2h5, g3	N-42°W	D I a	長 方 形	1.22×1.0	40	I 3	N	△	階上の土層は中軟弱である。	Fig132
S K1271B	H2h4, 15		H I b	円 形	1.4 ×0.9	101	I 1	N	△		Fig132
S K1274	H2g5, g1	N-51°W	B I a	積 円 形	2.0 ×1.8	28-35	I 1	N	△		
S K1280	H2H5	N-87° W	B I a	*	1.58×1.27	35-38	I 1	3 N			Fig98
S K1281A	H2H5, e5	N-46°W	D III a	長 方 形	1.25×1.11	75	II 2	1 N	△	扉前は埋めておくか穴い 可 能性がある。	
B *	*	N-82°W	D III a	*	2.03×2.11	37	I 1	N			
S K1282	H2h5	N 87° E	B I a	長 矩 形	2.03×1.77	33-41	I -1	N	△		Fig92
S K1283	H2h5	F H a	不 定 形	1.6 ×0.83	30	II 3	N	△			Fig139
S K1286	H2H5		A II a	円 形	0.26×0.11	129	II 2	N	△	同	Fig131
S K1287	H2H5		A I a	*	0.36×0.15	125	II 2	N			"
S K1288	C2h6	N 70° W	C I b	不 定 形	2.45×1.8	91	I 1	1 N	△	SX1286と重複し、その溝は 不明。	Fig179
S K1289	C2B6, e6	N 70° E	B III a	*	1.77×1.2	15	II 1	4 N	△	ピットはS1119の120の埋 入。	"
S K1292A	C2h4	N-82°W	E II a	不 定 形	2.1 ×1.32	28	I 1	N	△		Fig144
B *	*		C II a	不 定 形	0.83×0.64	46	II 1	N			"
S K1293	C1H4, g5		A II a	円 形	0.85×0.65	29-30	II 1	N			Fig94
S K1294	C2h4	N-82°W	*	積 円 形	0.9 ×0.77	18-20	II 3	N		左側の壁工事に少量の 埋入がある。	"
S K1295	C2h4, e5	N 87° E	A I a	*	1.38×0.85	16-20	II 3	N			Fig99
S K1296	C2h6		D I a	長 方 形	1.55×1.46	25	II-III	1 06			Fig112
S K1297	C2h5, e6	N-25°E	E I a	不 定 形	1.67×1.08	30	II 3	N			"
S K1300	C2h6, h6		A I a	不 定 形	1.86×1.00	16-20	II 1	2 N			Fig99

遺構番号	地区	方位	形	平面形	規模		各部の状況	構造	時期	備考	関連図表
					平面(m)	壁高(cm)					
S K 1301	C2a9,40	N-47° E	A 1 a	楕円形	1.95×1.26	25-35	II 1 3	A	△	ピットは埋れによるものか。	
S K 1302	B2a6,19	N-80° W	E 1 a	*	2.30×1.76	80	II-III 3	A	△	礎土は軟質で床に西に傾斜する。	
S K 1303	B2a9,C2a9	N-16° W	E 1 a	不定楕円形	1.52×0.93	22	II 1	IV	△		Fig135
S K 1304 A	B250	N-26° W	E 1 a	*	2.30×0.91	30	II 1 1	N			Fig155
B	*	N-64° W	D 1 b	長方形	1.25×1.14	46	III 3 2	N			Fig175
S K 1305	D250		A 1 a	楕円形	0.82×0.7	10	III 3	IV	△	礎土は軟質である。	
S K 1306	B311,C3a1	N-20° E	E 1 a	不定楕円形	1.44×1.13	36	II 1 2	A		礎土はロームブロックを多く含む。	Fig135
S K 1307	B31a,11	N-13° E	*	不定形	1.79×0.72	30	II 1	A	△	*	
S K 1308	B250,10	N-31° E	A 1 a	楕円形	1.07×0.88	18-20	II 1	IV			Fig89
S K 1309	B31,11	N 6° E	E 1 a	不定形	1.77×0.87	10-24	III 3	N			Fig135
S K 1310	B31	D 1 a	方	形	1.06×1.06	33-48	II 3	N		履土の上層は軟質である。	Fig112
S K 1311	B31L,C3a1		E 1 a	不定形	1.87×1.01	10	III 3	N			
S K 1312	C3a2	N-80° E	A 1 a	楕円形	0.84×0.83	16-20	II 1	IV			Fig81
S K 1313	B32	N-78° W	D 1 a	長方形	1.45×1.04	22	II 1 1	A			
S K 1314	B32L3	N-90°	E 1 a	不定形	1.27×0.89	25	II 1 2	N		履土はやや軟質である。	
S K 1315 A	B33	N-25° E	A 1 a	楕円形	(0.8)×1.11	24	I 1 1	IV			
B	*	N-55° W	*	*	1.32×0.56	44	I 2 3	A		ピットは埋れによるもの。	
S K 1316	B34,13		A 1 a	円形	0.93×0.84	42-46	II 1	N			Fig81
S K 1317 A	B34,15	N-88° E	D 1 a	長方形	2.2×1.7	16	II 1	N	△	SK899と重複する。 A、Bの断面はそれとは別物でない。	
B	*	N-21° W	D 1 a	*	1.0×0.8	37	II 1	N			
S K 1318	B34,14	N 45° E	D 1 a	*	1.43×1.03	40	II 1	N			Fig112
S K 1319	B34	N-52° E	A 1 a	楕円形	1.63×1.16	35	II 1	N	△	半圓形はやや長方形である。	Fig89
S K 1320	D34,14	N-80° E	D 1 a	長方形	2.01×1.45	37	I-II 1	IV		部分的に埋れがみられる。	Fig133
S K 1321	B35		A 1 a	円形	0.82×0.79	10-12	II 3	N		礎土はやや軟質である。	Fig81 PL492 PL493
S K 1322	B34,15	N-25° W	H 1 b	楕円形	1.66×1.37	74	IV 1	N	II	礎土及び床面に多くの焼土がみられる。	Fig175 PL493
S K 1323	B34	N 3° E	E 1 a	不定形	1.48×1.16	29	I-II 1 2	N		床の北端は凹状をなす。	Fig135
S K 1324	B34		A 1 a	円形	1.02×1.12	18-20	II 1 1	N			Fig89
S K 1325	B34		A 1 b	楕円形	1.43×1.34	61-63	II 1	IV		礎土はやや軟質である。	Fig75
S K 1326	C33,14		A 1 a	*	1.1×1.01	12-16	II 1 1	N			Fig89
S K 1327	B33,14	N-44° E	E 1 a	長楕円形	2.63×1.18	50-58	II 3 1	IV		部分的に埋れがみられる。	Fig168
S K 1328 A	B36		E 1 a	不定形	(0.8)×1.17	20	II 3	N		礎土は軟質でそれほど時期は定まらない。	
B	*		A 1 a	楕円形	1.28×0.54	45	II 2	A			
S K 1329	B35	N-72° E	D 1 a	長方形	2.03×0.92	23	I-III 3 2	N			Fig134
S K 1330	B33	N-8° E	E 1 a	不定楕円形	1.14×0.72	34	II 3 1	N		ピットは本跡より新しい。	
S K 1331	B32,13	N-76° W	E 1 a	*	1.62×1.03	35	II 3 1	IV		床の端は埋れをうけている。	Fig135
S K 1332	B32		E 1 a	不定形	2.44×1.42	21	II 1 1	IV	△	3本の礎柱の可能性がみられる。	Fig133
S K 1333 A	B32,12		E 1 a	*	(1.98)×1.1	6	III 1	N			Fig155 PL494
B	*	N-38° E	D 1 b	長方形	1.61×1.5	57	I 1	N			
S K 1334	D31,11	N-10° W	E 1 b	不定形	1.92×1.23	50	III 3 1	IV		礎土はやや軟質である。	Fig136
S K 1335	B250	N 7° W	E 1 a	*	1.99×0.96	36	II 1 1	IV	△	2-3基の礎柱が考えられる。	
S K 1336	B31	N-33° W	D 1 a	長方形	2.18×1.17	25	III 3 2	IV		礎土はやや軟質である。	
S K 1337	D30	N-23° W	A 1 a	楕円形	1.12×0.87	12	II 1 1	N		ピットは本跡より新しい。	Fig89
S K 1338	B31	N 32° W	D 1 b	長方形	1.62×1.35	80	II 1	IV			Fig119

通称番号	地区	方位	形状	平面積	面積		各部の状況	備	時期	備	考	関連図表
					中面積(m ²)	増減(m ²)						
S K 1329	D551	N-87°E	(A1b)	長方形	1.44×1.05	85-31	II	3	1	A	覆土は積貫でコンクリートブロックを敷く。	Fig16 P1-485
S K 1340	B317	N-44°E	A1a	待門形	1.32×0.84	14-20	II	3	1	B	ビツは等脚より新しい。	Fig70
S K 1341	D322, a2		C1b	不定形四角	1.97×1.24	99	II-B	1-2		N	床中央に可動式の椅子が置かれており。	Fig96
S K 1342A	B63	N-84°E	A1a	*	1.7×1.34	35	II	1		N	円筒的にはC1a5。	Fig94
B	*		A1a	円形	0.9×0.97	34	II	1		N		
S K 1343	D341	(D1b)	*		1.88×1.08	100	II	1	1	N	ビツはやや低脚形で覆土層は敷く。	Fig119
S K 1344	B32, a3		D1a	長方形	1.05×1.08	30	II	3	3	N	ビツは覆土によるもの。	
S K 1345	D362	*		長方形	1.10×0.70	31	II	1	2	N	*	
S K 1346	B31, a2		D1b	*	1.32×1.27	30-53	II-B	3	5	N		Fig118 P1-497
S K 1347	D31		A1a	待門形	1.08×0.98	30-36	II	3		N		Fig20
S K 1348	D31, A1	N 50° W	D1a	*	1.45×1.09	35	IV	1		N	SK1349と重複を収めている。	
S K 1349	D31	N 85° W	B1a	*	0.89×0.68	14-10	I	1		N		Fig92
S K 1350	C36	N-26°W	D1b	方形	1.04×1.04	30	I	1		N	覆土層に 砂土を詰す。	Fig116 P1-496
S K 1351	D35	N 74° E	D1a	長方形	1.70×1.46	52	II	4	A		SK1354Aと重複する。	Fig171
S K 1352	B35	N-25°W	D1a	短長方形	2.18×1.45	37	II	1		N	覆土層や表面である。	Fig171
S K 1353	D318, 35		D1a	長方形	(2.0)×2.44	42	II	1		N	SK1354Aと重複し床が敷く。	Fig177 P1-498
S K 1354A	B36, a5		*	*	2.8×2.85	46	I	1		N	SK1351と重複する。	Fig171 P1-495
B	D37, 17	N 78° E	*	長方形	2.16×1.92	41	I	1		N	SK1351と重複する。	Fig171
C	B36, 17	N-65°E	D1a	*	1.32×1.12	27	II	1	1	N	SK1354A・1354と重複、床が敷く。	Fig171
S K 1355A	D37, 16		(D1a)	(長方形)	(1.94)×2.1	42	II	1		N	SK1354Bに似ている。	Fig171
B	*		D1a	長方形	2.0×1.90	46	I	1		N	SK1351と重複する。	Fig171
S K 1356	B37	N-27°W	(C1b)	円形	1.70×1.33	78	II	1	1	N	SK1354Bに似ている。	Fig171
S K 1357	*		D1b	不定形	1.31×1.05	45	II-B	2		N	北東部はゆるい傾斜をもつ。	Fig139
S K 1358	B37, 18		A1a	待門形	1.26×1.31	31	II	1		N		Fig70 P1-499
S K 1359	B38	N-27°W	D1a	長方形	1.74×1.05	47	I	1	3	N	ビツは床敷より新しい。	Fig160
S K 1360	B38	N-45°W	D1a	正方形	1.86×1.0	48	II	1		N	壁面は凸凹状となっている。	Fig173 P1-501
S K 1361	D38		A1a	円形	0.98×0.92	12-14	D	1		N	ビツは積貫によるもの。	Fig91 P1-503
S K 1362	B38		A1a	待門形	1.11×0.95	12-16	II	1		N		Fig70
S K 1363	B38		(D1b)	*	1.16×1.0	50	I	1		N	平面積は待門形よりも大きい。	Fig136
S K 1364	D38, 38	N 51° E	A1a	待門形	1.05×0.96	18-20	II	1		N	日積	Fig70
S K 1365A	B38, 39	N-77°E	D1a	不定形四角	1.21×1.06	10	II	3		N		Fig136
B	*	N 81° W	D1b	長方形	1.30×1.22	50	II	1		N	覆土はやり敷である。	*
S K 1367	B36, C36		D1a	不定形	1.70×1.06	110	II	1		N	中央に壁の残りがみられる。	Fig116 P1-505
S K 1368	D39		D1b	円形	1.38×1.32	64	IV	1		N		Fig175
S K 1369	D36, a5	N 65° W	D1a	長方形	2.78×2.31	70	I	1	4	N	北東部にビツが取り付けられている。	Fig163
S K 1370	B39	N-54°E	D1a	*	1.91×1.51	13	II	3		N		
S K 1371	B35	N-67°E	A1a	待門形	1.74×1.16	14-17	II	1		N	ビツは積貫によるもの。	Fig70
S K 1372	B36, 45	N-28°E	D1b	長方形	1.66×1.11	50-56	II-B	1	2	N	覆土は積貫で土に埋め込まれる。	Fig119
S K 1373	D36	N 7° W	D1a	不定形四角	1.38×1.08	24	II	3		N	ビツは床より新しい。	Fig135
S K 1374	B39		D1a	円形	1.14×1.01	42-46	I	1		N	覆土は少量の積貫とカーボンを敷く。	Fig98 P1-506
S K 1375	B36, 54	N 2° W	A1a	待門形	1.02×0.92	31-33	II	2	1	N	覆土はやり敷である。	Fig70
S K 1376	B37, 16	N 4° W	D1a	*	1.36×1.06	22-39	II	1		N		Fig94
S K 1377	B37		D1a	長方形	0.98×0.95	17	II	3		N	床の敷貫積貫を引いている。	

液体番号	地 区	主 軸	市 形	字 面 形	尺 寸		各部の尺代	備 考	製造国名		
					千 部 (mm)	位 置 (mm)					
S K 1375	1374	N 20° W	A H a	楕 円 形	0.96×0.82	42-45	II 2	N	覆土はやや軟質である。	Fig11	
S K 1379	1379	"	"	"	0.85×0.75	26-28	II 2	N	"	Fig11	
S K 1380	1380, 90	N 73° W	A I a	"	1.58×0.87	12	III 3	30			
S K 1381	1381	N-18° W	D I a	長 方 形	1.4 × 1.04	40	II 1	N	南壁にピットがみられる。	Fig112	
S K 1382	1382, 10	N 30° W	A H a	楕 円 形	0.69×0.54	14-22	II 1	N		Fig12	
S K 1383	1376, 45	"	D I a	長 方 形	1.13×0.93	24	II 2	N		Fig113	
S K 1386 A	1389, 7, 6, 9	N-3° E	D I b	長 方 形	1.65×1.1	66	I 1	N	露出	Fig156	
B	"	N-46° E	A I a	楕 円 形	1.35×1.45	23	I 1	N		"	
S K 1385	1385, 16	N-31° W	D I a	"	1.04×0.84	43-50	I 1	62	覆土はやや軟質である。	Fig168	
S K 1386	1387	"	D I b	隅丸長方形	1.6 × 1.3	52	I 1	62	日露	Fig119	
S K 1387	1386, 10	"	A I a	楕 円 形	1.45×0.9	7-15	II 2	30			
S K 1388	1386, 40	"	A H a	正 形	0.94×0.94	36-44	II 2	1 50	覆土はやや軟質である。	Fig167	
S K 1389 A	1389	"	Z	"	1.03×0.6	2	II 1	N		Pl.505	
B	"	"	A H a	楕 円 形	0.90×0.8	30	II 2	N			
B'	"	"	H H a	正 形	0.75×0.66	33	I 1	N			
S K 1390	1390	"	E I a	不 定 形	1.33×0.76	12	0-III-2	N	壁の裏側の岩は新しいもの。	Fig135	
S K 1391	1389	"	A H a	正 形	0.83×0.83	8-15	II 1	1 30	ピットは岩跡より新しい。	Fig162	
S K 1392	1389, 40	N-57° W	E I a	不 定 形	1.24×1.09	23	II 1	2 30	ピットは覆土によるもの。	Fig133	
S K 1393	1389	N 52° W	"	"	1.54×0.67	3-19	II 3	N	壁の北端は岩跡をなす。		
S K 1394	1389, 12	"	D I a	長 方 形	1.2 × 1.16	17	II 1	64			
S K 1395	1395	N-47° W	E I a	不 定 形	1.6 × 1.36	25	II 2	50		Fig135	
S K 1396 A	1396, 40	N 14° E	A I a	楕 円 形	1.02×1.05	5	II 1	30		Pl.506	
B	"	N 14° E	A I b	不 定 形	1.1 × 1.05	15	II 1	1 30	覆土は軟質でピットは新しいもの。		
S K 1397	1397	N 37° E	E I a	楕 円 形	1.16×0.7	12	0-III	1	65	覆土はやや軟質である。	
S K 1398	1398	"	A H a	楕 円 形	0.76×0.47	32-30	III	3	A	覆土はやや軟質である。	
S K 1399	1399	N 28° E	D H a	長 方 形	0.98×0.82	15	II 3	2 30		Fig121	
S K 1400	1400	N 38° E	A I a	楕 円 形	1.58×0.86	6-10	II 1	1 30		Fig170	
S K 1401	1404	N-26° W	D H a	長 方 形	0.90×0.7	35	II 2	30		Fig171	
S K 1402	1402	N 35° W	A I a	楕 円 形	1.3 × 1.0	20	II 2	1 64		Fig170	
S K 1410	1397	"	D I b	隅 丸 長 方 形	1.34×1.32	50	II 1	A	手裏にはやや楕円形とみられる。	Fig134	
S K 1404	1398	N-67° E	A I a	不 定 形	1.32×0.73	15	II 2	1 30			
S K 1405	1397, 28	"	A I a	河 形	0.86×0.42	20-40	II 2	1 50	覆土は軟質でピットは新しい。	Fig162	
S K 1406	1398	"	A I a	"	1.12×1.17	26-38	II 2	A	覆土は軟質である。	Fig170 Pl.507	
S K 1407	1387, 66	N 47° E	D I a	長 方 形	1.72×0.8	39	I 2	2 30		Pl.508	
S K 1409	1387	"	A I a	楕 円 形	1.07×0.94	21	II 3	1 62	ピットは本跡より新しい。	Fig170	
S K 1419	1391, 41	N-29° W	D H a	長 方 形	1.14×0.72	30	II 3	2 30		Fig155	
S K 1411	1391	N 86° W	E I a	不 定 形	0.86×0.43	18	III	2 20	覆土は岩跡は軟質である。	"	
S K 1412	1397	"	D I a	隅 丸 長 方 形	1.08×0.99	41	II 1	50	"	Fig132	
S K 1413	1396, 16	N 17° W	D I a	楕 円 形	1.03×0.86	38-42	I 1	N		Fig168	
S K 1414	1397, 40	N-33° W	D I b	長 方 形	1.23×0.83	64	1-III	1 64	ハ	SK1415Aを切り覆土は軟質である。 SK1418と形跡はほぼ同型である。	Fig166 Pl.509 Fig165 Pl.509
S K 1415 A	1396, 47	"	D I a	長 方 形	1.57×0.83	32	II 1	30		Fig166	
B	"	N 81° W	D I a	長 方 形	1.17×0.7	66-72	1-III	1 1 30		SK1414と型タイプで形状と しちみられる。	Fig166
S K 1416	1407	N-35° W	D I a	隅 丸 長 方 形	1.25×0.79	5-20	II 3	30			

遺構番号	地区	主軸方位	形状	平面形	規模		各部の状況		備上	時期	備考	関連図説
					平面(m)	壁高(m)	壁	ピット数				
S K 1417	H36, F7	N 0°-E	D 1 a	不定形	1.23×1.06	33	II 3	N				
S K 1418	H36, G9	N-83°-W	D 1 a	方形形	1.48×1.34	28	II 1	N			壁中央に方形柱の痕り込みがみられる。	Fig166
S K 1419	H36	N 71°-E	A 1 a	楕円形	1.13×0.76	24	II 1	N	ハ			Fig20 Pl.510
S K 1420	H36	N-71°-E	E 1 a	不定形	1.24×1.07	30	II 1	N			S K 1419と重複し壁中央に痕り込みがみられる。	Fig20 Pl.510
S K 1421	H36	N 60°-W	A 1 a	楕円形	1.18×0.78	9-18	II 2 1	N				Fig21
S K 1422	H36	N-76°-W	D 1 a	長方形形	1.35×0.98	18-20	II 1	N				Fig132
S K 1423 A	H36, F5		A 1 a	円形	1.06×1.07	25	II 1	N				Fig167
B		N 36°-E	D 1 a	長方形	1.38×1.31	10	II 1 2	N			S K 1424Aと重複し本跡が新しい。	#
S K 1424 A	H36		E 1 a	不定形	(0.75)×1.16	25	II 3 1	N				
B			D 1 b	*	2.6×1.84	32	II 1	N				
B			D 1 b	長方形形	0.85×1.1	54	II 1	N				
S K 1425	H36, F5	N-56°-W	A 1 a	楕円形	1.08×0.94	20	II 2	N				Fig71
S K 1426 A	H36	N-12°-W	D 1 a	方形	0.95×0.95	46	I 1	N				Fig163
B			(D 1 a)	(長方形)	1.3×(0.31)	24	I 1	N			S K 1429と重複し本跡が新しい。	#
S K 1427	H36, G5	N-60°-W	E 1 a	不定形長方形	1.16×0.94	50	I 1	N			壁中央に地ナブロックがみられ遺物を少量産出。	Fig135 Pl.311-312
S K 1428	H36	N 6°-E	A 1 a	楕円形	0.74×0.62	10-12	II 1	N			壁土は軟質である。	Fig82
S K 1429	H36	N 60°-W	(A 1 a)	*	1.25×0.18	30-36	II 4	N			北西角部に柱を穿する。	Fig70
S K 1430	H36, G6	N 50°-E	K 1 a	不定形	1.36×1.2	31	I 1	N				Fig136 Pl.314
S K 1431	H36		B 1 b	円形	1.22×1.12	66-68	I 1	N				Fig81
S K 1432	H36	N 10°-W	D 1 a	長方形形	1.25×1.47	25-30	II 1	N			西にSK1494(「ピット」)が重複する。	#
S K 1433	C367	N-21°-W	A 1 a	楕円形	1.02×0.64	30-38	II 1 1					Fig73
S K 1434	C367	N-41°-W	A 1 a	*	1.17×1.0	18-22	II 1 1					Fig70
S K 1435	H36	N 16°-E	K 1 a	不定形長方形	1.26×1.15	28	II 1	N			壁土は軟質で床の南に段を穿する。	Fig135
S K 1436	H36		A 1 a	楕円形	0.88×0.38	27	II 2	N			S K 1369と重複し本跡が新しい。	Fig163
S K 1437 A	H36	N 45°-W	E 1 a	不定形	1.05×0.63	10	II 1	N				Fig136
B			A 1 a	円形	1.1×0.92	38	II 1	N			壁土は軟質で遺物は少量産出。	#
S K 1439	H36		B 1 b	*	1.07×1.06	68-70	I 1	N				Fig81
S K 1440	H36, F4		H 1 b	*	1.42×1.3	54	II 1	N				Fig173
S K 1441	H36	N-88°-W	E 1 a	不定形	0.83×0.56	32	II 3	N				
S K 1442	H36	N-66°-W	D 1 a	楕円長方形	1.04×0.76	35	II 3	N				
S K 1443	H36	N-8°-E	E 1 a	不定形	1.65×1.13	24-38	II 3	N			床の南はやや段を穿する。	Fig136
S K 1444	H36	N-20°-W	A 1 a	楕円形	1.05×0.8	20-38	II 1 1	A			壁土は軟質で赤土層の多いもの。	Fig71
S K 1445	H36	N-42°-W	*	長楕円形	1.45×0.94	32-34	I 1 2	N				Fig71
S K 1446 A	H36, G3	N 38°-E	E 1 a	不定形	1.29×1.27	34-48	II 2	N				Fig172
B	H36	N 21°-W	D 1 b	長方形形	1.6×0.8	68	II 2	N			S K 1447と重複するが時期定まらぬ。	#
S K 1447 A	H36, F3		E 1 a	不定形	(1.4)×1.06	18	II 1	N				
B			E 1 b	*	2.06×1.4	53	II 3 2	N			壁土は軟質でピットは本跡より新しい。	#
S K 1448	H36	N-0°-N	A 1 a	楕円形	1.7×1.06	12-22	II 3	N				
S K 1449	H36	N-60°-E	A 1 b	*	2.25×1.4	54-72	II 2	N			S K 1448と重複する。	Fig82
S K 1450	H36	N 15°-W	A 1 a	*	0.99×0.78	13-15	II 1 1	N			ピットは本跡より新しい。	
S K 1451	H36, F2	N-6°-W	A 1 b	*	1.53×1.37	80	II 1	N			平面はやや長方形で壁土は軟質。	Fig66
S K 1452	H36, F2	N-11°-E	E 1 b	不定形	1.82×1.42	106	II 1	N			壁土はやや軟質である。	Fig136
S K 1453	H37		A 1 a	楕円形	1.58×0.88	10-16	II 3	N			土壌の産出も考えられる。	Fig155

道標番号	道 区	主 軸	形 態	平 面 形	屋 根		各部の成況			備 考	調査年度
					面 積 (㎡)	壁高(cm)	壁 数	庇 数	土 数		
S K 1454	U3F1		D 1 b	長方形	1.8 × 1.26	90	II	1	+	覆土は敷設である。	Fig119
S K 1455	H20, D1		B 1 b	円 形	1.52 × 1.51	84	II	1	00	#	Fig168
S K 1456A	U3F1, F0	N-14°E	D 0 a	長 方 形	2.47 × 1.53	29	I	1	+	#	Fig168
B #			D 1 b	不 定 形	1.14 × 1.05	52	II	1	00	#	Fig168
S K 1457	B3E3	N-64°W	A 1 b	楕 円 形	1.74 × 1.46	50-55	II	1	3 00	#	Fig75
S K 1458	B3E2	N-22°E	D 0 a	長 方 形	1.64 × 1.48	36	II	1	N	床中央が凹状をなしている。	
S K 1459	B3E3, e4	N 49°E	E 0 a	不 定 形	2.30 × 1.38	20	II	3	N		
S K 1460	H3e4	N-11°E	A 1 a	楕 円 形	1.18 × 1.02	26-30	II	3	N		Fig71
S K 1461	B3e5, d5	N-26°W	D 0 a	#	2.52 × 1.54	25	II	1	N	南に新しい覆り込みがみられる。	Fig144
S K 1462	B3d5	N-46°E	E 1 a	不 定 形	1.98 × 1.22	20	II	3	00	SK1464と重複している。	Fig115 (Fig16)
S K 1463	H3J5	N-0°E	A 1 a	楕 円 形	0.93 × 0.89	10	II	1	00	床面に一括撤去された土層が出土す。	Fig82
S K 1464	H3A4, d5	N-32°E	D 1 a	長 方 形	1.6 × 1.78	20	II	1	N	ピットは本跡より新しい。	Fig115
S K 1465	B3E4	N-62°E	D 1 a	#	1.77 × 1.22	17	I	3	3 N	床中央の穴は本跡より新しい。	Fig113
S K 1466	B3d4	N-71°E	A 0 a	長 楕 円 形	2.4 × 1.37	22-26	1-2	2	N		
S K 1467	H3e4, d4	N-56°E	E 1 a	不 定 形	1.98 × 0.93	18	II	3	N	床面西の隅は本跡より新しい。	Fig136
S K 1468	C3e5, d5	N-31°E	E 0 a	#	1.14 × 1.06	26	II	3	00		
S K 1469	H3e4, e3	N-83°E	E 0 a	#	2.1 × 1.08	32	II	3	N	壁根が多くみられる。	
S K 1470	U3E2	N 65°E	D 1 a	長 方 形	1.64 × 1.08	36-38	II-0	1	1 H		Fig114
S K 1471	B3e3, d3	N-50°E	E 0 a	不 定 形	5.1 × 2.13	16	I	3	2 N	大部分覆土をうけている。	Fig144
S K 1472	U3E2		(A 1 b)	長 方 形	1.62 × 1.44	70-81	I	2	2 A	SK1483と重複し覆土は敷設である。	Fig86
S K 1473	B3e3	N-70°W	E 1 a	不 定 形	1.39 × 0.92	25	II-0	1	N	北面に円形の土層の痕跡がみられる。	Fig136
S K 1474	H3e4	N-62°W	A 1 a	楕 円 形	1.86 × 1.35	36-45	II	2	N	覆土は敷設である。	Fig71
S K 1475	B3e4, b4	N-61°E	E 1 a	不 定 形	1.86 × 1.34	18	II	3	2 N	ピットは覆土によるもの。	
S K 1478	B3e3, a4	N-10°W	D 0 a	不 定 形	2.82 × 1.36	14	I	1	3 N		Fig145
S K 1477	H3E3	N-30°W	D 0 a	長 方 形	2.06 × 1.32	30	II	3	3 N		
S K 1478	B3e3, b3		D 0 a	不 定 形	2.04 × 1.96	47	II-0	3	00	覆土は敷設である。	
S K 1479	B3e4, e5	N-81°W	D 1 a	長 方 形	1.76 × 1.5	44	II	1	N		
S K 1480A	B2j4	N-61°W	A 1 a	楕 円 形	1.98 × 1.5	20	II	1	1 N		Fig157
B #		K-85°E	A 1 b	#	1.5 × 1.38	52	II	2	2 00	覆土は敷設である。	#
S K 1482	B3e1, e2	N-77°E	D 1 a	隅 長 形	1.51 × 1.43	36	II	2	A	#	Fig113
S K 1483	H30, H31	N-62°E	#	長 方 形	1.49 × 1.04	30	II	2	A	#	
S K 1484B	B3e2, a3	N 72°E	E 0 a	不 定 形	3.54 × 1.41	30-48	II	1	N		Fig168
A	B3e3, b3		D 1 b	#	1.03 × 0.52	58	II	1	N	#	
S K 1485	H3e3	N-15°E	E 0 a	#	3.54 × 1.44	30-32	II	3	3 N	床中央に土層の痕、その西は控壁。	#
S K 1486	H3e1	N-29°W	A 1 a	不 定 形	1.76 × 1.13	14-23	II	2	00	覆土はやや敷設である。	Fig71
S K 1487	B3e1	N 10°W	A 1 a	楕 円 形	1.20 × 0.74	36-42	II	1	A	#	Fig70
S K 1488	B3e5, e1	N-83°W	D 1 a	不 定 形	1.69 × 0.8	30	II	1	N	SK1239と重複し本跡がわからない。	
S K 1489	H3E0		D 1 b	長 方 形	1.88 × 1.08	95	I	1	N	SK1239と重複し本跡が新しい。	Fig144
S K 1490	H3E1, e1	N-35°W	E 1 a	不 定 形	1.75 × 0.88	25	II	3	3 N	ピットは覆土によるもの。	Fig136 PL513
S K 1491	U3E1	N-41°W	D 1 b	長 方 形	1.18 × 0.93	60	1-0	2	1 00	覆土は敷設である。	Fig116
S K 1492	B3e3, b2	N-36°W	D 1 b	長 方 形	1.35 × 1.2	72	II	1	N	SK1684と重複し本跡が新しい。	Fig168
S K 1493	H3E1	N 59°W	A 1 a	楕 円 形	1.5 × 0.82	16-20	II	2	1 00	ピットは本跡より新しい。	Fig72
S K 1494	U3E1, g1	N-10°W	G 0 b	長 楕 円 形	3.77 × 0.44	68	N	2	(1) N	SK1346、1432と重複し本跡が新しい。	Fig134 PL518

道標符号	地 区	主 軸 方 向	傾 斜 角	平 面 形	規 模		各部の状況	備 考	関連図版		
					平面(m)	断面(m)					
S K 1485	D36,66	N-0°E	直線	長方形	2.38×0.59	32	II 1 2	IV △	ピットは本館より狭い。	Fig124	
S K 1487	D36,7	N-75°W	A 1 a	横 割 形	1.18×1.23	11~12	II 1	N	内部は遺物のものみがある。	Fig71	
S K 1488 A	D367	N-27°W	D 1 a	長方形	1.12×1.58	53	II 1 1	A △	壁土は枕石のコンクリートに埋れられている。		
B	D36,6,47	N-27°E	D 1 a	長 方 形	1.58×1.54	30	II 1 2	A △			
S K 1499 A	D367,47	N-60°W	D 1 a	*	1.86×1.32	25	II 1	CV			
B	*	N-27°E	*	*	1.42×1.26	34	II 1	CV	ピットは壁土によるもの。		
S K 1500	D36,49	*	*	*	1.2×1.38	30	II 1	N △		Fig113	
S K 1501	D36,49	N-60°W	*	*	1.96×1.25	30~32	II 1	CV △		*	
S K 1502	B149	*	*	横長長方形	1.47×1.45	34	II 1	N △		*	
S K 1502 A	B149	N-27°W	*	横長長方形		30	II 1	N △		Fig157	
B	D36,49	*	*	横 割 形		35	II 1	CV		*	
S K 1504	D36,49	N 75° E	B 1 a	不定長方形	3.43×0.95	29	I-0 1	IV △			
S K 1505	D36,49	N 75° W	D 1 a	長 方 形	2.53×1.58	40	II 1	CV △		Fig146	
S K 1506	B149	N-27°W	E 1 a	不定長方形	1.92×1.32	25	II 1	CV		Fig174	
S K 1507	B149	N-27°W	D 1 a	横長長方形	1.26×1.14	38	II 1	N		Fig130	
S K 1508	D119,59	N-70°E	*	横長長方形	1.01×1.78	30~35	I-0 1 2	N	ピットは本館より狭く深く掘られている。	Fig174	
S K 1509	B149,49	N-60°E	D 1 a	不定長方形	1.09×1.29	40	II 1	N	壁土は掘削に用いた材料より、埋土は枕石。	Fig113	
S K 1510	D119,49	N-20°E	D 1 a	横 割 形	2.38×1.68	58	I-0 1	N	遺物は段石と石室の石製の。	Fig116	
S K 1511	D119,49	N 6° W	A 1 a	不定長方形	1.82×1.33	45	II 1	N			
S K 1512	D119,49	N 6° E	E 1 a	横 割 形	1.2×1.25	20	II 1	N			
S K 1513	D119,49	N 3° E	B 1 a	不定長方形	12.43×1.84	55	II 1	N			
S K 1514	D241,41	N-60°W	A 1 a	横 割 形	11.4×1.0	30	II 1	N △		Fig171	
S K 1515	D241,41	N-60°E	B 1 a	不定形	2.22×1.53	32	I-0 4	20		Fig145	
S K 1516	D36,7	N 60° E	A 1 a	長 割 形	1.75×0.95	21~26	II 1	N		Fig171	
S K 1517	B35	*	*	A 1 a	横 割 形	1.9×1.51	43	II 1	N	壁土は掘削に用いた材料より、埋土は枕石。	Fig158
S K 1518	D215	Z	*	*		30~36	I 1	N	S K 1519 に覆われている。		
S K 1519	D215	Z	*	*	1.6×1.47	51	I 1	N	*		
S K 1520	D215	A 1 a	*	横 割 形	1.4×1.31	56	I-0 1	N △	*		
S K 1521	D274,54	直線	*	不定長方形	2.94×0.76	20	II 1	N △	壁土は掘削に用いた材料より、埋土は枕石。	Fig142	
S K 1522	A248	J	*	*	0.94×1.46			△	遺物のみである。		
S K 1523	A249	N-11°E	A 1 a	横 割 形	1.49×1.2	33	II 1	N		Fig171	
S K 1524	A247	N 40° E	D 1 a	横長長方形	2.9×1.58	45	I-0 1 2	N		Fig173	
S K 1525	B345	N-27°W	B 1 a	不定長方形	2.47×0.1	25	II 1	N △	床中床面に押し壊れがある。	Fig143	
S K 1526	B346	N-60°W	E 1 a	不定長方形	1.71×1.91	20	II 1	N			
S K 1527 A	B360,40	N-58°W	直線	不定長方形	2.1×1.9	34	II-0 1 1	N △		Fig157	
B	*	A 1 a	*	横 割 形	1.16×1.04	45	I-0 1	N		*	
S K 1528	B360,40	直線	*	横長長方形	2.18×1.56	50	II 2 4	N	ピットは壁土によるもの。	Fig149	
S K 1529	A32	J 1 a	*	長 方 形	1.9×1.37	20~25	II 1 1	N	ピットは本館より狭く深い。	Fig174	
S K 1530	A32,42	N 20° W	*	長 方 形	1.42×1.47	26	II 2 1	CV △			
S K 1531	A32,43	N-62°W	D 1 a	横 割 形	2.07×1.26	39	II 1	N △		Fig128	
S K 1532	A33	*	*	横長長方形	5.2×1.51	18~23	II 1 2	N △	ピットは本館より狭い。		
S K 1533	A36,43	直線	*	不定長方形	2.22×1.7	25~30	II 1	N △	中央部が倒壊をしている。		
S K 1534	D362	J	*	*	0.94×0.91		II 1	△	北側壁は遺物のものに破壊されている。		

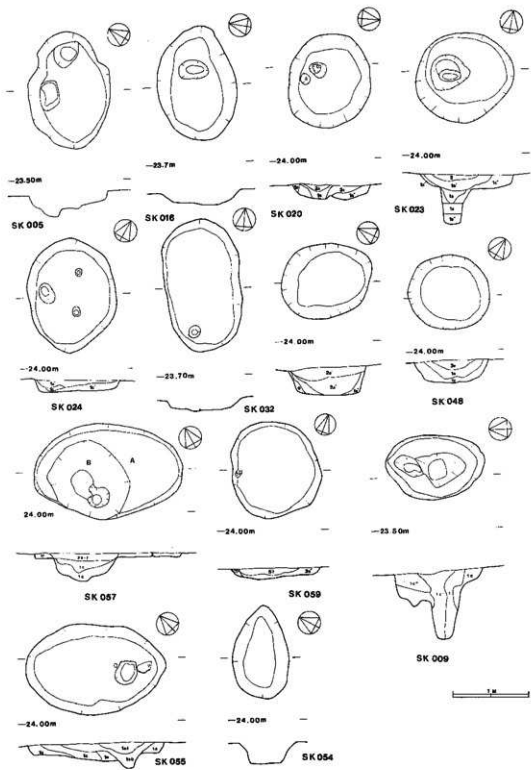
図説番号	地区	主軸	形態	平面形	規模		各階の状況		備註	備考	関連図面	
					平面(m)	壁高(m)	階	壁				柱
S K 1500 A	A302		(D 1 b)	長方形	0.65×1.4	60	II	2	N		Fig157 PL517	
B	A302, a2	N-48°E	H 1 b	機門形	1.35×1.2	100	I	1	N		*	
S K 1502	A302		D 1 b	円形	0.8×0.76	71	I-II	1	N		覆土はやや軟質である。	
S K 1503	A302	N-27°W	D 1 a	扇形長方形	1.22×1.08	30	I	1	N			
S K 1504 A	B3a5, d5 b	N 46° W	D 1 b 1 b	長方形	1.42×1.23	61	II	2	N		東壁は内側、西壁に柱を 打っている。	Fig158
B	* b	N 73° W	A 1 b	柱間形	1.03×0.88	88	II	2	N		覆土はやや軟質である。	*
S K 1505	A302	N-15°E	B 1 b	*	1.49×1.26	76-80	I	1	N	△	覆土中に土砂と断石が出土。 S1084の調査壁と重複し本跡が 新しい。	Fig91
S K 1506	D2b6, c5		F 1 a	不定形	1.35×0.93	(35)	II-III	3	N		S1084に重複し、本跡が新しい。 S1084の調査壁と重複し本跡が 新しい。	Fig137
S K 1507	A3a4, k2		A 1 a	機門形	0.8×0.7	(84)	II-III	3	N		S K 1507と重複し本跡が新しい。 S1084の調査壁と重複し本跡が 新しい。	Fig137
S K 1508	A3c3	N-30°E	D 1 b	長方形	1.4×1.17	64	II	1	N	△	S1084の調査壁と重複し本跡が 新しい。	
S K 1509	A3c3		D 1 a	扇形長方形	1.13×1.06	30	I	1	N		S1084の調査壁と重複し本跡が 新しい。	
S K 1510 A	D2b4, e1		K 1 a	機門形	2.3×1.86	27	II	1	N		覆土はやや軟質である。	Fig99
B	B3a1		D 1 b	*	1.34×1.5	102	II	1	N		形態的にはC16a。 ピットは土砂の混入によるもの。	*
S K 1511	B3a1, k1	N-31°W	E 1 a	不定形	2.4×1.23	16	II-III	3	N		ピットは土砂の混入によるもの。	
S K 1512	b3c1	N 12° E	A 1 a	機門形	2.15×1.24	10	II	1	N			
S K 1513	*	N-44°W	A 1 a	*	1.7×1.04	17	II	1	N		ピットは本跡より新しい。	Fig92
S K 1514	*	N 50°E	*	機門形	1.14×0.83	30	II	3	N			
S K 1515	A3c2, B3a2	N-95°W	A 1 a	不定形	2.05×1.27	28	II	3	N	△		
S K 1516	A311, B3a1	N 22° E	E 1 a	不定形	2.08×0.83	12	II	1	N		図中の穴は埋められている。	Fig145
S K 1517	A3a2	N-16°W	D 1 a	不定形	1.72×1.52	15-20	II	1	N			Fig114
S K 1518	A3a2	N-80°W	A 1 a	機門形	1.44×1.06	27-30	II	1	N			Fig71
S K 1519	A3a1	N 51° W	*	*	1.45×1.10	20-22	II	3	N		ピットは本跡より新しい。	Fig71
S K 1520	A3c1	N 63° W	D 1 a	*	1.7×1.1	28-30	II	1	N	△	やや軟質の土に埋められている。 ピットは本跡より新しい。	Fig114 PL520
S K 1521	A3c2		J		0.5×0.44		II	3			日誌	Fig100
S K 1522	A3p1, g2	N 47° E	D 1 a	長方形	1.38×0.84	18-20	II	1	N		土砂は本跡より新しい。	Fig114 PL530
S K 1523 A	A3a1	N-65°W	D 1 b	*	2.4×1.23	44-68	II	1	N	△		Fig104
B	A3b0	N 78° W	(A 1 a)	機門形	0.86×0.84	36	II	1	N		S K 1520と重複する。	*
S K 1524	A3d1, e1		F 1 a	不定形	2.05×2.1	36	II	1	N	△		Fig105
S K 1525	A3d1		A 1 b	機門形	1.58×1.32	56	II	2	N	△	S K 1524と重複し本跡が古い。 南西方向に斜めに埋設、切断 欠損。	Fig105 Fig100
S K 1526	A3b5		J		0.40×0.36		II	2				Fig100 PL531
S K 1527	A2f9		J		0.34×0.34		I-II	2		前期	(1)埋設・盗掘は欠損する。 中央部はやや軟質である。 ピットは本跡より新しい。	Fig104
S K 1528	A2f0		Z		1.28×(1.2)		II-III	2	N	△		
S K 1530 A	A3c7	N-56°E	A 1 b	長方形	1.45×1.11	64	II	3	N	△		
B	*	N 16° W	D 1 a	長方形	1.6×1.3	41	II	2	N		覆土はやや軟質で柱に侵食を 受けている。	
S K 1531	D2b5, a2	N 70° E	A 1 a	機門形	1.56×0.78	30-30	II	2	N		東壁は軟質で埋土内へ入り 込み。	Fig100 PL531
S K 1532	A3b2	N-67°E	C 1 b	機門形 (機門形)	1.7×1.45 1.35×1.56	128	I	2	N	△	S K 1532と重複し本跡が古い。 ピットは本跡より新しい。	Fig91
S K 1533	A3a2		(F 1 a)	不定形	1.79×0.83	32-40	II	1	N	△		
S K 1534	A3b5	N-65°W	A 1 a	機門形	1.65×0.93	25-29	II	2	N		ピットは本跡より新しい。	Fig91
S K 1535	A2f1, g1		A 1 a	不定形	0.93×0.8	18-32	I-II	3	N		覆土はやや軟質である。	Fig
S K 1536	A3b5, c4	N-37°E	F 1 a	長方形	1.54×1.53	40	II	3	N	△	S K 1534と重複する。	Fig107
S K 1537			A 1 a	機門形	1.7×1.2	20-28	II-III	3	N			Fig
S K 1538	A2f0	N-60°W	A 1 a	機門形	1.72×1.21	38	II	1	N	△		Fig92
S K 1539	A2f0, f2	N-14° W	D 1 a	扇形長方形	2.2×1.86	21	II	3	N	△	中央部に埋められている。	Fig125

通称番号	地区	主軸	軸型	平面形	規模		各部の状況		備註	時期	備考	関連図号
					平面(m)	壁高(m)	壁	ピット数				
S K1603	A2g0, A3g1	N-27°E	D I b	長方形	1.52×1.15	63~80	II	1	N	△	S K1589と重複し本跡の方が新しい。	Fig164 PI.522
S K1604	A2g0, g0	N-53°E	A I a	横円形	1.45×1.33	32	II	1	△	N	S K1589と重複しピットは新しい。	Fig164
S K1605A	A2g0	N 33° E	D I a	長方形状	(1.5)×1.1	28	II	1	N			
B	*	N-10°W	E I a	不定長方形	(1.0)×0.88	14~30	III	3	2	N		
S K1606	A2j8, j9	N-89°E	D I b	楕円長方形	1.48×0.97	54	II	1	N	△		
S K1607	A2j9	A I a	円形		0.65×0.58	16~17	II	1	N			
S K1608	A2j8	N-41°E	E I a	横円形	1.23×0.98	20	II	1	N			
S K1609A	A2j8	A I a	*		(1.2)×1.15	15	II	1	1	N		
B	*	D I a	長方形状		1.33×1.22	40	II	1	N			
S K1610A	A2j7, j8	N 34° E	D III a	長方形	(1.27)×1.3	28	II	1	3	N	△	
B	A2j7	E I b	不定形		(1.05)×1.56	74	II	2	N			
S K1611	A2i9	N-28°E	D I a	横円形	1.14×0.53	5	III	3	△	N		
S K1612	A2i9	N-37°E	E I a	不定長方形	1.63×1.04	17	II	2	3	00		
S K1613A	A2j9	N 7° W	E I a	不定形	1.26×0.68	4	II	1	N			
B	*	D I a	長方形状		1.8 × 1.38	25	II	1	4	N		
S K1614	A2j9, j0	N 50° E	E III a	不定形	2.8 × 1.2	21	II	1	6	N	△	
S K1615	B2e4	A II a	円形		0.97×0.9	23~24	II	1	N			
S K1616	B2h4, e4	N 31° E	A I a	横円形	1.05×0.63	20~40	II	1	1	N	△	
S K1618	B2k5	A I a	円形		1.14×1.02	14~18	II	1	N			
S K1619	B2k6	N 11° E	C I b	楕円長方形	1.48×1.06	22	1~II	1	N			
S K1620	B2e6	N-72°W	D I a	長方形	1.72×1.02	30	II	1	N			
S K1621	B2e6	N-15°W	E I a	不定形	1.52×1.18	30	II	1	(A)	△		
S K1622	B2h6, e6	N 66° W	C I a	不定横円形	2.18×1.62	45	II	1	3	N	I 既	
S K1623A	B2e5	N-20°W	D I a	長方形状	(2.2)×1.5	25	II	1	N			
B	B2e5	B I a	円形		1.4 × 1.3	44	1~II	1	N			
S K1624A	B2h5	N-71°W	D III a	長方形状	3.0 × 2.6	34	II	1	2	N	■ 既	
B	*	C I b	横円形		(1.2)×1.28	74	1~II	1	N			
S K1625	B2h4, k5	B I b	*		1.34×1.22	90	II	1	N	■ 既		
S K1626	*	E III a	不定長方形		2.08×0.87	21	II	1	1	N	△	
S K1627	B2b6	N- 0° E	D I a	長方形状	1.98×1.21	25~27	II	1	1	N	△	
S K1628	A3i1	N-62°E	D I a	長方形	1.14×0.86	12	II	1	3	N	△	
S K1629	A3i1	N-86°W	A I a	横円形	1.22×0.66	10~20	II	1	2	N		
S K1630	A3j1	N 44° E	A II a	*	0.88×0.68	10~15	II	3	N	△		
S K1631	A2j8, A3i1	N-65°E	D II a	長方形	0.85×0.66	32	II	3	2	N	△	
S K1632	A2j0	N-44°E	D I a	*	1.25×1.06	20	II	1	3	N		
S K1633	A2i0	N 75° E	D II b	*	0.9 × 0.72	56~75	I	1	N			
S K1634	A3i1	N-37°W	E I a	*	1.3 × 0.8	27	II	1	3	A		
S K1635	B2e6	N-13° E	A I a	*	1.13×0.83	23~24	II	2	2	00		
S K1636	B2h6	N-20° E	*	*	1.53×1.03	20~21	1~II	1	1	N		
S K1637	A2i9	N-76°E	A III a	横横円形	3.12×1.63	9~14	II	1	3	N	△	
S K1638	A2i8	N-70°W	A I a	横円形	1.22×0.9	10	II	1	N			
S K1639	A2i8	N-35°W	E I a	不定長方形	1.86×1.3	16~20	I	1	3	00	△	
S K1640	A2j7, h8	N- 7° E	D III b	長方形	2.0 × 1.7	83	1~II	2	A			

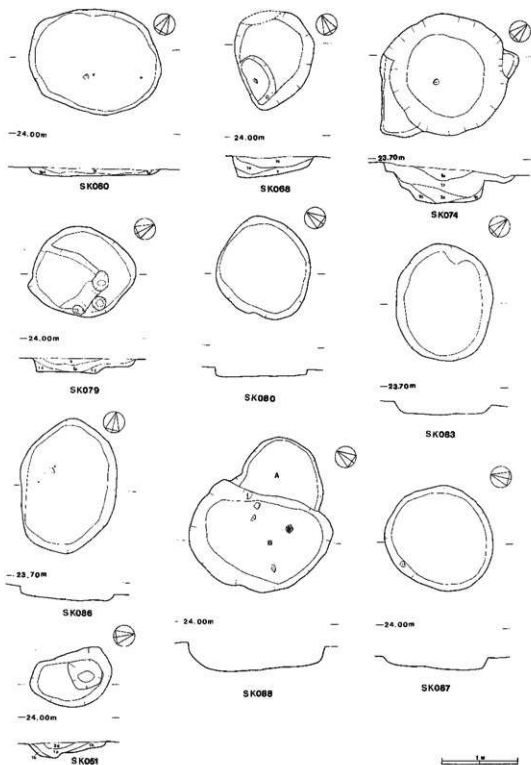
遺構番号	地 区	坐 向	形 態	平 面 形	規 模		各部の尺高		備 考	備 考	民 道 区 画	
					平 面 (m)	建 築 高 (m)	壁 高	ピ ン 土 数				
S K 1641	A217	N 90° E	A I b	楕 円 形	(1.3)×1.7	120	II	2	N	周囲	SK1610・1643と重複しS1099を埋没。	Fig172
S K 1642	A217	N-11° E	E I a	不 定 形	(1.3)×1.22	20	II	1	N	周囲	S1099の中心が写っている。	*
S K 1643A	A216	N 4° E	E Ⅱ a	*	2.65×1.98	37	III	1	N	周囲	遺物の層と中に多くみられる。	Fig158
B	*		C I a	*	1.6 × $\frac{1.08}{1.43}$	50	I	1.3	N		南東の辺境に多くみられる。	*
S K 1644	A216	N-23° E	A II a	不 定 形	1.05×0.87	13-18	II	1	N			Fig82
S K 1645	B3a5	N-73° E	E I a	不 定 形	1.04×0.69	17	II	1	N		ピットは本跡より新しい。	
S K 1646	B3a5		D I a	隅 丸 方 形	1.3 × 0.9	12	I	1	N		ピットは本跡より新しい壁状。	Fig115
S K 1647	B3a5	N-78° E	(A I a)	楕 円 形	1.32×1.22	12	I-II	2	N		*	Fig170
S K 1648	B3a6		Z		(1.0)×(0.7)	(24)			N			
S K 1649	A217	N-36° W	E I b	不 定 形	1.8 × 1.4	44	III	3	N			Fig138
S K 1650	A2g0		A I a	円 形	1.75×1.66	28-45	II	1	N			Fig72
S K 1651	A219, g0	N-20° W	D I a	隅 丸 方 形	1.73×1.4	45	II	1	N			Fig115
S K 1653	A219, g0	N-47° W	E Ⅱ a	不 定 形	2.14×1.3	18	II	1	N		ピットは本跡より新しい。	Fig143
S K 1654	A2a, f6	N-30° W	A I b	楕 円 形	1.14×1.0	40-64	II-III	10	N		覆土は軟質である。	Fig75
S K 1655	A2a	N 31° E	B I b	*	1.54×1.29	97	I	1	N		SK1656と重複し本跡が近い。	Fig158 PL322
S K 1656	A217, f8		B Ⅱ b	円 形	2.0 × 1.96	57	I-II	1	N		覆土はやや軟質である。	Fig158
S K 1657	A217	N-41° W	A Ⅱ b	楕 円 形	0.94×0.77	36-70	II	1	N		*	Fig86
S K 1658	A2g7, e6	N-56° W	A I a	*	1.36×1.32	25-41	II	1	N			Fig72
S K 1659	A2g7		D I a	隅 丸 方 形	1.40×1.45	30	II	1	N			Fig115
S K 1660	A2b, g8	N-27° E	A Ⅱ a	長 楕 円 形	3.02×1.66	32-37	II	1	N		皮物→S1057の写っている。	*
S K 1662	A2bA	N 4° E	A I a	楕 円 形	1.38×1.14	23-25	II	1	N		SK1663と重複しピットはS1110。	Fig72
S K 1663	A2bA	N 45° W	A I a	*	1.12×1.05	22-26	II	1	N		*	
S K 1664A	A217, f8	N-72° E	E Ⅱ a	不 定 形	2.1 × 1.48	22	II	1	N		SK1665と重複し本跡の方が近い。	Fig158
B	A218	N 80° E	B I b	楕 円 形	1.31×0.92	30	I	1	N		*	
S K 1665	A2b7	N-38° W	E I a	不 定 形	1.2 × 0.83	38	II	1	N		SK1664と重複し本跡が新しい。	Fig158
S K 1666	A2b7		Z (D I a)	不 定 形	2.0 × 1.8	20	II	1	N		覆土中に分銅型あり。ピットは新しい。	Fig166
S K 1667	A2b7		(D I a)	長 方 形	1.52×1.94	15	II	1	N		ピットはS1104・109の軌六。	*
S K 1669A	A2g6, f6		A I a	楕 円 形	1.22×(1.04)	14	II	1	N			
B	A2g7, b7		B Ⅱ b	*	0.82×0.63	44	I	1	N			
S K 1671A	A2b6		Z		(1.2)×0.28	(20)	II	1	N			Fig97
B	*	N 50° W	C I b	楕 円 形	1.18×0.54		I	1	N		北側にS1098の写がみられる。	Fig97
S K 1672	A2b6	N-60° E	E I b	不 定 形	1.39×1.2	46	III	2	N		ピットは本跡よりやが新しい。	Fig139
S K 1673	A2b6	N 59° E	D I a	長 方 形	1.35×0.95	22-30	I-II	1	N			
S K 1674	A216, j6	N-48° W	A I b	不 定 形	1.15×0.86	60-76	II	2	N		覆土の上層は軟質で下のピットはS1097。	Fig75
S K 1675	A2a8	N-31° E	A I a	楕 円 形	1.12×0.81	28-30	II	2	N			Fig72 PL322
S K 1676	A2b, k0	N 6°	E Ⅱ b	不 定 形	4.0 × 2.3	29	II	3	N		覆土がみられる。	Fig164
S K 1677	A2b7, h8		(B I b)	(楕 円 形)	1.52×0.93	40-78	I	1	N		SK1660と重複し本跡が新しい。	Fig166
S K 1678	A2a8	N 27° E	D I a	長 方 形	1.62×0.95	38	II-III	1	N		SK1660と重複する。	*
S K 1679	A217	N-30° E	A Ⅱ a	楕 円 形	0.84×0.58	12-22	I	1	N			Fig82 PL325
S K 1680	A215	N-55° W	A I a	長 方 形	1.2 × 0.61	20-22	II	1	N			Fig72
S K 1681	A216, i5	N-71° W	E Ⅱ b	不 定 形	2.55×1.57	21	II	1	N		覆土はやや軟質で新しい。	Fig146
S K 1682	A214, j4	N 28° W	E I b	*	1.86×0.95	40	I-II	2	N			Fig138
S K 1683	A216, i7	N-84° E	D Ⅱ a	長 方 形	3.58×1.66	32	I	1	N		SK1681と重複し本跡が新しい。	Fig165

遺構番号	地区	土 軸	形 態	平 面 形	規 模		各部の状況	積 土 ピシ 1敷	時 期	備 考	関連図版
					平 面 (m)	壁 高 (m)					
S K 1684	A217		B 1 b	内 郭	1.4 × 1.4	70	I 1	00			Fig165
S K 1686	A266		A 1 a	内 郭	1.07 × 1.01	20-22	II 1	N	△		Fig72
S K 1688	A266	N-42°-W	*	横 門 形	1.07 × 1.0	20-22	II 1	N			*
S K 1691	B244	N-31°-W	D 1 a	長 方 形 状	1.45 × 1.0	25-26	II 1	N			Fig115
S K 1692	B244		A 1 a	横 門 形	0.8 × 0.76	15-28	III (2)	A			Fig92
S K 1693	B264	N-40°-E	D 1 a	長 方 形	1.27 × 1.0	42	I-0 3	A			Pl.526
S K 1694	B264.34	N-72°-E	A 1 a	横 門 形	1.25 × 0.97	18-20	II 1	00			Fig73
S K 1695	B264.34		*	*	1.34 × 1.24	28-42	III 3	A			*
S K 1696	A214, B264	N-46°-E	E 1 a	不 定 形	1.38 × 1.17	18	I-0 2	N			Fig137
S K 1697	B263, A213	N-45°-E	A 1 b	横 門 形	1.42 × 1.23	32-54	II 1	N	△		Fig75
S K 1698	B263	N-26°-W	E 1 a	不 定 形	1.4 × 1.01	20	II 1	N	△		
S K 1699	B263.c3	N-21°-W	A 1 a	横 門 形	1.75 × 1.36	22-28	I-0 2	20			Fig73 Pl.527
S K 1700	B262	N-40°-E	E III a	不 定 形	2.14 × 1.25	25	II 1	50			Pl.528
S K 1701	B57.c8	N-85°-W	D III a	長 方 形	2.25 × 1.92	33	I 1	N	△		Fig125
S K 1702	B56	N-35°-W	*	隅丸長方形	3.6 × 2.47	36	II 1	00			
S K 1703	B57.d.49	N-18°-W	E III a	不 定 形	4.28 × 2.5	28	I 1	N			
S K 1704	B36.f7	N-41°-W	*	*	2.65 × 2.3	12	II 1	00			
S K 1705	B56.g.7	N-7°-W	A III a	不 定 形 門 形	3.9 × 2.67	16-20	II 1	00	△		*
S K 1706	B56.g.6	N-21°-E	E III a	不 定 形 門 形	2.76 × 1.13	37	II 1	N			Fig146
S K 1707	C569	N-86°-W	D III b	長 方 形	2.92 × 2.56	42	II 1 3	N	△		
S K 1708	B56.g.6	N-20°-E	E III a	不 定 形 門 形	3.1 × 1.3	32	II 1	N			
S K 1709	B56	N-89°-E	A 1 a	長 方 形 状	1.89 × 1.1	50-70	II 2	A			Fig86
S K 1710	B56		E 1 b	不 定 形 門 形	1.72 × 1.41	87	I 1	A			Pl.535
S K 1711 A	C569.c0		E III a	*	3.8 × 1.44	9	I 1	N			
B	C569	N-61°-W	D 1 b	横 門 形	1.63 × 1.3	116	II 2	00			
S K 1712	C366.b8	N-25°-E	E III b	不 定 形	2.21 × 1.45	80	II 1	N	△		Pl.533 Fig73
S K 1713	B57.a.8	N-11°-E	a 1 a	長 方 形	1.91 × 1.2	20-28	II 1	N			
S K 1714	B567	N-73°-E	A 1 b	横 門 形	1.48 × 1.1	25-60	II 2	10			Fig86
S K 1715	B57.f.47	N-90°-E	A 1 b	*	1.45 × 1.23	63-65	II 2	30	△		*
S K 1716	B567	N-31°-E	D 1 a	長 方 形	1.38 × 0.71	17	II 1 1	30			Fig115
S K 1717	B567.17	N-25°-E	E 1 a	不 定 形 門 形	1.74 × 1.56		II 1	A			
S K 1718	C569	N-0°-E	D 1 b	長 方 形	1.3 × 1.18	57	II 1	N			SK1703と重複し不詳を直し、
S K 1720	B56h.c9	N-90°-E	B 1 b	横 門 形	1.13 × 1.06	78	II 1	00			*
S K 1722	A216	N-42°-E	A 1 a	*	1.07 × 1.0	20-22	II-0 3	N			Fig23
S K 1723	B265		*	長 方 形	1.09 × 1.03	20-25	II 1	N			*
S K 1724	A216, B266	N-15°-W	D 1 a	長 方 形	12.8 × 1.0	30	II 1	N			Fig113
S K 1725	A217.f7	N-36°-E	A 1 a	横 門 形	1.16 × 0.925	20	II 3	N			Fig73
S K 1727	B266		E 1 a	不 定 形 門 形	1.123 × 0.6	30-40	I 1	2	N		S K 1721と重複し不詳を直し、
S K 1728	C267	N-72°-E	A 1 c	横 門 形	1.1 × 0.8	30-32	II 1	N			Fig73
S K 1729	A217.g2	N-27°-E	E 1 c	不 定 形	1.64 × 1.31	40	II 1 2	N			Fig132
S K 1730	A217.h2	N-35°-E	A 1 a	横 門 形	1.19 × 1.01	20-21	II 1 1	N			Fig73
S K 1731	A216, B266		E 1 a	*	1.3 × (1.38)	40-44	II 1	N			SK1727と重複し、扉面に小窓 スプーン出す。
S K 1733	B264		A 1 a	*	1.13 × 0.93	33-41	III 2	N			Fig73

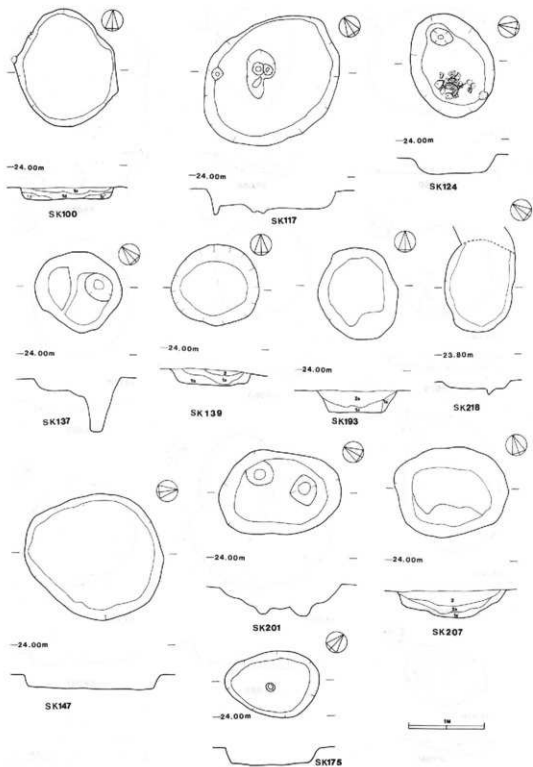
遺構番号	地区	主軸	形質	平面形	縦横		各部の状況		層上	時期	備考	関連図版	
					平部(m)	縦高(cm)	壁	礎・ピント					
S K 1734	B2b4	N 25° W	A I a	楕円形	1.22×1.2	16~35	II	1	1	N	覆土層に黄土灰が少量みられる。	Fig73	
S K 1737	B2b4		A II a	円形	0.52×0.3	20~22	II	1	1	N		Fig82	
S K 1738	B2b4, b3		Z		3.9×1.2	14~18	II	1	1	N	SK004と類似し、ピットは本跡より新。		
S K 1739A	B2b3, 14	N-42°-E	A III a	楕円形	1.86×1.6		II	1	1	N	#		
	B	#	Z		2.43×		II	1	1	N	#		
S K 1741	B2b2	N 65°-W	A I a	楕円形	1.02×0.91	24~26	II	1	1	N	覆土中に少量の貝がみられる。	Fig72	
S K 1742	B2b4, a5		A II a	#	0.8×0.5	18~23	II	1	1	N		Fig82	
S K 1743	B2b5		B I b	円形	1.7×1.45	64~66	I	1	1	N		Fig91	
S K 1744			A I a	楕円形	1.56×1.0	10~22	II	1	1	N	水平面に円形の掘り込みがみられる。		
S K 1746	B2a5	N-90°-E	D III a	長方形	0.24×	15	II	1	1	N	SK1283・1282と重複する。	Fig128	
S K 1747	A2b7, 17	N 86° W	F I a	不安形	1.45×0.84	16~31	II	2	2	N	部分的に埋込がみられる。	Fig137	
S K 1748	A2b7, a3		D I a	長方形	1.32×1.12	22	I	2	2	N	遺物は床面に少量出ず。	Fig115	
S K 1749A	B2b4		G I c	楕円形	(0.96)×0.95	32	II	1	1	N		Fig157	
	B	B2b4, 14	N-53°-E	D I b	長方形	1.33×(1.2)	53	II	1	2	N	ピットは本跡より新しい。	#
S K 1751	A2b8, a9		A II a	楕円形	0.9×0.74	25	II	1	1	N			
S K 1752	A2b9		A II a	#	0.78×0.67	45	III	1	1	N			
S K 1753	C2a5		J		0.41×0.32						西向きで、傾斜して埋込痕部欠。	Fig130 PL537	
S K 1754	C1j5	N-76° W	E III a	不定形	2.56×1.97	16	II	1	1	N		Fig158	
S K 1756	#		E I a	不定形円形	1.2×0.97	45	II	1	1	N	SK1755と重複し4脚4脚し。	#	
S K 1757	#		E II a	#	0.95×0.85	19	II	1	1	N	#	#	
S K 1758	B2g4		A II a	円形	0.7×0.62	17~22	II	1	1	N		Fig82	



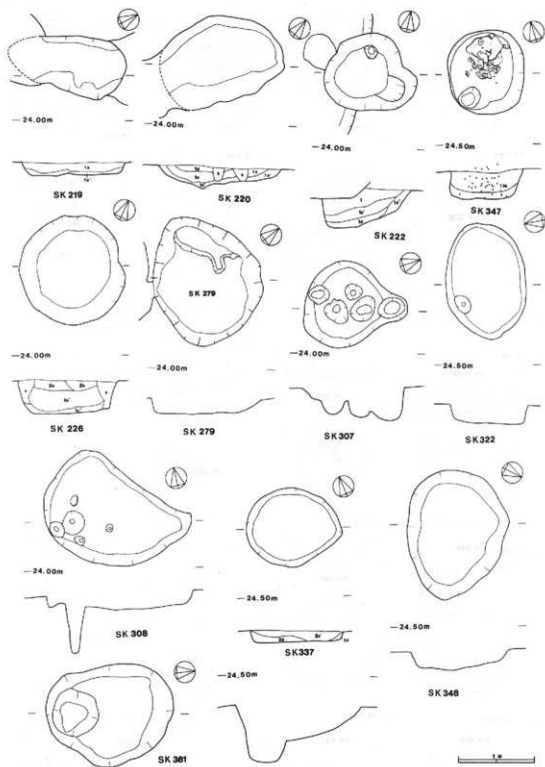
第56图 土壤实测图(1)



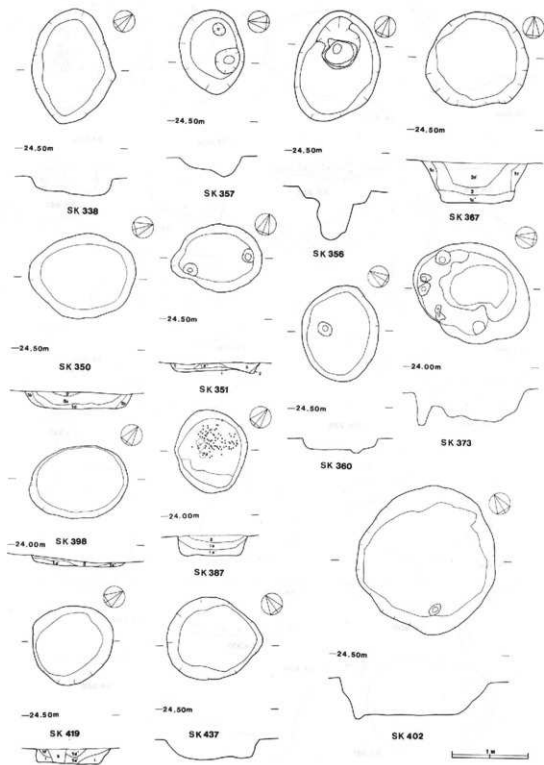
第57图 土壤突测图(2)



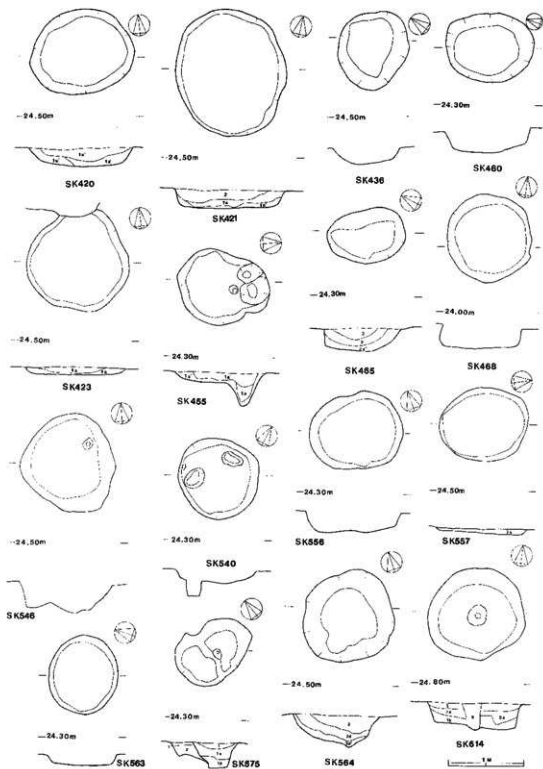
第58图 土壤实测图(3)



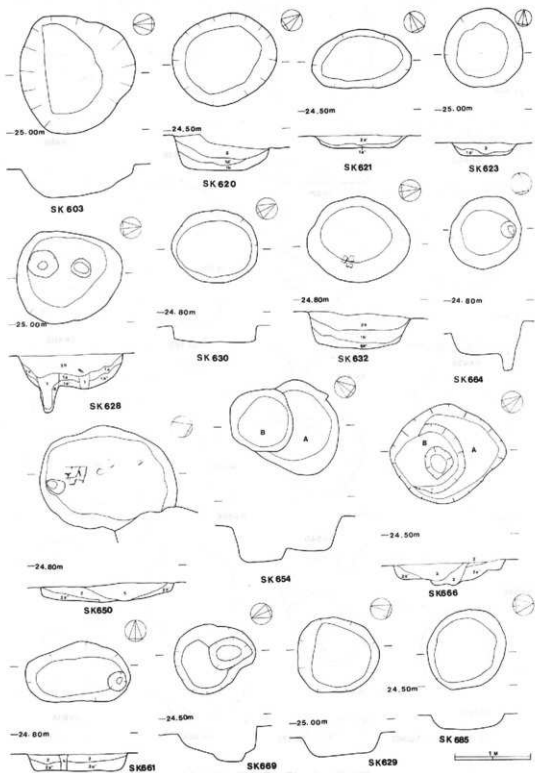
第59圖 土壤実測図(4)



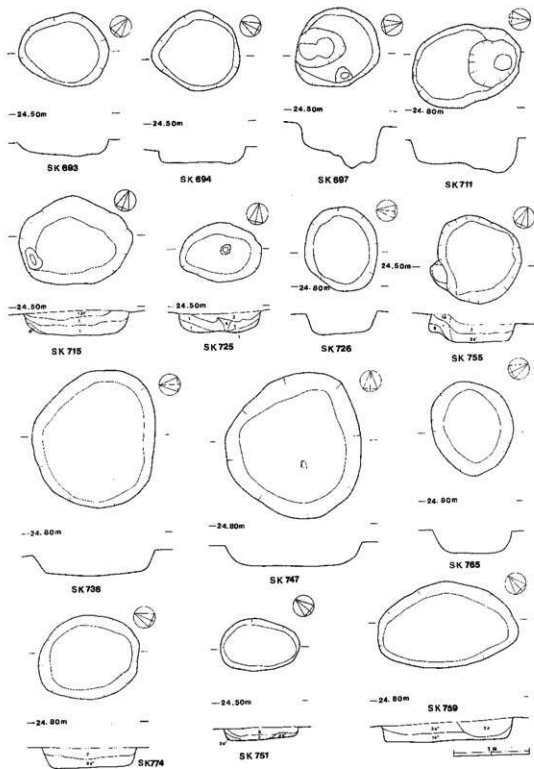
第60圖 土壤突測圖(5)



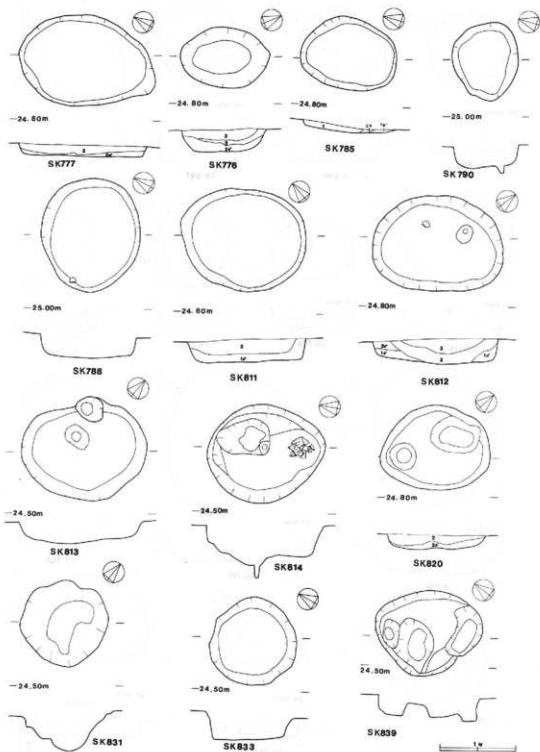
第61圖 土壤突測圖(6)



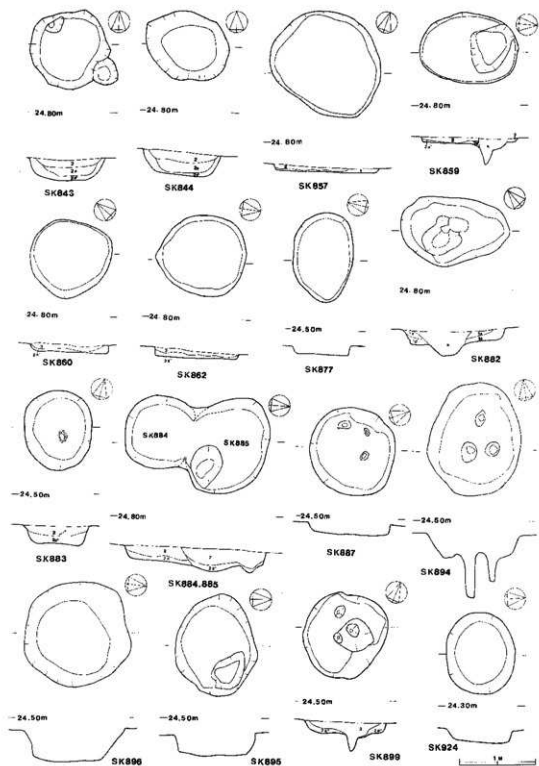
第62図 土壤実測図(7)



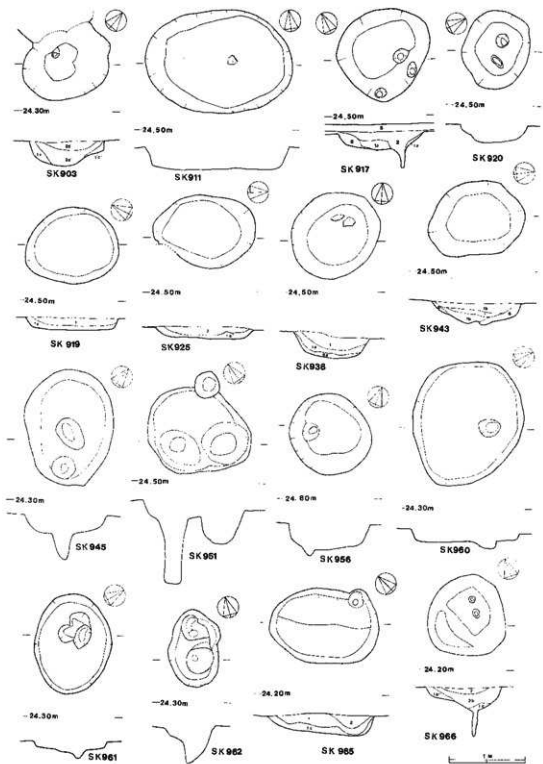
第63图 土壤突测图(8)



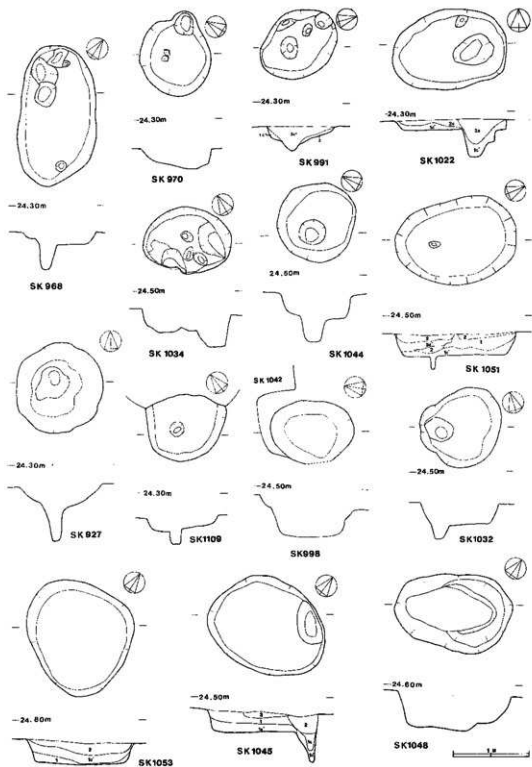
第64圖 土壤実測図(9)



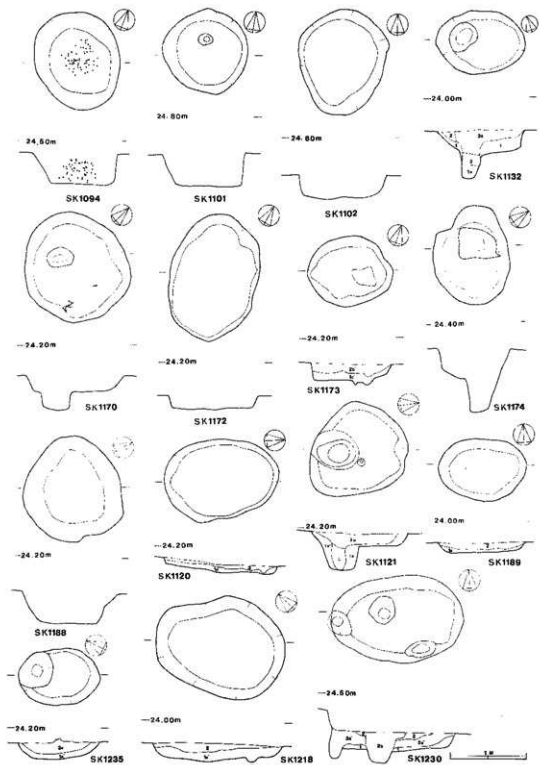
第65图 土壤实测图(10)



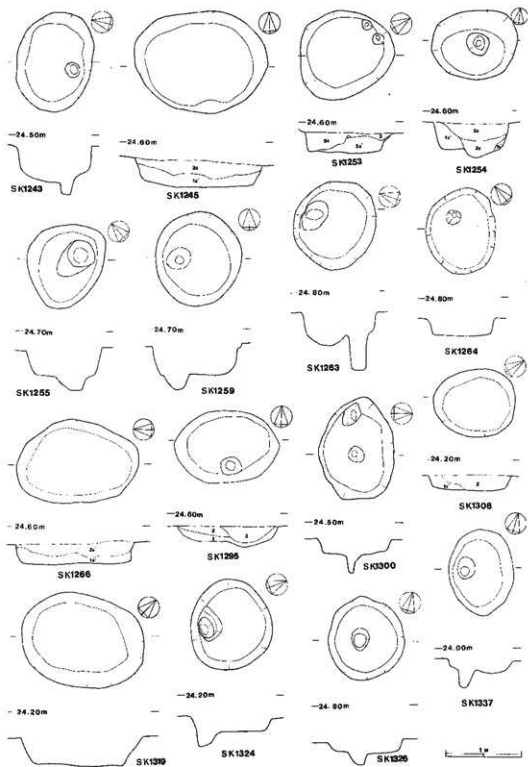
第66圖 土壤実測図(11)



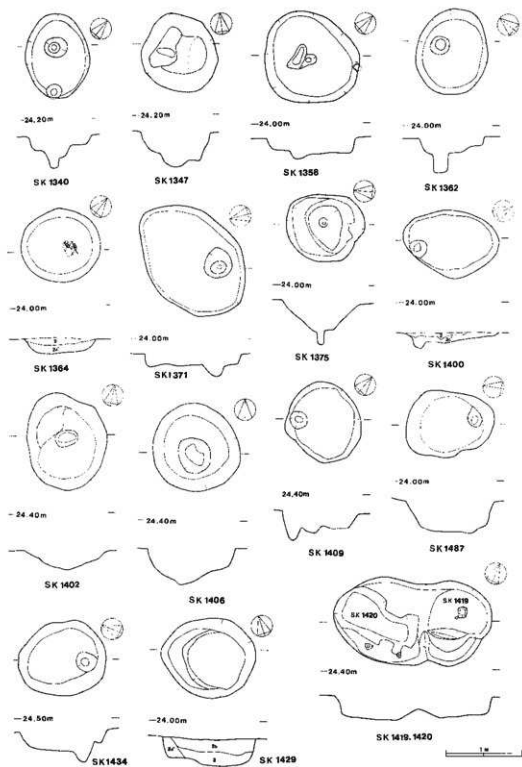
第67圖 土 坑 突 測 圖 (12)



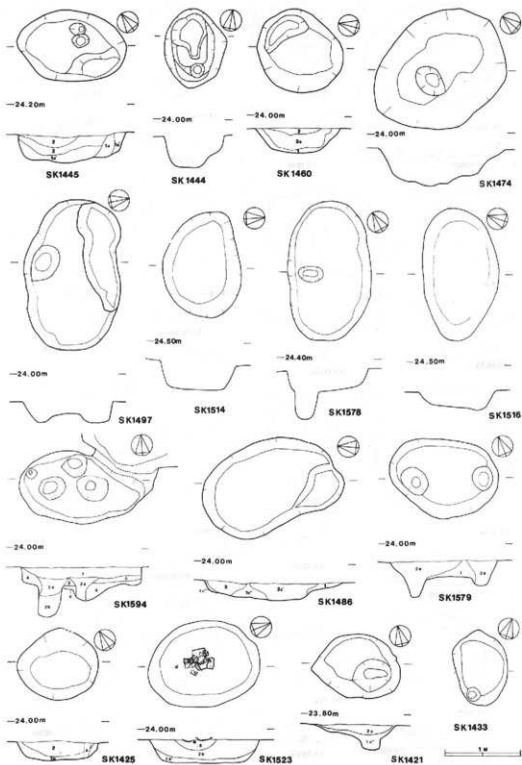
第68回 土壤実測図 (13)



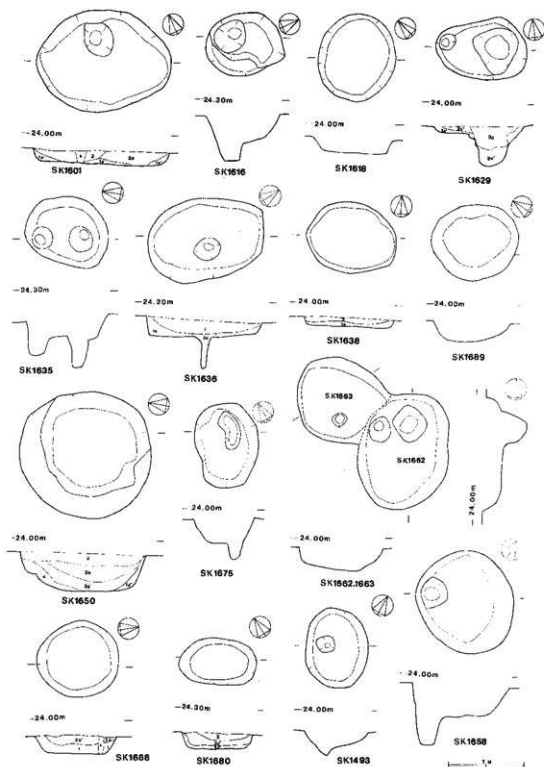
第69图 土壤突测图(14)



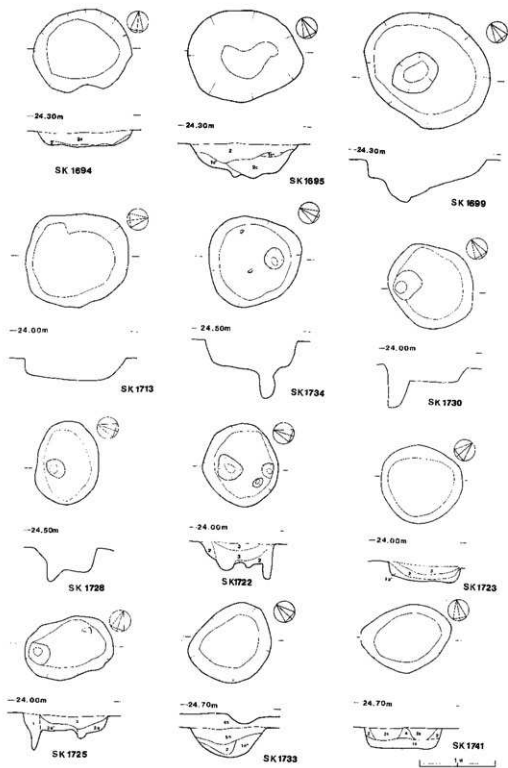
第70图 土壤突洞图 (15)



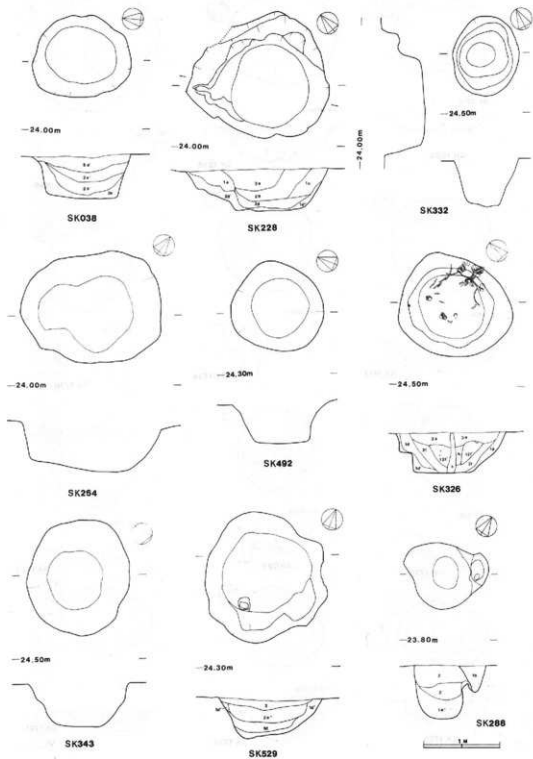
第71圖 土壤実測図(16)



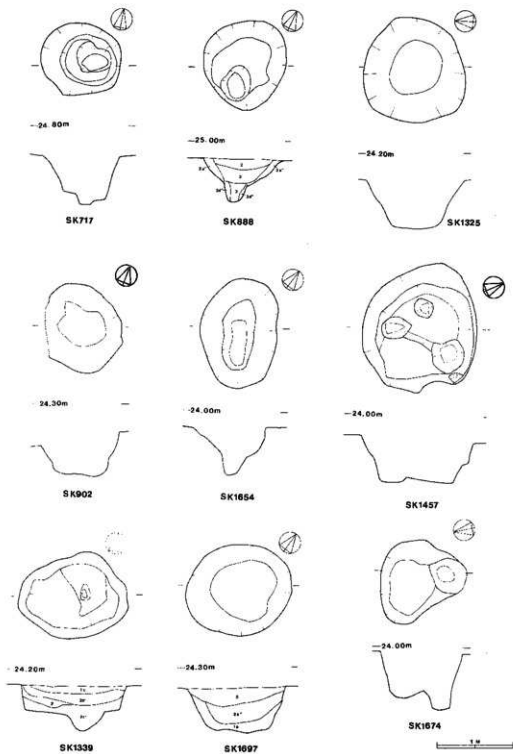
第72图 土坑实测图(17)



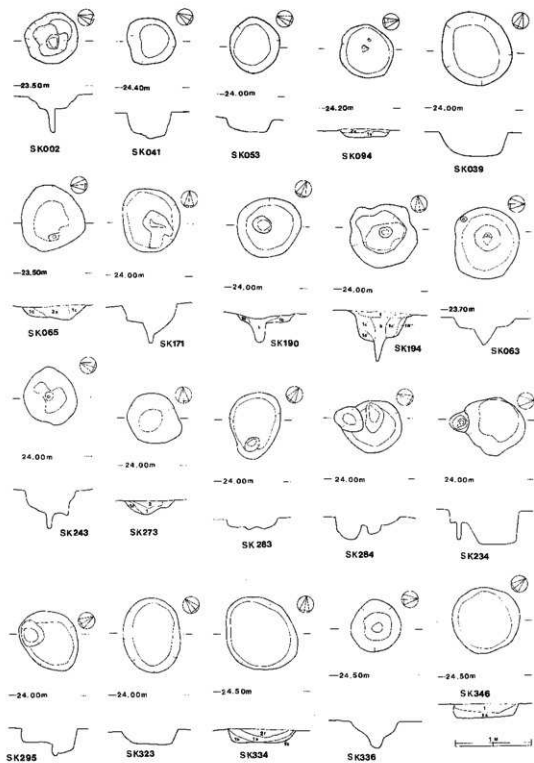
第73图 土壤实测图(18)



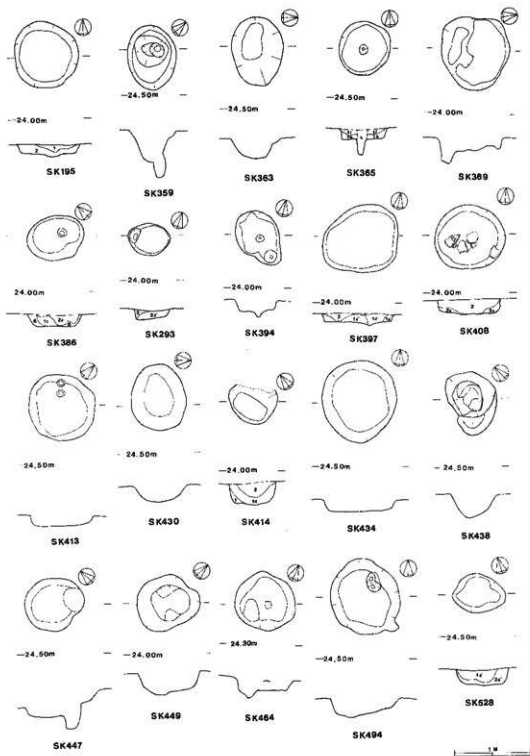
第74図 土 墳 実 測 図 (19)



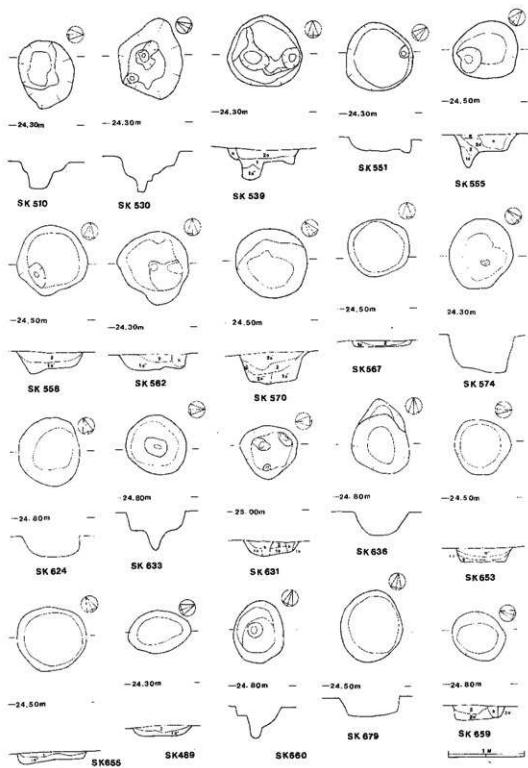
第75图 土壤实测图(20)



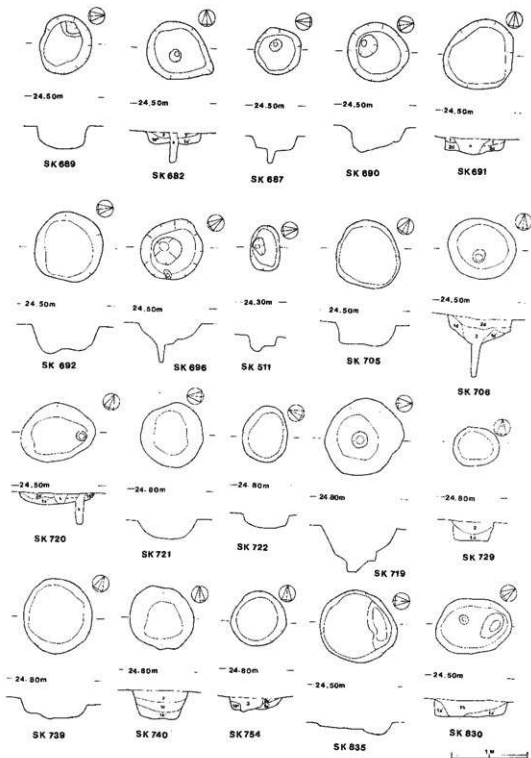
第76图 土壤实测图 (21)



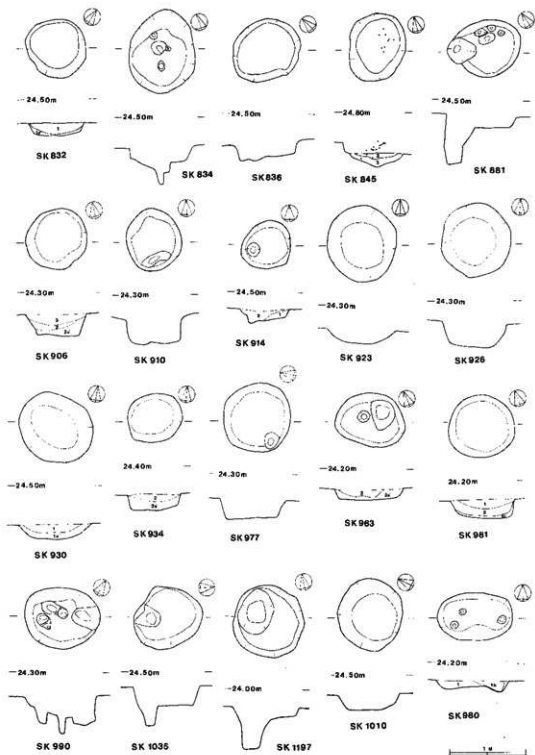
第77圖 土壤実測図(22)



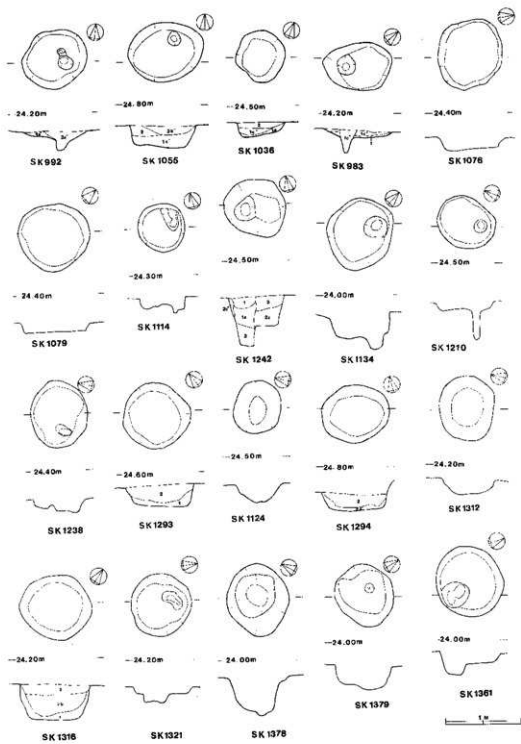
第78圖 土壤突測圖 (23)



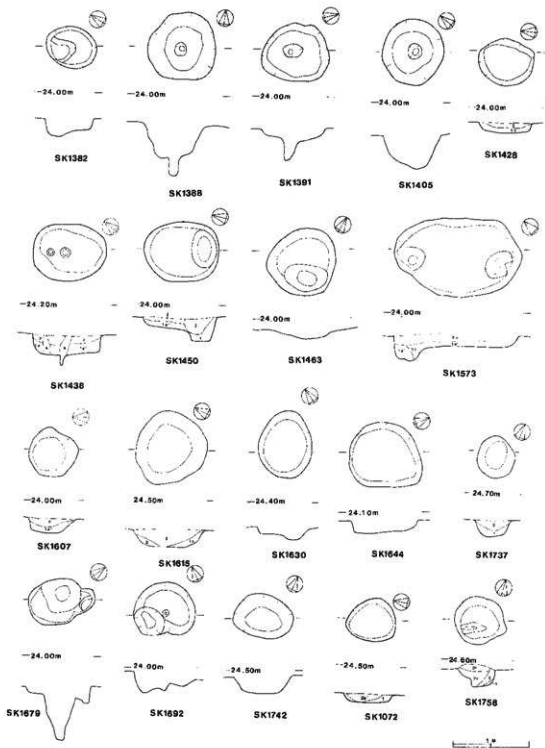
第79圖 土壤突測圖(24)



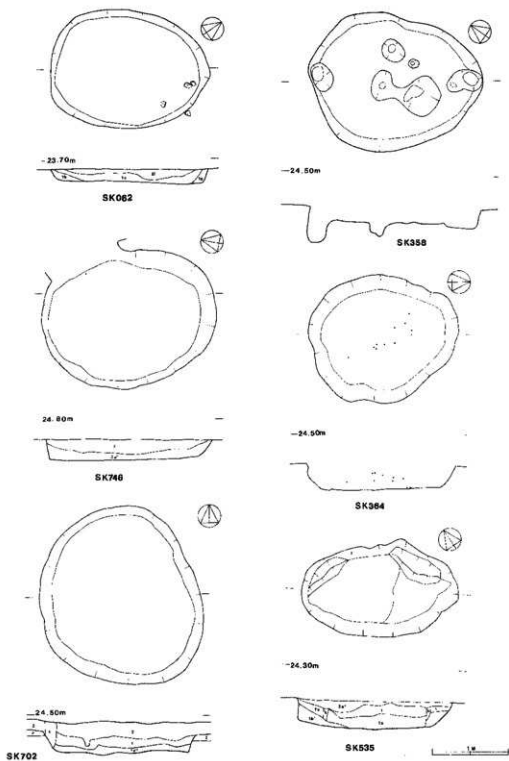
第80圖 土壤突測圖(25)



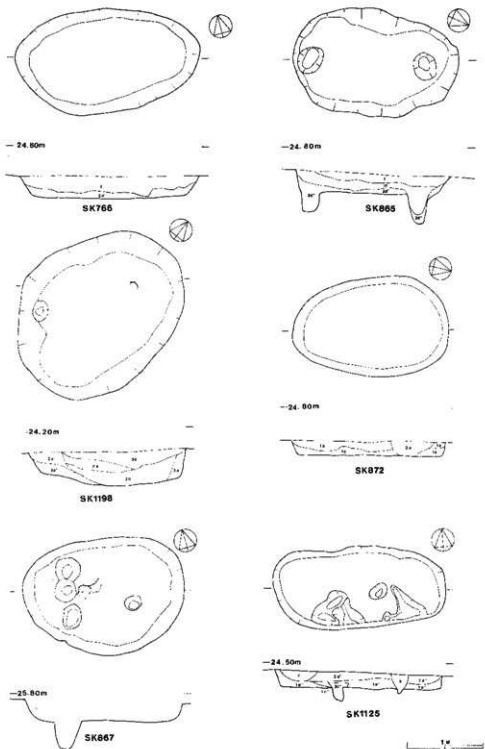
第81图 土壤夹测图 (26)



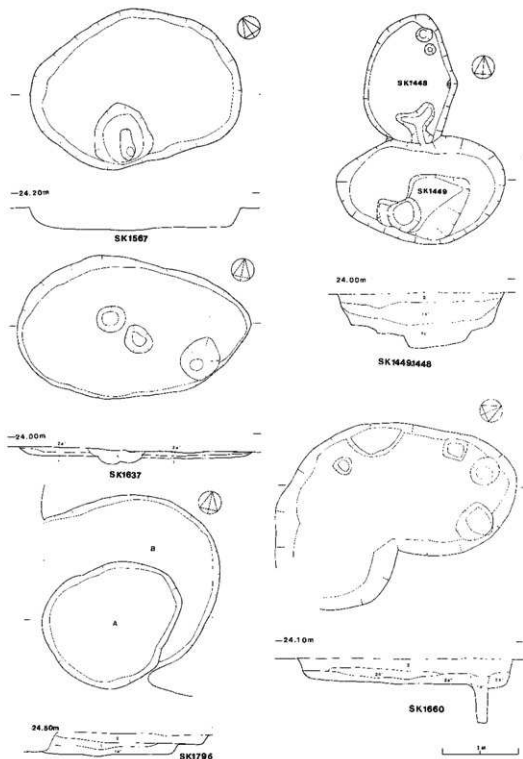
第82图 土壤实测图 (27)



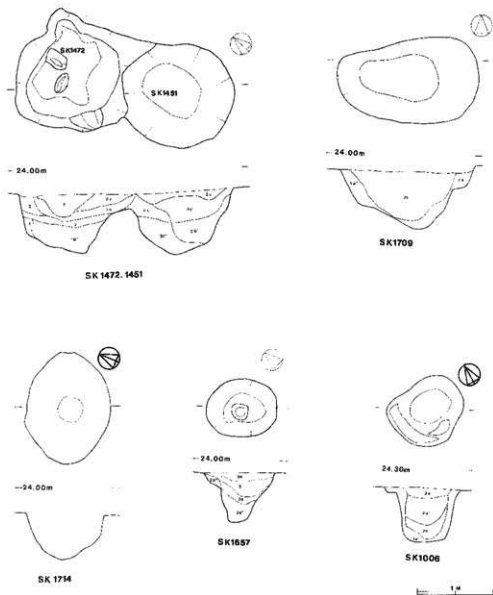
第83圖 土壤突測圖(28)



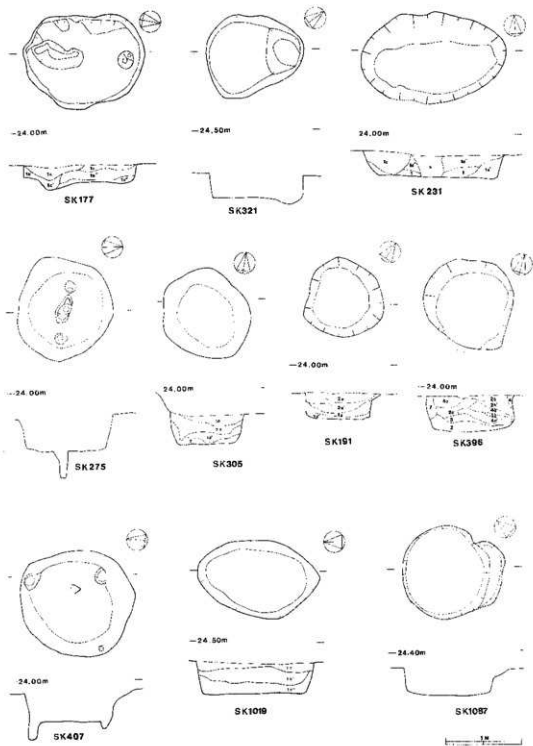
第84図 土 墳 突 測 図 (29)



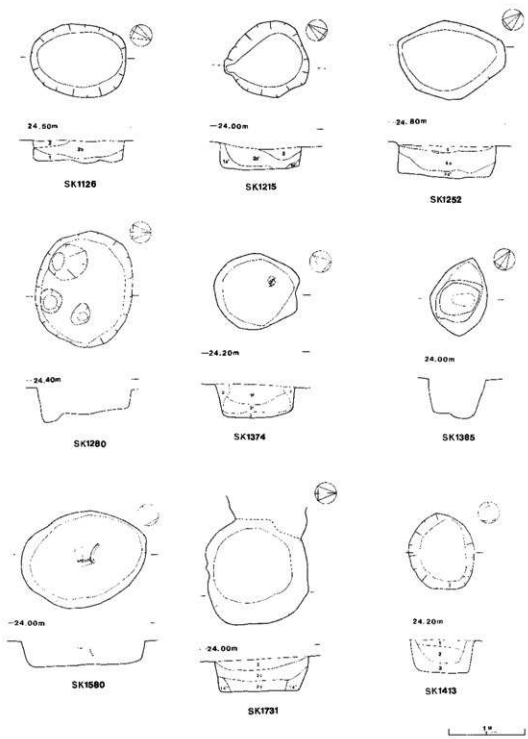
第85图 土壤实测图(30)



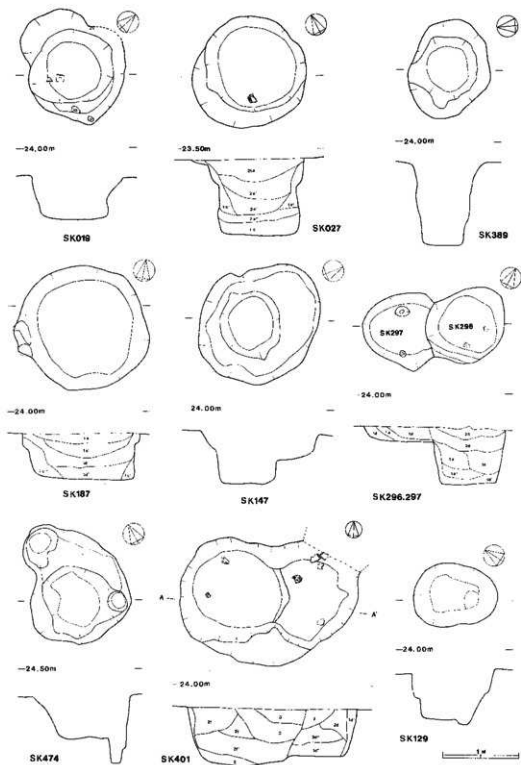
第88圖 土壤突測図(31)



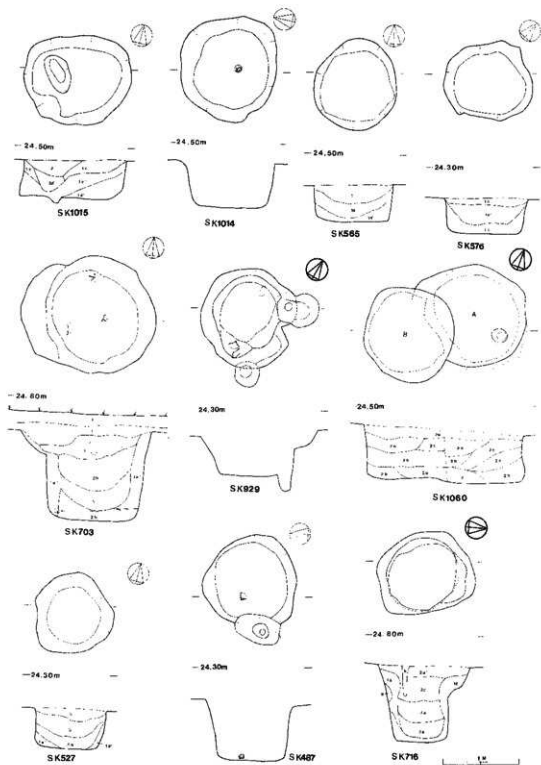
第87图 土壤夹测图(32)



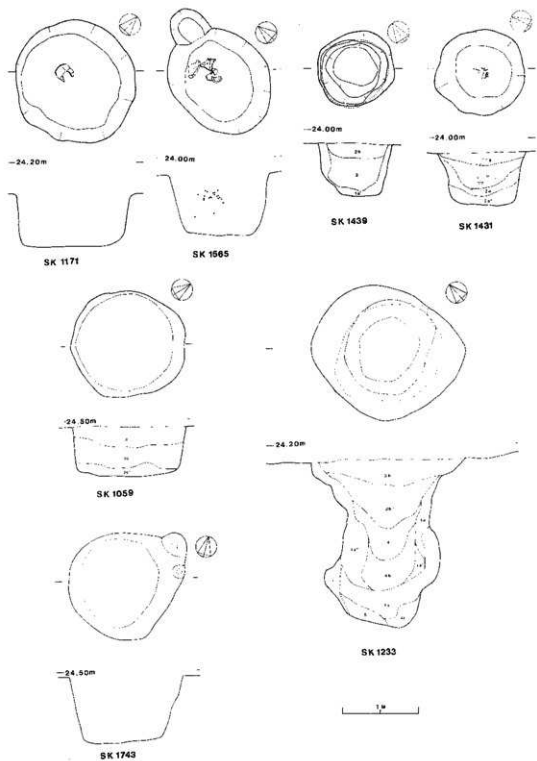
第88圖 土壤実測図 (33)



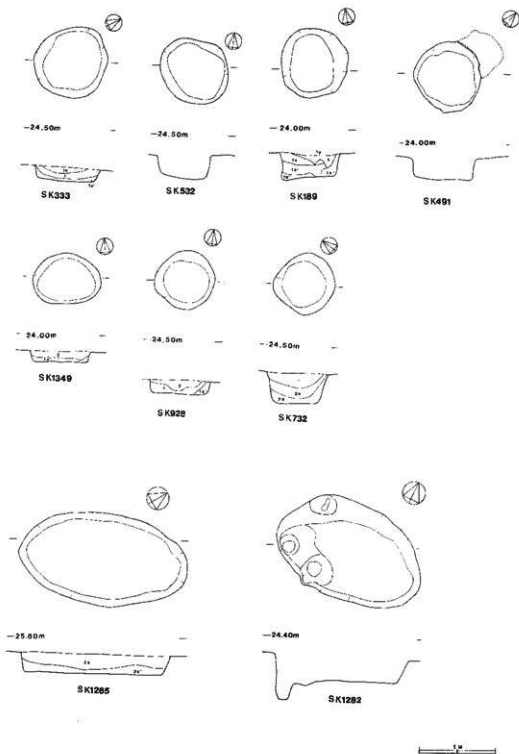
第89回土壤実測図(34)



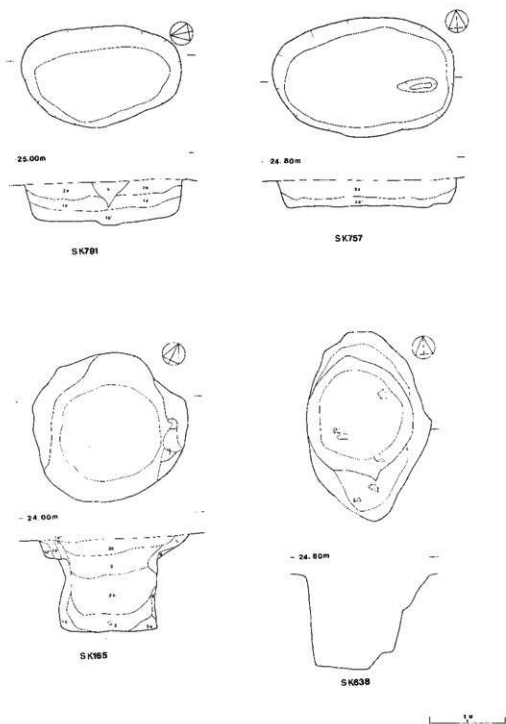
第90圖 土壤実測図 (35)



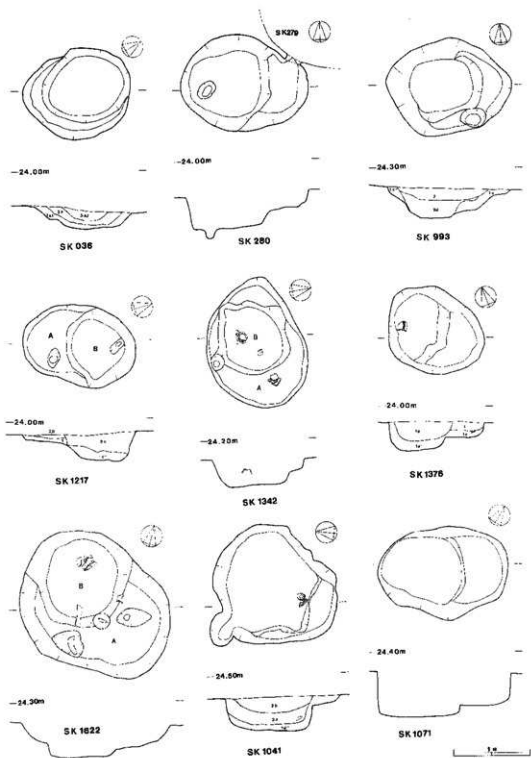
第91图 土壤突测图 (36)



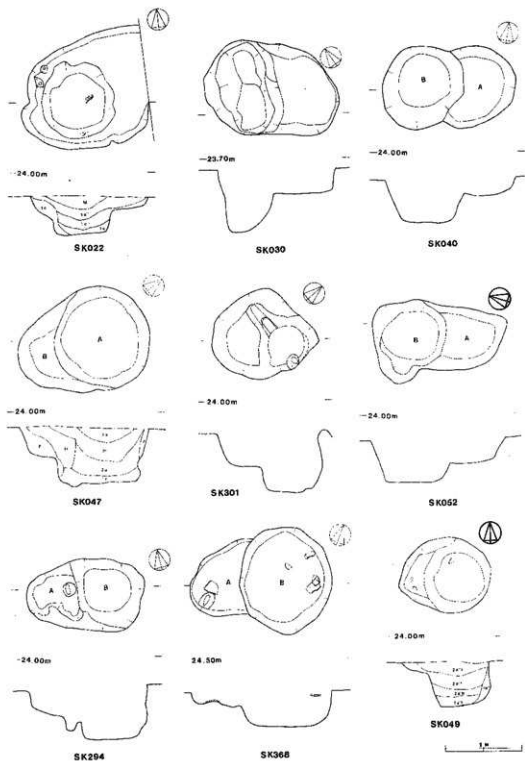
第92回土壤実測図(37)



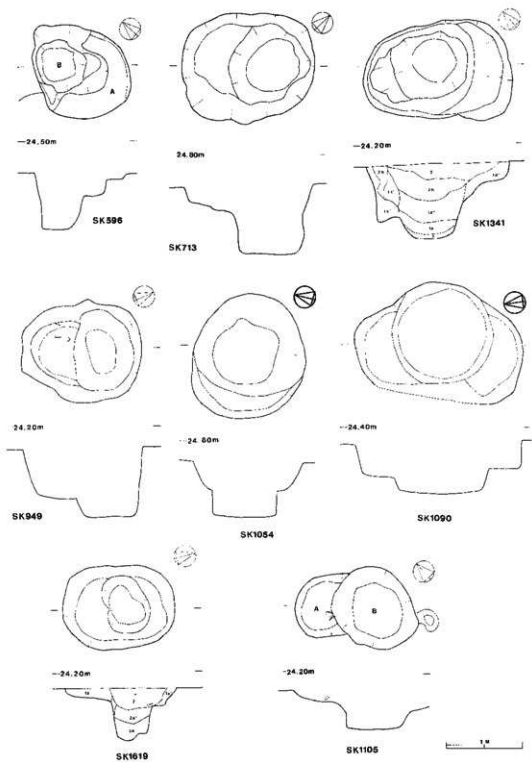
第93图 土壤夹测图(38)



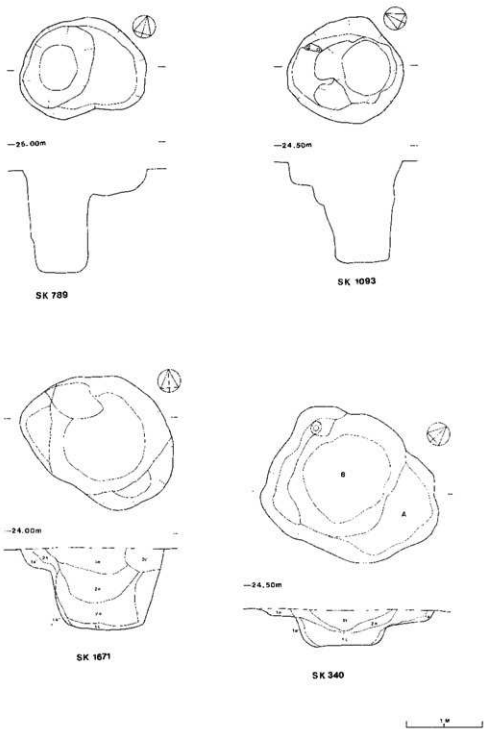
第94圖 土壤実測図(39)



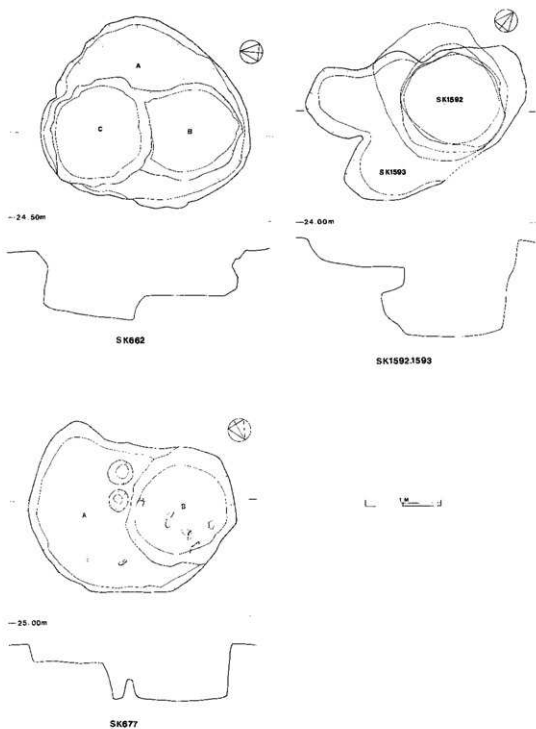
第95圖 土壤実測図(40)



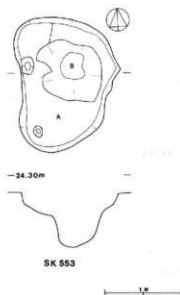
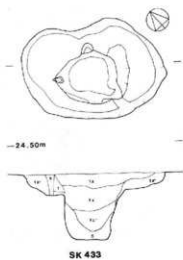
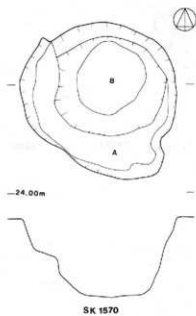
第96圖 土壤實測圖(41)



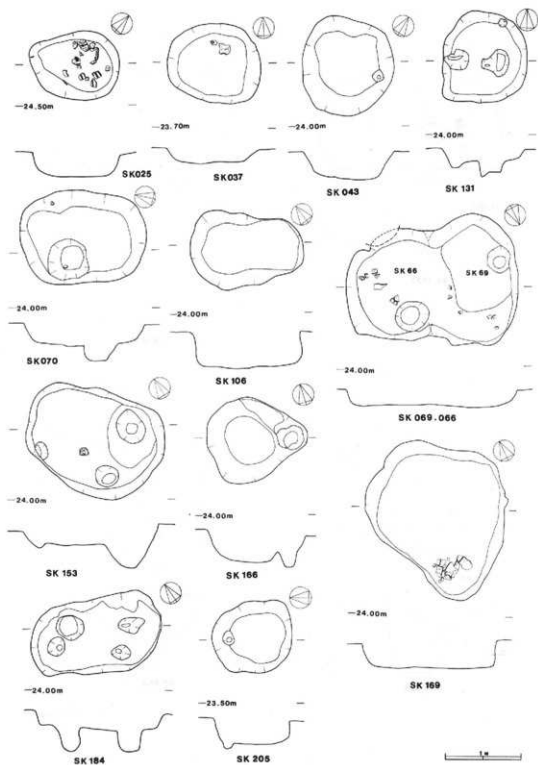
第97圖 土壤突測圖 (42)



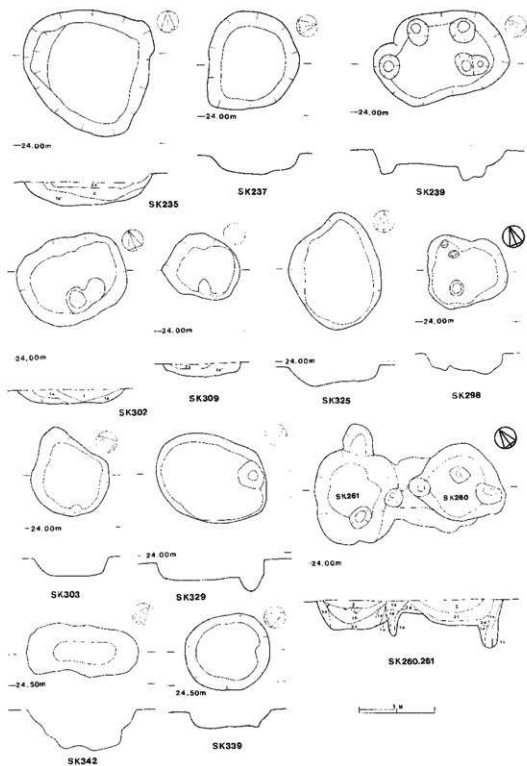
第98回 土壤実測図(43)



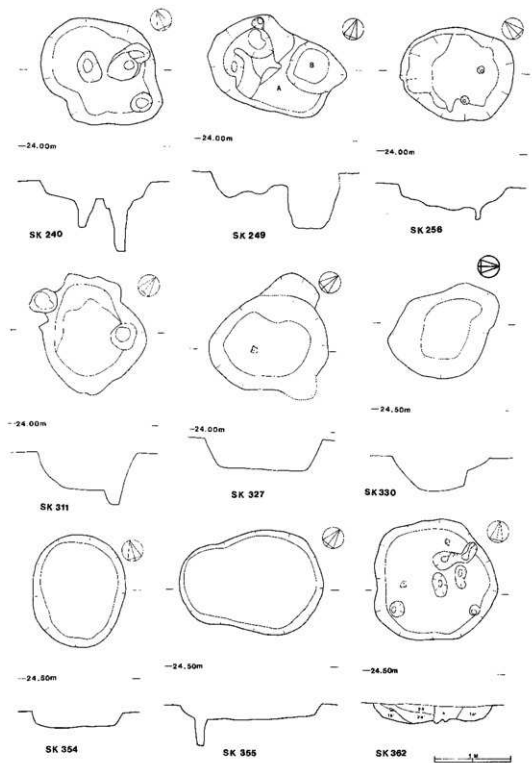
第99圖 土 壙 実 測 図 (44)



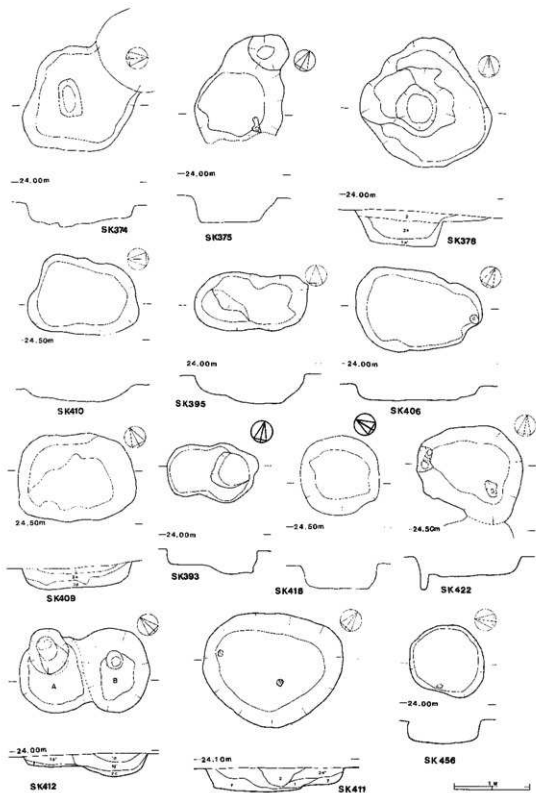
第100图 土 坑 实 测 图 (45)



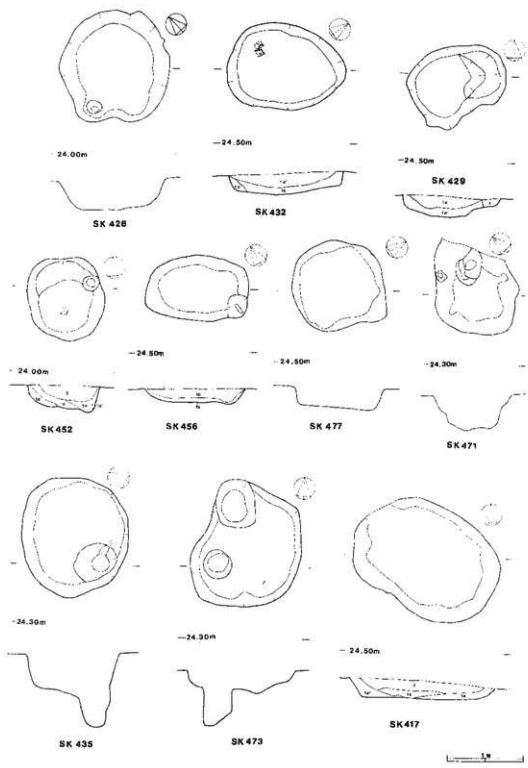
第101図 土壤実測図(46)



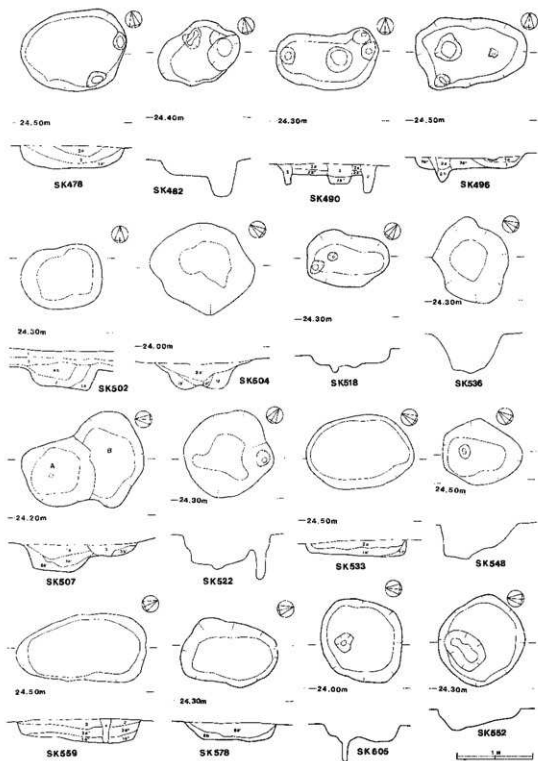
第102图 土壤突测图(47)



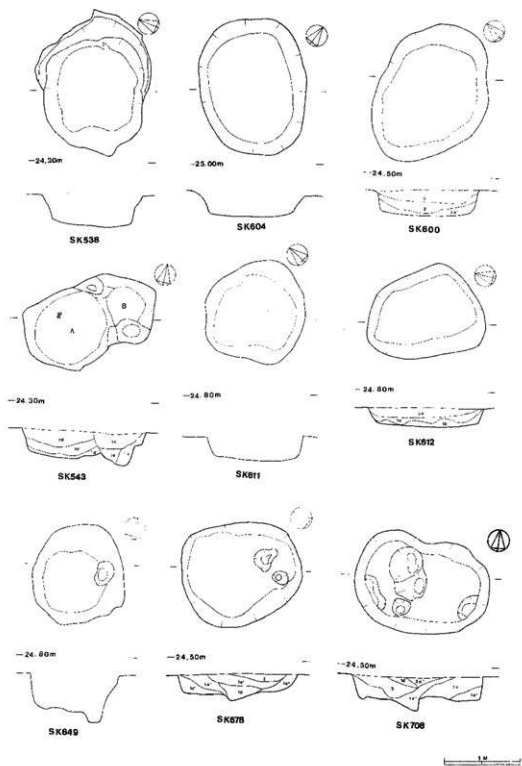
第103図 土 墳 突 測 図 (48)



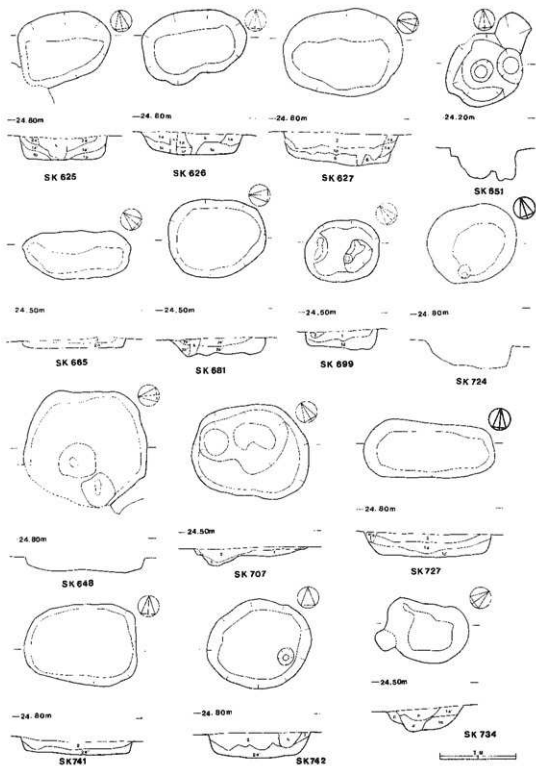
第104図 土壤突測図(49)



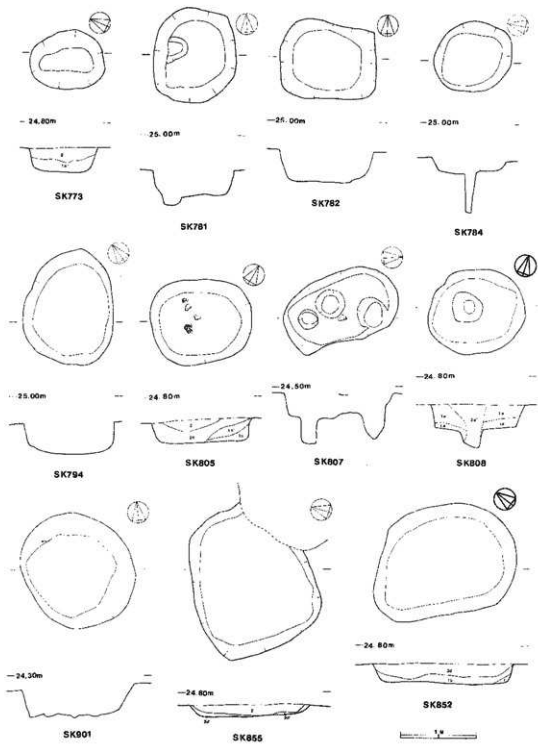
第105圖 土壤実測図(50)



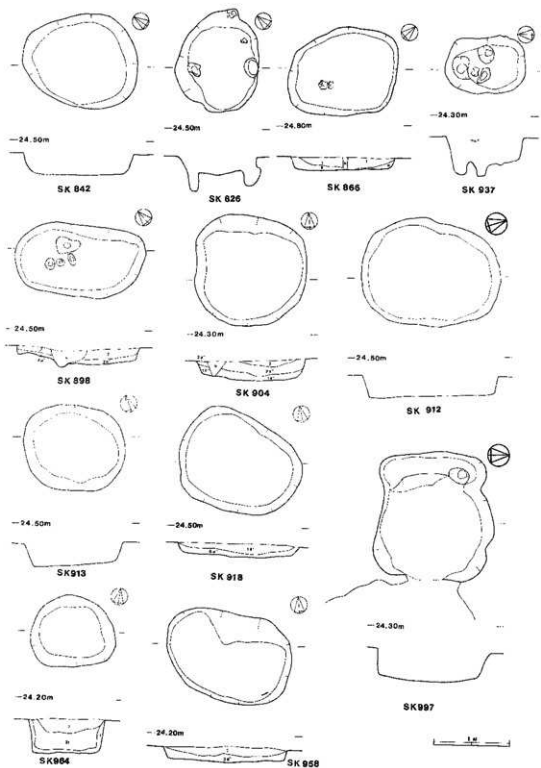
第106图 土壤夹测图(51)



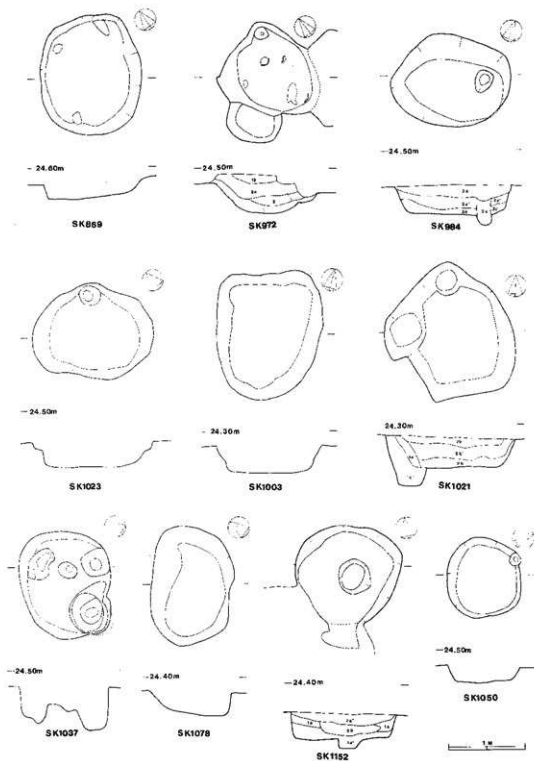
第107图 土壤夹测图 (52)



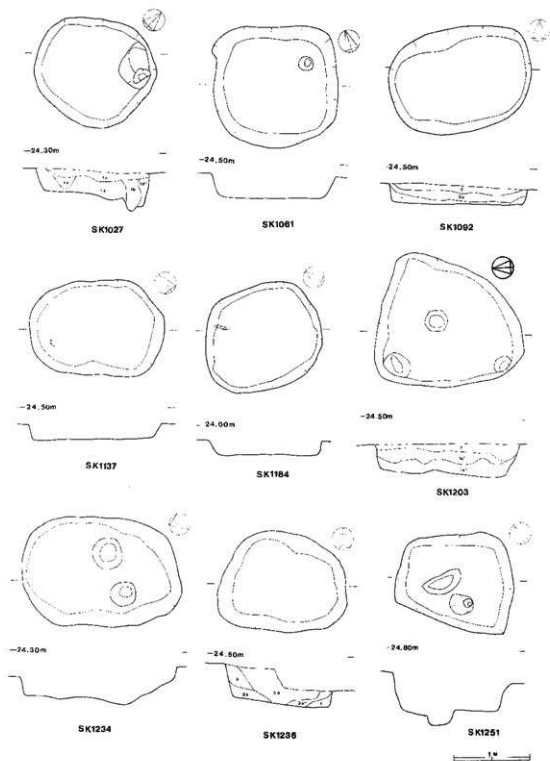
第108圖 土壤突測圖 (53)



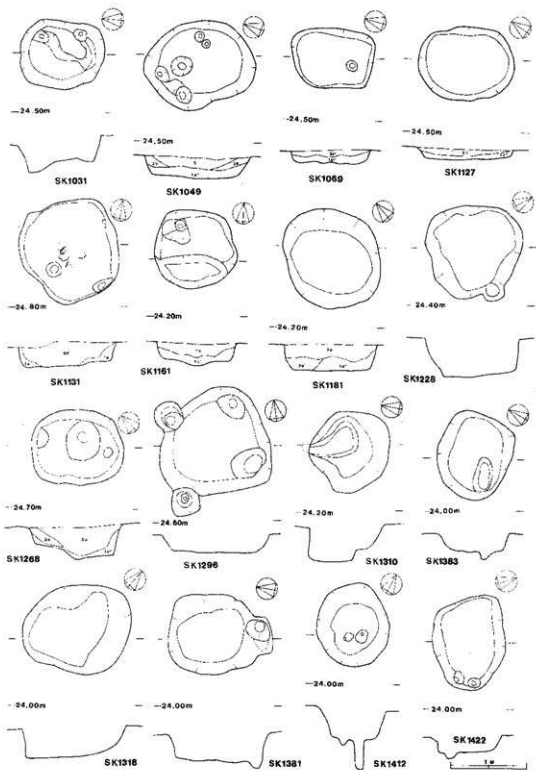
第109图 土壤実測図 (54)



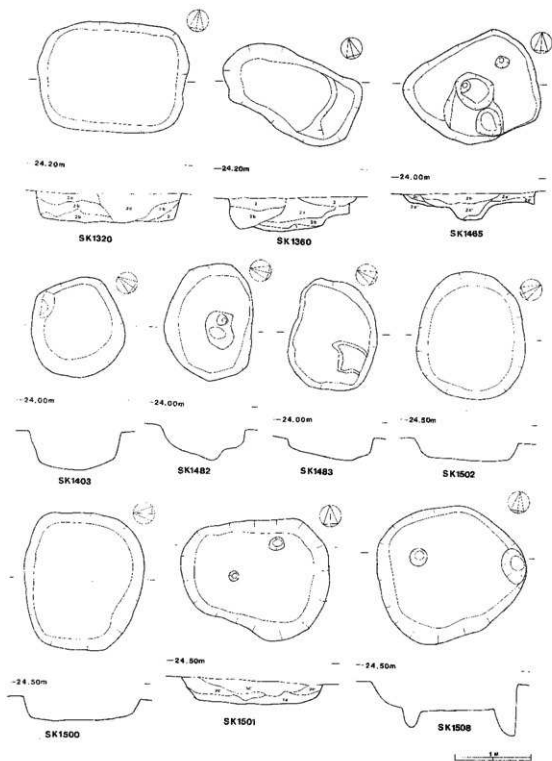
第110圖 土壤実測図(55)



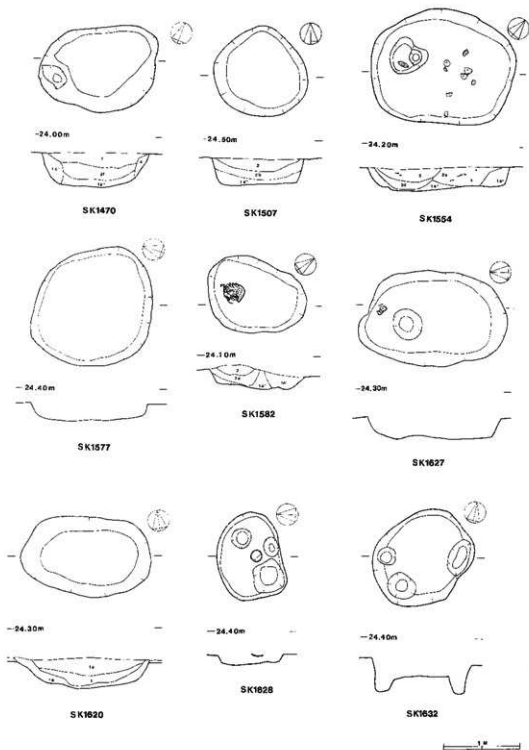
第111圖 土壤実測図(56)



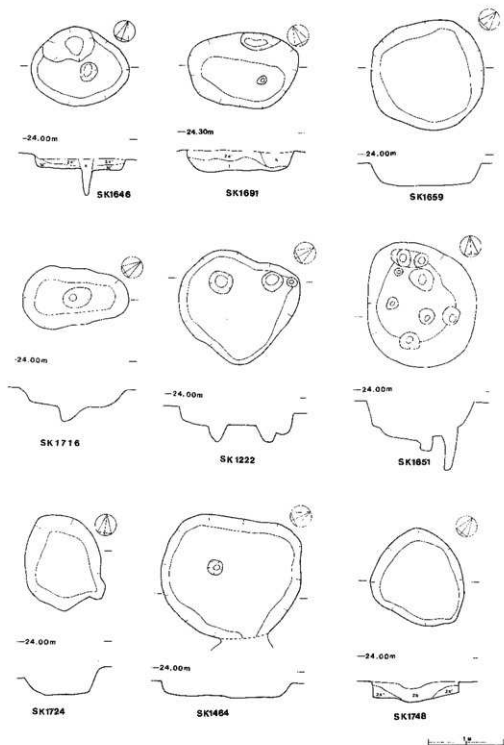
第112圖 土壤實測圖 (57)



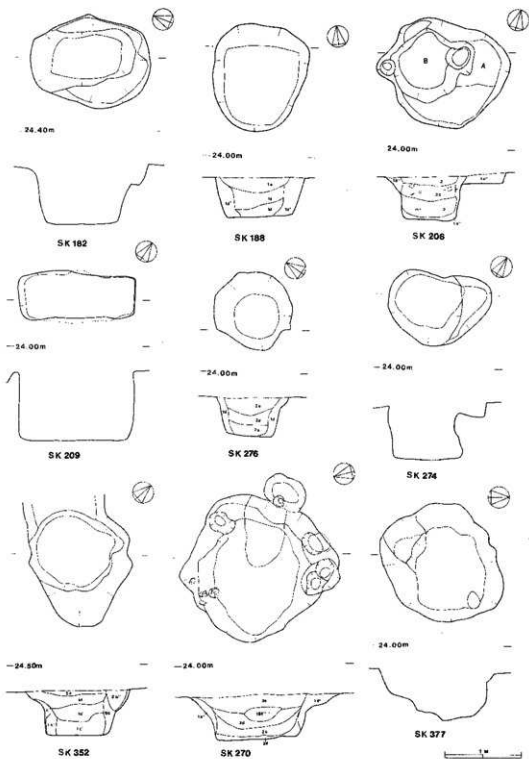
第113图 土壤实测图(59)



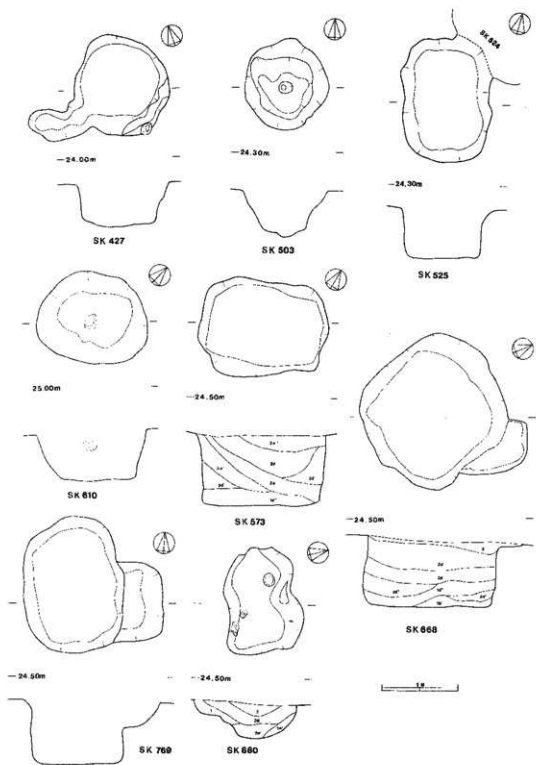
第114图 土壤実測図(60)



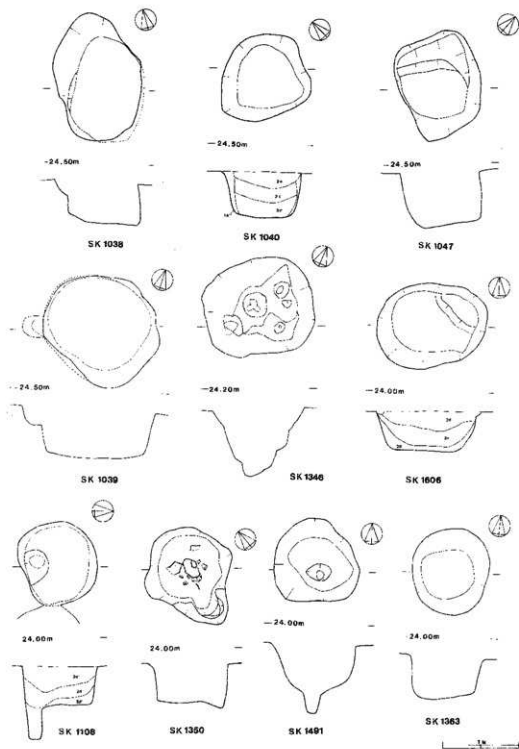
第115圖 土壤突測圖(60)



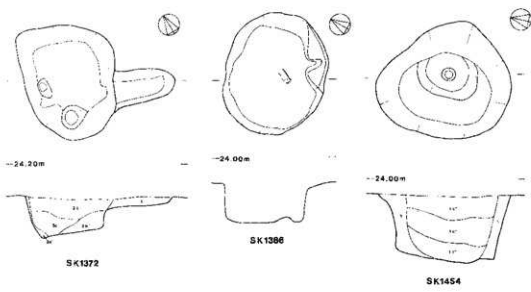
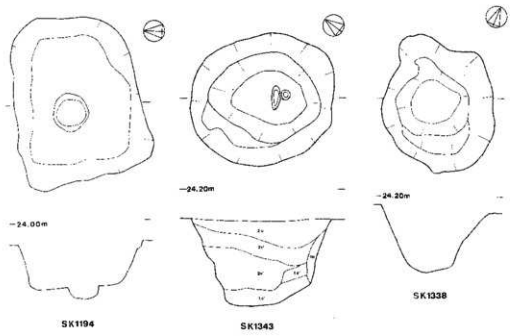
第116圖 土壤實測圖(61)



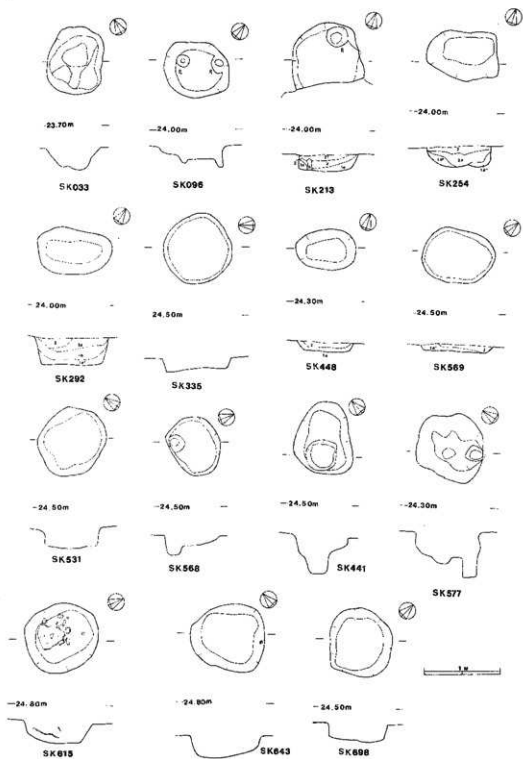
第117圖 土壤実測図(62)



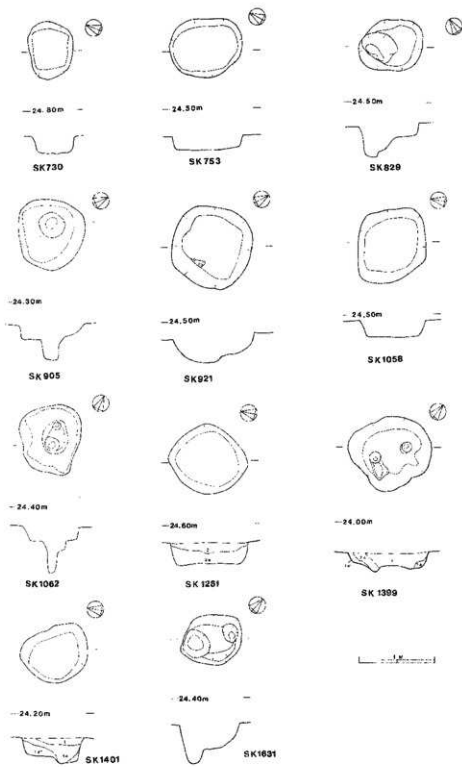
第118圖 土壤実測図 (63)



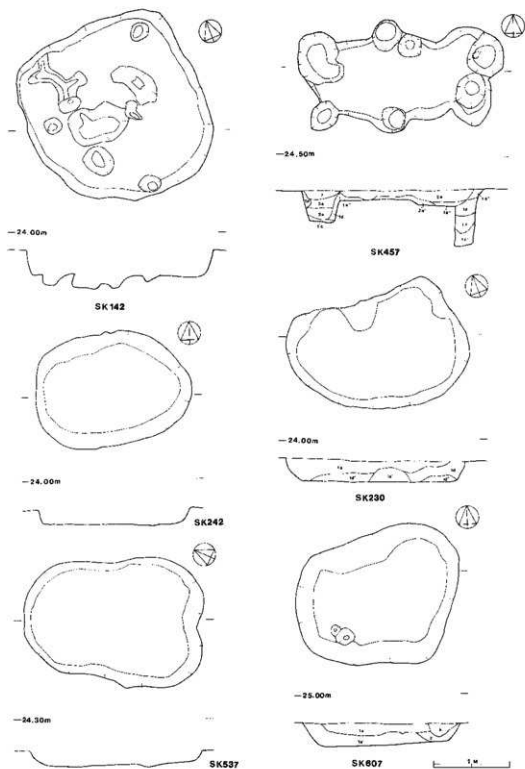
第119圖 土壤実測図(64)



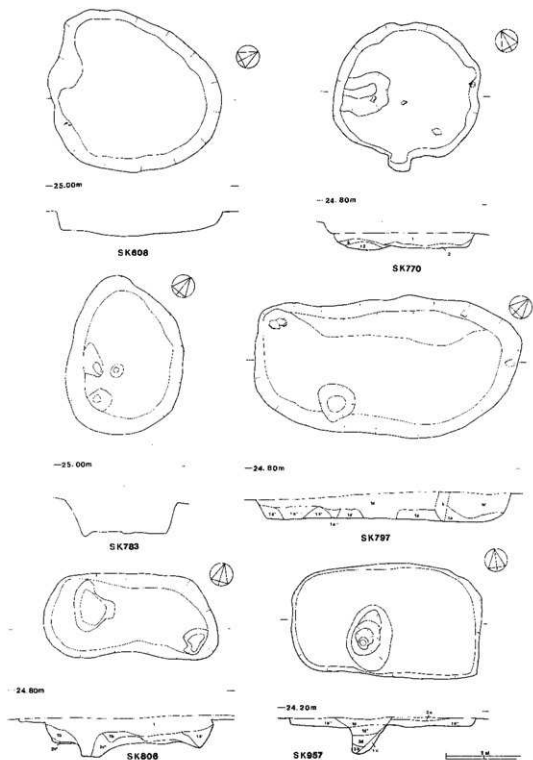
第120圖 土壤実測図 (65)



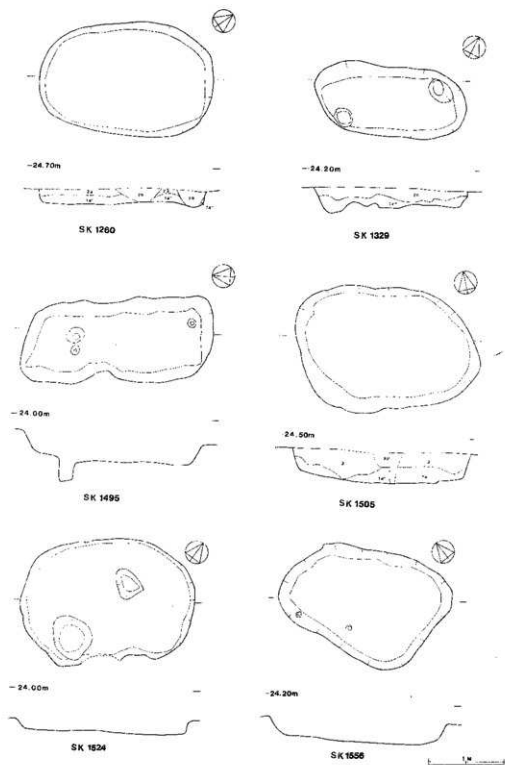
第121图 土壤实测图(66)



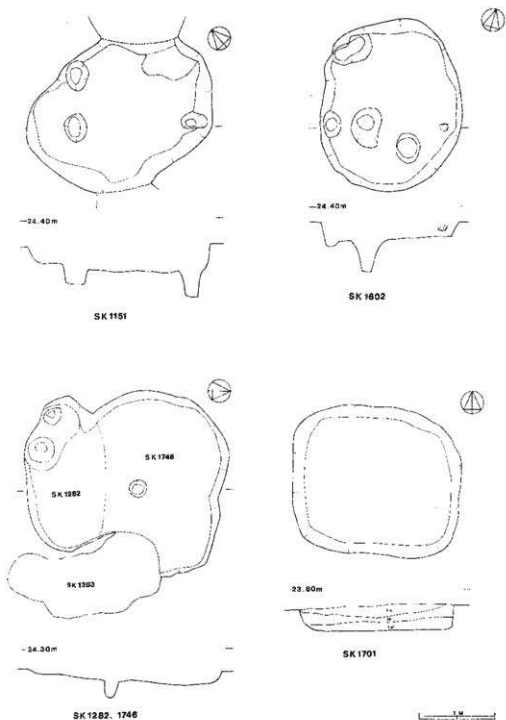
第122图 土壤突測図(67)



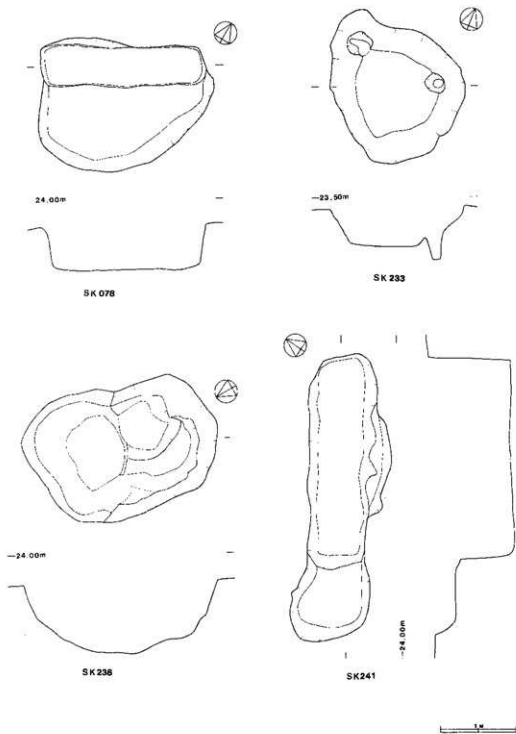
第123图 土壤実測図(68)



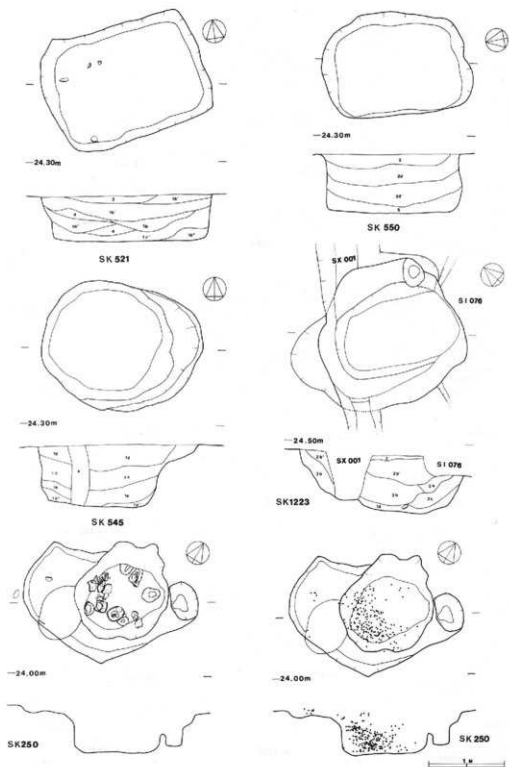
第124図 土壤実測図(69)



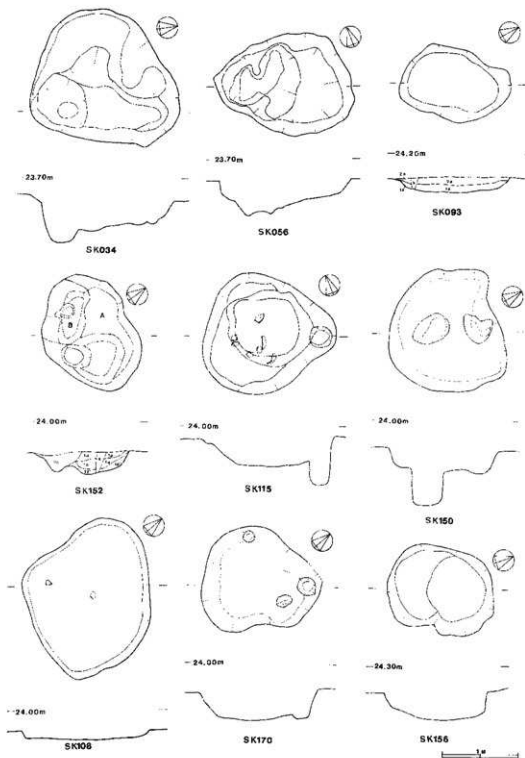
第125図 土 墳 実 測 図 (70)



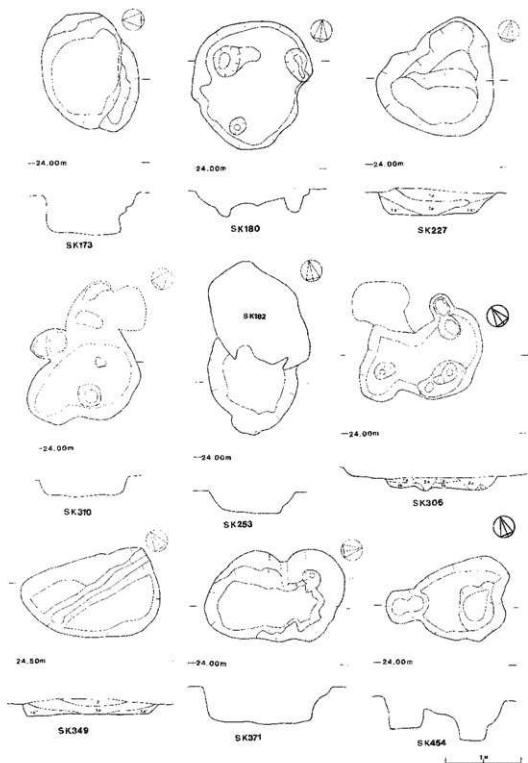
第126图 土壤实测图(71)



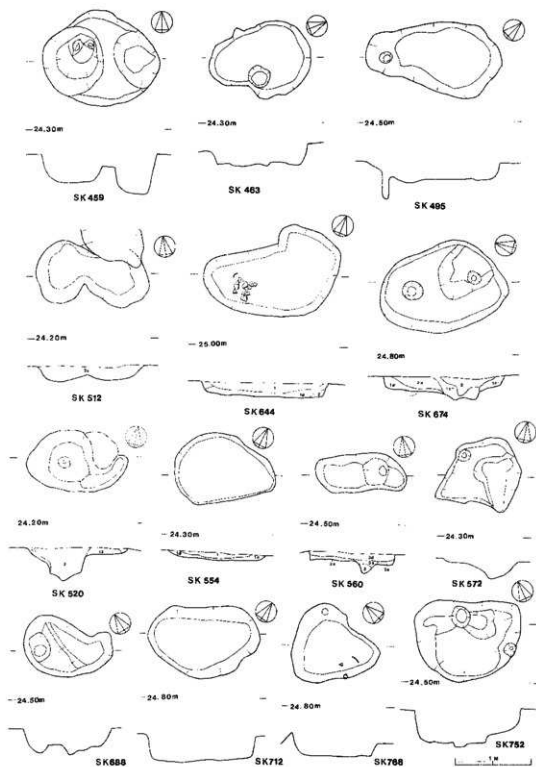
第127图 土壤実測図(72)



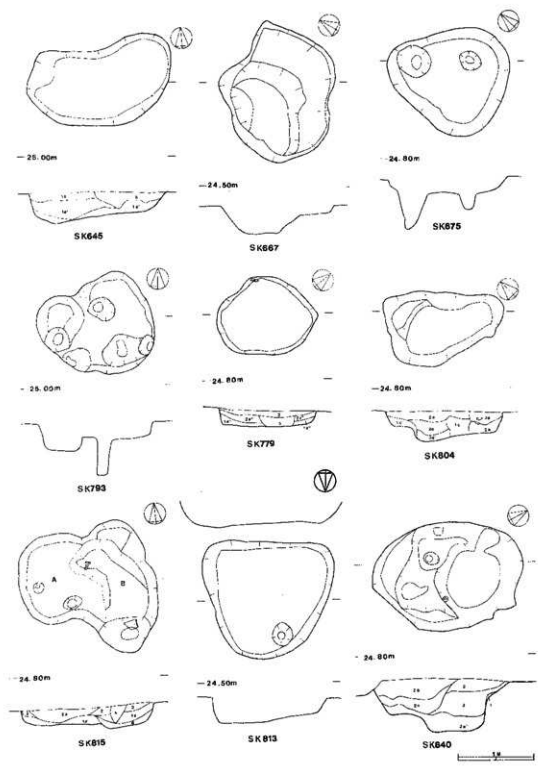
第128圖 土壤實測圖(73)



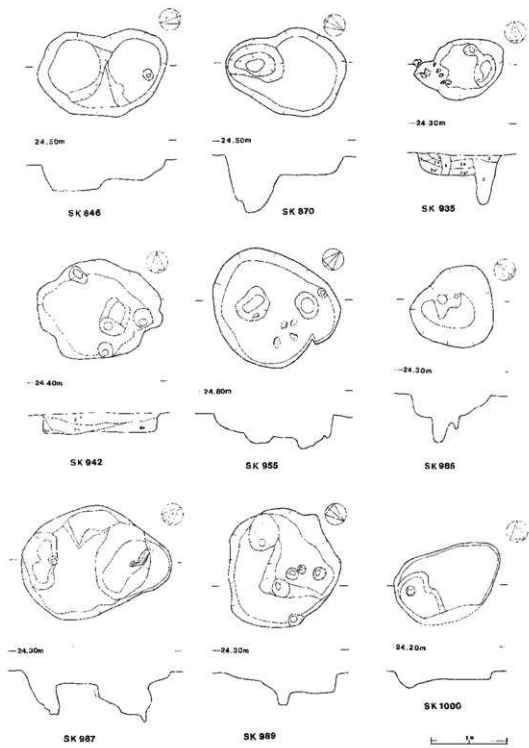
第129回 土壤実測図 (74)



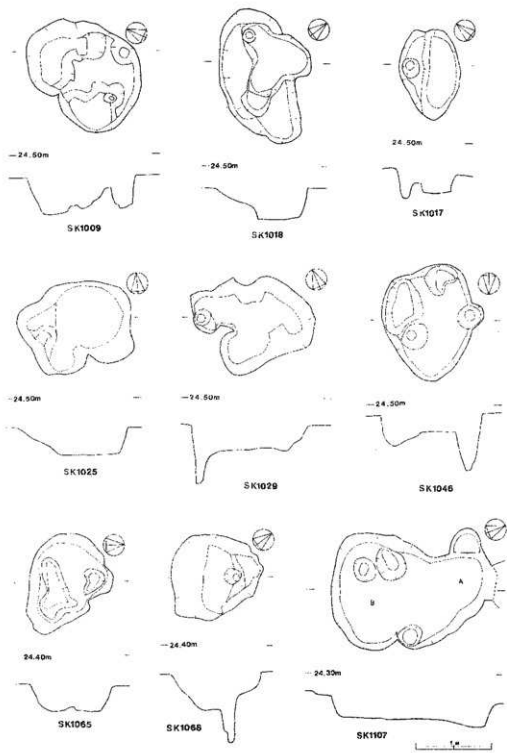
第130图 土壤实测图(75)



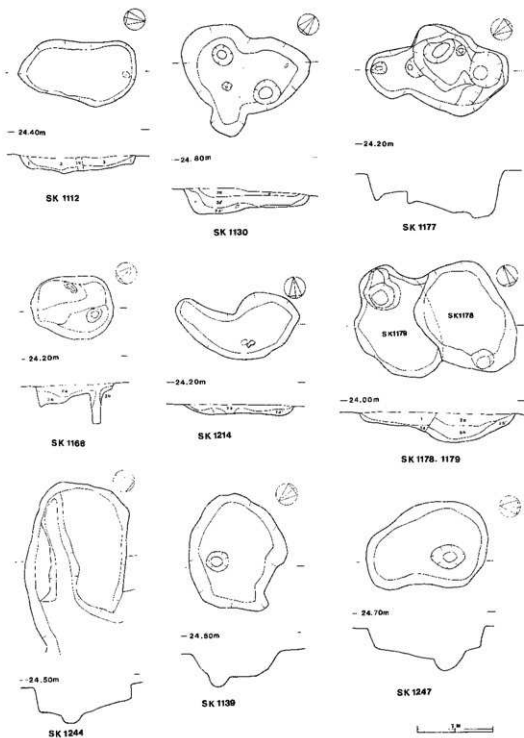
第131图 土壤夹测图(76)



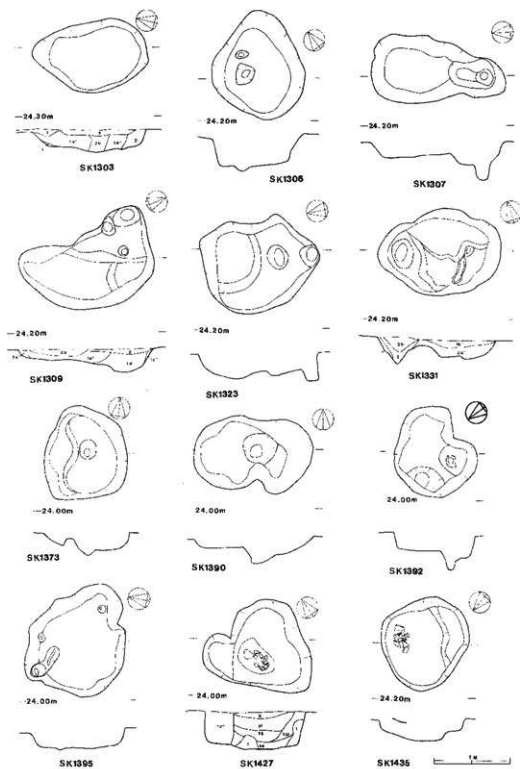
第132图 土壤実測図(77)



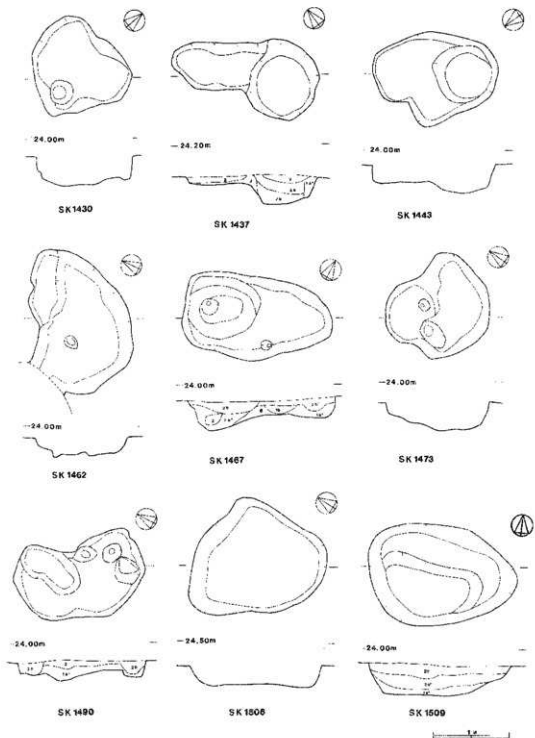
第133图 土壤突测图(78)



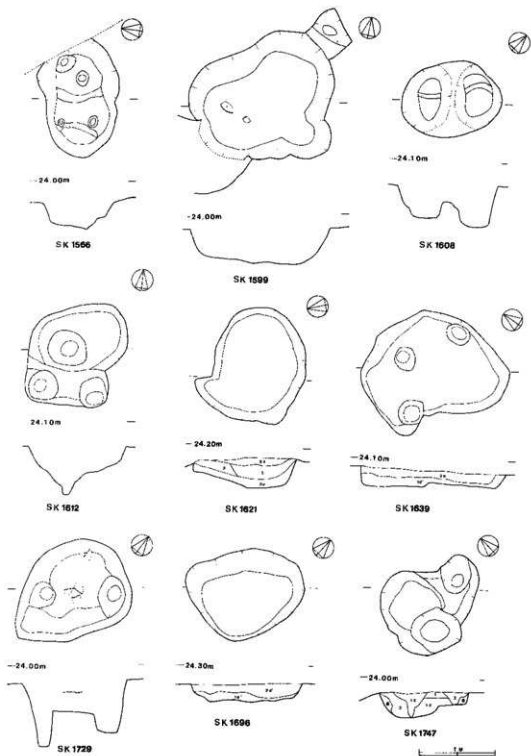
第134图 土壤実測図(79)



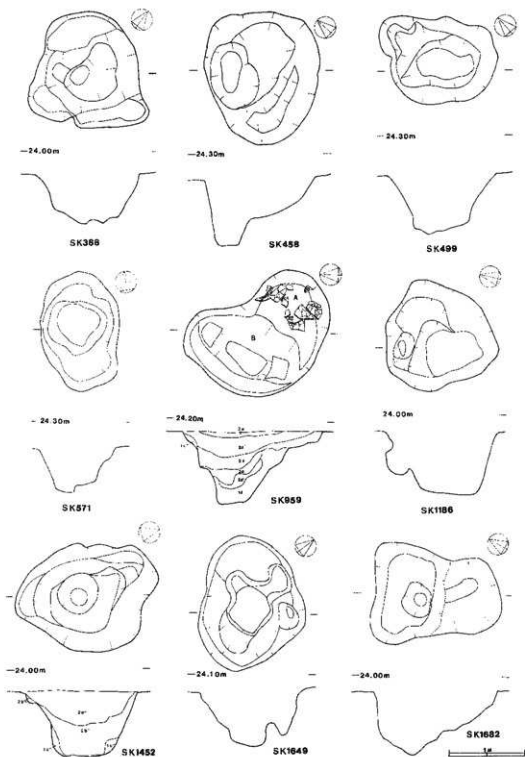
第135图 土壤突测图(80)



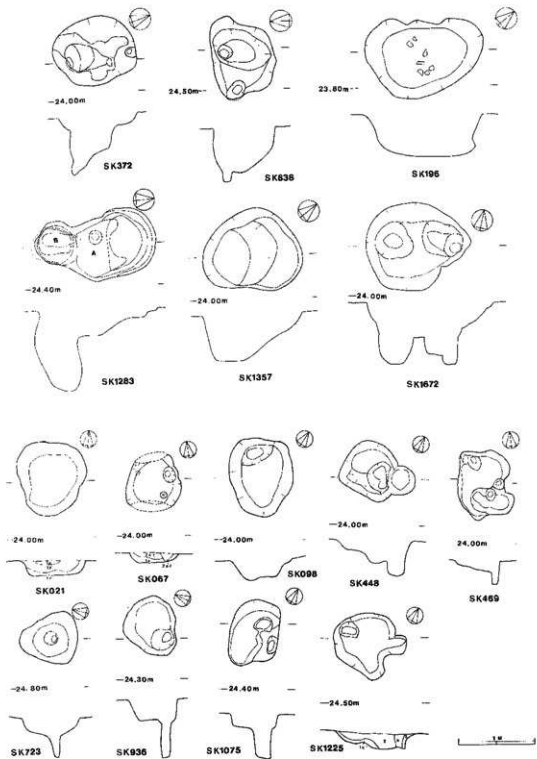
第136图 土壤突测图 (81)



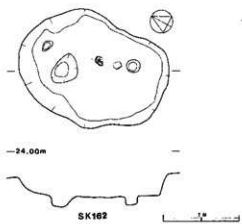
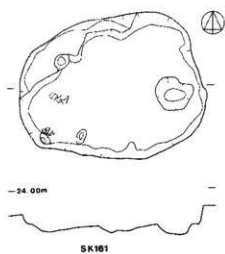
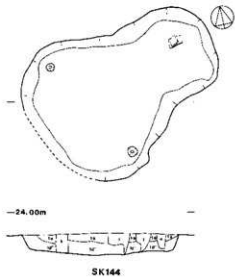
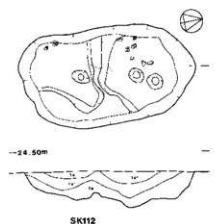
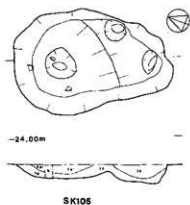
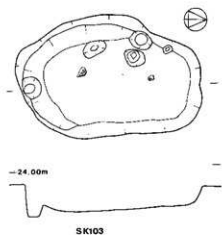
第137图 土壤实测图(82)



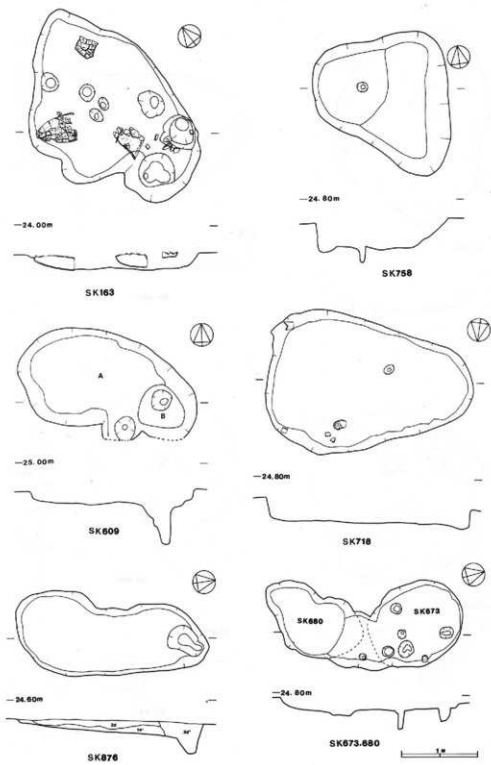
第138图 土壤实测图 (83)



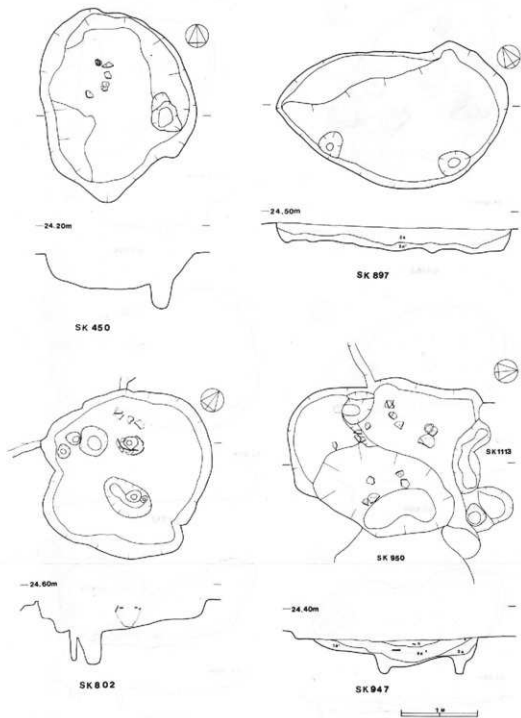
第139图 土壤突测图 (84)



第140図 土 墳 突 測 図 (85)



第141圖 土壤突測図(86)

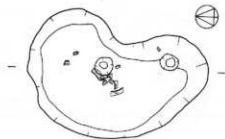


第142圖 土壤実測図(87)



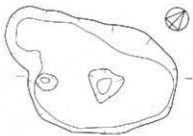
-24.20m

SK 451



-24.50m

SK 622



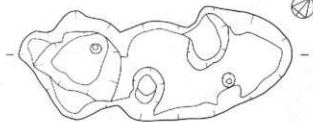
-24.20m

SK 1332



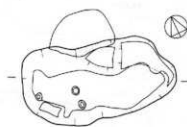
-24.80m

SK 864.863



-24.20m

SK 1183

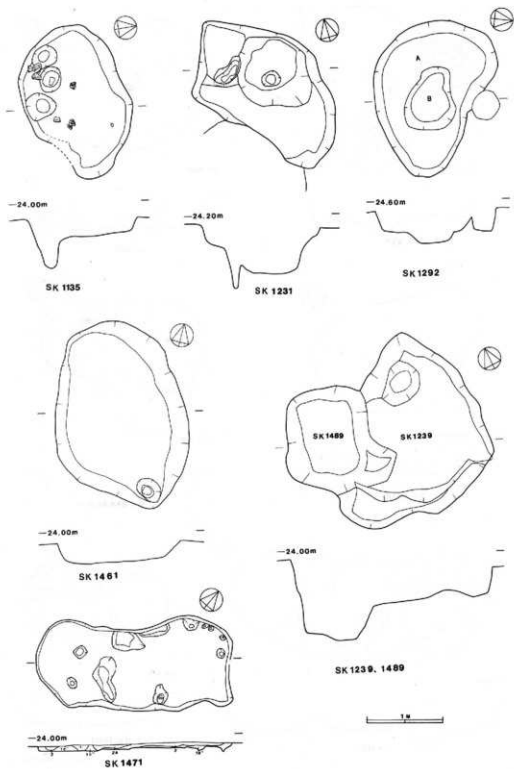


-24.30m

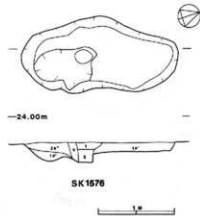
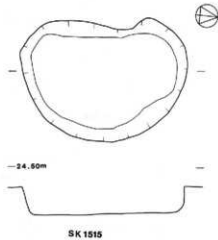
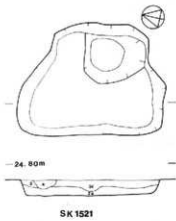
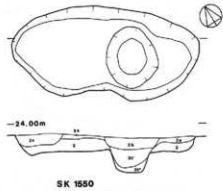
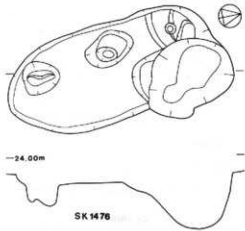
SK 1007



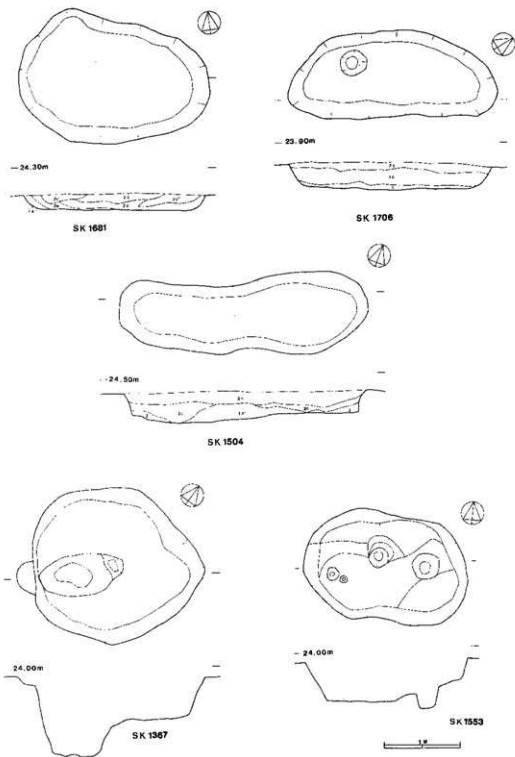
第143图 土壤実測図(88)



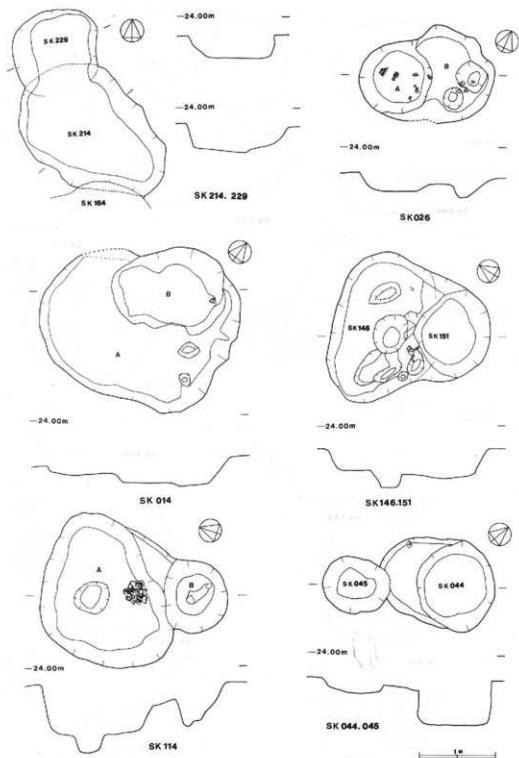
第144图 土壤実測図(89)



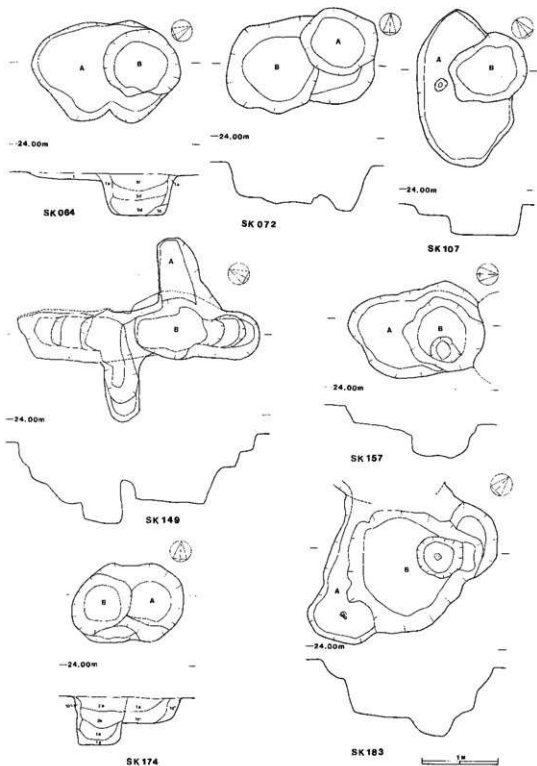
第145图 土壤実測図(90)



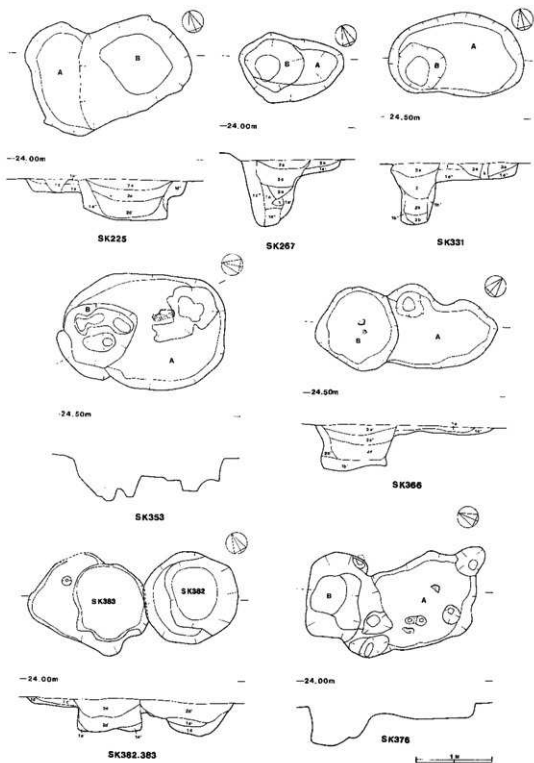
第146図 土壤突測図(91)



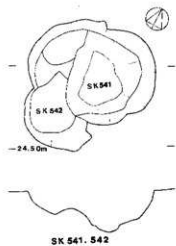
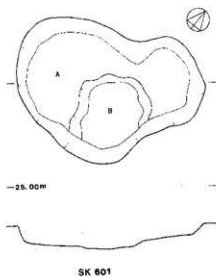
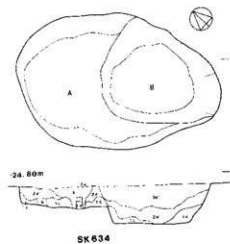
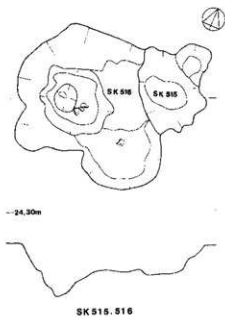
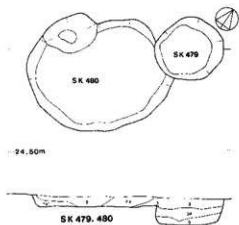
第147图 土壤実測図(92)



第148图 土壤实测图(93)

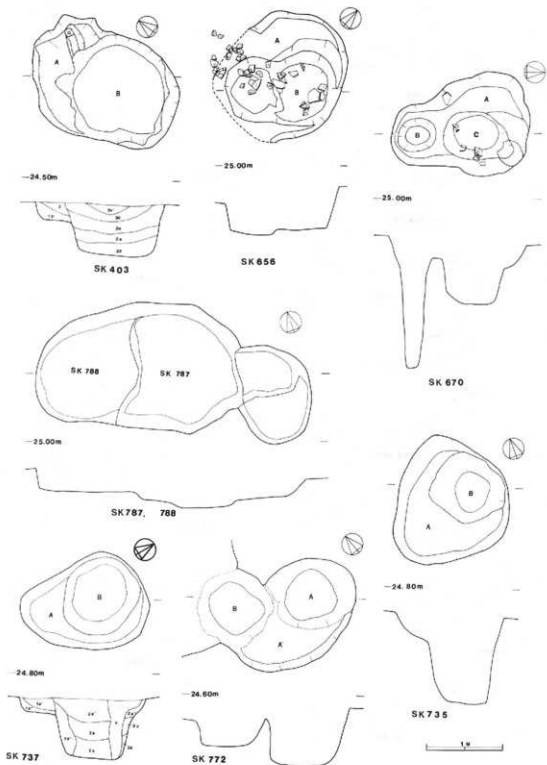


第149图 土壤实测图(94)

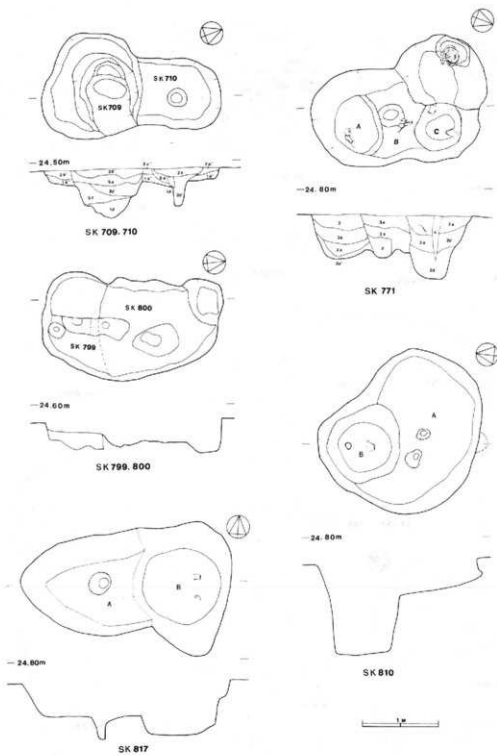


1m

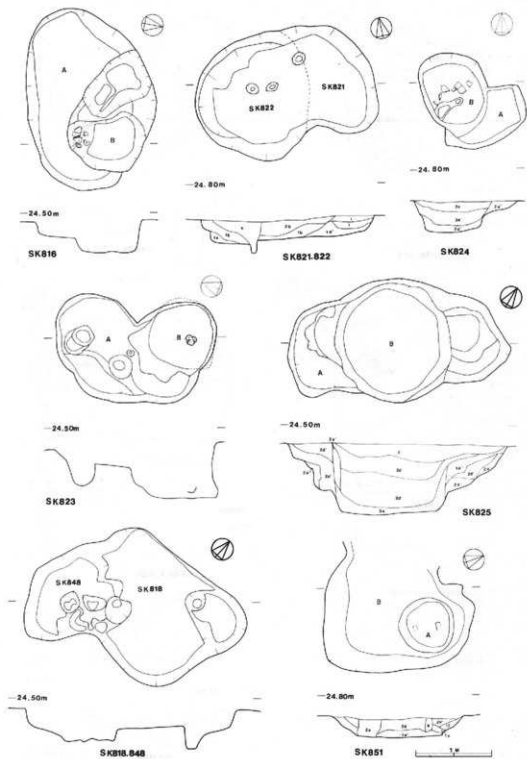
第150图 土壤実測図(95)



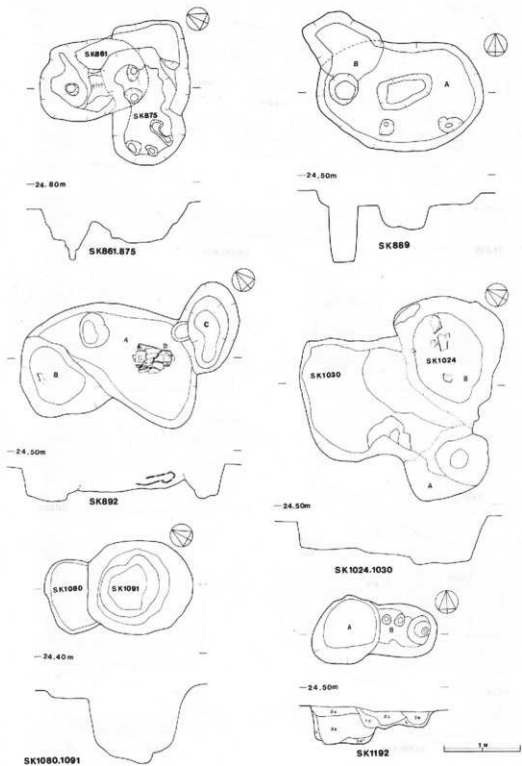
第151图 土壤实测图(96)



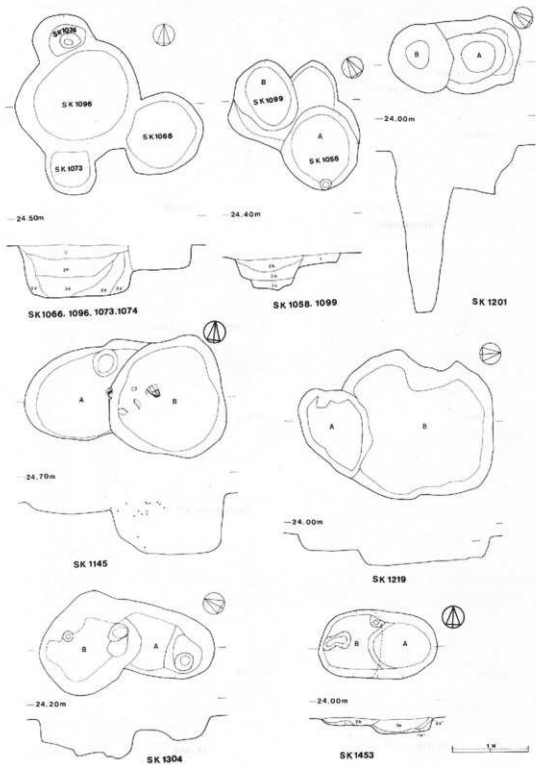
第152図 土 塚 実 測 図 (97)



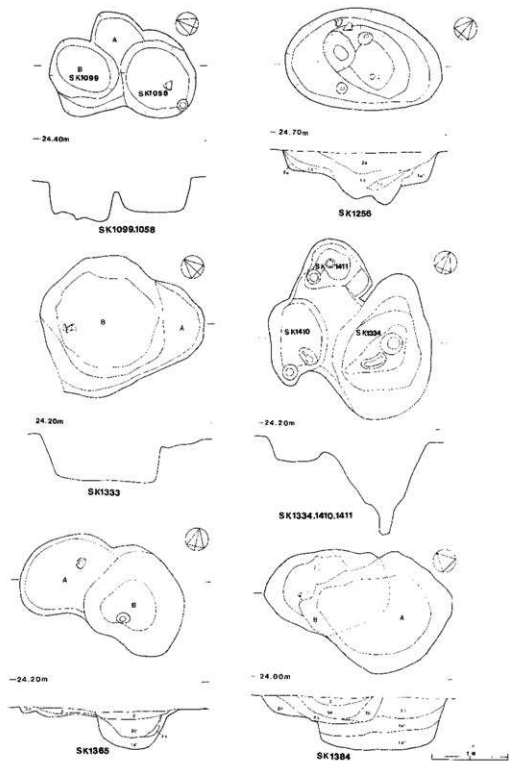
第153图 土壤実測図(98)



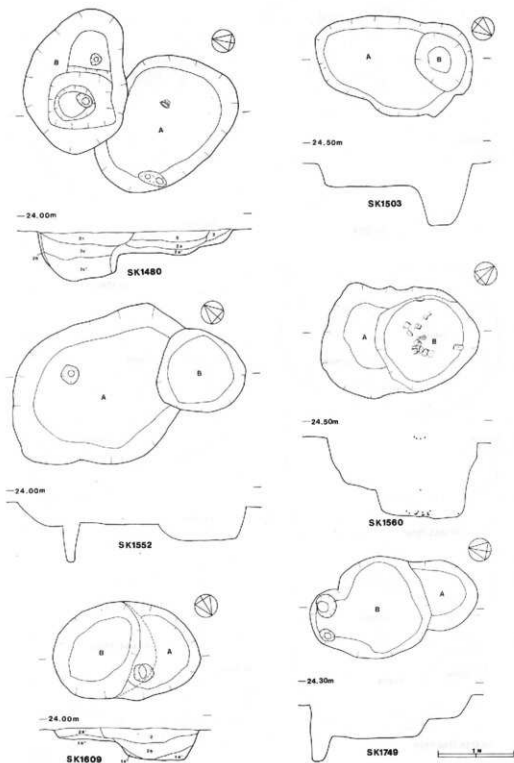
第154図 土 墳 突 測 図 (99)



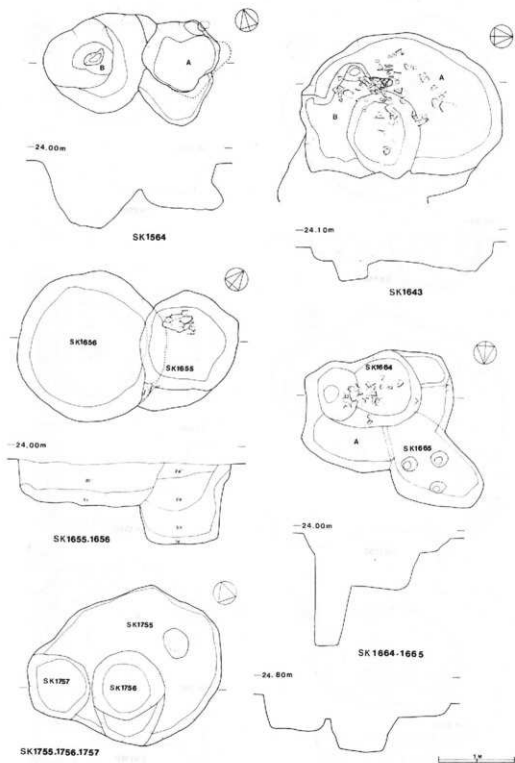
第155図 土 墳 実 測 図 (100)



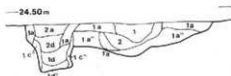
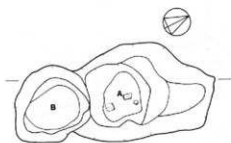
第156図 土壤実測図(101)



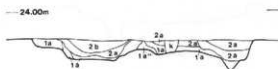
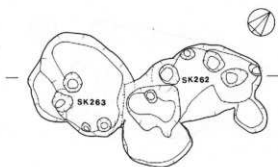
第157图 土壤突測図(102)



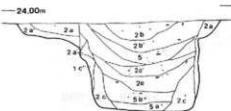
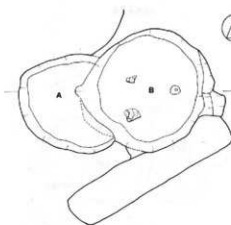
第158图 土壤実測図(103)



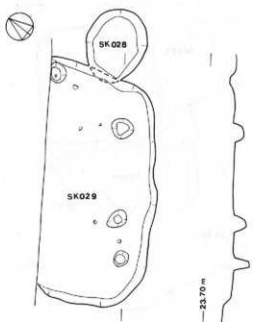
SK164



SK262-263



SK217

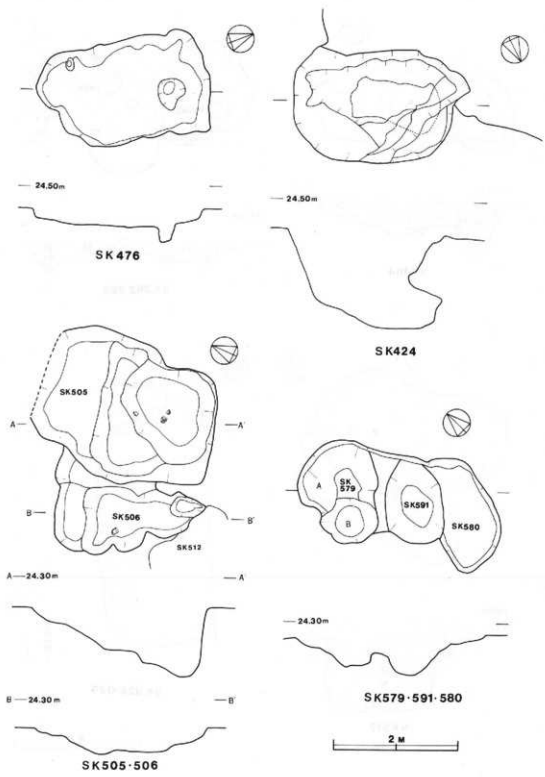


SK028-029

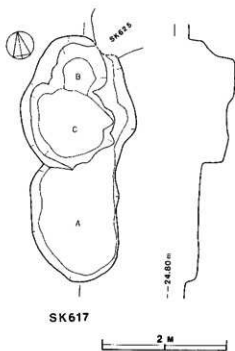
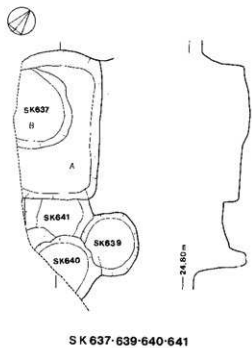
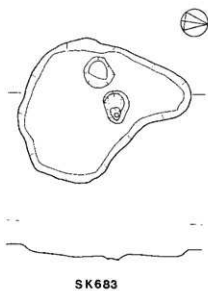
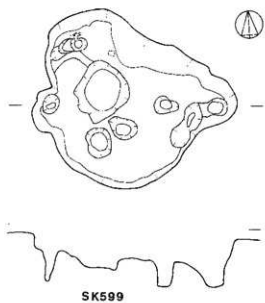
—23.70 m

2 M

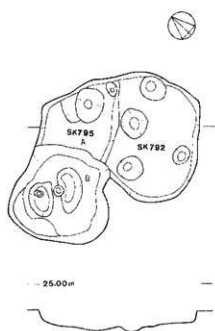
第159圖 土壤実測図(104)



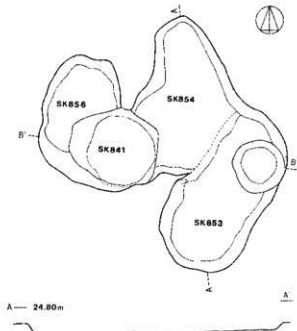
第160圖 土壤実測図 (105)



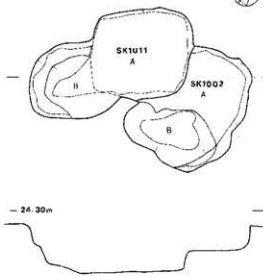
第161图 土 墳 実 測 図 (106)



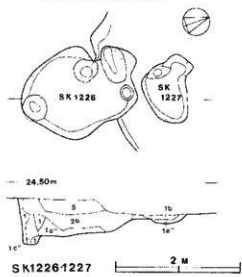
SK792-795



SK841-853-854-856

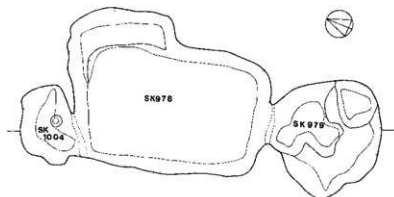


SK1002-1011



SK1226-1227

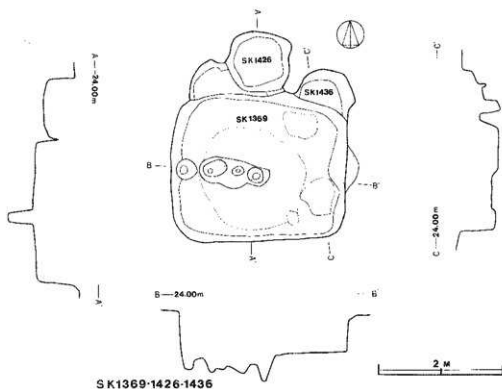
第162圖 土壤実測圖 (107)



---24.30m

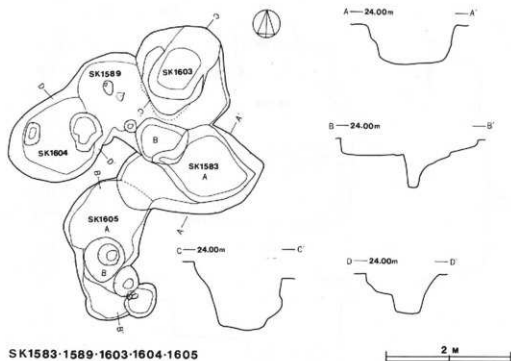
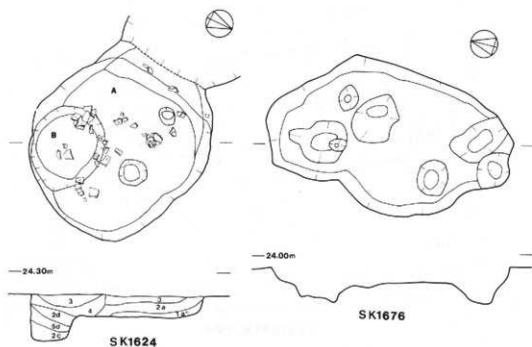


SK978.979.1004

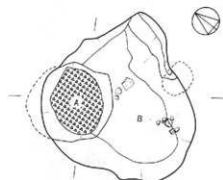


SK1369-1426-1436

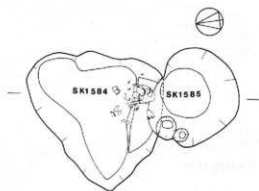
第163図 土壤突測図(108)



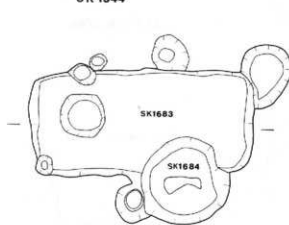
第164圖 土壤実測図 (109)



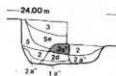
SK 1544



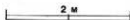
SK 1584.1585



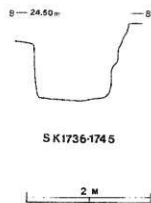
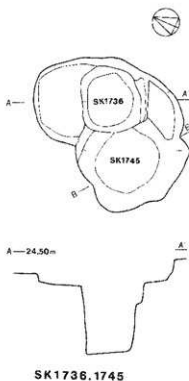
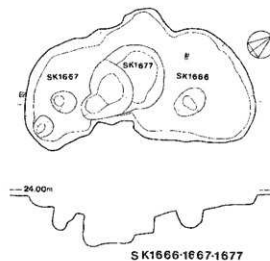
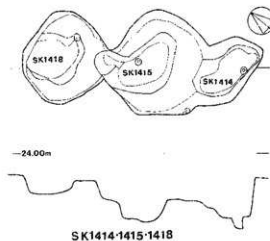
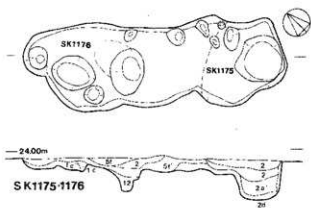
SK 1683.1684



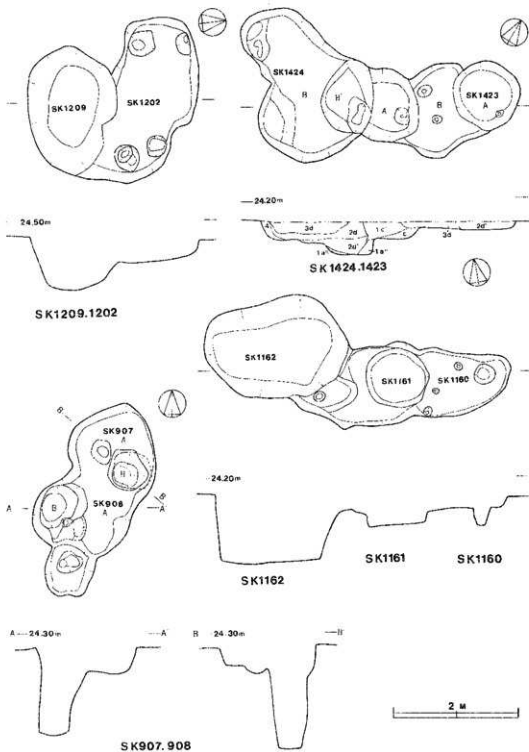
SK 1684



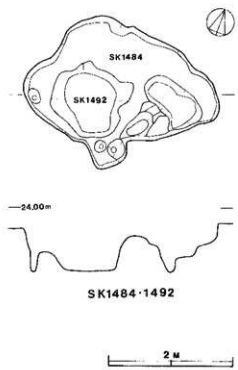
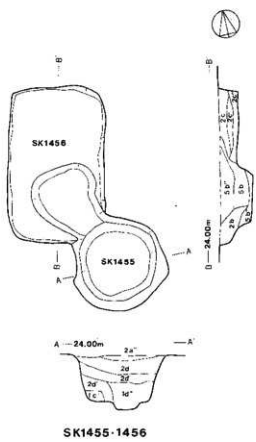
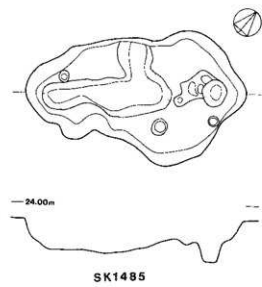
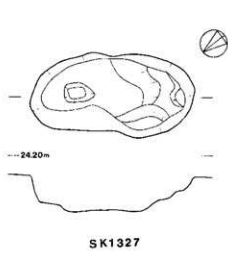
第165図 土 墳 突 測 図 (110)



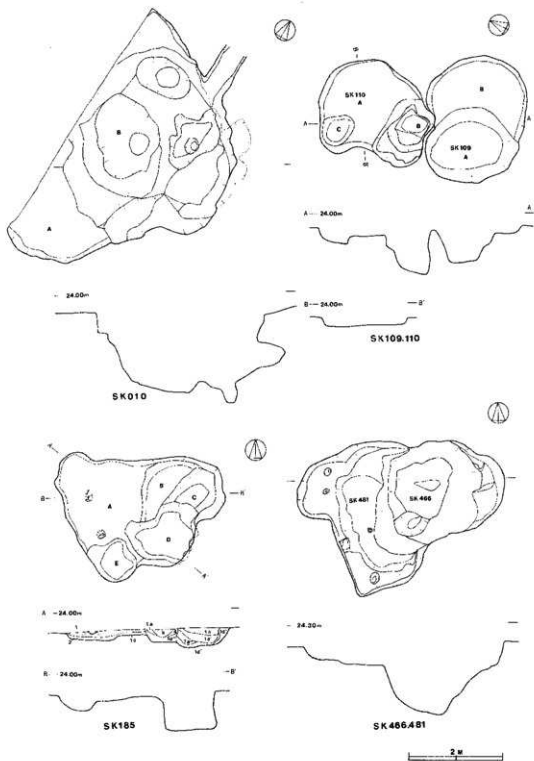
第166圖 土壤突測圖 (111)



第167圖 土壤実測図(112)



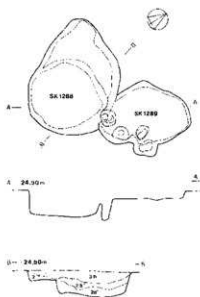
第168图 土壤実測図 (113)



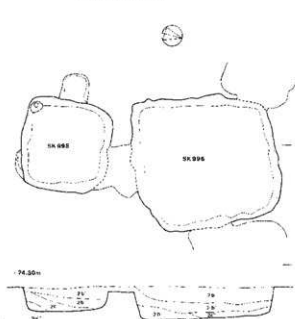
第189图 土壤实测图 (114)



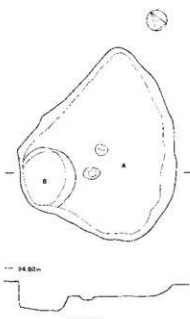
SK 806, 847, 1056



SK 1288, 1289



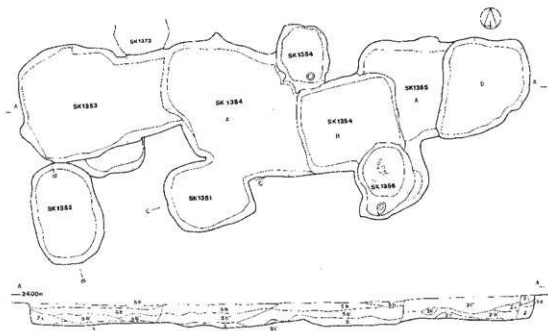
SK 995, 996



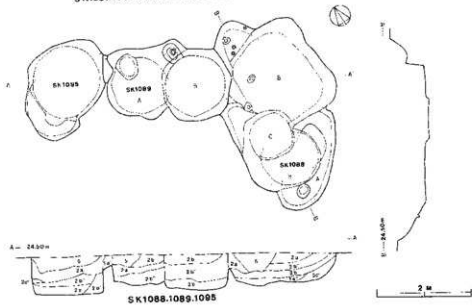
SK 618

2 m

第170圖 土壤実測図 (115)

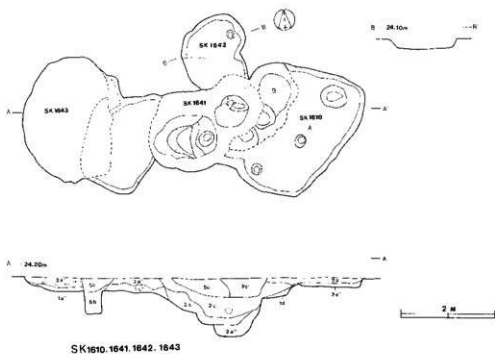
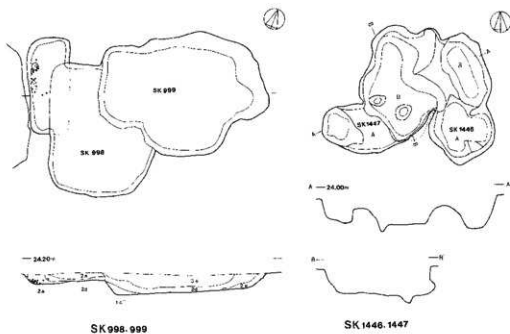


SK1351.1352.1353.1354.1355.1356

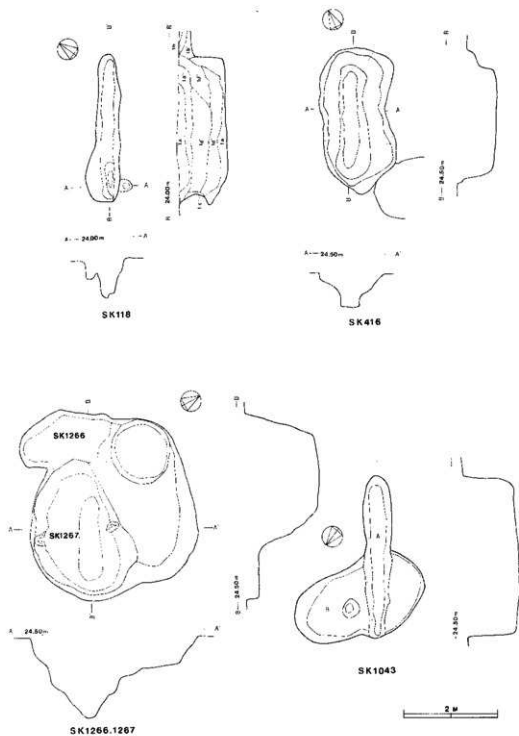


SK1088.1089.1095

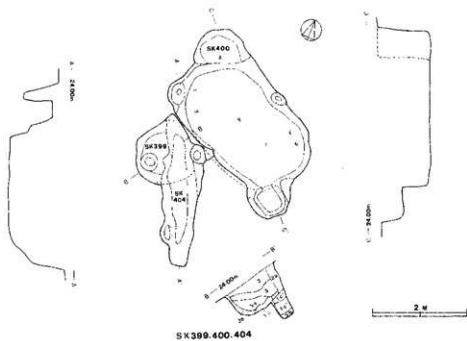
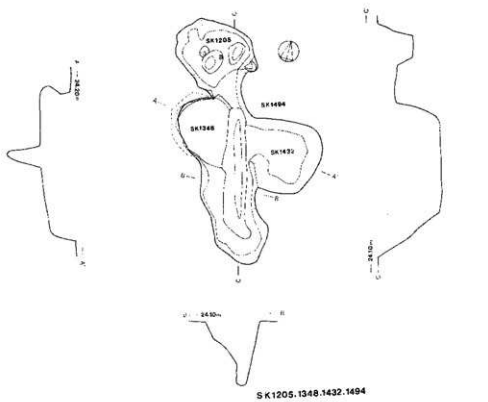
第171图 土壤実測図(116)



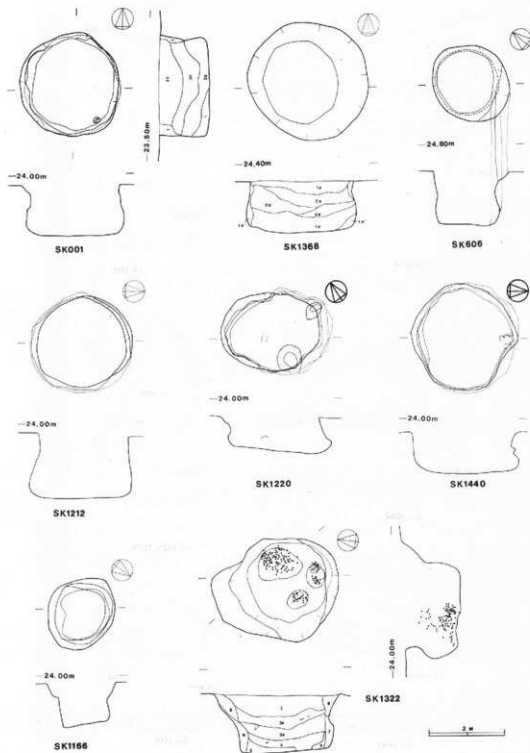
第172图 土壤実測図 (117)



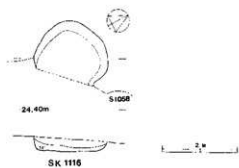
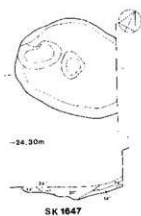
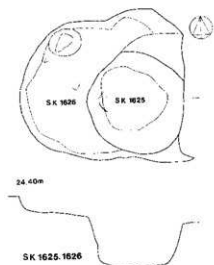
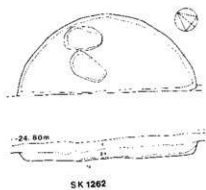
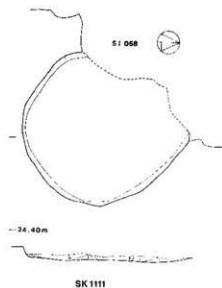
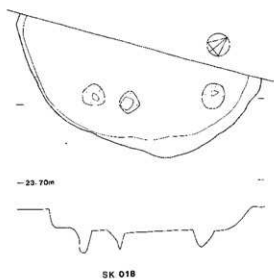
第173图 土壤夹测图 (118)



第174回 土壤突測図 (118)



第175図 土壤実測図(120)



第176图土壤实测图(121)

3. 貝 塚 (第177~188図)

本遺跡において検出された貝塚は87か所、やや大規模の貝塚が2か所ほどみられ、他は小規模のいわゆる地点貝塚である。

分布状況 遺跡中央部の平坦地にはほとんどみられず、やや環状微高帯部の集落に沿って検出されている。その多くは東部(B4・C4区)及び西部(B2区)に集中してみられ、北部及び南西部は一部調査対象区域外のため未調査であるが、南部からの貝塚の検出例は比較的少数でその分布状況から想定すれば南西部は少ないと考えられる。

西部のB2f4周辺には多くの貝塚が群をなし、その大部分は開墾などによって二次的に破碎されているものが多いが、中にはSK1525・1533のように円筒状を呈する深い土壌内に多量の貝が投棄され、純貝層を形成するものもみられる。さらに北側には扁平ではあるが本遺跡では最大級の貝塚SM2がみられ、この地区の周辺にはあまり住居跡が確認されていない。この点からこの地域は集落のごみ捨て場としての性格を有するものかと考えられる。東部地区にも貝塚は多く検出されているが西部地区のものに比してやや散在してみられる。

形態 東部に検出された大規模の貝塚SM1は住居廃絶後に投棄されたもので、大規模の貝塚SM2とはほぼ同様な形態と考えられる。小貝塚は土壌廃絶後あるいは凹状の地に一次的ないし二次的に投棄されたものが多く、そのほとんどはプランが確認されていない。

(平面形)・不定形の土壌や凹地に投棄された貝塚	39か所	(45.8%)
・長方形の土壌に投棄された貝塚	28か所	(33%)
・円形(円筒状)土壌に投棄された貝塚	11か所	(13%)
・楕円形の土壌に投棄された貝塚	5か所	(5.8%)
・袋状土壌に投棄された貝塚	2か所	(2.4%)

以上のように本遺跡の貝塚は小貝塚がほとんどで、不定形の土壌や凹地に投棄された貝塚が約半数を占めている。長方形の土壌に投棄された貝塚は全体の3分の1を占めているが、貝を少量検出されるものと多量に純貝層がみられるものに分けられ、西部から検出されたSK1536には多量の貝と共に魚骨が多く検出され、北西部のSK1668からは植物の種子が検出されている。南東部のSI058の床面を掘り込んでいるやや大規模のSK586には保存状態が良い純貝層がみられ、貝による年代測定を実施した結果、3880±120年B.P.という年代値が測定されている。その他の長方形の土壌に投棄された貝は少量のものが多いとされている。

次に円形の土壌に投棄された貝塚は13%であるが比較的貝の量が多く、特に円筒形を呈するSK1525・1533では多量の貝が出土し、堆積層には純貝層がみられる。また貝層中より貝輪・貝刃・植物種子・魚類遺体など多くの遺物が検出されている。楕円形の土壌に投棄された貝塚は少な

く、壁・床とも軟弱である。

袋状土壌に検出された貝は極少量で、一塊を投棄したような状況を示している。

第1貝塚 (SM1) (第178図)

本貝塚は、調査区の東部 (C4a9・a0) に位置し、隣接する2地点からなり、西はSM1-1・東はSM1-2である。

SM1-1は、調査区の東部 (C4a9区) に所在しSI051廃絶後に投棄された貝塚である。

規模 南北約3.5m・東西1.5mほどで、長軸方向はN-45°-Eを示し、表面積は約4.5㎡である。

調査方法 小調査区 (一辺4mのグリッド) 内に50cm四方の方形を64か所設定し、北西コーナーより東へ1~8と順次番号を付ける。SM1-1にかかるメッシュは25か所ほどでその半分を「鳥島」で調査し、断面図作成後残り半分を取り上げる。その取り上げは24.50mを基準とし各区を5cmを1層とし柱状に掘り下げ、③~⑩層 (35cm) を土と共に取り上げ、貝は③~⑩層に多くみられた。

SM1-2は、調査区の東部 (C4a0区) に所在し、SI042の住居廃絶後に投棄された貝塚である。西のSM1-1との距離は約1.5mほどである。

規模 南北約4.5m・東西約2.2mほどでやや南北に長く、長軸方向は、N-15°-Eを示し、表面積は約7㎡である。

調査を実施した区は39か所で、SM1-1よりやや堆積量が多く、③~⑩層 (70cm) 取り上げ、⑥~⑩層に比較的多くの貝が確認されている。

第2貝塚 (SM2) (第179図)

本貝塚は、調査区の西部 (B2d3・d4区) に所在し、その南方には小貝塚群がみられる。

規模 東西約6.6m・南北約3.5~4.7mほどで東西に長い不定形を呈し、表面積は25.25㎡ほどであり、体積は約10m³ほどの扁平な堆積層がみられる貝塚である。

調査方法 規模が大きいため貝の確認された平面プランで北側の西より東へ①~⑩区と番号を付け、調査中に確認されたものについてはその区の他に東西南北を付加し、調査を実施した区は140である。第1次調査は、区を千島で24.70mを基準に5cmごとに取り上げ、断面図作成後その残りすべてを取り上げた。収納した遺物は②~⑩層 (45cm) で貝は②~⑩層が多く下層は少量である。

以上のように調査した貝塚は多く、その貝の量は膨大な量となりすべてを詳細にわたって検計を加えることは困難であるためアトラダムに貝塚を選び洗浄・分類・計測を実施した。大規模の貝塚については中心線を通る「文字」を任意に選り重量で2分割し洗浄・分類し、計測は遺存度

の良好な地区を選択し、柱状に各層（5cm単位）ごとに実施した。その結果については第3章遺物の第2節 自然遺物の項にまとめて記載した。

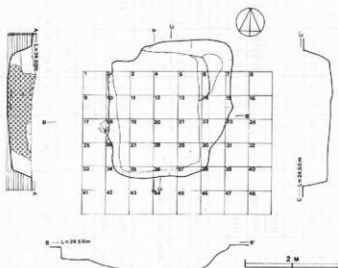
貝塚の時期について

本遺跡からは縄文時代中期末の加曾利EⅣ期から後期の堀之内期にわたる住居跡が確認されているが、第Ⅰ期（加曾利EⅣ式）に伴う貝塚は遺物及び住居跡の配置からも確認されていない。

第Ⅱ期（称名寺式）と考えられる貝塚もほとんど認められていない。東部に所在する一群は、第Ⅱ期の住居跡と重複しているが住居廃絶後に投棄されたものがほとんどであり、SM1-1はSI051に、SK950はSI059にそれぞれ投棄された貝塚である。

第Ⅰ～Ⅱ期の検討結果により本貝塚群は、第Ⅲ期（堀之内式）に位置づけられるものがほとんどであり、第Ⅲ期は後期堀之内Ⅰ式に編年されるものである。本遺跡の第Ⅲ期は堀之内Ⅰ式の古い段階・堀之内Ⅰ式の段階・堀之内Ⅰ式の新しい段階の3段階に細分が可能であり、一部第Ⅲ期の住居跡と重複する貝塚はたぶん新しい段階のものと考えてさしつかえないと思われる。

貝塚の分布は、5～6グループがみられ、北東部の一群はSI002・004・013・025の住居跡に囲まれ、東部に所在する一群はSI008・023・029・032・053・069が弧状に並び、SM1等を囲むものと、その北側に所在するものがみられる。南部は少数でSI049・068の外側にみられる。北西部に所在する一群は本遺跡内で最も密集する地域でSM2などのように大型の貝塚もみられる。これらは集落における共同のごみ捨て場と考えられ、北北西の一群はその南方に最大級の貝塚群がみられるため東部および西部の一群以外は、規模的にも小さいものでキッチン貝塚的なものと考えられる。



第177図 土壌実測図 (SK1536)

貝塚一覽表

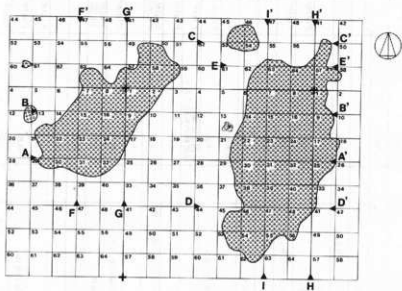
(一次的とは採集された貝類と遺構が同一の時期で、二次的とは遺構が破壊された後に貝類が採集されたもの。)

遺構番号	地	区	長軸方向	形	平面形	底	幅	各部分の	土	出土遺物	時期	備	考
S K 077	B381		N-24'-W	A 1 a	結門形	平 頂(m)	31	II 1	N	骨角器、ハマグリを主とする貝のブロッ クが少量出土。 骨角器は土層内で少量のハマトレンジが少 量出土。	二次的 採集 二次的	F 162180 F 162180 F 162180	
101	B468-g0		N-4'-W	D 1 b	長方形状	0.64×0.48	51	II 1	A	埋藏時に極少量(ハマトレンジ)出土。	二期	S K 134 の産入か。	
102	B469		Z										
122	B487		N-4'-W	D 1 a	隅丸方形	1.2×1.1	23	II 1	A	ハマトレンジが上面に少量出土。	二次的		F 162180 F 162180
130	B447		N-17'-E	D 1 b	"	1.57×1.55	60	II 1	N	表面に極少量のハマトレンジと骨角器が出土。 その下の層に少量のハマトレンジ	二次的		F 162180 F 162180
132	B419		N-3'-E	D 1 a	"	1.3×1.13	28	II 2	A	骨角器の層の中に骨角器の貝(ハマグリ)と土層等が出土。	二次的		F 162180 F 162180
133	B408-g6		N-30'-E	D 1 a	長方形状	2.85×2.02	36-40	II 3	A	骨角器の層の中に骨角器の貝(ハマグリ)と土層等が出土。	二次的		F 162180 F 162180
134	B469		E 1 a	不定形	0.52×0.47	30	II 1	Ⅱ0	N	層土層に少量の貝のブロックがみられる。	二期		F 162180 F 162180
135	"		"	"	"	0.63×0.41	30	II 1	Ⅱ0	"	二期		F 162180 F 162180
160	B418-h0			(E Ⅱ a)	"	2.28×1.3	36	III 1	N	層土層に少量のハマグリ等が埋藏し、土 器片・骨角器を少量含む。	二次的		F 162180 F 162180
181	B412-h3		N-20'-W	D 1 b	隅丸長方形	1.58×1.23	50-65	II 1	N	層土層に貝片を少量含む土層が少量出土。	二期		F 162180 F 162180
188A	B467-g7			E 1 a	不定形	1.2×0.54	(12-22)	I 1	A	埋藏面上に少量の貝が出土。			F 162180
B	"			E Ⅱ a	"	0.6×0.45	(12-22)	1	A	"			F 162180
199	B467			F Ⅱ a	"	0.24×0.18			A	"			F 162180
200	B465-d5			F Ⅱ a	"	1.9×1.4			A	埋藏面より上に12-30cmほど貝・土層等が 多く出土。	埋藏か		F 162180 F 162180
215	B410			F Ⅲ a	"	2.4×1.06			A	埋藏面より上に10-20cmほどの貝や土層等 が多く出土。			F 162180 F 162180
271	B4c3			A 1 a	不定形四角	1.2×1.1	33		N	表面に少量のハマグリが出土。	△		F 162180 F 162180
431A	C418-g8		N-40'-W	D 1 a	隅丸長方形	1.74×1.37	20-25	II 1	N				F 162180
B	"			B Ⅱ b	円形	0.98×0.93	120	I 1	Ⅱ0	表面より同様に埋藏し、貝は少量。			F 162180
446	C4c8			B Ⅱ b	"	0.9×0.7	78	I 2	Ⅱ0	層土層に少量の貝がみられる。下層は骨角 器片・骨角器(骨)・少ロク等出土。	埋藏か		F 162180
462	B51			B Ⅱ b	"	0.85×0.93	58	I 1	(Ⅱ0)	埋藏土層にハマグリを主とする貝が埋藏し、 骨角器。			F 162180
581	C4c7		N-41'-E	E 1 a	不定形四角	1.48×0.97	16-35	II 2	N	ハマグリを主とする少量。(7-10層)			F 162180
582	C4c7		N-21'-E	D 1 a	隅丸長方形	1.1×0.8	13-23	II 1	N	埋藏土層に貝を少量出土。	△		F 162180
583	C4c5			E Ⅱ a	不定形	0.85×0.7	13-17	II 2	(Ⅱ0)	埋藏土層に少量の貝。			F 162180

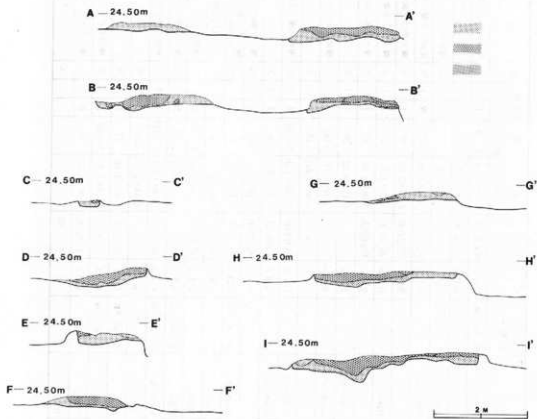
遺体番号	地	長軸方向	形	平面形	周	横	部分地況	層	出土	説明	時期	備考	調査年度
SK 554	C46b		D11a	不定方形	0.36×0.65	10	II	1	A	確認面に少量の貝がみられる。		一次的	F46180
585	C46b-e6		"	"	0.8×0.72	17	II	1	A	床に土器・土器中に少量の貝が出土。	出期	一次的	F46180
586	C46b-e5	N-10°	D10a	不定方形	3.12×2.2	40-48	II	3	A	覆土層に少量の貝(ハヤタリ虫)と土器が出土。	III期	①3層の埋土層より出土している。F46181 ②埋土層(3.800-120)一次の。F46182 —二次的	F46180
587	C46b		D11a	隅丸方形	1.5×0.9	33-40	I	1	N	覆土層に少量の貝(ヤマトシジミ)が出土。		一次的	F46187
588	C46e-46	N-65°-W	E10a	不定形	3.3×1.87	20	II	1	A	覆土層に多くの貝・土器が出土。	△III期	一次的 S1009に投棄。	F46187
590	C46e-e7		Z	{1.4×0.3}						確認面に少量の貝が散在。			
640	B36b	N-49°-E	D11b	隅丸方形	1.53×1.26	32	II	1	N	覆土中にたいては極少量の貝がみられる。	△	S1046の北東部を切る。	
750	C46d	N 52°-E	D11a	隅丸方形	1.09×0.9	33	II	3	N	覆土層に少量の貝(ヤマトシジミ)が土器の下層にみられる。		一次的	
775A	C36d	N-42°-W	A11a	楕円形	1.71×1.4	16	II	1	N	体中央に円形に盛り込まれた投棄。極少量のヤマトシジミが出土。		一次的 F46182 F46183 F46184 埋土層をオースペクトンとして掘り出す。	F46182 F46183 F46184
B	"	N-23°-E	A11b	"	1.07×0.92	78	2	N	2	切土が1面ほど出土。		S1003の西側に位置。 CL24.40.5-10層	F46182 CL24.40.5-10層
780	C36d		D11a	方形	0.7×0.68	20-28	I	1	N	掘土層に少量の貝が出土。		(一次的)	F46182
900	B46d		E11a	不定形	2.0×1.72	20-28	II	3	A	覆土中に少量の貝が出土。		S X932の西側に位置。	F46182
931	C46e	N-50°-E	D11a	隅丸方形	1.1×0.97	16-28	II	1	A	覆土層に少量の貝が出土。		S X932の西側に位置。	F46182
933	C46e		E11a	不定形	0.36×0.4	14	II	2	A	覆土層に少量の貝が出土。		埋土層をオースペクトンとして掘り出す。 G1.24.40.5-10層(1.9-22層)。(一次的)	F46186
940	B46d	N 84°-W	D11b	長方形	2.73×1.28	60-66	I	1	A	ハヤタリ虫を基とする貝類。			F46186
953	C36b	N-41°-W	D11a	長方形	0.95×0.83	34	II	1	N	覆土中に極少量の貝がみられる。			F46182
1159	B247	N-48°-W	D11b	"	1.8×1.75	94	I	1	N	体中央に極少量の貝が出土。	II期	一次的	F46182
1207	B26e-e7	"	"	隅丸方形	1.7×1.68	92-94	I	1	A	体中央に極少量の貝が出土。	II期	一次的	F46182
1271A	B24-e15	Z	不明	不明	2.2×1.8	33	II	1	N	確認面に少量の貝がみられる。	△	S X004の積層の間に埋蔵している。	F46180
B	"		D11b	円形	1.4×0.9	101	I	1	N	覆土層に極少量の貝がみられる。			F46186
1272	B26d		E11a	不定形					A	確認面に少量の貝がみられる。			F46181
1273	B26b		F11a	"					A	"		一次的	F46181
1274	B26d		"	"	1.0×0.9				A	"		S X004の積層にみられる。	F46181
1275	B26b		"	"	0.7×0.69				A	"		S X004の積層にみられる。	F46181

道標番号	区	長軸方向	形態	平面形	縦		傾	傾斜角	出土	遺物	時期	備	考	附録図号
					平面(m)	傾斜(m)								
SK1276	B214・14		CⅡ	(楕円形)	2.35×1.37	33~126	I	I	N	覆土層上に只少量出土。		貝殻遺物散在地に貝を採取。	F14166	
1277	B214・15		E1a	不定形	1.7×1.55	22~26	II	3	A	覆土層上に小片の貝が多く出土。		一次的	PL255	
1278	B214		至Ⅱa	〃	2.25×1.8	10~20	II	1	A	〃		一次的	F14184	
1496A	B245	N-38°	W	D1b	不定形	1.26×1.01	55	1	N	覆土中に極少量の貝を出土。		一次的 新出土不明	F14182	
B	〃	N-52°	E	D1a	不定形	1.31×1.08	40	1	N	〃		一次的	F14182	
1525A	B243	N-57°	W	FⅡa	不定形	2.1×1.8	25	1	N	ハツタリをよぎる黒貝質の厚さ32mm程度の貝を土中に少量出土し、中にはハツタリをよぎる黒貝質の厚さ10mm程度の貝も出土している。		一次的 C1100 10~44番 C1101 10~44番 C1102 10~44番 C1103 10~44番 C1104 10~44番 C1105 10~44番 C1106 10~44番 C1107 10~44番 C1108 10~44番 C1109 10~44番 C1110 10~44番 C1111 10~44番 C1112 10~44番 C1113 10~44番 C1114 10~44番 C1115 10~44番 C1116 10~44番 C1117 10~44番 C1118 10~44番 C1119 10~44番 C1120 10~44番 C1121 10~44番 C1122 10~44番 C1123 10~44番 C1124 10~44番 C1125 10~44番 C1126 10~44番 C1127 10~44番 C1128 10~44番 C1129 10~44番 C1130 10~44番 C1131 10~44番 C1132 10~44番 C1133 10~44番 C1134 10~44番 C1135 10~44番 C1136 10~44番 C1137 10~44番 C1138 10~44番 C1139 10~44番 C1140 10~44番 C1141 10~44番 C1142 10~44番 C1143 10~44番 C1144 10~44番 C1145 10~44番 C1146 10~44番 C1147 10~44番 C1148 10~44番 C1149 10~44番 C1150 10~44番 C1151 10~44番 C1152 10~44番 C1153 10~44番 C1154 10~44番 C1155 10~44番 C1156 10~44番 C1157 10~44番 C1158 10~44番 C1159 10~44番 C1160 10~44番 C1161 10~44番 C1162 10~44番 C1163 10~44番 C1164 10~44番 C1165 10~44番 C1166 10~44番 C1167 10~44番 C1168 10~44番 C1169 10~44番 C1170 10~44番 C1171 10~44番 C1172 10~44番 C1173 10~44番 C1174 10~44番 C1175 10~44番 C1176 10~44番 C1177 10~44番 C1178 10~44番 C1179 10~44番 C1180 10~44番 C1181 10~44番 C1182 10~44番 C1183 10~44番 C1184 10~44番 C1185 10~44番 C1186 10~44番 C1187 10~44番 C1188 10~44番 C1189 10~44番 C1190 10~44番 C1191 10~44番 C1192 10~44番 C1193 10~44番 C1194 10~44番 C1195 10~44番 C1196 10~44番 C1197 10~44番 C1198 10~44番 C1199 10~44番 C1200 10~44番	F14182	
1596	B243	N-48°	W	EⅡa	不定形	(2.2)×1.3	44	1	1	A	礎石部の上に小片の貝が少量出土。	一次的	F14182	
1527	〃	N-38°	W	DⅡa	楕円形	0.58×0.93	33	I	1	A	礎石部の上に小片となる貝を少量出土。	一次的	F14182	
1528	〃	N-49°	W	AⅡa	楕円形	0.9×0.71	28	1	1	A	〃	一次的	F14182	
1529	〃		Z	Z		0.61×0.48	8				〃	一次的	F14182	
1530	〃	N-27°	E	FⅡa	不定形	1.32×1.42	27	II	1	A	床面に少量の貝を出土。	貝類は主として新しいか。		
1531	B244・11		Z	Z	不明	1.6×1.45	(20)	I	A	礎石部上に20mmほどの貝が散在。		一次的	PL258	
1532	〃	N-39°	W	EⅡa	不定形	2.23×1.0	(26~30)	A	2	A	2カ所の貝のグループ(ハツタリ)が出土。	一次的	F14185 PL260	
1533A	B214・15		N-35°	W	DⅡa	楕円形	(2.4)×1.2	20	II	1	N	〃	PL259 PL260	
B	〃			B1b	円形	1.3×1.3	168	I	1	A	覆土中に少量の貝を出土。	覆土層に黒褐色土が堆積している。	一次的	PL261
1534	B214・15		D1a	楕円形	0.8×0.6		I	1	A	覆土中に少量の貝を出土。		一次的	F14182	
1535	B214	N-22°	E	A1a	楕円形	1.05×1.0	26	I	1	A	覆土中に貝がやや多くみられる。	一次的(少量・計測)	F14182	
1536	B213・14	N-0°	DⅡb	長方形	2.8×2.6	55	1	1	A	多量の貝(ハツタリ)・散骨が出土。	一次的(少量・計測)	F14182		
1537	〃		Z	Z	不明	1.7×(0.9)	10	I	A	礎石部上に小片の貝を少量出土。	一次的	F14182		
1538	B243・e1		〃	〃	〃	1.7×0.8				〃	一次的	F14182		
1539	B243・13	N-79°	E	D1b	不定形	1.53×1.09	65~84	I	3	N	南側の覆土中に貝を少量出土。	一次的	F14182	
1540	B213		EⅡa	不定形	0.85×0.7	44	I	1	A	礎石部上に極少量の貝を出土。		一次的	F14182	

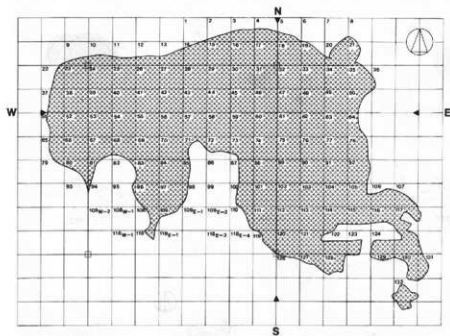
遺跡番号	区	長軸方向	形態	平面形	規模		部分の区	出土物	時期	備考	関連図版
					平面 (m)	壁高 (m)					
S 1541	B213	N-56°-W	D II a	楕長方形	0.78×0.68	20~40	I 1 (A)	礎石面上に少量の貝出土。	二次的		F 16183
1542	"		E II a	不定形	(0.5×0.34)	15	A	"	一次的		F 16184
1543	B263	"	"	"	0.8×0.7	"	I A	礎石面の土に少量の貝出土。	二次的		F 16185
1544A	B263・d3		H I b	円形	1.4×1.26	107	IV 1 N	断面に少量の貝 (ハートダリ) が出土。	二次的		
B	"		E III b	不定角形	2.72×2.43	90	I 1 N	礎石中に少量の土器が出土。	一次的		F 16183
1545	B264		B I a	楕円形	1.2×1.1	32	I 1 A	礎石中に少量の貝片が出土。	一次的		F 16184
1546	"		E II a	不定角形	0.36×0.86	47	I 1 A	礎石上に貝 (ハートダリ) がやや多く出土。	一次的		
1547	B264・f4		E I a	"	1.15×0.52	26	I 1 A	"	一次的		
1548	B264・e5		E II a	"	(0.91×0.53)	(13)	A	礎石面上に少量の貝が出土。	一次的		
1549	"		"	"	(0.85×0.64)	(15)	A	"	一次的		
1617	B264・e5		D I a	長方形	(1.84×1.3)	24~45	I 1 N	南面の礎石上面に極少量の貝出土。	一次的		F 16183
1601A	A268・e0		E III a	不定長方形	4.88×(2.7)	30	I 1 N	"	北西に土層外 傾斜の可能性あり。		F 16187
B	"		B I b	楕円形	1.33×1.0	130	I 1 (A)	礎石上に少量の貝が出土。	一次的		F 16187
1688	A268・g7	N-4°-E	D III a	長方形	2.12×1.47	30	I 1 A	礎石中に多くの貝 (ハートダリ) と瓦片の破片が散見した。	一次的		F 16185 F 16186
1684	A217		B I b	楕円形	1.88×1.4	68	I 1 N	床中央に少量の貝出土。	一次的		F 16185
1721	A215		D I a	楕長方形	1.3×1.22	25~30	II 1 N	礎石面の土に土器と極少量の貝出土。	二次的		F 16185
1735	B264	N-56°-E	H I b	"	1.82×1.71	75	IV 1 (A)	礎石中に貝が水平に埋蔵。	二次的		F 16185 F 16186
1736	B213・b3	N-24°-W	C I b	楕円形	(1.8)×1.4	35~48	I 1 N	南面の礎石中に極少量の貝出土。	一次的		F 16185
1745	B213		B I b	"	1.84×1.5	128	I 1 N	"	二次的		F 16185
1750A	B263	N-40°-W	D I a	長方形	1.65×1.15	17	II 1 N	"	二次的		F 16185
B	"	N-84°-W	D I b	"	1.4×1.3	35~60	II 1 A	礎石面の土に55cmほど貝が埋蔵。	一次的		F 16185
1754	C266		E II a	不定形	0.78×0.56	25	II 1 N	礎石上面に少量の貝がブロックがみられる。	二次的		F 16185
1760	B263		Z	不明			A	"	一次的		



SM 1



第178图 第1号具塚実測图 (SM 1)

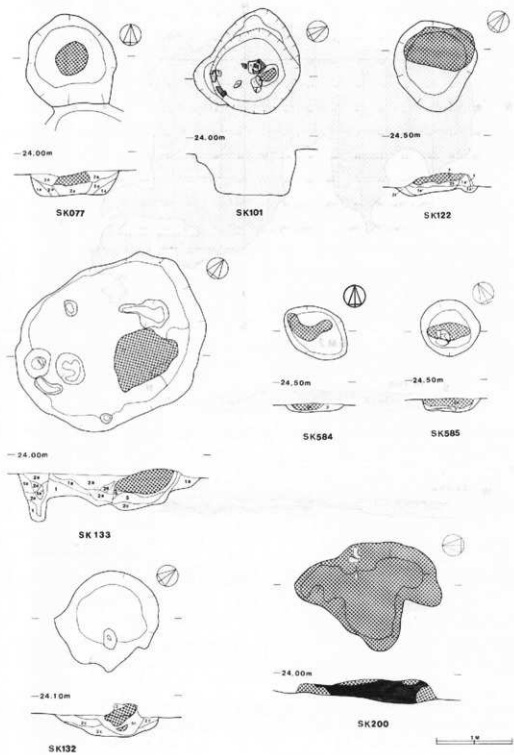


SM 2

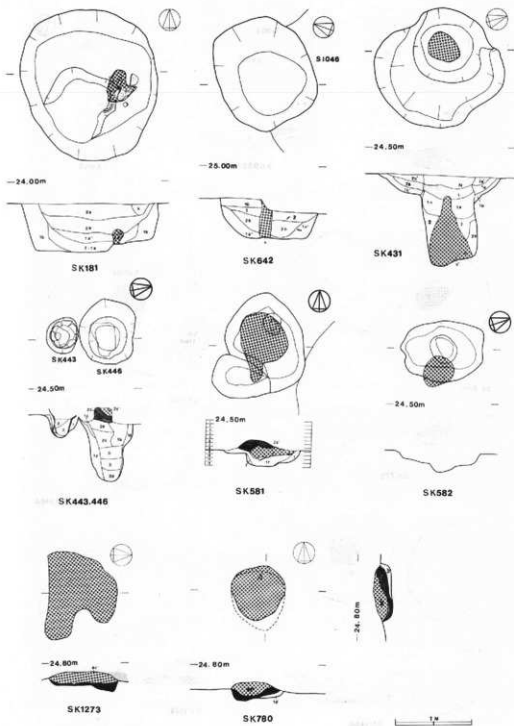


2 m

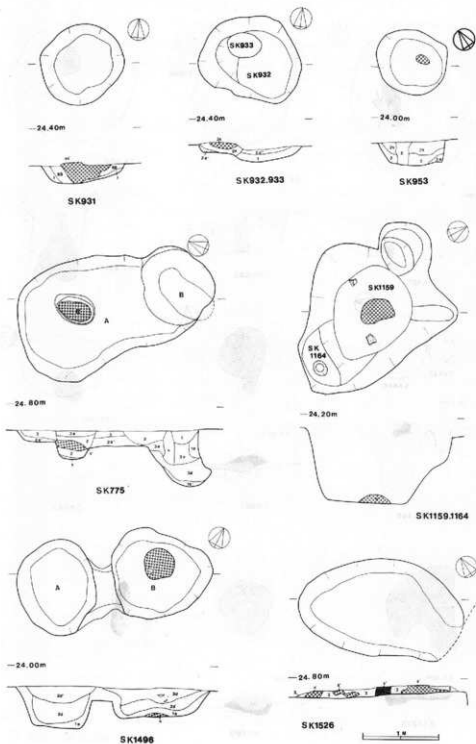
第179図 第2貝塚実測図 (SM 2)



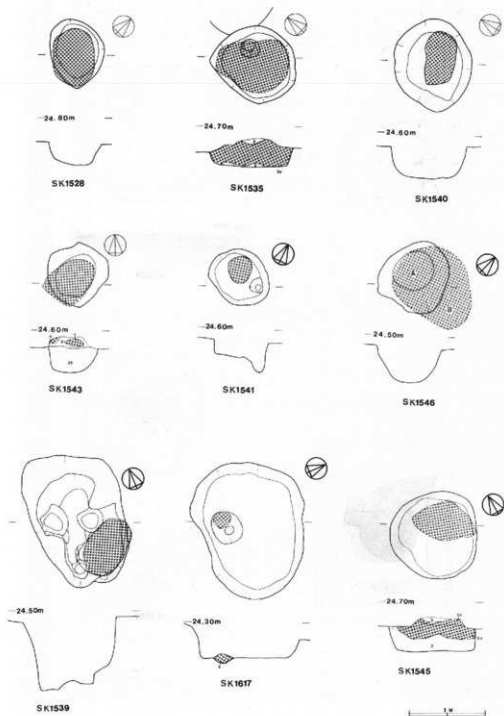
第180図 土坑（貝塚）実測図（1）



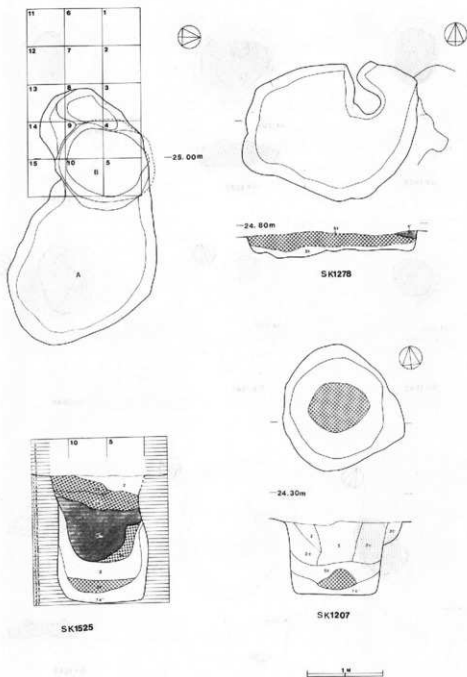
第181図 土坑(貝塚)実測図(2)



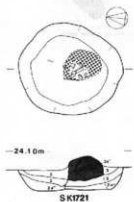
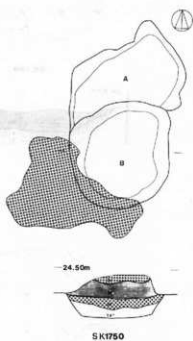
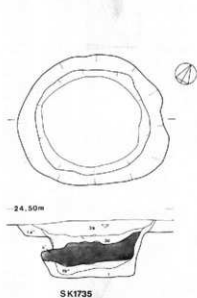
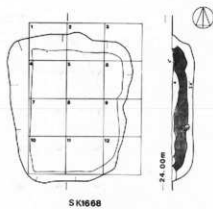
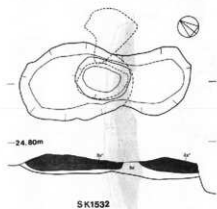
第182図 土壤（貝塚）実測図（3）



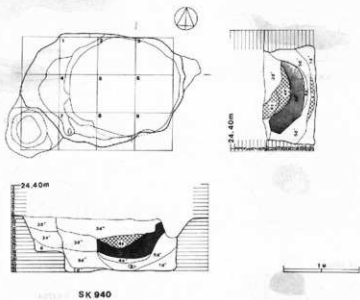
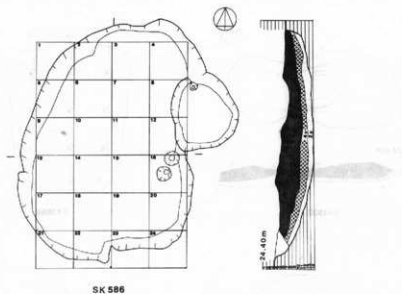
第183図 土坑(貝塚)実測図(4)



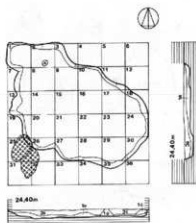
第184図 土墳(貝塚)実測図(5)



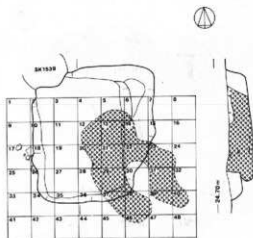
第185圖 土壇（貝塚）実測図（6）



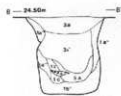
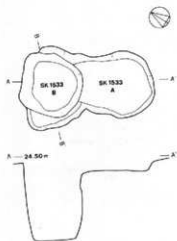
第186圖 土壤 (貝塚) 実測図 (7)



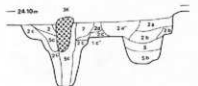
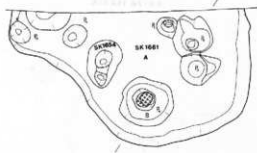
SK 588



SK 1532



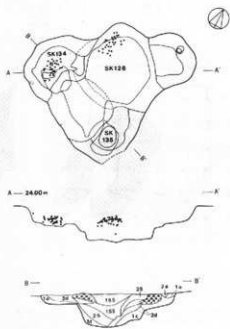
SK 1533



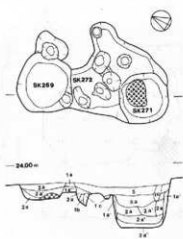
SK 1661.1654



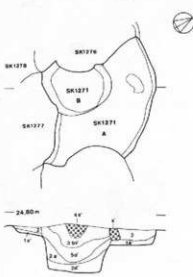
第187图 土壤(貝塚)実測図(8)



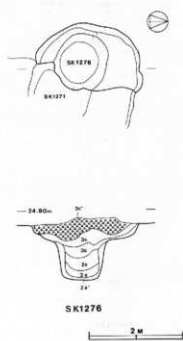
SK126.134.135



SK 269.271. 272



SK1271



SK1276

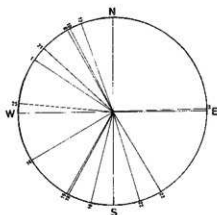
第188図 土 墳 (貝塚) 実測図 (9)

4. 埋設土器 (第189～191図)

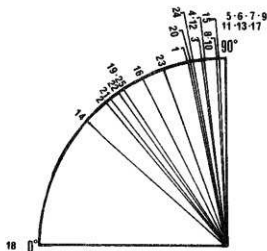
廻り地A遺跡から確認された埋設土器は25基ほどで、その分布は環状微高帯部にみられる。時期的にみると、第I期の加曾利EIV式土器が2、第II期の称名寺式土器が12～13、第III期の堀之内I式土器が7である。これらの中には、いわゆる埋設土器としての可能性を欠くものも含まれる。SK671の土器は、口縁部を下にした倒立の状態出土し、SK944出土の土器は横位に検出された。各埋設土器は、SK944出土の土器以外 41° ～ 90° の傾斜で埋置され、直立した状態で埋置されていたものは、SK099・119・125・443・445・594・796があり、SK008・095・097・186・444・671・1122・1587は約 80° ～ 88° ほどの角度をもって埋置されていた。

分布状況を見ると、SK091・095・097・099・119・125・186がB4区の南東部に集中し、SK443・444・445がC4区の中央部北東よりにみられ、SK493・594は南西部にみられる。SK671・1122はC3区東部にあり、SK1581・1587はA2区南東部、SK1581・1586はA3区西南部に位置し、そのほかは単独の状態検出された。この分布からみると、埋設土器は複数で埋置された可能性が多く、集落内のひとつのエリアが想定される。

これらの埋設土器の傾斜角からみた主軸方向は、北から西、西から南に大別できるが、それほど規則性を有したものではない。



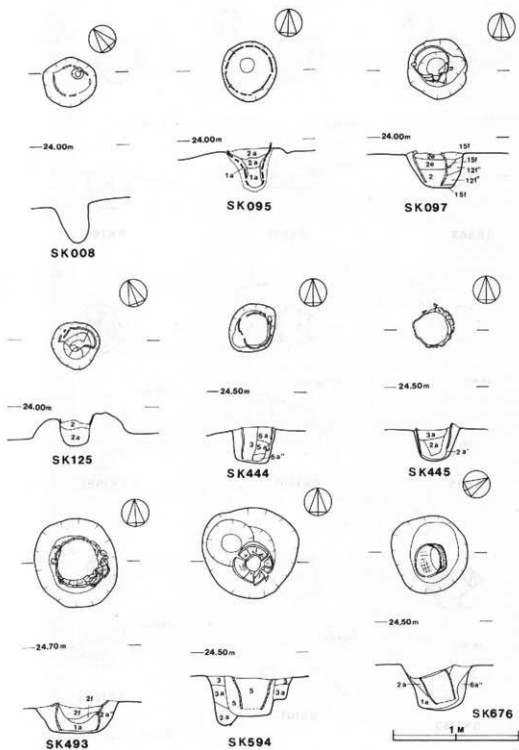
埋設土器 主軸方向



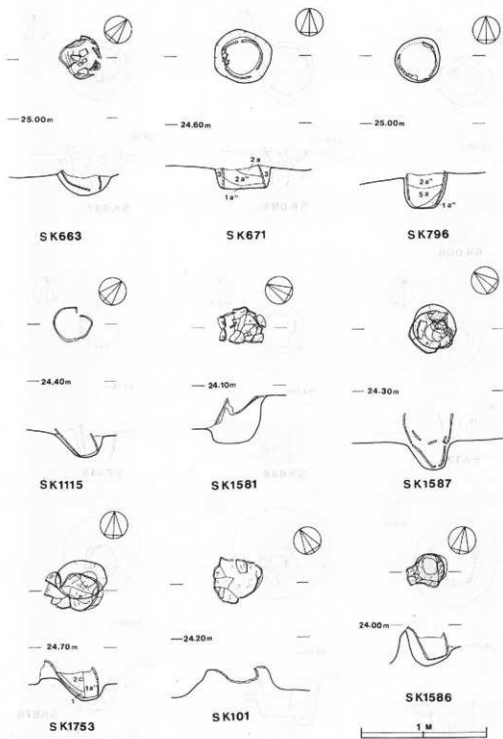
埋設土器 傾斜角度

埋設土器一覽表

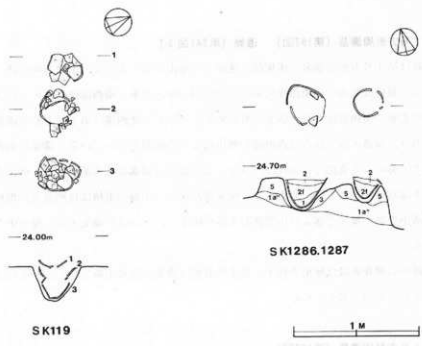
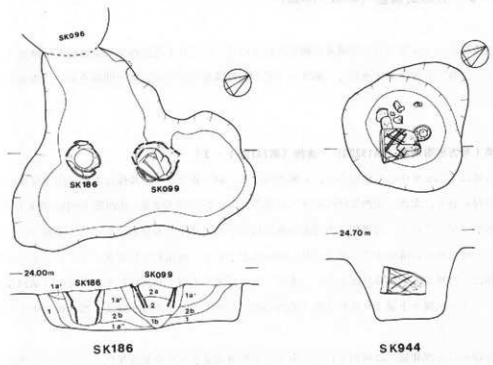
番号	遺構名	地区	主軸方向	傾斜角	掘方 (cm)	長軸×短軸×壁高 (cm) (cm) (cm)	覆土	時期	備考	関連図版
1	S K008	B5e2	N-56°-W	78°		45×40×32	N	I期	底部欠	Fig189 Pl.578
2	S K091	B4i9	N-89°-E	50°		54×48×24	(N)	III期	口縁部欠	PL265
3	S K095	B4j9		82°		46×44×29	N	II期		Fig189 PL266
4	S K097	B4i8		83°		49×47×28	N	II期	底部欠	Fig189 PL268
5	S K099	B4i9		90°		44×44×23	N	II期	底部欠(内部に土器あり)	
6	S K119	B4i7		90°		41×40×27	(N)	II期		Fig191
7	S K125	B4h9		90°		38×38×20	N	III期	口縁部欠	Fig189 PL282
8	S K186	B4h8	N-28°-W	87°		40×35×31	(A)	II期	北東にS K099	Fig191 Pl.312
9	S K443	C4e8		90°		47×46×25	(A)	II期	S I034の南	PL368
10	S K444	C4d7	N-27°-W	87°		44×36×28	A	II期		Fig189 Pl.369
11	S K445	C4d7		90°		38×36×26	A	II期	S I059の北東	Fig189 Pl.370
12	S K493	C4d4	N-20°-W	83°		73×68×23	N	III期	口縁部欠	Fig189 PL386
13	S K594	C4f5		90°		78×72×30	N	II期		Fig189 Pl.409
14	S K663	D3b6	S-60°-W	42°		44×41×14		III期	口縁部欠	Fig190
15	S K671	C3e0		88°		45×40×18	N	III期	倒位・底部欠	Fig190
16	S K676	C4d7	S-14°-W	64°		94×90×30	N	II期	底部欠	Fig189 Pl.421
17	S K796	C3i0		90°		37×36×27	N	II期	S I064の東	Fig190
18	S K944	C4e7	S-29°-W	0°		113×100×47	A	II期	横位	Fig191 Pl.449
19	S K1115	C4d7	S-30°-W	57°		38×38×18	N			Fig190 Pl.466
20	S K1122	C3f0		79°		33×32×22			S I068の南西北	
21	S K1559	B3b2	N-47° W	52°		54×31×15		I期	底部	
22	S K1581	A3g3	S-16°-E	55°		48×41×40	(N)	II期		Fig190
23	S K1586	A3h3	S-30°-E	71°		35×34×31		III期	底部欠	Fig190
24	S K1587	A2f9		80°		40×40×22		III期	口縁部・底部欠	Fig190
25	S K1753	C2a5	N-85°-W	57°		48×36×30	(A)		底部欠	Fig190 Pl.537



第189圖 埋設土器実測圖(1)



第190圖 埋設土器実測圖(2)



第191図 埋設土器実測図 (3)

5. 方形周溝墓 (第192~194図)

当遺跡からは4基の方形周溝墓が検出されている。いずれも遺跡西部の微高地部に確認され、第1・2号方形周溝墓は連続し、第3・4号方形周溝墓は約2mほどの間隔をあけて隣接して検出された。

第1号方形周溝墓 (第192図) 遺物 (第241図1・2)

本跡はC2a8を中心に検出され、主軸方向はN-48°-Wをさす。規模は北西~南東部径6.6m・台部径4.48m、北西~南西部径6.46m・台部径4.9mほどのやや北東~南西部径が長い隅丸方形の平面形を呈している。周溝部は内辺部の掘り込みが外辺部よりも急傾斜を示し、溝幅は0.7~0.8mで、検出面から溝底までの深さは40~50cmほどであり、断面形はU字状を呈している。土層の堆積は、自然流入の堆積状況を示し、東コーナー部覆土下層より高坏形土器の坏部(第241図1)、西コーナー部覆土上層より埴形土器(第241図2)が出土し、そのほか縄文土器が覆土中より多く出土している。

本跡からは埋葬施設は検出されず、第2号方形周溝墓よりやや築造年代が古いものと考えられる。

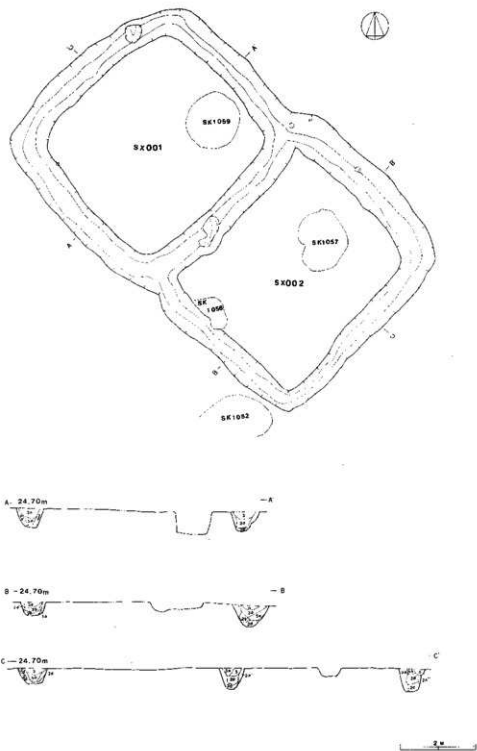
第2号方形周溝墓 (第192図) 遺物 (第241図3)

本跡は第1号方形周溝墓の南東部に連結して検出されたもので、主軸方向は同じくN-48°-Wをさす。規模は北西~南東部径5.3m・台部径4.0m、北東~南西部径6.56m・台部径4.88mほどのやや北東~南西部径が長い隅丸方形を呈している。北西溝は第1号方形周溝墓と共有したものであり、周溝の掘り込みは内辺部が外辺部よりも急傾斜を示している。溝幅は南西部で0.6m、南東部で0.65m、北東部で1.0mほどである。このように周溝は北東部が広く、検出面から溝底までの深さは35~60cmほどで、北東および南東部が深い。土層の堆積は自然流入の堆積状況を示し、北東溝中央部の覆土下層より小型埴形土器が出土し、そのほか縄文土器が覆土中より多く出土している。

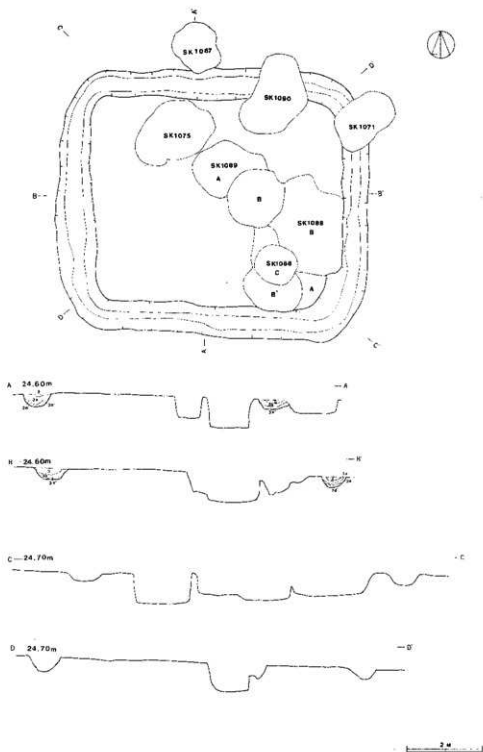
本跡から埋葬施設は検出されず、第1号方形周溝墓より若干新しいか、あるいはほぼ同時期に構築されたものと考えられる。

第3号方形周溝墓 (第193図)

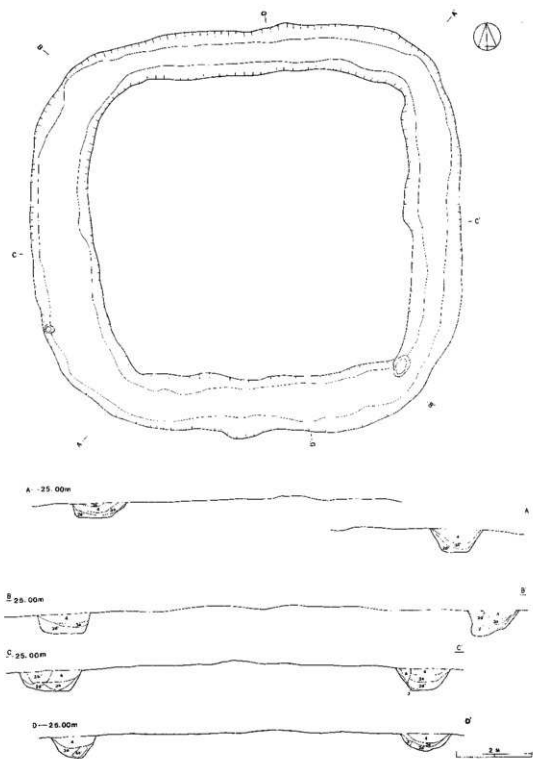
本跡はB2i7を中心に確認され、第1・2号方形周溝墓の北部に隣接し、主軸方向はN-0°-Wをさし、西には第4号方形周溝墓が接している。規模は東西径8.28m・台部径6.64m、南北径7.1m・



第192图 第1·2号方形周溝基实测图



第193图 第3号方形周溝基突測圖



第194图 第4号方形周溝基实测图

台部径5.5mほどの隅丸長方形の平面形を呈している。溝幅は0.67～1.0mほどで、やや西周溝部が膨らんでいる。遺構検出面から溝底までの深さは25～32cmと浅く、断面形もややゆるやかな立ちあがり呈している。台部には縄文時代の遺構が重複し、溝を切るSK1071・1090は本跡より新しい時期のものである。

本跡からは埋葬施設および時期を決定できうる遺物はみられず、第1・2号方形周溝墓とはほぼ同一時期のものと考えられる。

第4号方形周溝墓（第194図）

本跡はB2h4を中心に検出されたもので、当遺跡から検出された4基の方形周溝墓中最大の規模を有するものである。主軸方向はN-0°-Wをさし、東側には第3号方形周溝墓が接している。規模は東西径11.4m・台部径8.2m、南北径10.7m・台部径8.0mほどのやや東西に長い隅丸長方形の平面形を呈している。溝幅は1.18～1.66mで西周溝部が広く、検出面から溝底までの深さは50～60cmで、西周溝部が深い。土層は自然流入の堆積状況を示し、北周溝は地点目塚を切りこんでいるため、貝が攪乱された状態でみられる。

埋葬施設は検出されず、時期を決定できうる遺物も出土していないが、前述のものと同様の時期に位置付けられるものであろう。

竜ヶ崎ニュータウン内埋蔵文化財調査報告書 7

— 廻り地 A 遺跡 (上) —

昭和57年3月27日 印刷

昭和57年3月30日 発行

発行 財団法人 茨城県教育財団

水戸市南町3-4-57

印刷 川田プリント